

# 上ノ平 I 遺跡 (2)

ハッ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第49集

2017

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

## 上ノ平 I 遺跡 (2)

ハッ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第49集

二〇一七

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 上ノ平 I 遺跡（2）

ハツ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第49集

2017

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団





37号住居遺物出土状況（南から）



37号住居土器№11 出土状況



37号住居土器№11

## 口絵 2



23号住居遺物出土状況（南西から）



野口茂四郎氏居宅跡西小屋（池）全景（東から）

## 序

ハツ場ダムは、首都圏の利水、治水を主な目的として吾妻川の中流に建設される多目的ダムです。ダム建設に伴う発掘調査は平成6年度から始まりましたが、調査研究の進展に伴って、この地域に暮らし、山野を拓いて地域を発展させてきた先人の営みが、徐々に明らかになってきています。

本書は平成17年から19年にかけて発掘調査を行った上ノ平Ⅰ遺跡に関する2冊目の報告書です。主に平成19年度に調査を行った、縄文時代、平安時代の集落遺跡および、明治時代に活躍した郷土の偉人である野口茂四郎氏の旧宅を中心に報告いたします。

この調査では特に、平安時代に水田耕地の乏しいこの地域に暮らしの人々の、水田に代わる生産基盤は何であったのか、ひいては、どのようにこの地域の古代社会が形成されていったかを解き明かすための、いくつかの手がかりを得ることができました。

郷土の歴史研究に、またこれからの地域発展のために、本書をご活用いただければ幸いです。

また、発掘調査から報告書刊行に至るまで、多大なるご理解とご協力をいただきました、国土交通省関東地方整備局ハツ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、長野原町教育委員会をはじめとする関係機関、また、地元の皆様に、心から感謝を申し上げ、序といたします。

平成29年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 中野 三智男



# 例 言

- 1 本書は、ハツ場ダム建設工事川原畑地区代替地造成に伴う上ノ平1遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書の第2集である。
- 2 遺跡の名称および所在地  
上ノ平1遺跡(うへのたいらいちいせき)  
群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑278番地ほか
- 3 事業主体 国土交通省
- 4 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 発掘調査の期間・組織  
平成18年度  
期間 平成18年4月1日～平成18年12月28日  
面積 6,900㎡  
担当 中沢悟 瀧川仲男 篠原正洋  
平成19年度  
期間 平成19年6月1日～平成19年10月31日  
面積 5,088㎡  
担当 中沢悟 小野和之 篠原正洋
- 6 整理等作業の期間・担当者  
期間 平成19年4月1日～平成20年3月31日 担当 瀧川仲男 (前報告書刊行)  
平成20年1月1日～平成20年3月31日 担当 中沢 悟  
平成25年1月1日～平成25年3月31日 担当 山口逸弘  
平成26年1月1日～平成26年3月31日 担当 小野和之  
平成28年4月1日～平成28年8月31日 担当 洞口正史 (本書刊行)
- 7 平成28年度整理等作業の組織  
整理担当 洞口正史  
金属製品保存処理 関邦一
- 8 本報告書作成関係者  
報告書編集 洞口正史  
本文執筆 第1章・第2章第1・2・5節・第3章第2節 洞口正史  
第2章第3節 小野和之 山口逸弘  
第2章第4節 中沢 悟 小野和之 洞口正史  
第3章第1節 山口逸弘  
遺物観察 縄文土器・石器 山口逸弘 中・近世陶磁器 大西雅広 黒澤照弘
- 9 調査・分析委託等  
埋蔵文化財遺跡掘削工事 株式会社 歴史の杜  
遺構測量・空中写真撮影 株式会社 測研  
石器実測・トレース 株式会社 測研



## 10 資料保管等

本発掘調査の出土遺物のうち、本書に掲載したものとおよび調査図面、写真等の資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。また、出土遺物のうち細片等の理由により資料化できなかったものは本書に掲載していないが、一括して群馬県教育委員会文化財保護課収蔵庫に保管している。

## 11 謝辞

本報告書作成にあたり、下記の諸機関、諸氏にご指導、ご協力をいただいた。記して感謝の意を表す。

国土交通省関東地方整備局ハツダム工事事務所

群馬県教育委員会 長野原町教育委員会 佐々木由香

# 凡 例

- 1 本書で使用する測量図の座標は、日本測地系による。図上の方位は座標北を示す。
- 2 遺構図および遺物図の縮尺は基本的に下記によるが、対象の形状により異なる場合があるため、例外には縮尺を注記するとともに、各図には縮尺を示すスケールを付した。また、遺物図と遺物写真は基本的に同縮尺としたが、対象の形状により異なる場合がある。また、遺構写真および遺物細部の拡大写真等は任意縮尺である。

遺構図 遺構全体図 1:1000 調査区別全体図 1:500

竪穴建物等 1:60 炉・竈等 1:30 埋設土器 1:30

縄文時代土坑 1:40 古代以降土坑 1:60

遺物図 石畿・錢貨等 1:1 石匙・石核・砥石・刀子・釘等 1:2

中型石器・土器片等 1:3 土器・大型石等 1:4 大型土器等 1:6/1:8

- 3 遺物写真の番号は、遺物実測図および遺構図中の遺物番号と一致するが、写真のみを掲載し、出土位置の記載や実測図掲載を行っていない遺物もある。
- 4 一覧表中の計測値は、それが推定値である場合には○を付し、残存部の実測値である場合には△を付した。
- 5 土層、土器の色調はともに「新版標準土色帳」を基準色として慣用名を使用することとしているが、必ずしも統一されていない。また、色相・明度・彩度は省略した。
6. 遺物図に使用したスクリーントーンは以下のことを示す。

赤彩  灰軸陶器施軸  油煙付着 

# 目 次

口絵

序

例言 凡例

目次 挿図目次 表目次 写真図版目次

報告書抄録

第1章 上ノ平1遺跡の発掘調査	1
第1節 発掘調査に至る経過および発掘調査の経過	1
第2節 発掘調査の方法	1
第3節 発掘調査日誌抄録	2
第4節 地理的・歴史的環境	2
第2章 調査された遺構と遺物	7
第1節 基本土層	7
第2節 上ノ平1遺跡の概要	7
第3節 縄文・弥生時代の遺構と遺物	16
第1項 竪穴建物	16
第2項 土坑・ピット	56
第3項 遺構外出土遺物	67
第4節 平安時代の遺構と遺物	82
第1項 竪穴建物	82
第2項 焼土遺構	114
第3項 土坑	118
第4項 遺構外出土遺物	132
第5節 中世以後の遺構と遺物	135
第1項 野口茂四郎氏居宅跡	135
第2項 礎石建物	147
第3項 土坑・ピット	149
第4項 遺構外出土遺物	154
第3章 調査のまとめ	155
第1節 縄文時代の遺構と遺物について	155
第2節 植物遺体から見た上ノ平1遺跡の平安時代集落	159
第1項 13号住居・23号住居出土穀類	159
第2項 炭化モモ核が示すもの	160

遺構一覧表 遺物観察表

写真図版

# 挿図目次

第1図	上ノ平I遺跡位置図	3
第2図	上ノ平I遺跡周辺遺跡図及び地形図	4
第3図	基本土層	7
第4図	上ノ平I遺跡全体図	9
第5図	上ノ平I遺跡遺構分布図1	10
第6図	上ノ平I遺跡遺構分布図2	11
第7図	上ノ平I遺跡遺構分布図3	12
第8図	上ノ平I遺跡縄文時代遺構分布図	13
第9図	上ノ平I遺跡平安時代遺構分布図	14
第10図	上ノ平I遺跡中近世以後遺構分布図	15
第11図	19号住居(1) 遺物出土状況	16
第12図	19号住居(2)	17
第13図	19号住居出土遺物(1)	18
第14図	19号住居出土遺物(2)	19
第15図	19号住居出土遺物(3)	20
第16図	19号住居出土遺物(4)	21
第17図	19号住居出土遺物(5)	22
第18図	20号住居(1)	23
第19図	20号住居(2) 遺物出土状況	24
第20図	20号住居出土遺物(1)	24
第21図	20号住居出土遺物(2)	25
第22図	20号住居出土遺物(3)	26
第23図	21号住居	27
第24図	21号住居跡	27
第25図	21号住居出土遺物	28
第26図	33・35号住居(1)	29
第27図	33・35号住居(2) 遺物出土状況	30
第28図	33・35号住居(3)	31
第29図	33号住居出土遺物(1)	32
第30図	33号住居出土遺物(2)	33
第31図	35号住居出土遺物	34
第32図	37号住居 遺物出土状況	35
第33図	37号住居	35
第34図	37号住居出土遺物(1)	36
第35図	37号住居出土遺物(2)	37
第36図	39号住居	38
第37図	39号住居出土遺物	39
第38図	40号住居	40
第39図	40号住居出土遺物(1)	41
第40図	40号住居出土遺物(2)	42
第41図	41号住居	43
第42図	41号住居出土遺物	44
第43図	43号住居・出土遺物	45
第44図	44号住居	46
第45図	44号住居出土遺物(1)	47
第46図	44号住居出土遺物(2)	48
第47図	46号住居(1)	49
第48図	46号住居(2)	50
第49図	46号住居(3)	51
第50図	46号住居出土遺物(1)	52
第51図	46号住居出土遺物(2)	53
第52図	49号住居	54
第53図	49号住居出土遺物	55
第54図	195号土坑・出土遺物	56
第55図	214・219・220号土坑・出土遺物	58
第56図	222・225号土坑・225号土坑出土遺物	59
第57図	230・244・245号土坑・出土遺物	60
第58図	246・247号土坑・出土遺物	61
第59図	248号土坑・出土遺物	62
第60図	249・250・252号土坑・出土遺物	63
第61図	253・254号土坑・出土遺物	64
第62図	255・258号土坑・255号土坑出土遺物	65

第63図	2・3・37～39・56・59号ピット・出土遺物	66
第64図	遺構外出土遺物(1)	67
第65図	遺構外出土遺物(2)	68
第66図	遺構外出土遺物(3)	69
第67図	遺構外出土遺物(4)	70
第68図	遺構外出土遺物(5)	71
第69図	遺構外出土遺物(6)	72
第70図	遺構外出土遺物(7)	73
第71図	遺構外出土遺物(8)	74
第72図	遺構外出土遺物(9)	75
第73図	遺構外出土遺物(10)	76
第74図	遺構外出土遺物(11)	77
第75図	遺構外出土遺物(12)	78
第76図	遺構外出土遺物(13)	79
第77図	遺構外出土遺物(14)	80
第78図	遺構外出土遺物(15)	81
第79図	17号住居(1)	82
第80図	17号住居(2)	83
第81図	17号住居出土遺物	84
第82図	23号住居(1)	86
第83図	23号住居(2)	87
第84図	23号住居(3)	88
第85図	23号住居(4)	89
第86図	23号住居出土遺物(1)	90
第87図	23号住居出土遺物(2)	91
第88図	23号住居出土遺物(3)	92
第89図	25号住居(1)	93
第90図	25号住居(2)	94
第91図	25号住居出土遺物	94
第92図	27号住居(旧15号坑上)・出土遺物	96
第93図	29号住居(1)	97
第94図	29号住居(2)	98
第95図	29号住居出土遺物	99
第96図	32号住居	100
第97図	32号住居出土遺物	101
第98図	38号住居	102
第99図	38号住居出土遺物	103
第100図	42号住居跡(旧13号土坑)	103
第101図	42号住居出土遺物	104
第102図	45号住居	105
第103図	45号住居出土遺物	105
第104図	47号住居(旧19号坑上)(1)	106
第105図	47号住居(旧19号坑上)(2)	107
第106図	47号住居(旧19号坑上)出土遺物	107
第107図	48号住居(1)	108
第108図	48号住居(2)	109
第109図	48号住居(3)	110
第110図	48号住居出土遺物(1)	110
第111図	48号住居出土遺物(2)	111
第112図	48号住居出土遺物(3)	112
第113図	50号住居	113
第114図	50号住居出土遺物	114
第115図	1～8号坑上	116
第116図	9～11・13・14・16～18・20号坑上	117
第117図	13・16号坑上出土遺物	117
第118図	63・72・115・135・137号土坑	119
第119図	147・196～199号土坑	120
第120図	200～205号土坑	122
第121図	207～209・211～213号土坑	124
第122図	215～218・221号土坑	125
第123図	223・224・226・228号土坑	126
第124図	229・231～235号土坑	128
第125図	236～242号土坑	130
第126図	243・256・257・259・260号土坑・257号土坑出土遺物	131
第127図	遺構外出土遺物(1)	132
第128図	遺構外出土遺物(2)	133

第129図	遺構外出土遺物(3)	134
第130図	野口茂四郎氏住宅跡 石垣	135
第131図	野口茂四郎氏住宅跡	136
第132図	野口茂四郎氏住宅跡 1・2号井戸	137
第133図	野口茂四郎氏住宅跡 3号井戸	138
第134図	野口茂四郎氏住宅跡 コンクリート敷設部・西小屋(1)	139
第135図	野口茂四郎氏住宅跡 西小屋(2)	140
第136図	野口茂四郎氏住宅跡出土遺物(1)	141
第137図	野口茂四郎氏住宅跡出土遺物(2)	142
第138図	野口茂四郎氏住宅跡出土遺物(3)	143
第139図	野口茂四郎氏住宅跡出土遺物(4)	144
第140図	野口茂四郎氏住宅跡出土遺物(5)	145
第141図	野口茂四郎氏住宅跡出土遺物(6)	146
第142図	礎石建物	148
第143図	礎石建物出土遺物	149
第144図	103・110～112・114・116～119号土坑	150
第145図	120・121・171・177・178・227号土坑 →171号土坑出土遺物	151
第146図	1・4・5号ピット	152
第147図	6・7・15・16・27～29・35・36 →44→47・51→53・57・60・61号ピット	153
第148図	遺構外出土遺物	154
第149図	31号住居・18号住居出土土器	157
第150図	19号住居・37号住居・41号住居・44号住居出土土器	158
第151図	23号住居と48号住居の土器類とモモ林の出土位置比較	161
第152図	上ノ平1遺跡から出土した礎石	164

P L . 8	20号住居出土遺物(2)	
P L . 9	1. 21号住居全景(南から)	
	2. 21号住居上層断面A-A' (北西から)	
	3. 21号住居上層断面B-B' (南西から)	
	4. 21号住居遺物出土状況(南から)	
	5. 21号住居上層確認状況(東から)	
P L . 10	1. 炉全景(南から)	
	2. ピット1上層断面(東から)	
	3. ピット1全景(南から)	
	4. ピット2上層断面(南東から)	
	5. ピット2全景(南から)	
	6. ピット3上層断面(北東から)	
	7. ピット3全景(南東から)	
	8. ピット4上層断面(東から)	
	9. ピット5全景(南東から)	
	10. ピット5上層断面(北から)	
	11. ピット5全景(南から)	
	12. 21号住居出土遺物	
P L . 11	1. 33・35号住居掘方全景(西から)	
	2. 33号住居上層断面A-A' (北東から)	
	3. 33・35号住居上層断面B-B' 1 (北西から)	
	4. 33・35号住居上層断面B-B' 2 (北西から)	
	5. 33・35号住居上層断面B-B' 3 (北西から)	
P L . 12	1. 33号住居遺物出土状況(北西から)	
	2. 33号住居遺物出土状況(南東から)	
	3. 33号住居遺物出土状況(北西から)	
	4. 33号住居跡(西から)	
	5. ピット1上層断面(東から)	
	6. ピット1全景(南東から)	
	7. ピット2上層断面(西から)	
	8. ピット2全景(南東から)	
	9. ピット3上層断面(西から)	
	10. ピット3全景(南東から)	
P L . 13	1. ピット4上層断面(南西から)	
	2. ピット4全景(南東から)	
	3. ピット5上層断面(南東から)	
	4. ピット5・7全景(東から)	
	5. ピット6上層断面(南西から)	
	6. ピット6全景(南東から)	
	7. 33号住居出土遺物(1)	
P L . 14	1. 33号住居出土遺物(2)	
	2. 35号住居遺物出土状況(西から)	
	3. 35号住居全景(西から)	
	4. 35号住居ピット掘削後全景(南東から)	
P L . 15	1. ピット1全景(北西から)	
	2. ピット2上層断面(北西から)	
	3. ピット2全景(北西から)	
	4. ピット3上層断面(北西から)	
	5. ピット3全景(北西から)	
	6. ピット4上層断面(北西から)	
	7. ピット4全景(北西から)	
	8. 35号住居石椀片出土状況(西から)	
	9. 35号住居出土遺物	
P L . 16	1. 37号住居遺物出土状況(南東から)	
	2. 37号住居上層断面(南東から)	
	3. 37号住居上層断面(南西から)	
	4. 37号住居遺物出土状況(南から)	
	5. 37号住居遺物出土状況(南西から)	
P L . 17	1. 礎石確認状況(南東から)	
	2. 炉上層断面確認状況(南から)	
	3. 掘方上層断面確認状況(南東から)	
	4. 掘方全景(南東から)	
	5. ピット1上層断面(南から)	
	6. ピット1全景(南東から)	
	7. ピット2上層断面(南東から)	
	8. ピット2全景(南東から)	

## 表 目 次

表1	上ノ平1遺跡周辺遺跡一覧	5
表2	上ノ平1遺跡から出土した炭化礎石(括弧は破片数を示す)	160
表3	上ノ平1遺跡出土礎石	162

## 写真図版目次

P L . 1	1. 19号住居全景(南東から)	
	2. 19号住居上層断面A-A' (南東から)	
	3. 19号住居上層断面B-B' (南西から)	
	4. 19号住居遺物出土状況(南東から)	
	5. 19号住居遺物出土状況(南西から)	
P L . 2	1. 炉上層断面(南東から)	
	2. 炉全景(東から)	
	3. 掘方全景(東から)	
	4. ピット1上層断面(南から)	
	5. ピット1全景(南東から)	
	6. ピット2上層断面(北東から)	
	7. ピット2全景(南東から)	
	8. ピット3上層断面(南から)	
	9. ピット3全景(南東から)	
	10. ピット4上層断面(西から)	
	11. ピット4全景(東から)	
	12. 19号住居出土遺物(1)	
P L . 3	19号住居出土遺物(2)	
P L . 4	19号住居出土遺物(3)	
P L . 5	19号住居出土遺物(4)	
P L . 6	1. 19号住居出土遺物(5)	
	2. 20号住居全景(南東から)	
P L . 7	1. 20号住居上層断面A-A' (南東から)	
	2. 20号住居上層断面B-B' (南西から)	
	3. 20号住居遺物出土状況(南東から)	
	4. 20号住居炉上層断面(南東から)	
	5. 20号住居出土遺物(1)	

	9. ビット3 土層断面(東から)		8. 43号住居№1 土掘出土状況(南から)
	10. ビット3 全景(南東から)		9. 43号住居№1 土掘出土状況(南東から)
P L. 18	1. ビット4 土層断面(東から)		10. 43号住居出土遺物
	2. ビット4 全景(南東から)	P L. 29	1. 44号住居遺物出土状況(南から)
	3. ビット5 土層断面(東から)		2. 44号住居土層断面(南西から)
	4. 37号住居出土遺物		3. 44号住居土層断面(西から)
P L. 19	1. 39号住居遺構確認状況(南東から)		4. 44号住居全景(南から)
	2. 炉確認状況(南東から)		5. 44号住居方全景(南から)
	3. 炉土層断面(南から)	P L. 30	1. 遺物出土状況(北から)
	4. 炉土層断面(南から)		2. ビット1土層断面(南東から)
	5. 炉全景(南から)		3. ビット1 全景(南東から)
P L. 20	1. 炉掘方(南から)		4. 44号住居出土遺物(1)
	2. ビット1 全景(南東から)	P L. 31	1. 44号住居出土遺物(2)
	3. ビット2 土層断面(南東から)		2. 46号住居遺構確認状況(南東から)
	4. ビット2 全景(南東から)		3. 46号住居調査状況(南東から)
	5. 39号住居出土遺物	P L. 32	1. 46号住居土層確認状況(南東から)
P L. 21	1. 40・41・43号住居全景(南から)		2. 46号住居土層敷石部(北東から)
	2. 40号住居土層確認状況(南東から)		3. ビット1 土層断面(南東から)
	3. 40号住居遺物出土状況(南から)		4. ビット1 全景(南東から)
	4. 40号住居遺物出土状況(南東から)		5. ビット2 土層断面(南から)
	5. 40号住居遺物出土状況(南東から)		6. ビット2 全景(南東から)
P L. 22	1. 40号住居全景(南東から)		7. ビット3 土層断面(南東から)
	2. 40号住居炉土層確認状況(南東から)		8. ビット3 全景(南東から)
	3. 40号住居炉全景(南東から)		9. 46号住居出土遺物(1)
	4. 40号住居炉方全景(南東から)	P L. 33	46号住居出土遺物(2)
	5. ビット1 土層断面(南東から)	P L. 34	1. 49号住居遺物出土状況(南から)
	6. ビット1 全景(南西から)		2. 49号住居土層確認状況(南から)
	7. ビット2 土層断面(南東から)		3. 49号住居掘方全景(東から)
	8. ビット2 全景(南東から)		4. ビット1 土層断面(南西から)
	9. ビット3 土層断面(南東から)		5. ビット2 土層断面(南から)
	10. ビット3 全景(南東から)	P L. 35	6. ビット2 全景(南から)
P L. 23	1. ビット4 土層断面(南東から)		1. ビット3 土層断面(南西から)
	2. ビット4 全景(南東から)		2. ビット3 全景(南から)
	3. ビット5 土層断面(南東から)		3. ビット4 土層断面(南から)
	4. ビット5 全景(南東から)		4. ビット4 全景(南東から)
	5. ビット6 土層断面(南東から)		5. ビット5 土層断面(南から)
	6. ビット6 全景(南東から)		6. ビット5 全景(南東から)
	7. 40号住居出土遺物(1)		7. ビット6 土層断面(南から)
P L. 24	1. 40号住居出土遺物(2)		8. ビット6 全景(南東から)
	2. 41号住居全景(南から)		9. ビット7 土層断面(東から)
P L. 25	1. 41号住居土層確認状況(東から)		10. ビット7 全景(南東から)
	2. 41号住居遺物出土状況(南から)		11. ビット8 土層断面(南から)
	3. 41号住居炉(南から)		12. ビット8 全景(南東から)
	4. 41号住居炉掘方(南から)		13. ビット9 土層断面(南から)
	5. ビット1 土層断面(南から)		14. ビット9 全景(南東から)
	6. ビット1 全景(南から)	P L. 36	1. 49号住居出土遺物
	7. ビット2 土層断面(南から)		2. 195号 土坑土層断面(南西から)
	8. ビット2 全景(南から)	P L. 37	1. 195号 土坑遺物出土状況(北西から)
	9. ビット3 土層断面(南から)		2. 195号 土坑掘方(南西から)
	10. ビット3 全景(南から)		3. 195号 土坑出土遺物
P L. 26	1. ビット4 土層断面(南から)		4. 214号 土坑土層断面(南西から)
	2. ビット4 全景(南から)		5. 214号 土坑遺物出土状況(南から)
	3. 41号住居出土遺物	P L. 38	1. 214号 土坑遺物出土状況(南から)
P L. 27	1. 43号住居全景(南から)		2. 214号 土坑出土遺物
	2. 43号住居遺物出土状況(南から)		3. 219号 土坑土層断面(北から)
	3. 43号住居炉(南から)		4. 219号 土坑全景(南東から)
	4. ビット1 土層断面(南から)		5. 219号 土坑北壁(南から)
	5. ビット1 全景(南から)		6. 219号 土坑出土遺物
	6. ビット2 土層断面(南から)		7. 220号 土坑全景(西から)
P L. 28	1. ビット2 全景(南から)		8. 220号 土坑出土遺物
	2. ビット3 土層断面(南から)	P L. 39	1. 222号 土坑土層断面(南から)
	3. ビット3 全景(南から)		2. 222号 土坑全景(南から)
	4. ビット4 土層断面(南から)		3. 225号 土坑土層断面(南東から)
	5. ビット4 全景(南から)		4. 225号 土坑全景(南東から)
	6. ビット5 土層断面(南から)		5. 225号 土坑出土遺物
	7. ビット5 全景(南から)		6. 230号 土坑土層断面(東から)

	7. 230号土坑全景(南から)	P L. 51	縄文時代遺構外出土遺物(4)
P L. 40	1. 230号土坑出土遺物	P L. 52	縄文時代遺構外出土遺物(5)
	2. 244号土坑遺物出土状況(北西から)	P L. 53	縄文時代遺構外出土遺物(6)
	3. 244号土坑上層断面(北西から)	P L. 54	縄文時代遺構外出土遺物(7)
	4. 244号土坑全景(北西から)	P L. 55	縄文時代遺構外出土遺物(8)
	5. 244号土坑出土遺物	P L. 56	1. 17号住居全景(西から)
	6. 245号土坑上層断面(南東から)		2. 17号住居上層断面A-A' (南から)
	7. 245号土坑全景(南東から)		3. 17号住居上層断面B-B' (西から)
P L. 41	1. 245号土坑遺物出土状況(南東から)		4. 17号住居層出土状況(西から)
	2. 245号土坑出土遺物		5. 17号住居層出土状況(南から)
	3. 246号土坑上層断面(南東から)	P L. 57	1. 17号住居全景(西から)
	4. 246号土坑全景(南東から)		2. 17号住居層方全景(西から)
	5. 246号土坑出土遺物		3. 17号住居層全景(西から)
	6. 247号土坑上層断面(南東から)		4. 17号住居層上層断面A-A' (南から)
	7. 247号土坑遺物出土状況(南東から)		5. 17号住居層上層断面B-B' (西から)
	8. 247号土坑全景(南東から)		6. 17号住居層上層断面(西から)
P L. 42	1. 247号土坑出土遺物		7. 17号住居出土遺物(1)
	2. 248号土坑確認状況(南東から)	P L. 58	1. 17号住居出土遺物(2)
	3. 248号土坑遺物出土状況(西から)		2. 23号住居上層断面A-A' (西から)
	4. 248号土坑上層断面(東から)		3. 23号住居上層断面B-B' (南から)
	5. 248号土坑全景(東から)		4. 23号住居炭化材出土状況(西から)
P L. 43	1. 248号土坑出土遺物		5. 23号住居炭化材出土状況(西から)
	2. 249号土坑上層断面(南東から)		6. 23号住居燻炭化材出土状況(北から)
	3. 249号土坑全景(南東から)		7. 23号住居炭化材出土状況(南から)
	4. 249号土坑出土遺物	P L. 59	1. 23号住居炭化材出土状況(南から)
P L. 44	1. 250号土坑上部上層断面(南西から)		2. 23号住居炭化材出土状況(東から)
	2. 250号土坑下部上層断面(南西から)		3. 23号住居炭化材出土状況(西から)
	3. 250号土坑全景(南西から)		4. 23号住居鉄器No46出土状況(西から)
	4. 250号土坑出土遺物		5. 23号住居全景(西から)
	5. 252号土坑上部上層断面(南から)	P L. 60	1. 23号住居層確認状況(南から)
	6. 252号土坑遺物出土状況(南から)		2. 23号住居層上層確認状況(西から)
	7. 252号土坑下部上層断面(南から)		3. 23号住居層全景(西から)
	8. 252号土坑全景(南から)		4. 23号住居層全景(東から)
P L. 45	1. 252号土坑出土遺物		5. 23号住居層全景(西から)
	2. 253号土坑上層断面(南から)		6. 23号住居層全景(西から)
	3. 253号土坑遺物出土状況(南東から)		7. 23号住居層方確認状況(西から)
	4. 253号土坑全景(南から)		8. 23号住居ビット1上層断面(西から)
	5. 253号土坑出土遺物	P L. 61	1. 23号住居ビット1全景(南東から)
	6. 254号土坑遺物出土状況(南から)		2. 23号住居ビット2上層断面(南西から)
	7. 254号土坑出土遺物		3. 23号住居ビット2全景(南東から)
P L. 46	1. 254号土坑全景(南東から)		4. 23号住居ビット3上層断面(南西から)
	2. 255号土坑遺物出土状況(南東から)		5. 23号住居ビット3全景(南東から)
	3. 255号土坑全景(南東から)		6. 23号住居ビット4上層断面(南東から)
	4. 255号土坑出土遺物		7. 23号住居ビット4全景(南東から)
	5. 258号土坑上層断面(南から)		8. 23号住居ビット5上層断面(東から)
	6. 258号土坑全景(南から)	P L. 62	1. 23号住居ビット5全景(南東から)
	7. 2号ビット上層断面(東から)		2. 23号住居ビット6全景(南東から)
	8. 3号ビット上層断面(南から)		3. 23号住居ビット7上層断面(西から)
P L. 47	1. 2・3号ビット出土遺物		4. 23号住居ビット7全景(南東から)
	2. 37号ビット上層断面(南東から)		5. 23号住居ビット9全景(南東から)
	3. 37号ビット遺物出土状況(南東から)		6. 23号住居ビット10上層断面(南西から)
	4. 37号ビット全景(南東から)		7. 23号住居ビット10全景(南東から)
	5. 37号ビット出土遺物		8. 23号住居ビット11上層断面(南西から)
	6. 38号ビット上層断面(南東から)	P L. 63	1. 23号住居ビット11全景(南東から)
	7. 38号ビット全景(南東から)		2. 23号住居ビット12上層断面(南西から)
	8. 39号ビット上層断面(南東から)		3. 23号住居ビット12全景(南東から)
	9. 39号ビット全景(南東から)		4. 23号住居ビット13全景(南東から)
	10. 56号ビット上層断面(北東から)		5. 23号住居出土遺物(1)
	11. 56号ビット全景(南から)	P L. 64	23号住居出土遺物(2)
	12. 56号ビット出土遺物	P L. 65	1. 23号住居出土遺物(3)
	13. 59号ビット上層断面(南から)		2. 25号住居遺物出土状況(南西から)
	14. 59号ビット全景(南から)		3. 25号住居上層断面A-A' (南東から)
	15. 59号ビット出土遺物		4. 25号住居上層断面B-B' (南西から)
P L. 48	縄文時代遺構外出土遺物(1)	P L. 66	1. 25号住居全景(南西から)
P L. 49	縄文時代遺構外出土遺物(2)		2. 25号住居層上層断面(南西から)
P L. 50	縄文時代遺構外出土遺物(3)		3. 25号住居層全景(南西から)

	4. 25号住居電土層断面A-A' (南東から)		2. 48号住居電土層断面(南西から)
	5. 25号住居電土層断面B-B' (南西から)		3. 48号住居電(南西から)
	6. 25号住居電掘方調査状況(南西から)		4. 48号住居1号焼土(南西から)
	7. 25号住居出土遺物		5. 48号住居2号焼土(南西から)
P L. 67	1. 27号住居全景(東から)	P L. 78	1. 48号住居3号焼土(南西から)
	2. 27号住居土層断面(北東から)		2. 48号住居中央部の灰層・焼土(南東から)
	3. 27号住居焼土断面(南西から)・同出土遺物		3. 48号住居1号土坑土層断面(西から)
	4. 27号住居掘方全景(東から)		4. 48号住居1号土坑全景(南から)
	5. 29号住居全景(南東から)		5. 48号住居2号土坑・ビット1土層断面(北東から)
P L. 68	1. 29号住居電確認状況(南から)		6. 48号住居2・3号土坑・ビット1全景(北東から)
	2. 29号住居電調査状況(南東から)		7. 48号住居3号土坑土層断面(南西から)
	3. 29号住居電調査状況(南から)		8. 48号住居3号土坑全景(南西から)
	4. 29号住居電掘方調査状況(南から)	P L. 79	1. 48号住居4号土坑土層断面(南西から)
	5. 29号住居貯蔵穴内の炭化層・焼土(南から)		2. 48号住居4号土坑全景(南西から)
	6. 29号住居貯蔵穴土層断面(南から)		3. 48号住居ビット1土層断面(南西から)
	7. 29号住居貯蔵穴全景(南から)		4. 48号住居2号土坑・ビット1全景(北東から)
	8. 29号住居掘方全景(南から)		5. 48号住居ビット2土層断面(南西から)
P L. 69	29号住居出土遺物		6. 48号住居ビット2全景(南東から)
P L. 70	1. 32号住居遺物出土状況(東から)		7. 48号住居ビット3土層断面(南西から)
	2. 32号住居土層断面A-A' (南から)		8. 48号住居ビット3全景(南東から)
	3. 32号住居土層断面B-B' (西から)	P L. 80	48号住居出土遺物(1)
	4. 32号住居全景(東から)	P L. 81	1. 48号住居出土遺物(2)
	5. 32号住居出土遺物		2. 50号住居全景(南西から)
P L. 71	1. 38号住居全景(南から)		3. 50号住居電(南西から)
	2. 38号住居土層断面A-A' (南から)		4. 50号住居電土層断面A-A' (南から)
	3. 38号住居電確認状況(南から)		5. 50号住居電土層断面B-B' (西から)
	4. 38号住居電土層断面B-B' (東から)	P L. 82	1. 50号住居電(南西から)
	5. 38号住居電土層断面C-C' 上部(南から)		2. 50号住居電掘方土層断面(西から)
	6. 38号住居電全景(南から)		3. 50号住居紡錘車出土状況(北から)
	7. 38号住居電掘方全景(南から)		4. 紡錘車出土状況拡大(北から)
	8. 38号住居電土層断面下部確認状況(南から)		5. 50号住居掘方全景(南西から)
P L. 72	1. 38号住居出土遺物		6. 50号住居出土遺物
	2. 42号住居電確認状況(東から)	P L. 83	1. 1号焼土(南から)
	3. 42号住居電遺物出土状況(東から)		2. 1号焼土土層断面(南から)
	4. 42号住居出土遺物		3. 2号焼土土層断面(南から)
	5. 45号住居全景(北から)		4. 3号焼土(南から)
	6. 45号住居遺物出土状況(北から)		5. 3号焼土土層断面(南から)
P L. 73	1. 45号住居電確認状況(北から)		6. 4号焼土(南から)
	2. 45号住居電遺物出土状況(北東から)		7. 5号焼土(南から)
	3. 45号住居電土層確認状況(北から)		8. 6号焼土(西から)
	4. 45号住居電全景(北から)		9. 6号焼土土層断面B-B' (南から)
	5. 45号住居電掘方確認状況(北から)		10. 7号焼土(東から)
	6. 45号住居掘方全景(北から)		11. 8号焼土(南東から)
	7. 45号住居出土遺物		12. 9号焼土(西から)
P L. 74	1. 47号住居確認状況(南から)		13. 9号焼土土層断面(北西から)
	2. 47号住居土層断面A-A' (南西から)		14. 10号焼土(南東から)
	3. 47号住居焼土検出状況(南東から)	P L. 84	1. 10号焼土土層断面(南東から)
	4. 47号住居焼土土層断面B・C (南から)		2. 11号焼土(南から)
	5. 47号住居焼土土層断面D-D' (南から)		3. 11号焼土土層断面(南西から)
	6. 47号住居焼土土層断面E-E' (南から)		4. 13号焼土(南から)
	7. 47号住居焼土土層断面F-F' (南から)		5. 13号焼土土層断面A-A' (南から)
	8. 47号住居電確認状況(南から)		6. 13号焼土土層断面B-B' (東から)
P L. 75	1. 47号住居電確認状況(南西から)		7. 13号焼土下部調査状況(南から)
	2. 47号住居電土層確認状況(南西から)		8. 13号焼土出土遺物
	3. 47号住居電全景(南西から)		9. 14号焼土(南から)
	4. 47号住居電掘方土層確認状況(南西から)		10. 14号焼土土層断面(南から)
	5. 47号住居電掘方(南西から)		11. 16号焼土(北東から)
	6. 47号住居掘方全景(南東から)		12. 16号焼土土層断面(東から)
	7. 47号住居出土遺物		13. 16号焼土土層断面中央部(東から)
P L. 76	1. 48号住居遺物出土状況(西から)		14. 16号焼土出土遺物
	2. 48号住居土層断面A-A' (西から)	P L. 85	1. 17・18号焼土(南から)
	3. 48号住居土層断面B-B' (南から)		2. 17号焼土(南から)
	4. 48号住居北西部灰・焼土(東から)		3. 17号焼土土層断面(南から)
	5. 48号住居遺物出土状況(南西から)		4. 18号焼土(南から)
P L. 77	1. 48号住居電・1～3号焼土及び周辺遺物出土状況(南西から)		5. 18号焼土土層断面(南西から)
			6. 20号焼土周辺(南東から)

	7. 20号機上(南東から)		14. 234号土坑土層断面(北から)
	8. 20号機上土層断面(東から)		15. 234号土坑全景(南から)
	9. 63号土坑土層断面(南から)	P L. 90	1. 235号土坑土層断面(東から)
	10. 63号土坑全景(南から)		2. 235号土坑全景(東から)
	11. 72号土坑土層断面(南東から)		3. 236号土坑土層断面(東から)
	12. 72号土坑全景(南東から)		4. 236号土坑全景(東から)
	13. 115号土坑土層断面(南西から)		5. 237号土坑土層断面(東から)
	14. 115号土坑全景(北東から)		6. 237号土坑全景(東から)
P L. 86	1. 135号土坑土層断面(南から)		7. 238号土坑土層断面(南から)
	2. 135号土坑全景(南から)		8. 238号土坑全景(南から)
	3. 137号土坑土層断面(東から)		9. 239号土坑土層断面(北から)
	4. 137号土坑全景(東から)		10. 239号土坑全景(南から)
	5. 147号土坑土層断面(南から)		11. 240号土坑土層断面(南東から)
	6. 147号土坑全景(南から)		12. 240号土坑全景(南東から)
	7. 196号土坑土層断面(南東から)		13. 241号土坑土層断面(南東から)
	8. 196号土坑全景(南東から)		14. 241号土坑全景(東から)
	9. 197号土坑土層断面(南東から)		15. 242号土坑土層断面(東から)
	10. 197号土坑全景(南東から)	P L. 91	1. 242号土坑全景(南東から)
	11. 198号土坑土層断面(南から)		2. 243号土坑土層断面(南東から)
	12. 198号土坑全景(東から)		3. 243号土坑全景(南東から)
	13. 199号土坑全景(西から)		4. 256号土坑土層断面(東から)
	14. 200号土坑土層断面(南西から)		5. 256号土坑全景(南西から)
	15. 200号土坑全景(南東から)		6. 257号土坑土層断面(南から)
P L. 87	1. 201号土坑土層断面(東から)		7. 257号土坑遺物出土状況(南東から)
	2. 201号土坑全景(東から)		8. 257号土坑全景(東から)
	3. 202号土坑土層断面(南から)		9. 257号土坑出土遺物
	4. 202号土坑全景(南東から)		10. 259号土坑土層断面(北から)
	5. 203号土坑土層断面(南から)		11. 259号土坑全景(南から)
	6. 204号土坑全景(東から)		12. 260号土坑土層断面(北から)
	7. 205号土坑土層断面(東から)		13. 260号土坑全景(南から)
	8. 207号土坑土層断面(東から)	P L. 92	平安時代遺構外出土遺物(1)
	9. 205(右)・207号土坑全景(南東から)	P L. 93	平安時代遺構外出土遺物(2)
	10. 208号土坑土層断面(東から)	P L. 94	1. 調査前の野口茂四郎氏旧宅跡(南東から)
	11. 208号土坑全景(東から)		2. 北石垣西側確認状況(南東から)
	12. 209号土坑土層断面(南東から)		3. 北石垣東側確認状況(南東から)
	13. 209号土坑全景(北東から)		4. 北石垣西部(南東から)
	14. 211号土坑土層断面(東から)		5. 北石垣中央部(南東から)
	15. 211号土坑全景(東から)	P L. 95	1. 北石垣東部(南東から)
P L. 88	1. 212号土坑土層断面(北西から)		2. 北石垣全景(南西から)
	2. 212号土坑全景(西から)		3. 北石垣西部から中央部(南西から)
	3. 213号土坑土層断面(南西から)		4. 北石垣東端部(南東から)
	4. 215号土坑土層断面(東から)		5. 北石垣中央の張り出し部(南東から)
	5. 215号土坑全景(南西から)		6. 北石垣張り出し部西側の鉄板(南東から)
	6. 216号土坑土層断面(北西から)		7. 北石垣中央の張り出し部東部(南東から)
	7. 216号土坑全景(北西から)		8. 西石垣(北東から)
	8. 217号土坑土層断面(北西から)	P L. 96	1. 南石垣東部と東石垣(東から)
	9. 217号土坑全景(南から)		2. 南石垣西部・中央部(東から)
	10. 218号土坑全景(南東から)		3. 南石垣西部(東から)
	11. 221号土坑土層断面(南西から)		4. 南石垣西部(北東から)
	12. 221号土坑全景(南東から)		5. 南石垣中央部(東から)
	13. 223号土坑全景(南から)		6. 南石垣中央部(南から)
	14. 223号土坑全景(南から)		7. 1・2号井戸と北石垣(南東から)
	15. 224号土坑全景(南から)		8. 1号井戸全景(南東から)
P L. 89	1. 224号土坑全景(東から)	P L. 97	1. 1号井戸内の板状品出土状況(北西から)
	2. 226号土坑土層断面(西から)		2. 2号井戸全景(西から)
	3. 226号土坑全景(南から)		3. 2号井戸井筒の石組み(西から)
	4. 228号土坑土層断面(北西から)		4. 3号井戸確認状況(南東から)
	5. 228号土坑全景(北西から)		5. 3号井戸全景(南東から)
	6. 229号土坑土層断面(南から)		6. コンクリート敷設部全景(南から)
	7. 229号土坑全景(南から)		7. コンクリート敷設部上面コンクリート除去状況(北から)
	8. 231号土坑土層断面(西から)		8. コンクリート敷設部本階除去及び下部断り状況(南から)
	9. 231号土坑全景(東から)		
	10. 232号土坑土層断面(南東から)	P L. 98	1. 西小屋全景(南東から)
	11. 232号土坑全景(東から)		2. 西小屋全景(南東から)
	12. 233号土坑土層断面(南から)		3. 西小屋全景(北東から)
	13. 233号土坑全景(南から)		4. 西小屋上面確認状況(南から)



5. 西小屋上面遺物出土状況(北西から)
- P L. 99 1. 西小屋下面桶確認状況(西から)  
2. 西小屋下面桶全景(北西から)  
3. 西小屋下面木組み(南西から)  
4. 西小屋下面木組み(南西から)  
5. 西小屋下面桶(南から)  
6. 西小屋下面桶(西から)  
7. 西小屋下面桶埋設状況(南から)  
8. 西小屋下面桶(南から)
- P L. 100 野口茂四郎氏邸宅跡出土遺物(1)
- P L. 101 野口茂四郎氏邸宅跡出土遺物(2)
- P L. 102 野口茂四郎氏邸宅跡出土遺物(3)
- P L. 103 野口茂四郎氏邸宅跡出土遺物(4)
- P L. 104 野口茂四郎氏邸宅跡出土遺物(5)・中世以後遺構外出土遺物
- P L. 105 1. 礎石建物調査前の石垣と井戸(南から)  
2. 礎石建物調査前の石垣(南東から)  
3. 礎石建物全景(南西から)  
4. 礎石建物井戸全景(南東から)  
5. 礎石建物上層断面(南から)  
6. 礎石建物上層断面・材出土状況(南から)  
7. 礎石建物材出土状況(南東から)  
8. 礎石建物礎石・8号ビット(南東から)
- P L. 106 1. 礎石建物礎石1(南から)  
2. 礎石建物礎石2(南から)  
3. 礎石建物礎石3(南から)  
4. 礎石建物礎石4(南から)  
5. 礎石建物礎石5(南から)  
6. 礎石建物礎石6(南から)  
7. 礎石建物礎石7(南から)  
8. 礎石建物礎石8(南から)  
9. 礎石建物礎石9(南から)  
10. 礎石建物礎石10(南から)  
11. 礎石建物礎石11(南から)  
12. 礎石建物A-A'(南東から)  
13. 礎石建物C-C'(北東から)  
14. 礎石建物礎石1 掘え方(南から)  
15. 礎石建物礎石10掘え方(北西から)
- P L. 107 1. 礎石建物礎石11掘え方(北東から)  
2. 8号ビット木部/上層断面(南東から)  
3. 8号ビット全景(南東から)  
4. 9号ビット上層断面(南から)  
5. 9号ビット全景(南から)  
6. 10号ビット上層断面(南から)  
7. 10号ビット全景(南から)  
8. 11号ビット上層断面(南から)  
9. 11号ビット全景(南から)  
10. 12号ビット上層断面(南から)  
11. 12号ビット全景(南から)  
12. 13号ビット上層断面(南から)  
13. 14号ビット上層断面(南から)  
14. 14号ビット全景(南から)  
15. 礎石建物出土遺物
- P L. 108 1. 103号土坑上層断面(南東から)  
2. 103号土坑上面礫(南西から)  
3. 103号土坑全景(南東から)  
4. 110号土坑上面礫(南東から)  
5. 111号土坑上面礫(南東から)  
6. 112号土坑上層断面(南東から)  
7. 112号土坑全景(南から)  
8. 114号土坑上面礫(南東から)  
9. 116号土坑上層断面(南東から)  
10. 116号土坑全景(南東から)  
11. 117号土坑上層断面(南東から)  
12. 117号土坑全景(南東から)  
13. 118号土坑上層断面(南東から)  
14. 119号土坑上層断面(南東から)
- P L. 109 1. 120号土坑上層断面(南東から)  
2. 120号土坑全景(南から)  
3. 121号土坑上層断面(南東から)  
4. 121号土坑全景(南から)  
5. 171号土坑全景(南から)  
6. 171号土坑上層断面A-A'(南東から)  
7. 171号土坑上層断面B-B'(南東から)  
8. 171号土坑出土遺物  
9. 177号土坑上層断面(北西から)  
10. 177号土坑全景(西から)  
11. 178号土坑上層断面(南東から)  
12. 178号土坑上面礫出土状況(南東から)  
13. 178号土坑全景(南東から)  
14. 227号土坑上層断面(北東から)  
15. 227号土坑全景(南から)
- P L. 110 1. 1号ビット上層断面(南東から)  
2. 4号ビット上層断面(南から)  
3. 4号ビット全景(南から)  
4. 5号ビット上層断面(南東から)  
5. 5号ビット全景(南東から)  
6. 6号ビット上層断面(南東から)  
7. 6号ビット全景(南東から)  
8. 7号ビット上層断面(南東から)  
9. 7号ビット全景(南東から)  
10. 15号ビット上層断面(南東から)  
11. 15号ビット全景(南東から)  
12. 16号ビット上層断面(南東から)  
13. 16号ビット全景(南東から)  
14. 27号ビット上層断面(西から)  
15. 27号ビット全景(南東から)  
16. 28号ビット上層断面(南から)  
17. 28号ビット全景(南東から)  
18. 29号ビット上層断面(南東から)  
19. 29号ビット全景(南東から)  
20. 35号ビット上層断面(南東から)  
21. 35号ビット全景(南東から)  
22. 36号ビット全景(南東から)
- P L. 111 1. 44号ビット上層断面(南東から)  
2. 44号ビット全景(南東から)  
3. 45号ビット上層断面(南東から)  
4. 45号ビット全景(南東から)  
5. 46号ビット上層断面(南東から)  
6. 46号ビット全景(南東から)  
7. 47号ビット上層断面(南東から)  
8. 47号ビット全景(南東から)  
9. 51号ビット上層断面(南から)  
10. 51号ビット全景(南東から)  
11. 52号ビット上層断面(東から)  
12. 52号ビット全景(東から)  
13. 53号ビット上層断面(南東から)  
14. 53号ビット全景(南東から)  
15. 57号ビット上層断面(南東から)  
16. 57号ビット全景(南東から)  
17. 60号ビット上層断面(南東から)  
18. 60号ビット全景(南東から)  
19. 61号ビット上層断面(南東から)  
20. 61号ビット全景(南東から)

## 第1章 上ノ平1遺跡の発掘調査

上ノ平1遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑278番地ほかに所在する。本調査はハッ場ダム建設工事川原畑地区代替地造成工に伴う記録保存調査であり、平成17年度から19年度にかけて財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が行った。

このうち、平成18年度までに発掘調査された部分の記録については平成20年3月に、「財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第440集 上ノ平1遺跡(1)

ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書第23集」(以下「前報告」)として刊行した。本書は上ノ平1遺跡の第2冊目の報告書に当たり、平成19年度に発掘調査された部分を主な対象とする。このため、発掘調査に至る経過および調査の経過、発掘調査の方法、ならびに当該遺跡の地理的、歴史的環境等の詳細は前報告書にゆずり、ここではごく概略的に述べるにとどめる。

### 第1節 発掘調査に至る経過および

#### 発掘調査の経過

ハッ場ダムは、洪水調整、都市用水の補給、流水維持等を目的とする多目的ダムを目指して、昭和24年に策定された「利根川改修改訂計画」の一環として建設が計画された。昭和27年には建設準備のための調査が着手されたが、紆余曲折を経て本格的な着工は平成4年を待つことになる。

ダム建設地域内のうち、長野原町内の文化財に関しては、町教育委員会が昭和61年から文化財総合調査計画を策定し、自然環境や民俗、石造文化財、古文書、昔話等の調査を行うとともに、埋蔵文化財の詳細分布調査も行った。

ハッ場ダム建設工事関連埋蔵文化財発掘調査は、平成6年3月に建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長との間で「ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」が締結され、これに基づいて実施されることとなった。この協定は平成28年現在まで、4回の変更を行いつつ、継続されている。

上ノ平1遺跡は、平成17年度から19年度にかけて発掘調査され、18年度までの調査については既報告である。平成19年度の発掘調査は平成19年6月1日から10月31日

までの5か月間、5,088㎡を対象に行った。調査担当は中沢悟(当事業団上席専門員)、小野和之(同)、篠原正洋(同主任調査研究員)である。また、整理等作業は、平成20年1月1日から平成20年3月31日にかけて中沢悟、平成25年1月1日から平成25年3月31日にかけて山口逸弘(当事業団上席専門員)、平成26年1月1日から平成26年3月31日にかけて小野和之(当事業団専門調査役)、平成28年4月1日～平成28年8月31日まで洞口正史(当事業団専門調査役)が担当した。整理等作業の期間は合計14月である。

### 第2節 発掘調査の方法

上ノ平1遺跡では、表土をバックホーにより除去した後、人力による遺構確認と精査、遺構掘削を行った。遺構および包含層は、埋没土観察用畦を残して人力により掘削した。

調査の基準座標は旧日本測地系(2002年4月改正前)に基づく日本平面直角座標IX系を使用した。調査区は、東吾妻町大柏木付近の $X=+58000.0$   $Y=-97000.0$ を原点とする1km方眼(「地区」)を、ハッ場ダム建設工事関連発掘調査地区全体で60個設定した。各地区内はさらに、東南隅から北西隅に向けて一辺100mずつの「区」100個に分割する。本遺跡はNo35地区の62・63・71・72・73区にあたる。各区は4m単位の小グリッドに分割され、東南隅を起点A1として、東西にA～Y、南北に1～25の番号をふって各遺構などの所属するグリッドを特定している。

測量は業者委託によるデジタル平板測量による。縮尺1/20を基本に、対象によって1/10、1/40、1/100、1/200を適宜用いた。

遺構写真は一部業者委託によって撮影した航空写真を除き、調査担当者がデジタルカメラ(3456×2304画素/RAW画像保存)および6×7判モノクロームフィルムを用いて撮影した。

整理等作業は当事業団ハッ場ダム調査事務所内で実施し、一部剥片石器類の実測および堅穴建物出土の炭化材の同定は専門業者に委託して実施した。

なお、遺跡の略号はY D1-07である。

## 第3節 発掘調査日誌抄録

平成19(2007)年

- 6月1日 調査開始
- 6月6日 事務所設置 作業員17名稼働
- 6月13日 37号住居調査開始
- 6月15日 37～39号住居等調査
- 6月25日 33・35号住居調査再開
- 6月26日 国交省打合せ会議
- 7月3日 32号住居等調査終了
- 7月5日 1号礎石建物石垣調査着手
- 7月6日 33・35号住居等調査終了
- 7月9日 37号住居等調査終了
- 7月13日 43号住居を確認
- 7月19日 43号住居等調査終了
- 7月20日 40号住居等調査終了
- 7月23日 33号住居等調査終了
- 7月24日 37～39・41号住居等調査終了  
野口氏居宅跡調査開始  
国交省打合せ会議
- 7月25日 13号住居土壌資料水洗選別
- 7月27日 45号住居を確認
- 8月1日 46号住居を確認
- 8月9日 1号礎石建物調査終了
- 8月16-17日 13号住居土壌資料水洗選別
- 8月20日 45号住居等調査終了
- 8月22日 47号住居を確認
- 8月29日 野口氏居宅跡1・2号井戸確認
- 8月31日 野口氏居宅跡南石垣、3号井戸確認
- 9月3日 長野県町黒岩教育長他、野口氏居宅跡調査視察
- 9月5日 台風9号接近、風水対策
- 9月6日 台風被害により吾妻線、国道406・145号不通
- 9月7日 台風対応のため現場休止  
遺跡には被害なし
- 9月18日 23号住居下に48号住居を確認
- 9月20日 国交省打合せ会議
- 9月21日 47号住居等調査終了
- 10月1日 野口氏居宅跡北石垣調査終了
- 10月10日 23号住居土壌資料水洗選別終了
- 10月11日 野口氏居宅跡西小屋調査終了
- 11月2日 23号住居等調査終了

11月14日 50号住居を確認

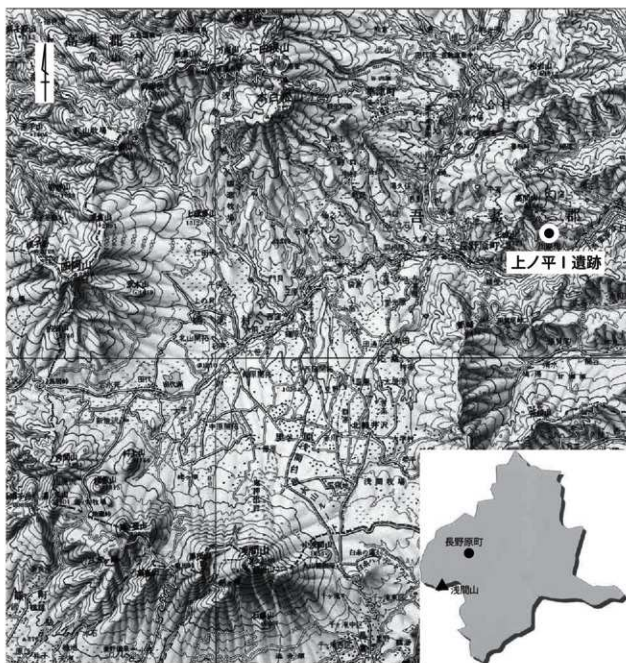
11月21日 50号住居等調査終了  
遺構調査終了

## 第4節 地理的・歴史的環境

上ノ平1遺跡は群馬県の北西部、吾妻川上流域右岸の吾妻郡長野原町大字川原畑字上ノ平にある。南西23kmに浅間山、南東18kmに榛名山、北西18kmには草津白根山がある。高間山(標高1314.7m)の南東麓にあたり、東を松葉沢、西を境沢に挟まれている。吾妻川上流域右岸最上位段丘上に立地する。段丘面は吾妻川に向かって、南東方向に傾斜している。調査区の最高位は標高607m、最低位は575mである。

川原畑は旧国道145号線沿いにある地区である。現在はダム建設工事によって廃道となったが、かつての吾妻川沿いの主要道路は、明治期に野口茂四郎氏の尽力によって開かれた新道であり、野口新道と呼ばれた。現在の国道145号線ハッパバイパスにある「茂四郎トンネル」は野口氏の功績を記念するものである。野口新道の前身は、上州と信州の往還路であった信州街道支道、いわゆる真田道にある。戦国時代の末、真田氏が本拠である信州上田城から、東吾妻町の岩櫃城を中継地として沼田城を結ぶために拓いたとされる道である。中之条からは沼田に向かうルートと、白井を経て渋川、前橋に至るルートに分かれる。西進して長野原町大津を起点とすると、南下すれば信濃追分を経て小諸に至り、北上すれば古来名湯として聞こえた草津に至るが、さらに進んで白砂川、中津川に沿って山道をたどると、秋山郷から越後妻有に達する。幹線ではないものの、上信越を結ぶ交通がこの地を経由しているのである。

微地形を見ると、当遺跡は上位の尾根からの崩落土によって形成された扇状地状地形の端部に位置しており、比較的急な傾斜地にあたる。このため、表土の流動性は高く、調査区内においても北西部の山寄りには厚く、南東部の川寄りには薄く、上位からの崩落土が堆積する。堆積土中には上位の地山から供給された礫、ロームやテフラが混入する。遺構はこうした崩落土中であって、地山と埋没土の区分が非常に難しい。発掘調査を行う上では厄介な土壌である。また、時々旧地表は傾斜に従って崩落し、遺構はこれに従って崩壊していくが、時とし



第1図 上ノ平I遺跡位置図(国土地理院1/200,000地形図「長野」平成18年11月1日発行を使用)

て上位からの崩落土が旧地表面を覆い、焼土遺構としたような、微弱な人工の痕跡を保護していることもある。一方、この地域を特徴づける浅間山起源の火山堆積物、特に天明三年噴火の降下火山灰や泥流堆積物はこの遺跡では顕著な存在ではない。

周辺の遺跡および本遺跡にかかわる歴史的環境の詳細については、前報告および既刊のハッ場ダム関連遺跡各調査報告に詳しい。旧石器時代遺跡は未確認であるが、縄文時代の遺跡は濃密な分布を示し、草創期から晩期に至る各時期の遺跡が比較的多く認められている。縄文時

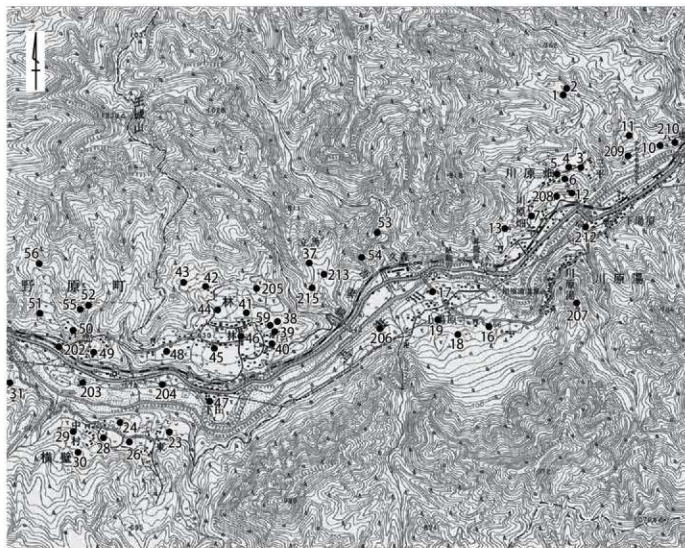
代草創期、早期の遺跡は吾妻川左岸で認められている。石畑岩陰、榎木II遺跡では表裏縄文など草創期の土器片が出土しており、特に石畑岩陰は大規模な岩陰遺跡として、今後の本調査の成果が期待される。早期では榎木II遺跡、立馬II遺跡などで燃糸文、押型文、多縄文系土器がみられる。前期では立馬I・II遺跡、三平I遺跡、林中原I・II遺跡などで前半期の遺構、遺物がみられるが、後半期の調査例は林中原I遺跡で竪穴建物が、三平I・II遺跡や川原湯勝沼遺跡などで土坑が見つまっているものの、前期に比して少なくなる。しかし、中期には集落

が広く認められるようになる。本遺跡でも中期中葉を中心とする集落遺跡が調査されているが、ここは竪穴建物の数も少なく、継続時間も断続的、限定的な小規模集落の遺跡である。一方、吾妻川を挟んで対峙するように立地する長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡は、ともに多数の竪穴建物や列石などで構成される大集落である。また、林中原II遺跡も中期後半から後期にかけての大集落であり、石川原遺跡でも相当規模の集落が存在するものと予想されている。ところが、後期後半以後になると遺跡数は激減する。横壁中村遺跡では集落が継続するものの、他では晩期に至るまで、遺構・遺物ともに少数例にとどまる。

弥生時代の遺跡も引き続き乏しく、遺構としては川原湯勝沼遺跡、尾坂遺跡の再葬墓、立馬I遺跡の合わせ口裏棺墓、向原遺跡の土坑など、弥生時代前期から中期前葉の墓がみられるのみである。横壁中村遺跡、長野原一

本松遺跡では弥生土器の出土がみられ、本遺跡でも219号土坑、58号ピット及び遺構外出土土器に弥生時代前期と思われる破片が含まれるものの、周辺地域も含めて、生活の場は見つかっていない。弥生時代中期後半から古墳時代、奈良時代も遺跡は希薄で、古墳は認められず、上原I遺跡で古墳時代前期のS字状口縁台付甕を伴う竪穴建物、上原IV遺跡、下原遺跡、林宮原遺跡で後期の竪穴建物が僅かに見つかっている程度である。

集落が再びそれぞれとして認められるようになるのは、平安時代になってからのことである。本遺跡はじめ、三平I・II遺跡、二社平遺跡、川原湯勝沼遺跡、横壁勝沼遺跡、横壁中村遺跡、西久保I遺跡、山根III遺跡等々があり、榎木II遺跡では38棟の竪穴建物を調査している。本遺跡でも26棟の竪穴建物を調査したが、時間的にはどの遺跡においても9世紀後半から10世紀を中心としており、吾妻川左岸の南東向きの傾斜地に、湧水をよりどころに營



第2図 上ノ平I遺跡周辺遺跡図及び地形図(国土地理院2万5千分の1地形図「長野原」使用)

表1 上ノ平ノ遺跡周辺遺跡一覧

町道跡番号	大字	遺跡名	時代	報告書等
1	川原畑	温井I遺跡	縄文・平安	
2	川原畑	温井II遺跡	縄文	
3	川原畑	三平I遺跡	縄文・弥生・平安	群理文303集2003/401集2007/長野原町教委「町内遺跡Ⅱ」2010
4	川原畑	三平II遺跡	縄文・平安	群理文401集2007
5	川原畑	上ノ平I遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世・現代	群理文440集2008/本書
6	川原畑	上ノ平II遺跡	縄文・平安	
7	川原畑	西宮遺跡	縄文・近世	
10	川原畑	石畑II岩跡	不明	
11	川原畑	二社平岩跡	不明	群理文303集2003
12	川原畑	三ツ堂岩跡	不明	
13	川原畑	西宮岩跡	不明	
16	川原畑	川原畑中原I遺跡	縄文	
17	川原畑	石川原遺跡	縄文・平安・近世	
18	川原畑	川原畑中原II遺跡	平安	
19	川原畑	川原畑中原III遺跡	縄文・平安	
23	横壁	横壁勝沼遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	群理文303集2003
24	横壁	横壁中村遺跡	縄文・弥生・平安・中世	群理文319集2003/355集2005/368集2006/381集2006/406集2007/436集2008/439集2008/488集2010/492集2010/526集2012/559集2013/587集2014 長野原町「長野原町誌」1976
26	横壁	山根I遺跡	縄文・平安	
28	横壁	山根II遺跡	平安・近世	
29	横壁	山根III遺跡	縄文・弥生・平安・近世	群理文303集2003/429集2008
30	横壁	山根IV遺跡	縄文・平安	
31	横壁	西久保I遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	群理文303集2003
37	林	立馬I遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	群理文388集2006
38	林	東原I遺跡	縄文・平安・中世・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅴ」2006/「同Ⅵ」2007/群理文502集2010
39	林	東原II遺跡	縄文・平安・中世・近世	群理文502集2010
40	林	東原III遺跡	縄文・平安・中世・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅳ」2004/「同Ⅴ」2007/群理文502集2010
41	林	東原IV遺跡	縄文・弥生・古墳・平安・中世・近世	群理文303集2003/長野原町教委「町内遺跡Ⅴ」2007/「同Ⅵ」2013 長野原町教委「町内遺跡Ⅴ」2007/「同Ⅵ」2013/群理文429集2008
42	林	上原I遺跡	縄文	長野原町教委「町内遺跡Ⅴ」2007/「同Ⅵ」2013/群理文429集2008
43	林	上原II遺跡	縄文	長野原町教委「町内遺跡Ⅴ」2007/「同Ⅵ」2013 長野原町教委「町内遺跡Ⅴ」2003/「同Ⅵ」2007/「同Ⅶ」2010/「同Ⅷ」2013/群理文429集2008/549集2012
44	林	上原IV遺跡	縄文・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅴ」2003/「同Ⅵ」2004/「同Ⅶ」2005/「同Ⅷ」2006/「同Ⅷ」2009/「同Ⅷ」2011/群理文502集2010 群理文586集2014
45	林	林中原I遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅴ」2004/「同Ⅵ」2005/「同Ⅶ」2006/「同Ⅶ」2007/「同Ⅶ」2009/「同Ⅷ」2011/群理文502集2010 群理文586集2014
46	林	林中原II遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅴ」2004/「同Ⅵ」2005/「同Ⅶ」2006/「同Ⅶ」2007/「同Ⅶ」2009/「同Ⅷ」2011/群理文502集2010 群理文586集2014
47	林	下田遺跡	平安・近世	群理文303集2003
48	林	林宮原遺跡	縄文・古墳・平安	長野原町教委「町内遺跡Ⅴ」2003/「同Ⅵ」2004/「同Ⅶ」2005/「同Ⅶ」2007/「同Ⅶ」2009/「同Ⅷ」2010/「林宮原遺跡Ⅱ」2004/「同Ⅶ」2011/群理文604集2016
49	林	中樺I遺跡	縄文・平安	長野原町教委「町内遺跡Ⅴ」2007/「町内遺跡Ⅴ」2013
50	林	榎木I遺跡	縄文・平安	群理文549集2012
51	林	榎木II遺跡	縄文・平安・中世・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅰ」2002/群理文432集2008/458集2009
52	林	二反沢遺跡	縄文・古墳・中世・近世	群理文379集2006
53	林	久森沢I岩跡	不明	
54	林	久森沢II岩跡	不明	
55	林	滝沢原岩跡	不明	
56	林	鈴ヶ沢岩跡	縄文	
59	林	林の御塚	近世	吾妻教育會事務所「吾妻郡誌」1906/群理文303集2003
202	林	榎木III遺跡	縄文・弥生・平安・中世	群理文303集2003
203	林	中樺II遺跡	縄文・弥生・近世	群理文319集2003/群理文349集2004
204	林	下原遺跡	縄文・弥生・古墳・中世・近世	群理文319集2003/群理文389集2007
205	林	花畑遺跡	縄文・平安	群理文303集2003
206	川原畑	川原畑勝沼遺跡	縄文・平安・近世	群理文303集2003/356集2005/462集2009/466集2009
207	川原畑	金花山岩跡	中世	
208	川原畑	東宮遺跡	縄文・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅰ」2002/群理文303集2003/514集2011/536集2012
209	川原畑	二社平遺跡	縄文・平安・近世	群理文303集2003
210	川原畑	石畑遺跡	縄文・弥生・近世	群理文303集2003
212	川原畑	西ノ上遺跡	近世	群理文349集2004
213	林	立馬II遺跡	縄文・弥生・平安・近世	群理文375集2006
215	林	立馬III遺跡	縄文・弥生・平安	群理文457集2009

まれるのが一般的傾向のようである。本遺跡では鉄滓が出土しているが、上原3遺跡や三平1遺跡では鍛冶遺構も見つかっており、集落内に鍛冶工房があったことがわかる。また、陥し穴の多くもこの時期に比定されていて、集落と一体となって機能していたものと考えられる。また、中央小学校敷地内からは良い造りの瓦塔が出土しており、集落内寺院の存在も示唆される。

中世に至ると、近隣には長野原城、柳沢城、林城などの山城がいくつもあり、加沢記に記された吾妻郡の地衆の活躍などを見るにつけても、躍動的な地域の姿が浮かんでくるのだが、中世遺跡の調査例は乏しい。林中原1遺跡で内耳鍋がかけられた炉を伴う竪穴状遺構があり、尾坂遺跡や横壁中村遺跡、林城の足元にあたる下田遺跡などで建物跡が見つかっている。当遺跡では青磁片や渡来銭が出土しているが、遺構には伴わない。

江戸時代では、天明三年浅間山噴火災害に関連する遺跡が県内共通の発掘調査対象となっている。浅間山麓から吾妻川、利根川沿いにかけて広く、岩屑雪崩や降灰、泥流等による被災遺跡が存在する。ハッ場ダム建設関連地域では特に泥流に埋まった広大な麻畑が吾妻川兩岸の各遺跡で見つかっており、さらに東宮遺跡、西宮遺跡、町遺跡では屋敷跡が、石川原遺跡では寺院跡や墓が見つかった。特に東宮遺跡、町遺跡では地下水に保護された有機質遺物が豊富に残されていて、天明泥流による災害の詳細が明らかになるとともに、文献資料のみではどういふかがい知ることのできない、近世庶民生活の実相を読み取ることができる。

以上を通覧するとまず、旧石器時代遺跡の発見は今後に待つことになろうが、縄文時代、平安時代の遺跡があり、弥生時代の特に中期後半以後から奈良時代にかけての遺跡を欠くことが特徴として挙げられる。これは、水田耕地の乏しい地域に共通する遺跡分布の在り方である。また、弥生時代集落が見つからないにもかかわらず、前・中期から墓が営まれていること、縄文土器、弥生時代前・中期の土器にみられるように中部高地から日本海側、あるいは東北部との交流があることなどもこの地域の特徴として、その背景を探らなければならない。そして、弥生時代以後のこの地において、水田に代わる生産基盤は何であったのか、どのようにこうした地域が形成されていったかを解き明かすことが、この地域を調査

する上での重要な課題である。こうしたことが、中世以後の、また、天明泥流下の諸遺跡が示す、近世吾妻の地域形成においても、その背景となっているはずである。キーポイントは、豊富な山野の恵みであろう。また、草津へ、そして信濃あるいは越後へと続く交通路に依るといふ地理的条件も、大きくかかわっているはずである。

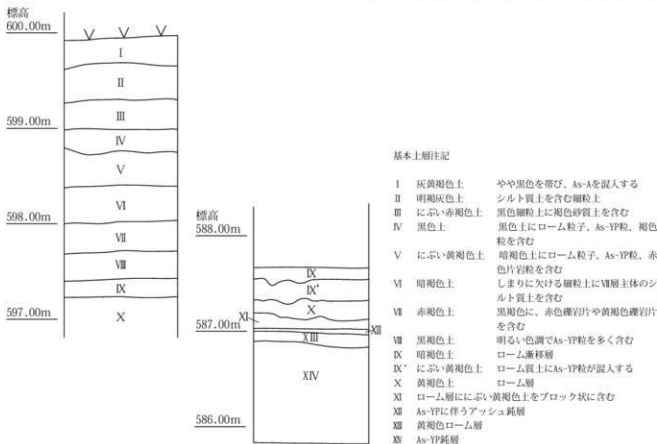
こうした交通路に沿うとはいえ、近代にいたるまで、この地域はやはり山間の不便地であった。特に吾妻渓谷は吾妻郡の中心地や上野国の中心地と西吾妻地域の間に立ちふさがる非常な難所であった。明治期にこの難所を抜ける道を拓くことに、私財をも投入して力を尽くしたのが長野原町長、また県会議員を務めた野口茂四郎氏であった。当遺跡地内には野口氏の居宅跡がある。長野原町の歴史上重要な人物の居宅であるところから、長野原町教育委員会及び群馬県教育委員会により群馬県埋蔵文化財発掘調査取扱い基準 4-(1)-1)-③-Iに基づいて地域にとって特に重要な埋蔵文化財とされたため、特に発掘調査を行っている。

## 第2章 調査された遺構と遺物

## 第1節 基本土層

上ノ平1遺跡は吾妻川左岸の最上位段丘上に立地する。発掘調査で確認された最下層の土壌はAs-YP（浅間-草津黄色軽石）の降下堆積層(XI層)、黄褐色ローム(XII層)、As-K（浅間-草津火山灰）の降下堆積層(XIII層)である。この上位の土壌には、ロームブロックやAs-YPの粒子を含む土壌が堆積し、上部の傾斜地から供給された崩落土が段丘面を覆っていることがわかる。これら崩落土は傾斜上位に当たる北西側で厚く、南東側では薄くなるが、調査区内に介在する谷地や沢などの地形変化により、厚薄は均一ではない。標準的な堆積状況を下図に示す。おおよその時代的な目安は、以下のとおりである。

- I層 現表土、耕作土。層厚10-20cm。As-Aを含む。現代から近世にかけての堆積土。
- II層 層厚10-20cm。中世から浅間山天明噴火までの堆積土。
- III層 中世に発生したと思われる斜面崩落による堆積土。



第3図 基本土層

IV層 最大層厚40cm程度。平安時代から中世にかけての堆積土。

V層 古代前半期に発生したと思われる斜面崩落による堆積土。

VI層 縄文時代の堆積土。

VII層 縄文時代に発生したと思われる斜面崩落による堆積土。

VIII層 縄文時代の堆積土。

## 第2節 上ノ平1遺跡の概要

上ノ平1遺跡では、平成19年度調査までに竪穴建物50棟（縄文時代24棟、平安時代26棟）、土坑254基（縄文時代32基、平安時代184基、中世以後38基）、ピット29基（縄文時代7基、中世以後22基）、平安時代焼土遺構17か所、現代住居跡1か所（石垣、井戸、池）、現代礎石建物1か所などを調査した。

以下、平成18年度調査分を中心とした前報告を要約する。

縄文時代では10棟の竪穴建物の記載を行った。後期称名寺式期の柄鏡形敷石住居跡1棟（28号住居）を除くと、



勝坂3式、加曾利E1式、焼町式、三原田式など、中期中葉の土器を伴う竪穴建物である。31号住居からは勝坂3式、焼町式、三原田式などの土器や打製石斧、石鎌など、特に多くの遺物が出土した。この時期の遺構は、吾妻川左岸地域では例が少ない。報告中で麻生敏隆は縄文時代の石器を検討し、石鎌の未製品や剥片が出土するところから、集落内の日常的行為として石鎌の生産やメンテナンスがなされていたことを想定したほか、黒曜石が多く持ち込まれていると同時に、地域的な特色である珪質変成岩の使用事例が多いことを指摘した。

平安時代では、竪穴建物15棟、土坑184基などを報告した。竪穴建物は9世紀後半から10世紀前半のもので、陥し穴を中心とする土坑もこれとほぼ同時期と考えられる。13号住居は、本報告で記載する23号住居と同じく多量の炭化材を伴う焼失建物で、比較的多くの土器を出土した。周辺では榎木Ⅱ遺跡や向原遺跡で9世紀第2・四半期の竪穴建物があるが、上ノ平1遺跡ではやや遅れて第3・四半期以後に集落が形成され、9世紀第4・四半期から10世紀第1・四半期に盛期を迎え、10世紀後半まで継続する。榎木Ⅱ遺跡とともに、まとまった数の竪穴建物を持つ集落遺跡である。

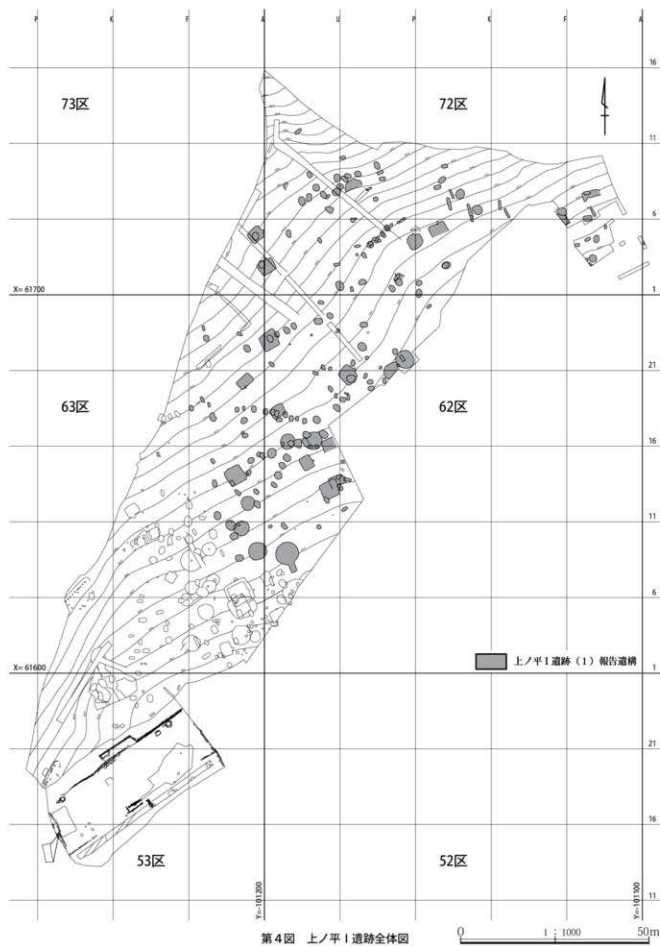
報告中では神谷佳明が灰軸陶器を通じた集落の分析を行っている。上ノ平1遺跡では、9世紀代にはほとんど見られない灰軸陶器が、10世紀の竪穴からは比較的多く出土するが、榎木Ⅱ遺跡より後出し、かつ坑以外の器種がみられないなど、榎木Ⅱ遺跡との質的な差が示唆される。また、灰軸保有量の差から、竪穴間の格差も想定されている。高島英之は出土墨書土器7点の検討を行い、「×」「凡」「得」「東」「小」などの墨書があること、3点認められた「凡」が吉祥句であったであろうことなどを指摘している。

中世以降の遺構としては、中世墓1基と、両墓制の一次墓地とみられる近世の墓坑を調査し、植崎修一郎が出土人骨についての詳細な記載を行った。

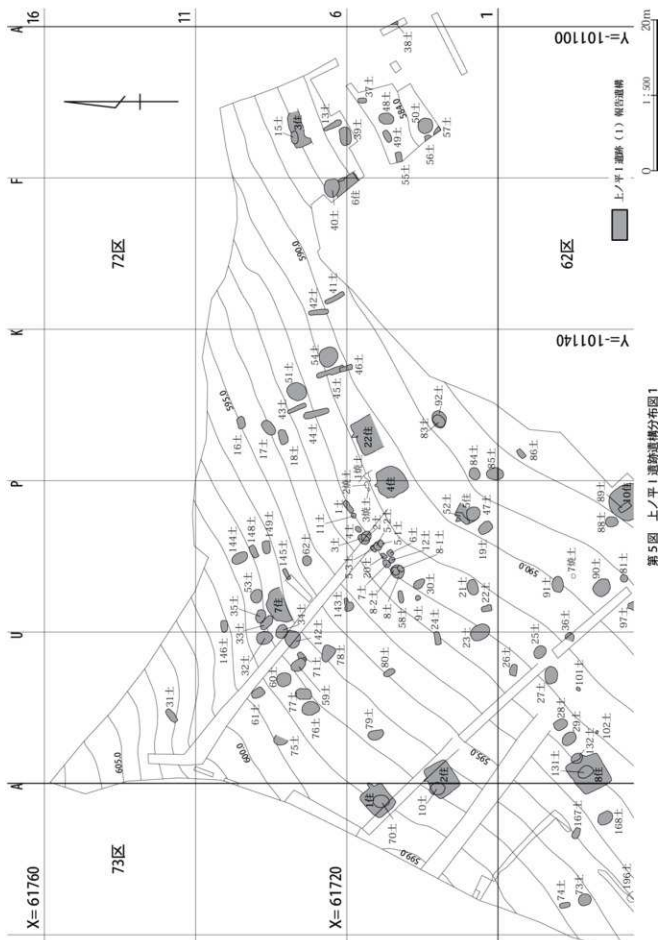
なお前報告刊行後、洞口ほかが事業団研究紀要32号において、平安時代の13号・32号住居採取土壌の水洗選別により抽出した炭化種実の同定、分析及び土器使用痕の検討を行っている。

本書では平成19年度発掘調査分を中心に、竪穴建物25棟(縄文時代13棟、平安時代12棟)、土坑85基(縄文時代

20基、平安時代50基、中世以後15基)、ピット29基(縄文時代7基、中世以後22基)、平安時代焼土遺構17か所、現代居宅跡1か所(石垣、井戸、池)、現代礎石建物1か所および遺構に属さないものを含む出土遺物について記載を行う。

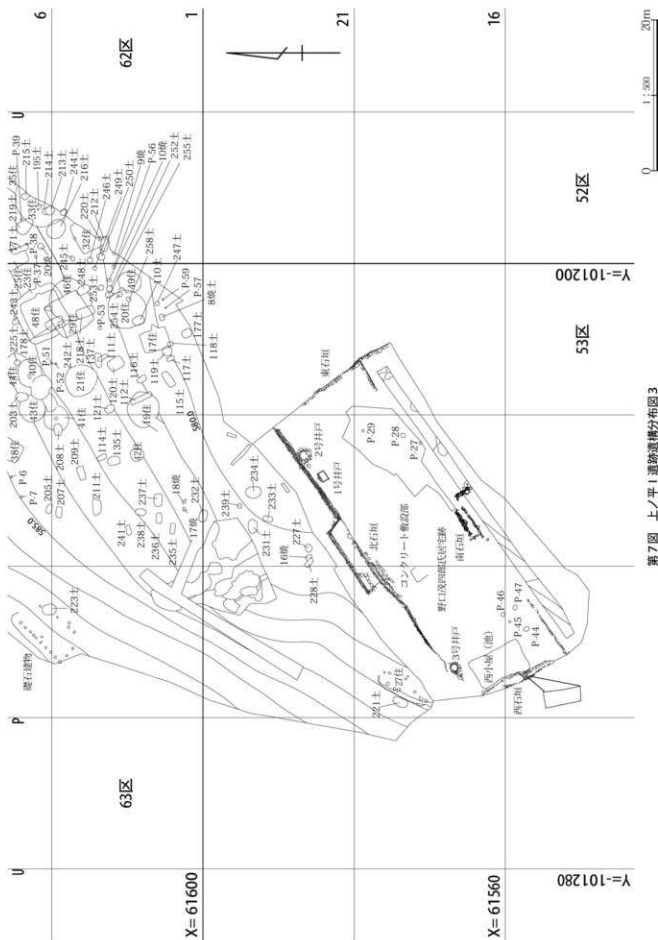


第4図 上ノ平1遺跡全体図

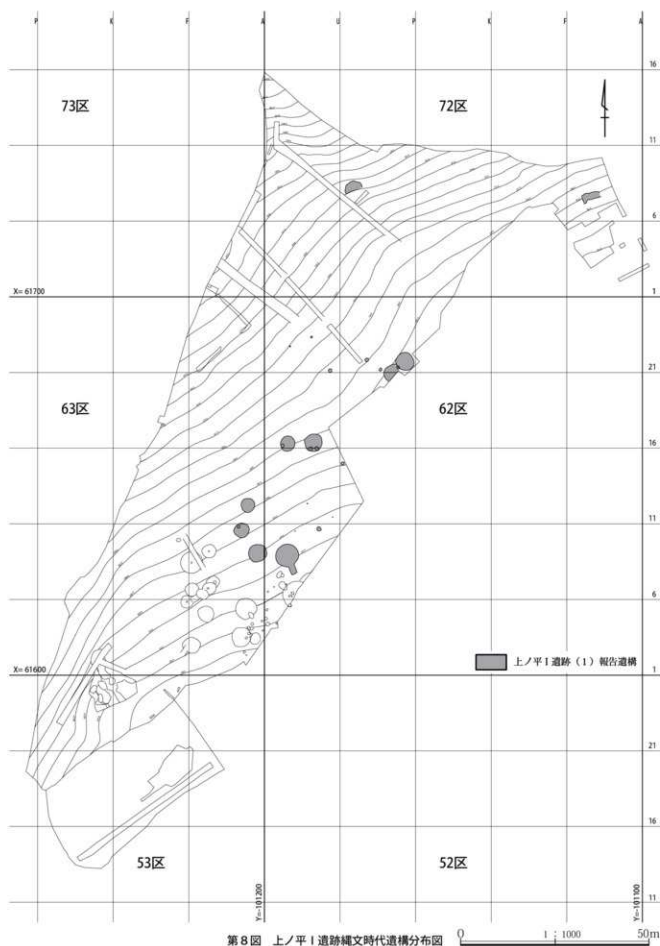


第5図 上ノ平I遺跡遺構分布図1

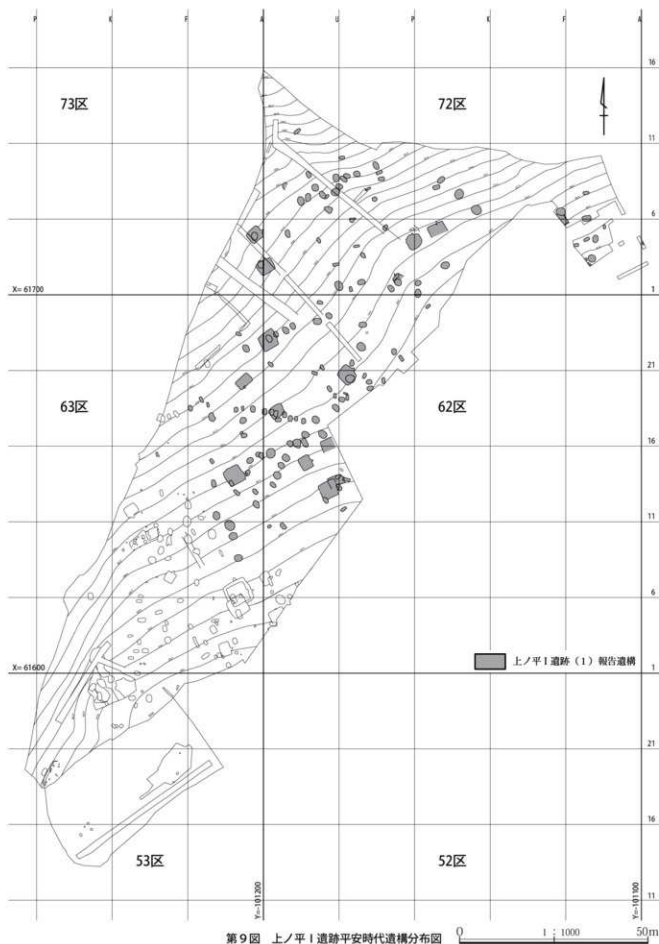




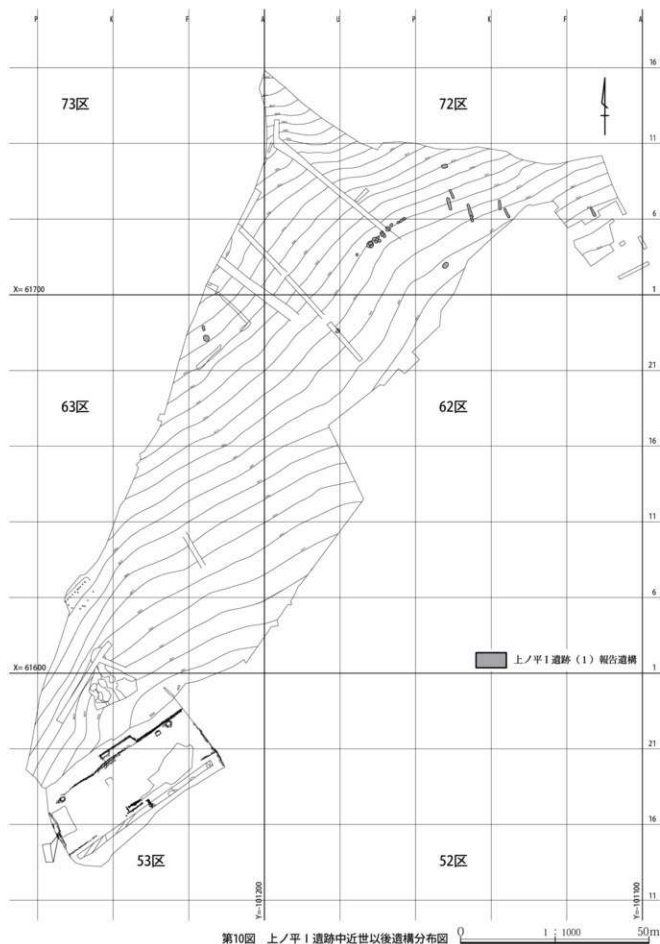
第7図 上ノ平1遺跡遺構分布図3



第8図 上ノ平1遺跡縄文時代遺構分布図



第9図 上ノ平1遺跡平安時代遺構分布図



第10図 上ノ平1遺跡中近世以後遺構分布図



## 第3節 縄文・弥生時代の遺構と遺物

中期中葉及び後期初期から前葉の集落である。本書では竪穴建物13棟、土坑19基、ピット7基を報告する。前報告と併せ、中期は本地域の特徴的な様相を示す土器群を伴う竪穴が緩傾斜部に広がり、後期には敷石住居を中心とする竪穴が南部に集中する。また、出土土器中には弥生時代前期に属すると思われるものが含まれている。

## 第1項 竪穴建物

## 19号住居

位置 63XE・F-2・3グリッドに位置する。

形状 円形を基本とするが、やや潰れた形状を呈す。

規模 4.80×4.30mで、壁の高さは最大50cm程である。

壁 北壁はロームを10～15cmほど掘り込む。南壁は浅く、ローム面までは達していない。

主軸方位 N-17°-W

炉 ほぼ中央に作られる。前報告掲載の10号住居や次の21号住居と同様に、小振りの石で囲った比較的小規模のものである。東西75cm、南北65cmの偏円形を呈する。炉内の焼け方は弱く焼土は不明瞭であり、掘り込みも浅い。東50cmほどの位置にある焼土は古い炉の痕跡かと思われ

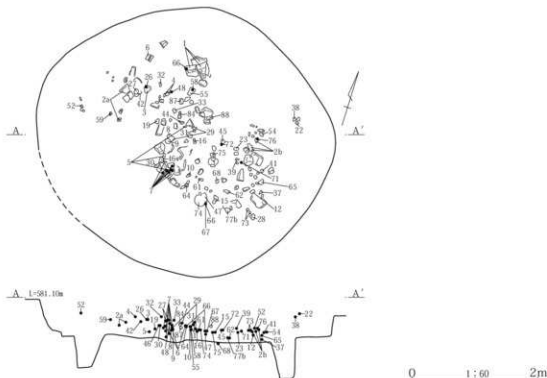
る。厚さ4～5cmにわたって明瞭に赤化している。

柱穴 4基を確認した。P1～3はプランが明瞭である。埋没土の黒色土が柱痕に、黄褐土が埋め土となろう。P4は、床面では不明瞭であったが、掘り込みはしっかりとしていた。やはり、黒色土が柱痕、黄色土が埋土に相当するであろう。ピット調査の際、P4が南西壁にかかっていたため、それに伴って南壁・南東壁も20～30cm広がることを確認した。P5は、柱痕跡は確認できない。黒色土単層である。他のピットより小さく浅いが、掘り込みはしっかりとしている。P4とP5の間隔がやや狭く、出入口施設の可能性がある。

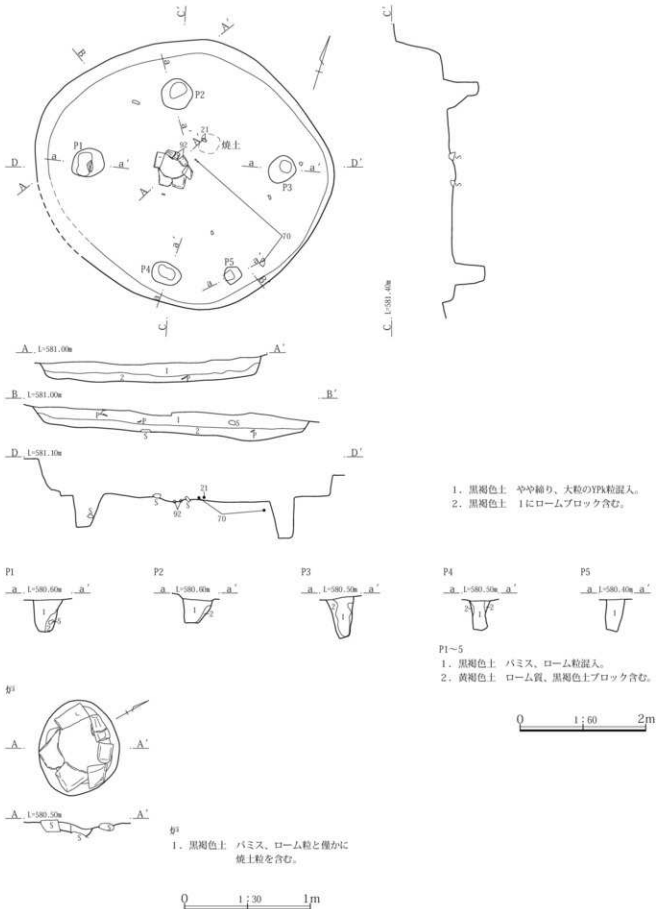
床 掘り込んだローム面を踏み固め床としている。

出土遺物 比較的多くの遺物が出土し、中央部分を中心に、中層から、ある一定の層位中に広がる。僅かではあるが、完形に近い個体もある。石器類も打製石斧や磨石など、10数点出土している。

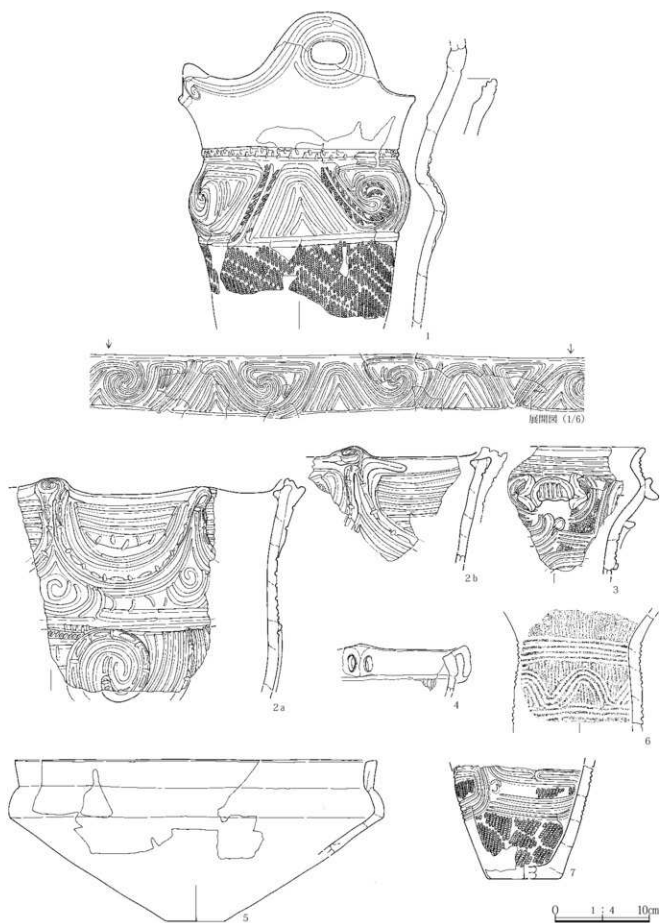
所見 黒色土が厚く、遺構の確認が難しかったため、トレンチを東西方向に一本入れたところ、住居の床が検出されたことから検出に至った。遺物の多くは、床面よりやや浮いて出土したものが多。床面中央部(炉周辺)に深鉢片、浅鉢片が多く出土した。時期は、中期中葉末に相当しよう。



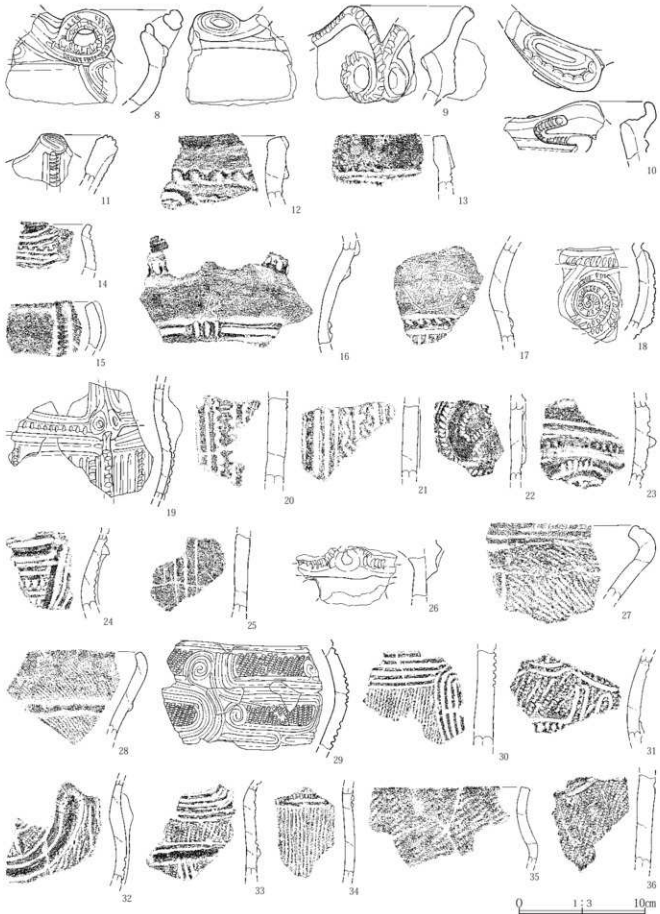
第11図 19号住居(1) 遺物出土状況



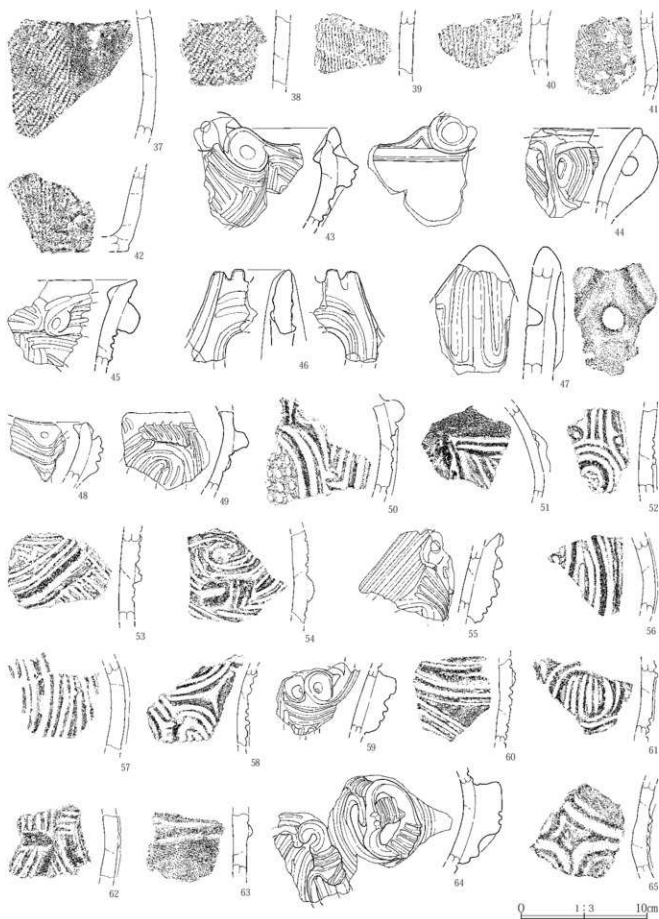
第12図 19号住居(2)



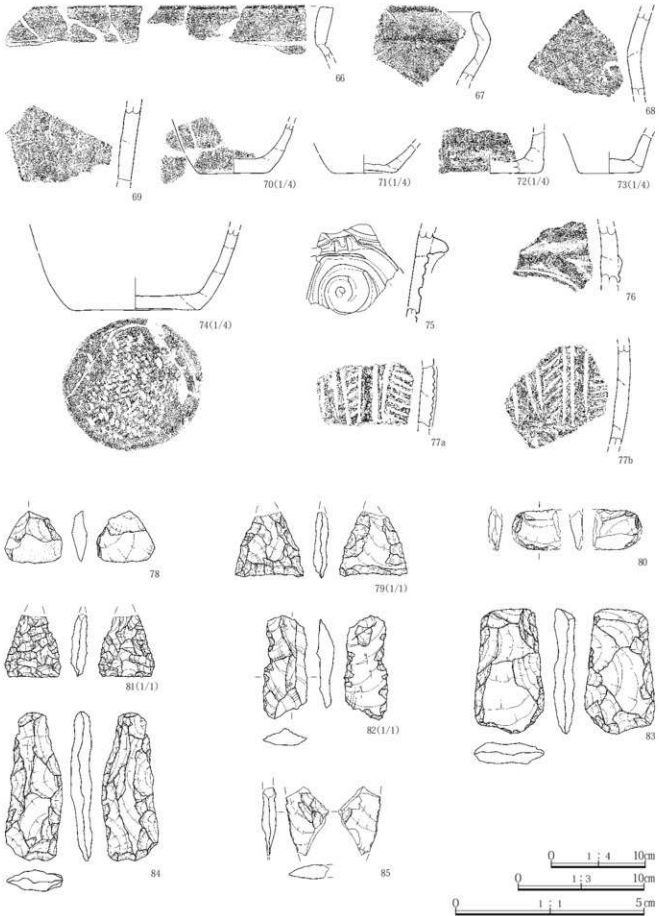
第13図 19号住居出土遺物(1)



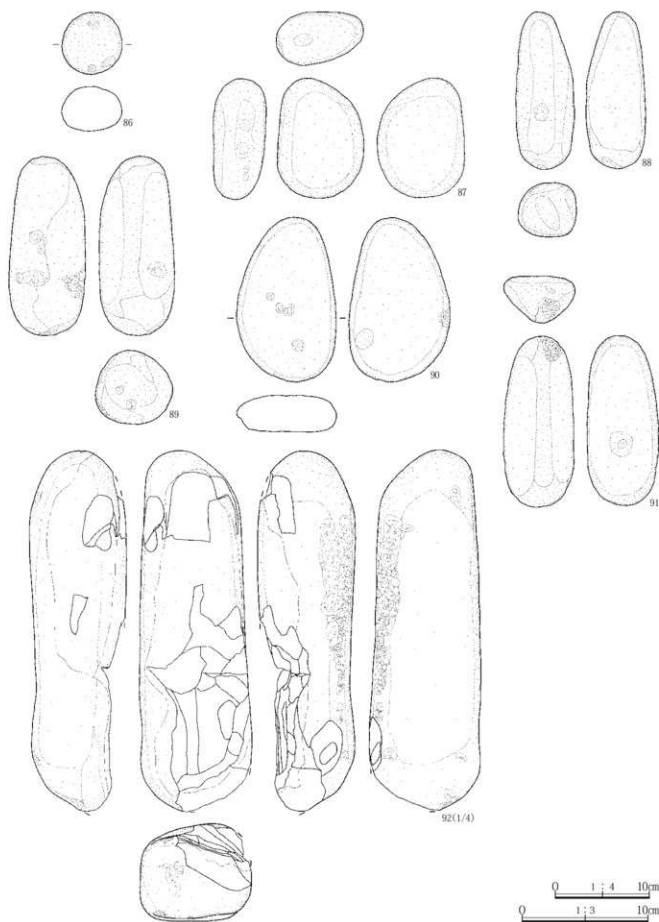
第14図 19号住居出土遺物(2)



第15回 19号住居出土遺物(3)



第16図 19号住居出土遺物(4)



第17図 19号住居出土遺物(5)

## 20号住居

位置 63区の調査区東壁寄り、A～C-2～4グリッドに位置する。

形状 円形を呈すと思われるが、判然としない部分もある。南東部に張り出し部を有する敷石住居の可能性もある。

規模 径5.2m程と想定される。壁高は北側で約0.6mである。

主軸方位 不明。

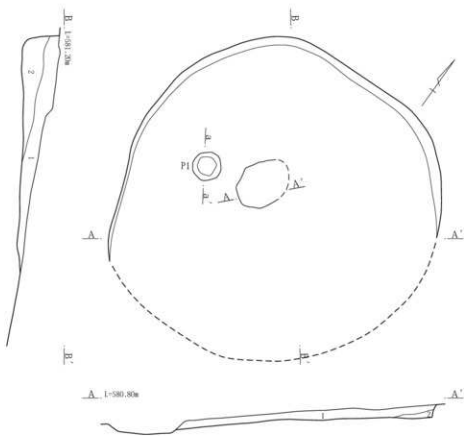
炉 ほぼ中央にある程度浅い面で焼土が2か所出土しており、それが<sup>PI</sup>の火床部と判断した。地床<sup>PI</sup>の可能性が高い。

柱穴 明確なもの確認できなかった。

床 床面は硬化面を確認できず、焼土(<sup>PI</sup>)の面を床面に想定する。

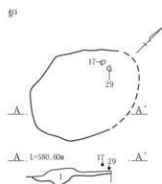
出土遺物 掘り下げを行う中で、比較的上面で、後期初頭の土器が、ややまとまって出土した。

所見 遺物の集中が見られたことから、ベルト設定後、掘り下げを行ったが、床面らしき硬化面は検出できず、確認の拡張トレンチ等で床も明瞭な結果は出なかったが、中央部に<sup>PI</sup>の火床面と思われる焼土を確認したことから、住居とした。平石の点には見られるものの、明瞭な立ち上がりは結局確認できず、住居認定は不確定な部分も残る。時期は後期初頭か。



1. 黒褐色土 ばさついた砂質土、僅かに軽石粒を含む。
2. 黒褐色土 1に似るが、締りあり。

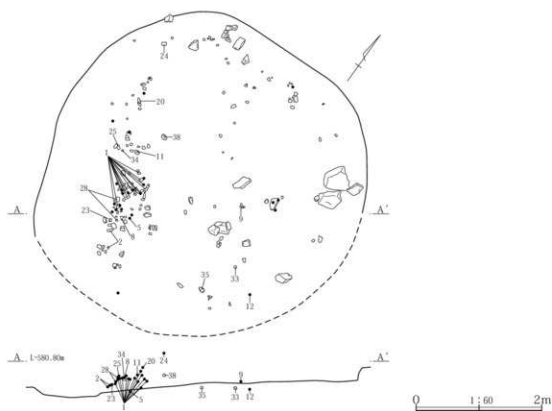
1. 黒色土 バミス・ローム粘土に含む軟質土。



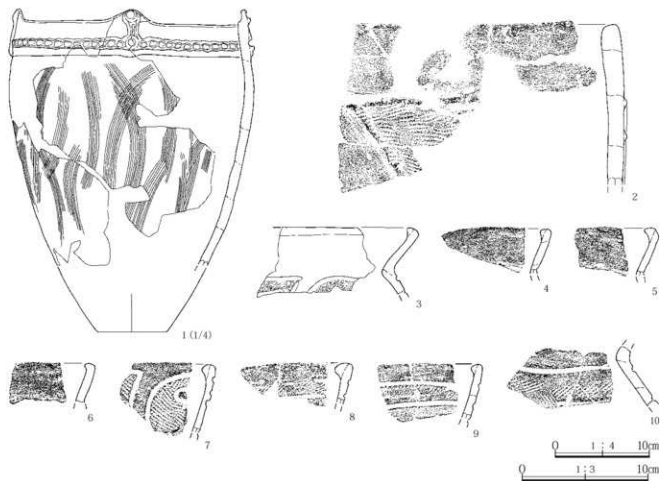
1. 暗褐色土 焼土をブロック状に含み、締りはない。

第18図 20号住居(1)

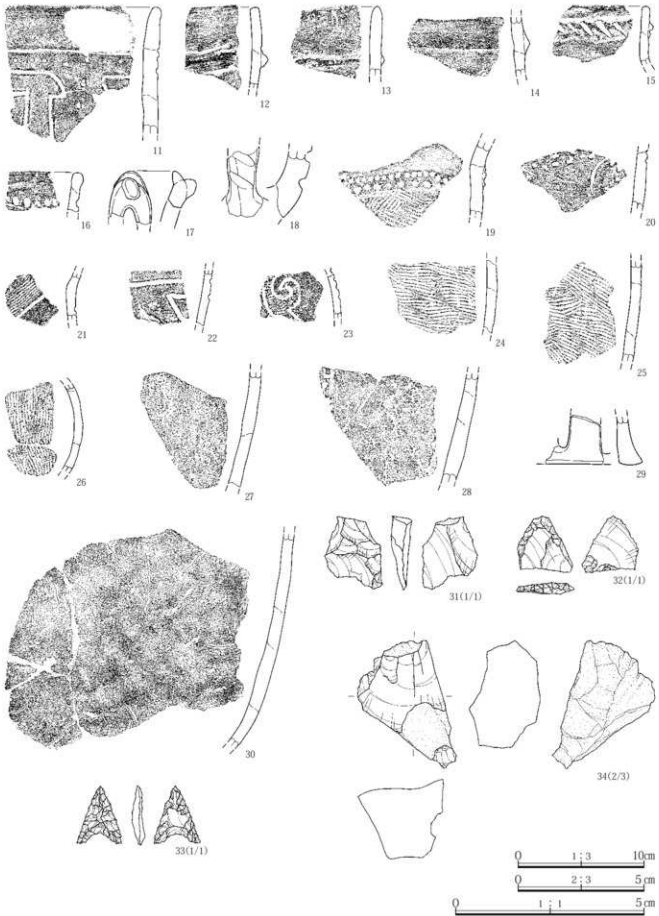




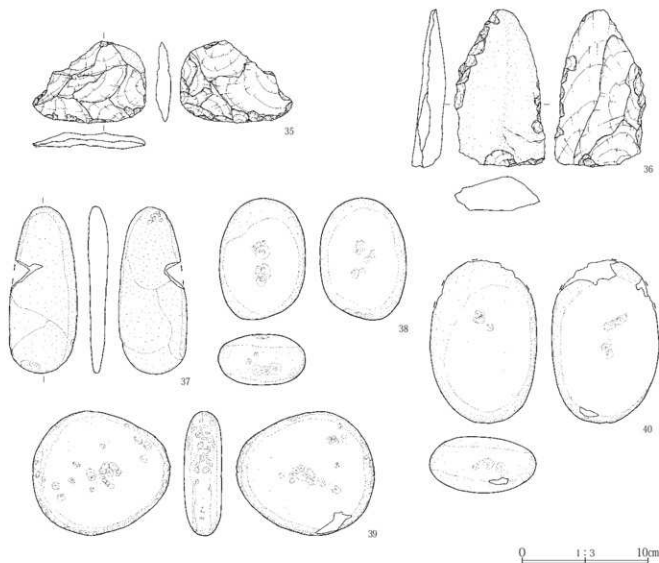
第19図 20号住居(2) 遺物出土状況



第20図 20号住居出土遺物(1)



第21図 20号住居出土遺物(2)



第22図 20号住居出土遺物(3)

21号住居

位置 63区D・E-4・5グリッドに位置する。

形状 円形を基本とするが、南部がやや突出する倒卵形に近い平面形である。

規模 南北4.5m、東西4.2m

壁 北側部分では最大壁厚約40cmを測るものの、南側は削平が著しく、掘り込みは確認できなかった。

軸方位 N-18°-W

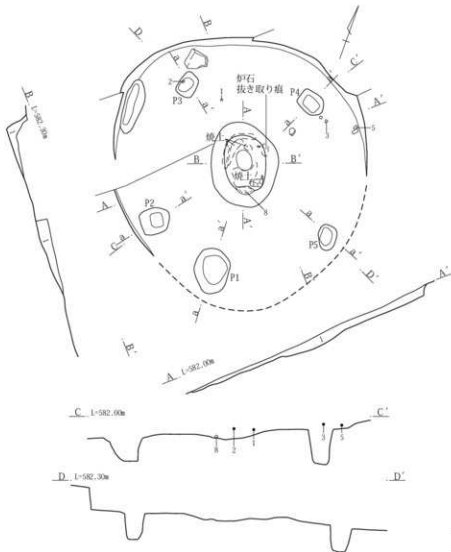
炉 はほぼ中央に作られている。長円形の落ち込みが検出されたが北部にはくぼみが廻り、炉石の抜けた痕跡が見られる。また、南側には炉石として転用された石皿片が据えられていた。10・19号住居と同時期の住居であり、やや小ぶりの石で炉を囲っていたものと想定される。

柱穴 P 1は長楕円形状の柱穴で、1基だけ飛び抜けて大きい。建て替えの可能性もあると思われる。P 2の

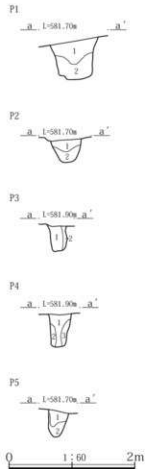
柱穴下場は方形である。P 4は明確な柱痕が残る。P 3の2層も柱痕に相当するかもしれない。

床 床面は全面ローム層で、粘床は見られなかった。多少の凹凸が見られ、硬化している。北西の壁下に部分的に周溝状の掘り込みがあるが、非常に深いことから、壁周溝として断定するには疑問も残る。

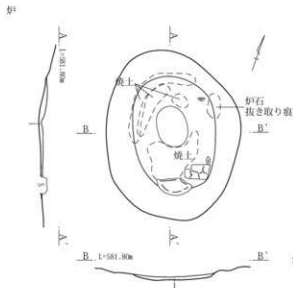
出土遺物 住居北壁寄りで少量の土器片が出土した。床直上からの出土遺物はNo 1・2の土器片2点のみである。所見 C区の拡張に伴い、東側と北側に2本のトレンチを打ち、北側のトレンチで検出したものである。覆土がごく不明瞭で、ローム漸移層面まで下げないと遺構が確認できないような状況であった。北壁の遺存状況は比較的良好であったが、南壁は斜面で失われている。時期は中期中葉末であろう。



第23図 21号住居



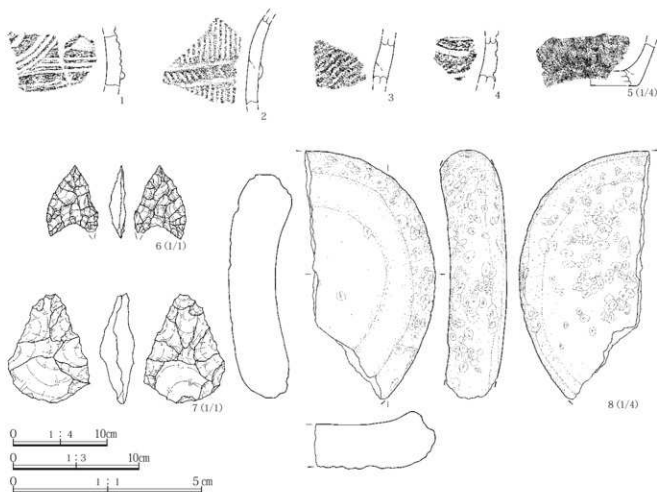
1. 暗褐色土 ローム粒、パミス含む。
- P1  
1. 黒褐色土 大粒のパミス、ローム粒含む。  
2. 黒褐色土 1よりパミス、ローム粒少ない。
- P2  
1. 黒褐色土 大粒のパミス、ローム粒含む。  
2. 褐色土 ロームブロック含む。
- P3  
1. 黒褐色土 大粒のパミスローム粒含む。  
2. 黄褐色土 ロームブロック含む。
- P4  
1. 黒褐色土 大粒のパミス、ローム粒含む。  
2. 黄褐色土 ロームブロック含む。  
3. 褐色土 ロームブロック含む。
- P5  
1. 黒褐色土 大粒のパミス、ローム粒含む。  
2. 褐色土 ロームブロック含む。



第24図 21号住居炉

- 砂  
1. 暗褐色土 焼土ブロック混入。





第25図 21号住居出土遺物

33号住居

位置 62区、調査区東端に掛かっており、北側の約半分ほどの調査となる。また、北側にある35号住居に切られる。

形状 検出部分は円形と思われるが、南側に張り出しが有るものと推定され、敷石住居と考えられる。

規模 主体部の推定径は7.6m程か。

壁 北側部分で25～30cmである。

主軸方位 不明。

炉 検出範囲内では、確認できなかった。

柱穴 検出作業を行ったところ、P1～P6を検出。ほとんど黒色土の地山の中に、暗褐色土のプランで見つかる。P4が1番深く主柱穴と思われる。P1・P2は周礫の切れ間に検出された。P3・P4はP1とP2の間隔の延長で検出された。P5はカクラン土坑の壁にかかって検出された。P6は断面にかかっていて、P5は掘り込みがはっきりしない。それに関連してP7を検出する。

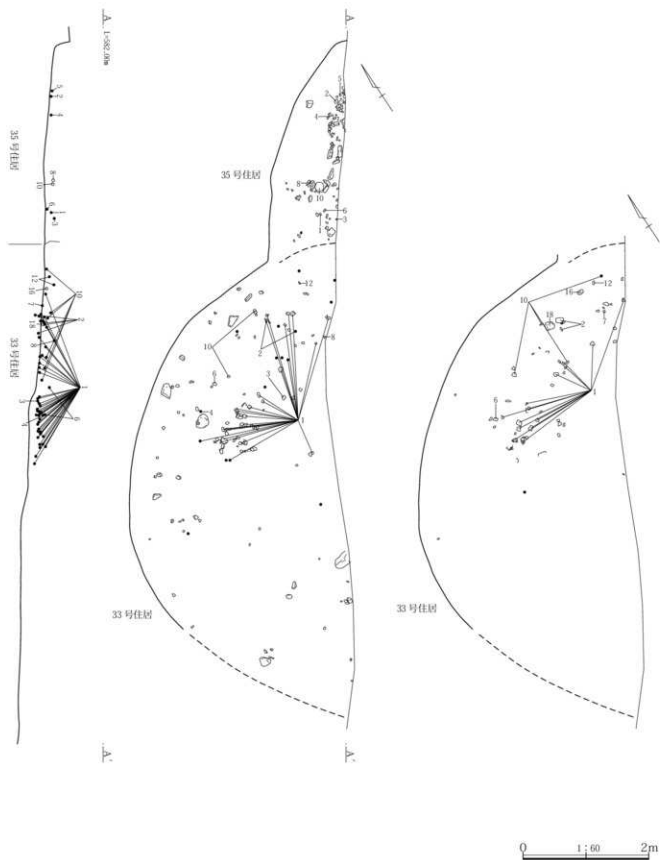
床 小さな礫が壁際を巡り、その内側に敷かれた平石が据えられる。しかし、同じ敷石住居である28号住居(前報告掲載)より残存状態は良くない。かつ、西壁寄り部分は、上面からの攪乱または土坑状のものに切られていると思われ、遺物、礫、平石が全くない。

出土遺物 壁に沿うように小円礫及び扁平石が並ぶ。土器類の出土は少なかった。

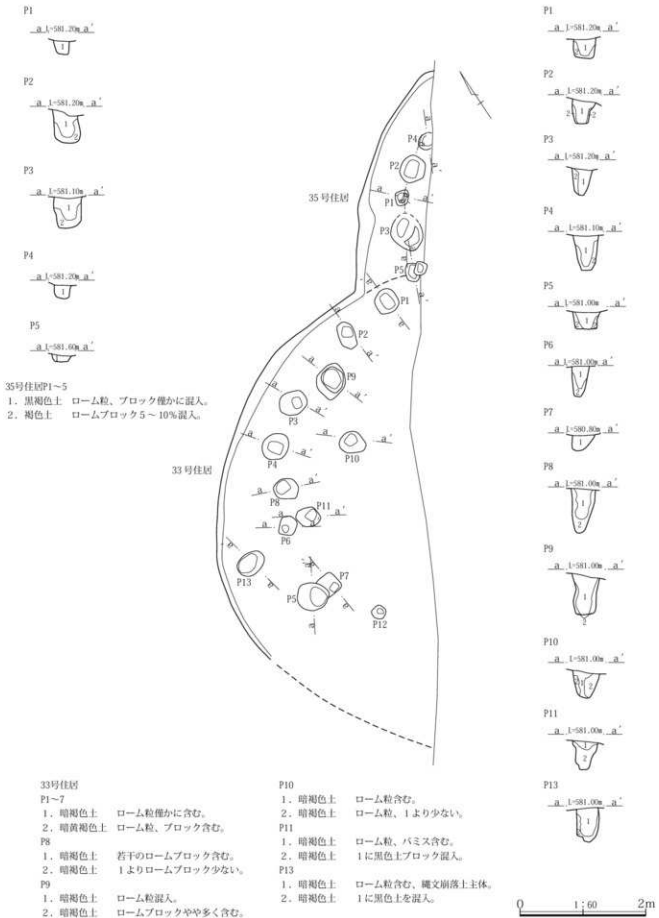
所見 調査区南端、壁にかかって北壁寄り部分のみ検出された。北側にある35号住居の調査として東壁から北壁部にかけてを検出していたところ、本住居の環礫部に当たったものである。重複関係は本住居が新しいものと判断された。後期初頭の敷石住居と思われる。覆土中にかなりの炭化物、焼土の混土が見られ、当初攪乱かとも考えられたが、調査区境の壁には現表土からの掘り込みは見えなかった。確認できないが、平安時代相当の焼土住居に起源する炭・焼土とも考えられる。なお、本住居の下には195号土坑があり、中期中葉に比定される土器が出土している。



第26図 33・35号住居(1)



第27図 33・35号住居(2)・遺物出土状況



第28図 33・35号住居(3)



35号住居

位置 62区調査区東端に掛かっており、北側の一部分のみ検出。また、南側にある33号住居を切っている。

形状 円形か。

規模 僅かな部分の調査のため不明である。

壁 検出した部分では約30cmを測る。

主軸方位 不明。

炉 未調査部分(調査区外)にあると思われる。

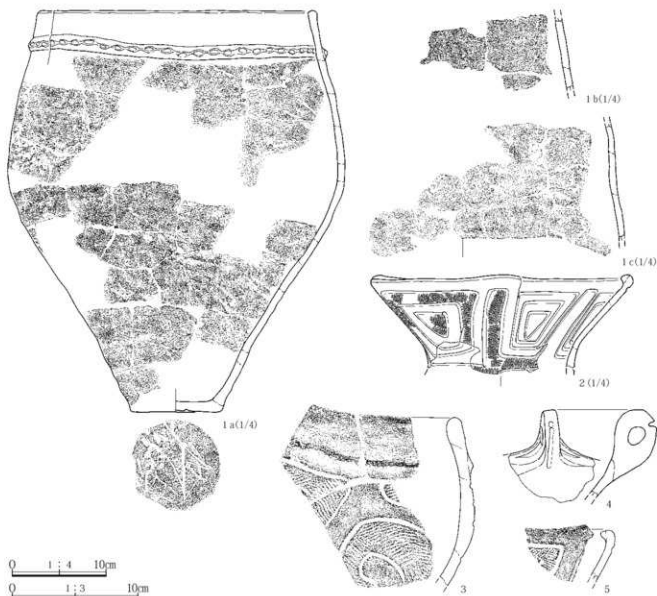
柱穴 礫の切れた部分にP1及び、形状規模も大きなP2・P3がある。ピット間の間隔は非常に狭い。P2の上には、礫がオーバーハングする状態で被っている。柱を据えた後、礫を巡らしたのだろう。P2・P3はしっ

かりした柱穴で、P1は補助的なピットかと思われる。P4は礫の下にあった。

床 明確には確認できなかった。

出土遺物 深鉢片、石錐、凹石と石棒片が出土している。

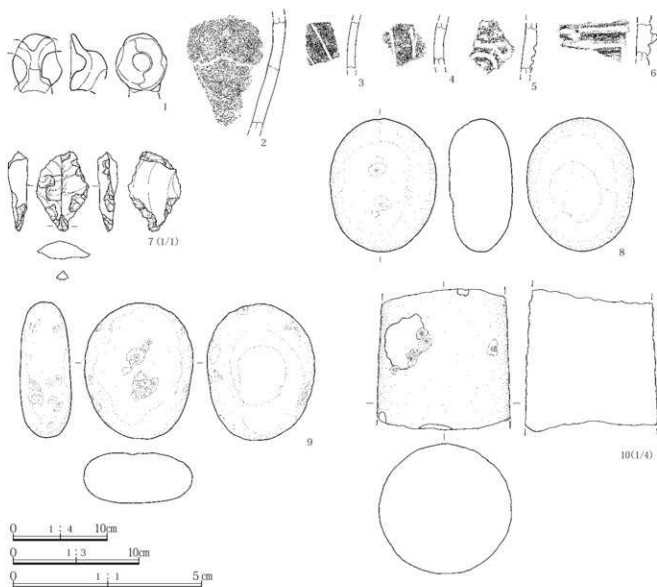
所見 床面・壁ともローム層の明瞭なプランを検出したため、掘り進めると、壁に沿って小礫の巡る敷石住居であることが判明した。東壁から北壁にかけては明瞭に壁・床を迫えたが、西壁付近で確認できなくなり、これを調査する中で33号住居の検出に至ったものである。33号住居の環礫部分に本住居が切られているので新旧を判断した。時期は後期初頭と思われる。



第29図 33号住居出土遺物(1)



第30図 33号住居出土遺物(2)



第31図 35号住居出土遺物

37号住居

位置 63区D・E-8・9グリッドに位置する。

形状 円形。

規模 径約3.6mである。

壁 北壁側はよく残っており、高さ40～50cmである。

南壁は確認できなかった。

主軸方位 N-31°-W

炉 はほぼ中央にある。径60cm程の円形の浅い落ち込みがあり、南東隅にわずかに焼土、炭化物が認められた。炉の想定範囲内の東西に小礫があるが、調査時にはが石として認定していない。

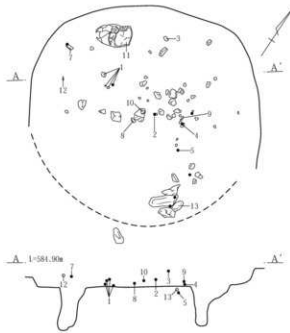
柱穴 ピットは、P 1～P 4の4基がある。P 1・P 2はどちらも30～50cmと深い掘り込みである。P 2は黒褐色土の柱痕跡がはっきりと確認できる。4基ともしまり

のある黒褐色土を埋土とするが、P 1では上部に黄褐色ロームを入れる。P 3は、壁の下半及び底部がYPk純層であるためか、埋土にYPk粒が多量に混入している。P 4はP 3の東側に隣接し、ともに壁想定線より内側に位置する。

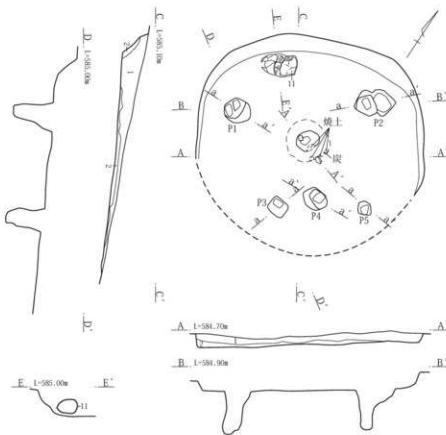
床 住居の北半はローム面を床としてはいはっきり確認できるが、南半は黒色土内であって、はっきりしない。

出土遺物 北壁近くの床面直前で大型の深鉢(11)が横倒しの状態で出土した。また覆土の比較的上層部分においても土器が散布していた。

所見 遺構確認時には明瞭にはとらえられなかったが、土器の集中部にベルトを設定し、掘り下げたところ、北壁が確認できたため住居と認定した。時期は中期中葉末である。

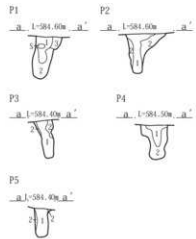


第32図 37号住居 遺物出土状況



1. 黒色土 黄色粒子を含み、礫を含む。
2. 灰黄色土 黄色粒子を含み、浅黄色シルト粒を含む。礫を含む。
3. 浅黄色土 黄色粒子を含み、灰黄色シルト粒を含む。礫を含む。

0 1:60 2m



P1~4

1. 黒褐色土 YP&含む柱痕部分。
2. 黒褐色土 1より締りあり、YP&少ない。
3. 黄褐色土 ローム質土、黒色土ブロック含む。

P5

1. 暗褐色土 ローム粒含む。
2. 褐色土 ローム壁の崩れ部分。

如

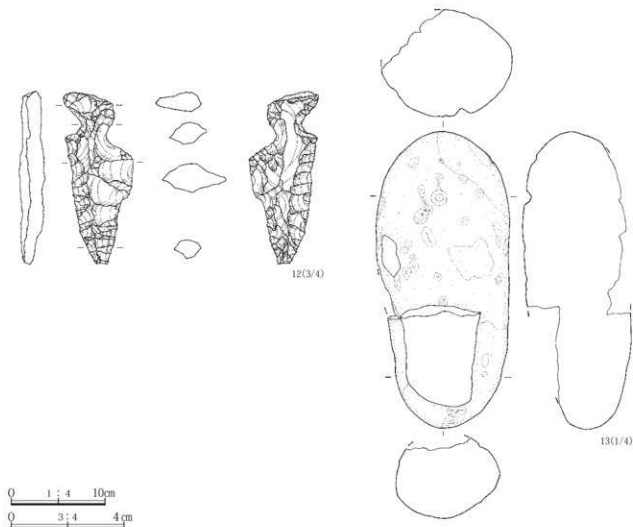


0 1:30 1m

第33図 37号住居



第34回 37号住居出土遺物(1)



第35回 37号住居出土遺物(2)

## 39号住居

位置 63区E・F-7・8グリッドに位置する。

形状 円形を想定したが判然としない。

規模 推定径5.7m。

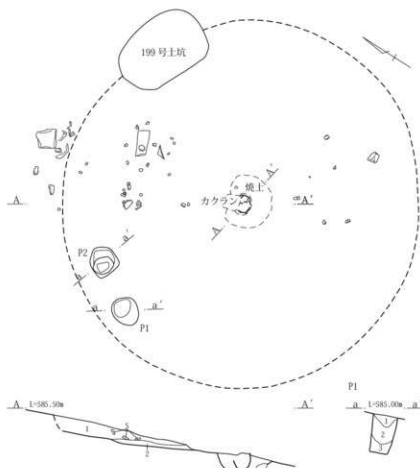
壁 確認できなかった。

主軸方位 不明。

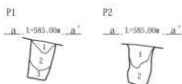
炉 地山黒色土を、土坑状に掘り込んだ中に土器(8)を据え、土坑内と土器内に焼土の混入した土を埋めて炉として使用したものか。焼土はすべてバサバサでこの場で焼けて赤化したものではないだろう。この焼土は、同じく後期初頭の敷石住居である20号住居の炉内焼土と類似している。

柱穴 住居の西端にP1及びび2を検出した。ともに覆土が地山土と類似した黒色土で、遺構確認が困難であった。地山には灰色の大粒の岩片が入るが、埋土には入らない

ことで判別した。P1は、50cm以上の深さがあり、底部はローム漸移層に達する。P2は、P1と同じ円状に並ぶ。P1・P2とも深くて、しっかりした掘り込みである。床 南西部は削平を受けており、炉自体もわずかに上部が削られているものと思われる。北東部に礫がまとまる部分が見られ、これが敷石の一部をなすとすれば、平石上面が床面としてとらえられるかもしれない。出土遺物 炉体土器以外にはほとんど見られなかった。かなりの削平を受けた結果と考えられる。所見 当初、単独の埋喪を想定したが、北東部に敷石の残骸があることから、住居とした。ピットは2基検出したが、確定性に乏しい。壁脇に環礫の残骸が見られる。川原石16個、山石2個である。川原石の中には磨面をもつものもあった。炉体土器と思われる、土器の存在から住居と想定した。時期は後期初頭。



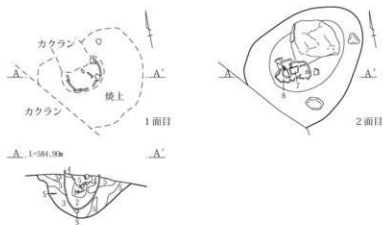
1. 黒色土 砂質で混人物少ない、地山に混入する灰色岩砕片を含む。  
 2. 黒色土 床面相当層、1に似るもやや硬化する。



- P1
1. 黒褐色土 黒色の地山に対してやや赤みを呈す。灰色の岩砕片含む。  
 2. 黒褐色土 1に似るが混人物は少ない。  
 3. 黒褐色土 ロームブロック僅かに混入。
- P2
1. 黒褐色土 砂質で混人物少ない。  
 2. 黒褐色土 ローム粒僅かに含み、粘性あり。灰色の岩砕片僅かに含む。

0 1:60 2m

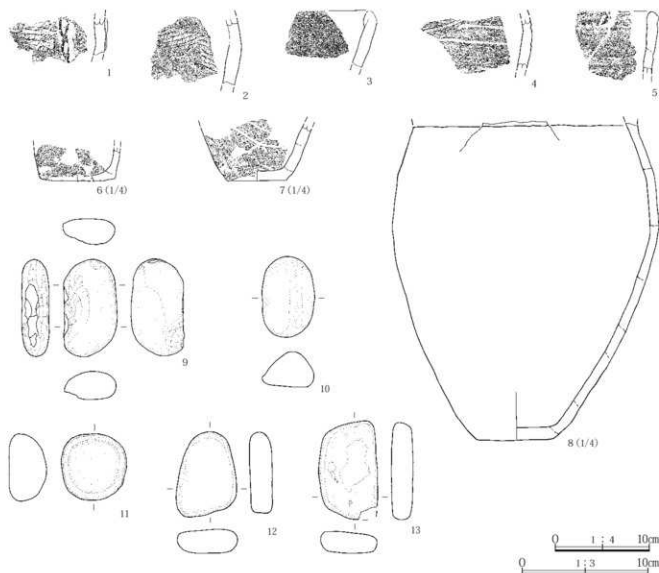
59



- 60
1. 明赤褐色土 焼土、土層片含み砂質。  
 2. 赤褐色土 1に黒色土を含む。  
 3. 褐色土 焼土と黒色土の混入。  
 4. 暗褐色土 焼土粒僅かに混入。  
 5. 黒褐色土 焼土は見られず、黒色土主体。

0 1:30 1m

第36図 39号住居



第37図 39号住居出土遺物

## 40号住居

位置 63区D・E-6・7グリッドに位置する。

形状 楕円形。

規模 3.7×3.2m。

壁 約60cm。

主軸方位 N-68°-E

炉 中央やや西寄りに位置している。7個の垂角礫を、長方形に並べた石囲炉である。本遺跡では、縄文中期の石囲炉は南北に長軸を持つものが主流であるが、この住居の炉は東西に主軸を持つ。住居の平面形も、やや東西に長い楕円形の感じである。炉石の内側は焼けて、煤の付着が著しい。炉の大きさは、長さ60cm、幅が30cm程である。

柱穴 ビットはP6・P3が主軸に沿っており、径も大

きく、深く掘り込まれている。P1・2・4・5は小さく浅い。補助的な柱穴だろうか。

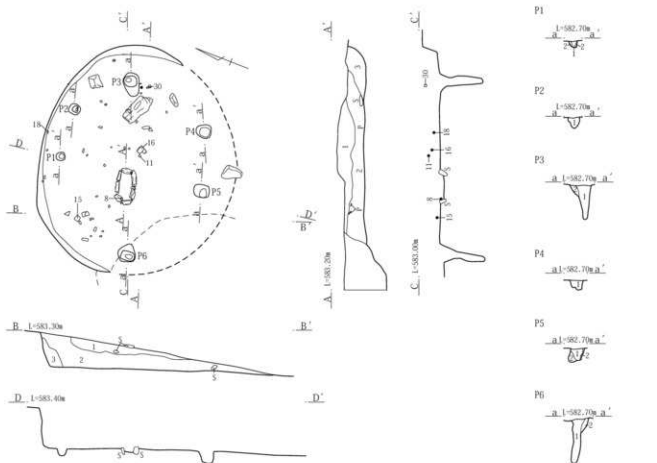
床 平坦で、ロームを地床としている。焼土・灰等は全くと言って良いほど見られない。

出土遺物 出土遺物は少ない。

所見 上面では、遺物が多量に散布していた。掘り下げを行う中で、北壁寄りに明瞭なローム(黄色)の床面と、中央やや西寄りに石囲炉が検出されたことから、住居と判明した。北壁はロームから漸移層、そして黒色土の立ち上がりが見え、平面形が分かったが、東壁の立ち上がりが黒色土中のため判明しなかった。また、西壁も風倒木が住居を切っており判然としなかった。時期は中期中葉末と考えた。



第2章 調査された遺構と遺物



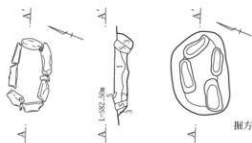
1. 黒褐色土 砂質で粘り強い。
2. 黒褐色土 YPrの混入多い。
3. 黒褐色土 2よりもYPr少なくロームブロック含む。

P1~6

1. 黒褐色土 砂質で混入物少ない。
2. 黒褐色土 1に崩落ロームブロック堆かに混入。

0 1:60 2m

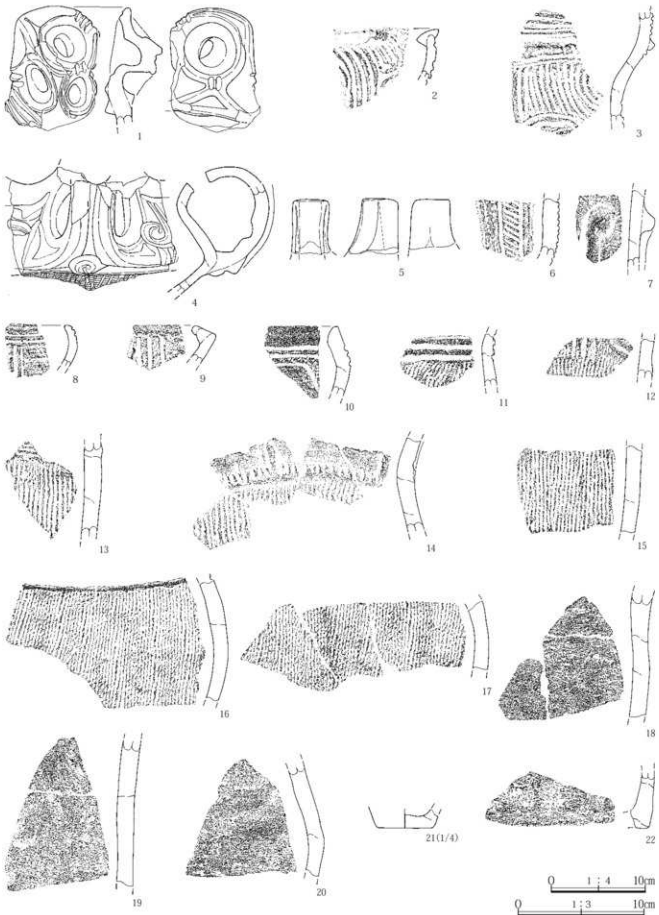
37



1. 暗褐色土 ローム粒、ハミス混入。
2. 暗褐色土 1に若干の焼土粒混入。
3. 黒褐色土 灰石の裏込め上、ロームブロック混入。

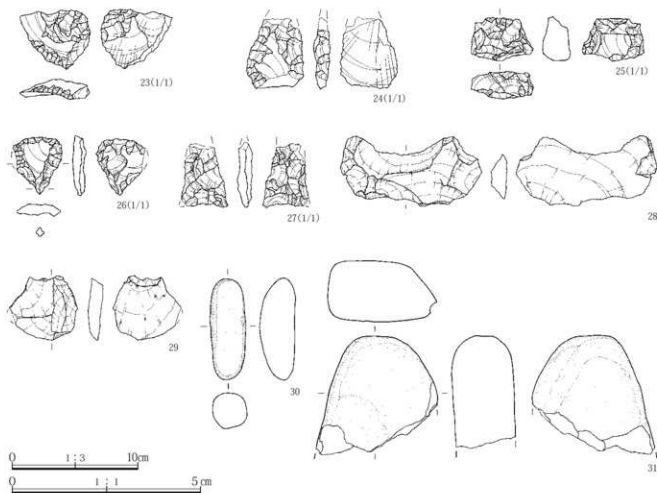
0 1:30 1m

第38図 40号住居



第39図 40号住居出土遺物(1)

第2章 調査された遺構と遺物



第40図 40号住居出土遺物(2)

41号住居

位置 63区E・F-5・6グリッドに位置する。

形状 ほぼ円形であるが、北側の壁がやや直線的である。

規模 3.5×3.3m。

壁 北側の立ち上がりは約30cmを測るが、南側は風倒木の重複があり、確認できない。

主軸方位 N-74°-W

炉 石囲炉である。北側の1辺は、土器片が転用されている。他の炉石は川原石の丸石を2個、山石2個を使用。被熱している。火床部は被熱し、焼土化している。炉の大きさは、35×35cm程である。炉の西側にあった平石とその北の焼けた石が人為的なものかどうか検討した結果、平石は、炉の周辺で据えられて使用したものと判断した。焼けた石は炉の北部の土器が炉石として据わる前に、炉石として使われていた可能性も残る。

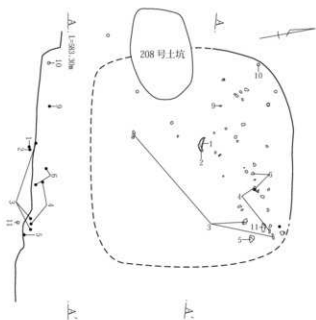
柱穴 P1は風倒木により一部切られている。あまり深くない。P2は南側にあり、床面より下がって確認されてい

るため、深くない。P3は小振りであるが掘り込みは深い。P4は位置から見て柱穴の可能性はあるが、掘り込みは弱く浅い。底部に凹凸がある。

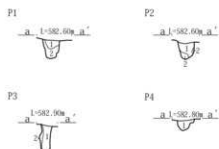
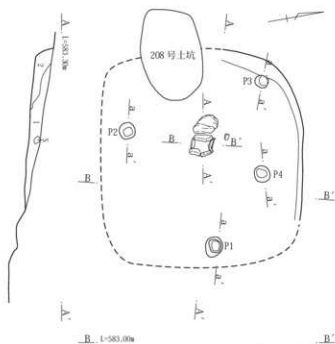
床 掘り込んだローム面を床としているが、硬化面は検出できなかった。

出土遺物 遺物は炉の周辺部、北壁寄りに多く分布する。しかし、床面より浮いたものが多い。

所見 40号住居の西側、風倒木を挟んで西側に中期土器の集中散布部が見られたことから掘り下げたものである。小振りな川原石と山石を組んだ石囲炉の存在から住居と判断した。さらに、北壁寄りの部分にローム面の床と思える部分及び、壁の立ち上がりが確認できた。しかし、東壁寄りには風倒木に切れ、西壁寄りの立ち上がりは不明である。南壁寄りは斜面部のため床が削平されている。従って平面形は炉を中心とし、北壁の立ち上がりから推定している。時期は炉に転用された土器(1・2)から中期中葉と判断した。



遺物出土状況

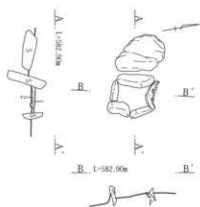


- P1  
1. 黒褐色土 YPA含む、樹木に伴う覆土土。  
2. 褐色土 1とロームの混入。
- P2-4  
1. 黒色土 大粒の灰色岩碎片含む。  
2. 黒褐色土 1にロームブロック混入。

1. 黒褐色土 灰色岩碎片、バミスを含む。  
2. 黒褐色土 1よりもやや大きい岩碎片含む、バミスの混入は見られない。

0 1:60 2m

34

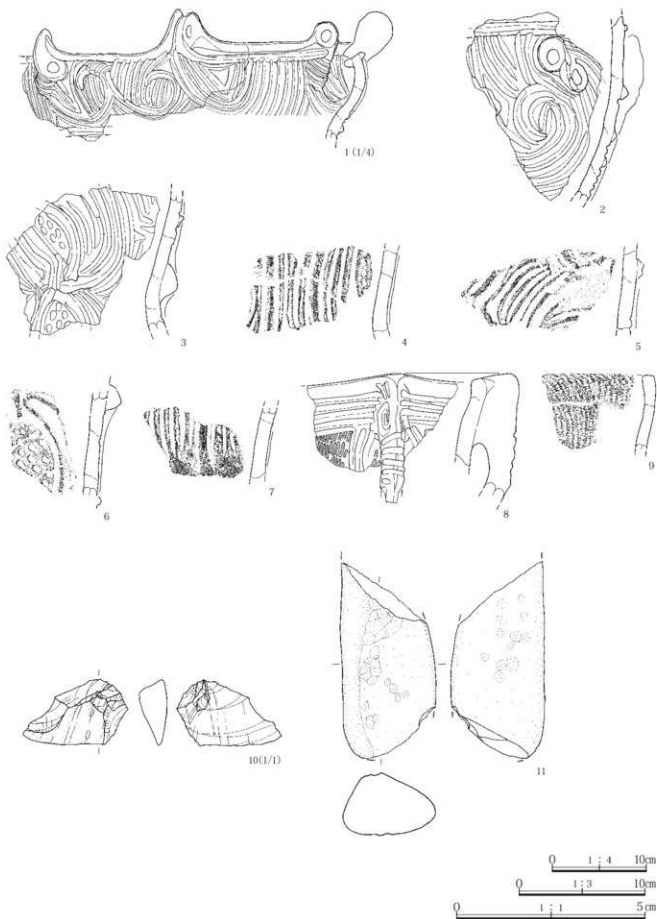


35

1. 暗褐色土 焼土粒含むが焼土化は弱い。  
2. 暗褐色土 1よりも焼土粒多く含むが、明確な層とは捉えられず。

0 1:30 1m

第41図 41号住居



第42図 41号住居出土遺物

43号住居

位置 63区E・F-6・7グリッドに位置する。

形状 円形。

規模 径約3.5m。

壁 不明。

主軸方位 不明。

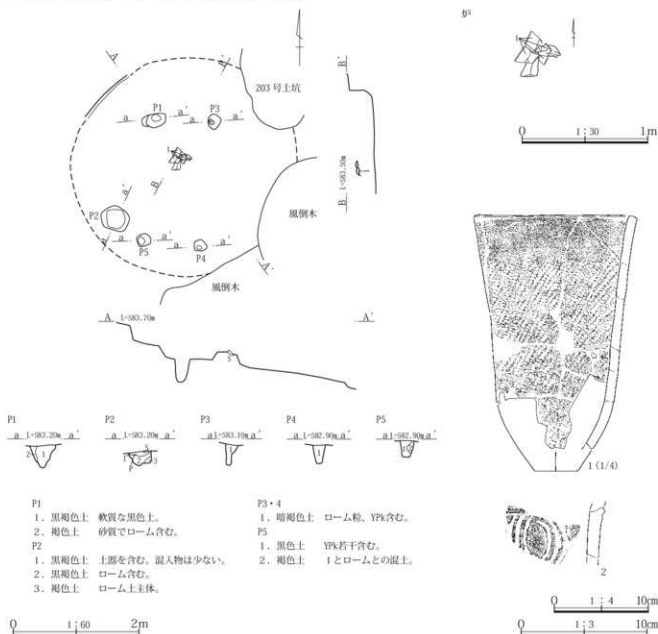
炉 石囲炉の残存か。北と西に2石が出土。焼けており、動いてないので炉と考えた。中の焼土は不明瞭。

柱穴 P1はが石にやや近い。底部に向かってやや先細りだが深い。炉石の南のすぐ近くに不定形の凹みあり、形状・掘り込みとも不明。P3は径小さいが深い。先細りのピットである。P4・5は径小さいが深い。底も平

らで掘り込みも明瞭。埋土は、P1・P5が黒色土、P3が暗褐色土、P4・P2が黒褐色土である。P2は平面規模が大きく、土器片が多量に入っている。

床 調査途中においては確定できなかった。炉石を床面レベルとすると、10~15cm下げたことになる。出土遺物 深鉢が炉石上位に潰れた状態で出土した。

所見 40号住とともに上面で遺物の集中が見られたことから掘り下げて床面の検出を試みたが、明瞭にし得なかった。当初は平面形も把握できず、北壁寄りの部分で、立ち上がりを僅かに確認し、最終的には炉の残骸を検出したことから住居と認定した。



第43図 43号住居・出土遺物

44号住居

位置 63区C・D-6・7グリッドに位置する。

重複 40号住居に南側を切られる。225号土坑に切られる。

形状 隅丸長方形。

規模 (3.4)×3.1m。

壁 最大で0.35m。

軸方位 不明。

炉 明確なもの検出されなかった。

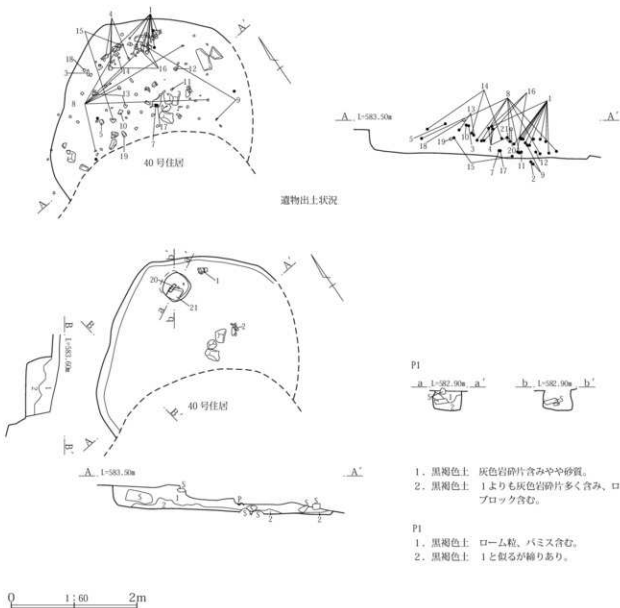
柱穴 住居北壁寄りにP1がある。しっかりとした掘り込みで平面規模も大きい。底部付近には大石2個が出土していた。P1を柱穴としたが、住居に伴うものか不明。

1基のみの検出である。

床 ローム漸移層で床らしき面を確認するも、確定はできなかった。

出土遺物 遺物の多くは床面から30～40cm浮いた状態で出土している。土器が中心であるが、30～40cm大の山石も混入している。中には焼けたが石のような石も見られる。

所見 40号住居の北側に遺物が集中するため、住居を想定し掘り下げを行った。北壁付近でローム漸移層の床面が立ち上がったことを根拠に拡大した。しかし、東・南東壁の立ち上がりは黒色土で確認できないため平面形は推定である。時期は中期中葉末であろう。

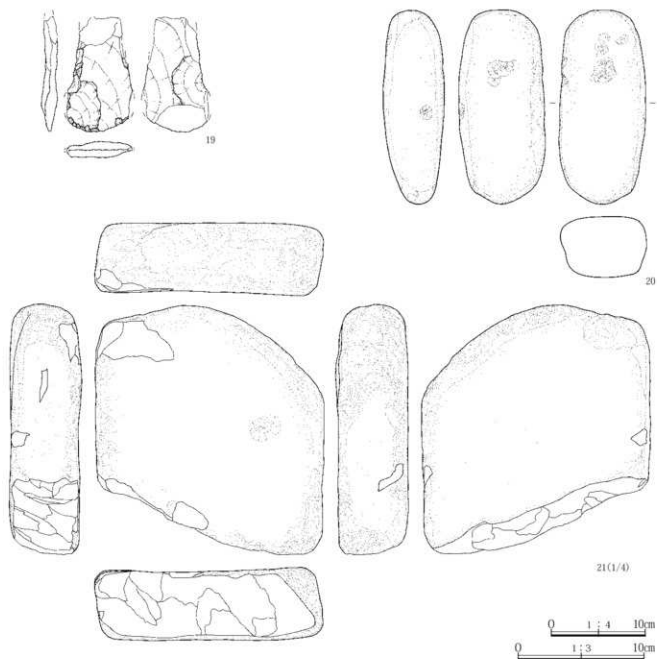


第44図 44号住居

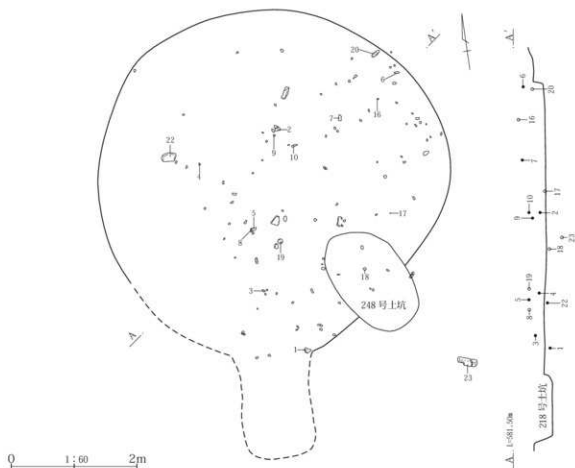


第45回 44号住居出土遺物(1)





第46図 44号住居出土遺物(2)



第47図 46号住居(1)

## 46号住居

位置 63区A-B-4・5グリッドに位置する。

形状 張出部を南東～南南東に設ける敷石住居か。

規模 7.0×5.5m。

壁 黒色土中の検出のため、判然としなない。僅かに点在する平石や遺物の分布から、径5.5m程の住居部を推定した。

主軸方位 不明。埋裏を主軸線上に置くと北北西、248号土坑を出入口部とすると北西を向く。

炉 不明。

柱穴 3基を確認している。柱穴配置としては適当ではなく、浅く、掘り込みも弱い。柱穴とするには疑問も多い。床 不明瞭で緩やかに南東へ傾斜する。平石が僅かに点在するが、敷石住居を示唆する例ではない。

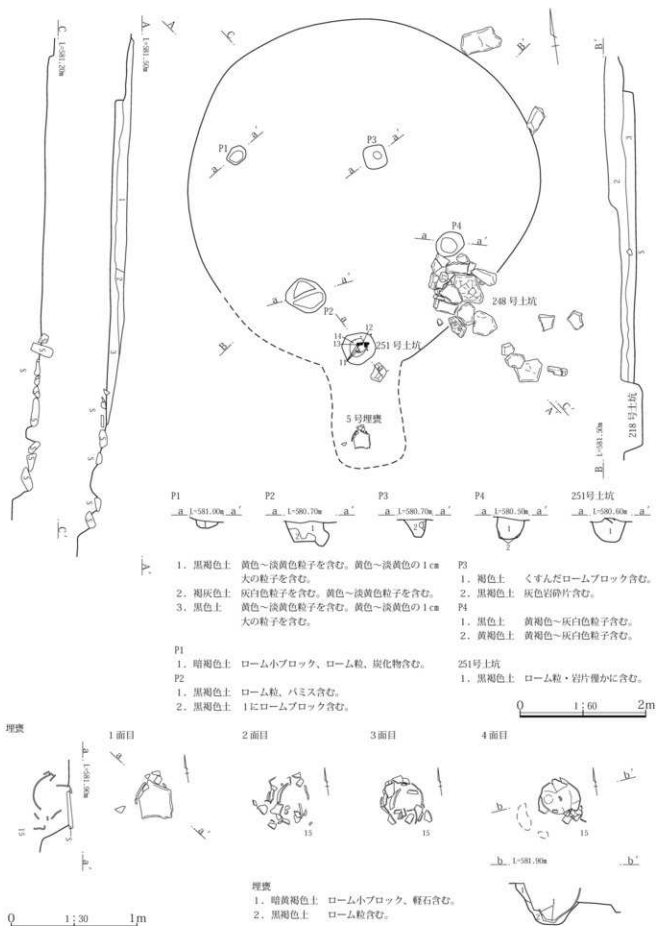
出土遺物 多くが床面より浮いた状態で出土しており、埋土中の散漫な出土状態といえよう。また、南壁際で確認された251号土坑から、深鉢片がまとまった出土を見せる。

所見 張出部として、前年度調査で得られた248号土坑

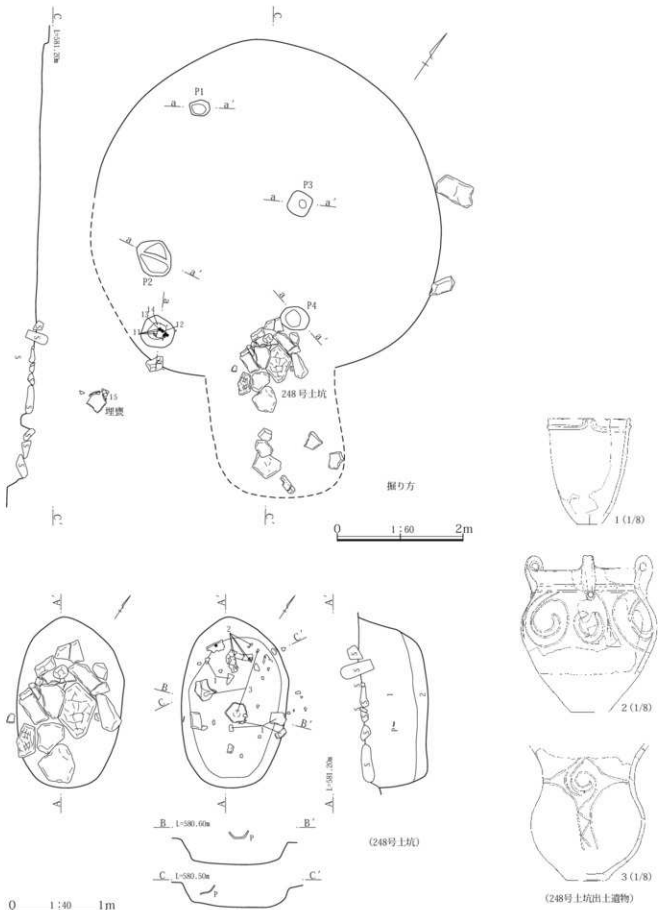
と5号埋裏を充てる2案が検討された。調査所見では248号土坑は住居より新しい遺構として捉え、ここでは、5号埋裏を張出部施設として考えた。5号埋裏は上端に5角形の平石が乗り、住居部との連結部分には251号土坑とした掘り込みが軸線上に位置している。

いずれにしても、炉及び良好な柱穴が検出されておらず、本住居の主軸は特定できない。ただ、248号土坑を新しい重複遺構とするには、出土土器に大きな差は見られず、一概に新旧関係を求めることはできない。第49図に248号土坑を張出部と位置付けた場合の想定図と248号土坑出土土器を掲げたが、本来ならば主軸線上に乗る柱穴・炉が見られず、確証には至らない。ただ、出土土器は後期初頭末から後期前葉初期と捉えられ、住居跡出土土器との大きな差は見られない。

本住居は、敷石住居としての可能性を求めたが、住居部における炉や柱穴の検出が果たせず、不確定要素の多い住居となった。張出部も2案をもって、報告に努めたが、いずれも確証に乏しい。しかしながら、出土土器は多く、後期初頭末～前葉初期に時期が求められよう。

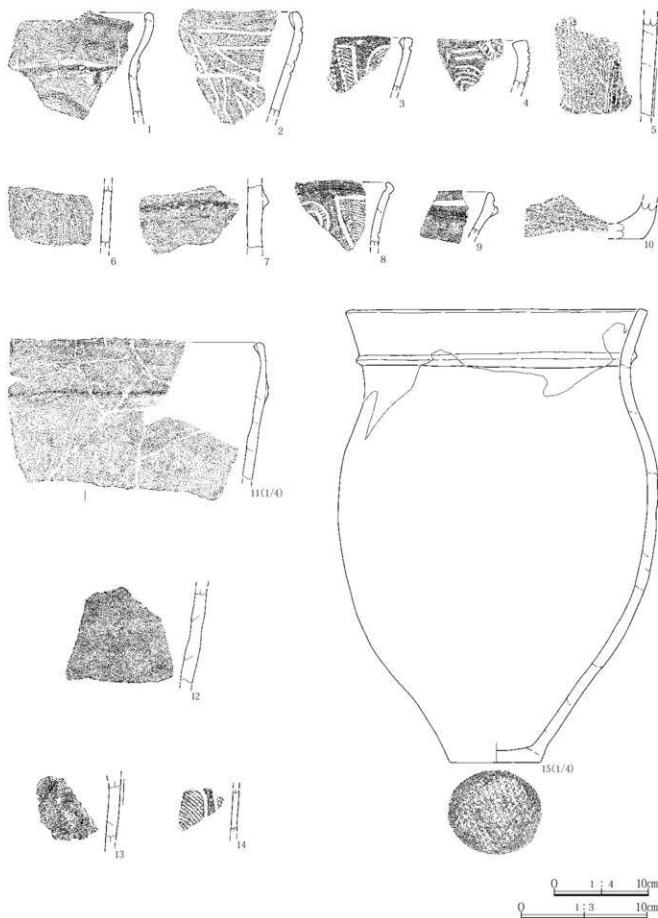


第48図 46号住居(2)

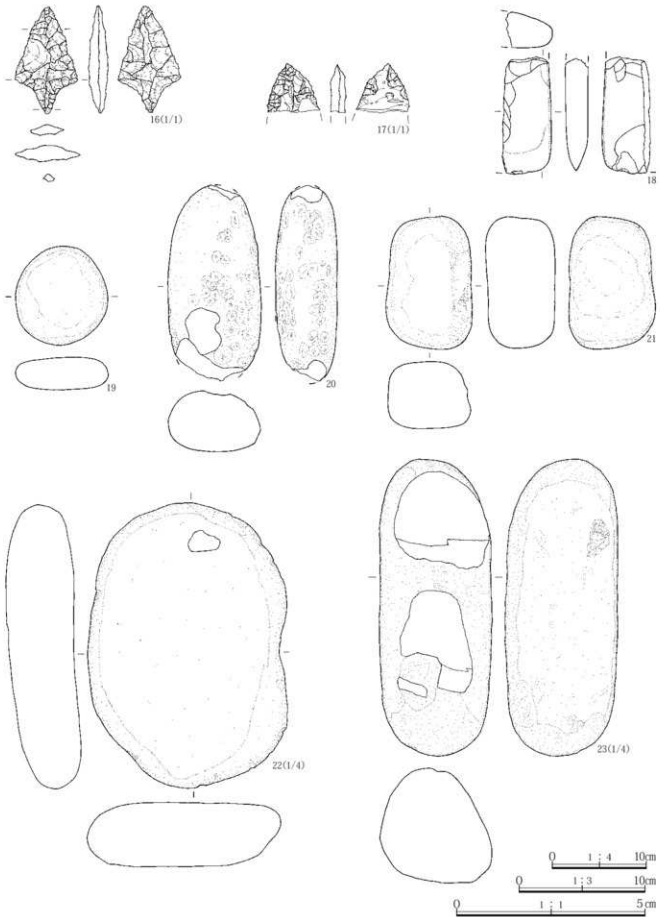


第49図 46号住居(3)

第2章 調査された遺構と遺物



第50図 46号住居出土遺物(1)



第51図 46号住居出土遺物(2)

49号住居

位置 調査区の東壁寄り、63区A-3グリッドに位置する。

形状 円形。

規模 3.0×3.0m。

壁 40cm。

主軸方位 N-35°-W

炉 検出されなかった。P1は当初、炉だと想定したが灰石や焼土が全くない。

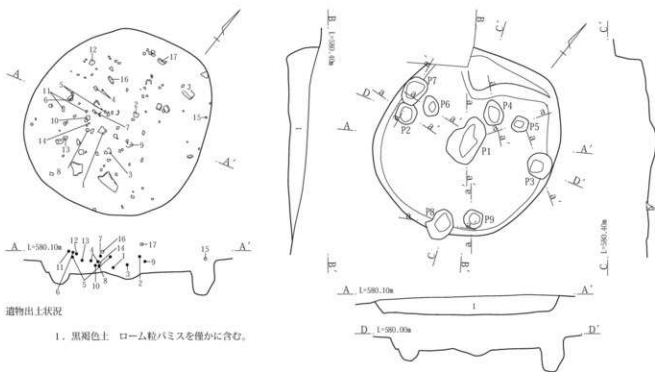
柱穴 P1は浅く、ビットとしても判然としな。P2・P3は東西に対となる。掘方底面のローム漸移層で検出

したものである。P4は不定形、底部は丸い。P5は円形、底部丸い。P6は不定形状であるが深い。P7も不定形で底は丸い。P4～P7は不確かなビットで柱穴らしくない。

床 明瞭な面は確認できず。

出土遺物 遺物集中部を住居と想定したが、遺物位置は全体的に床面からは高い。

所見 遺物集中部を掘り下げたが、床も不明で、炉の確認もできなかった。住居としたが疑問の多い遺構である。時期は中期中葉末と判断される



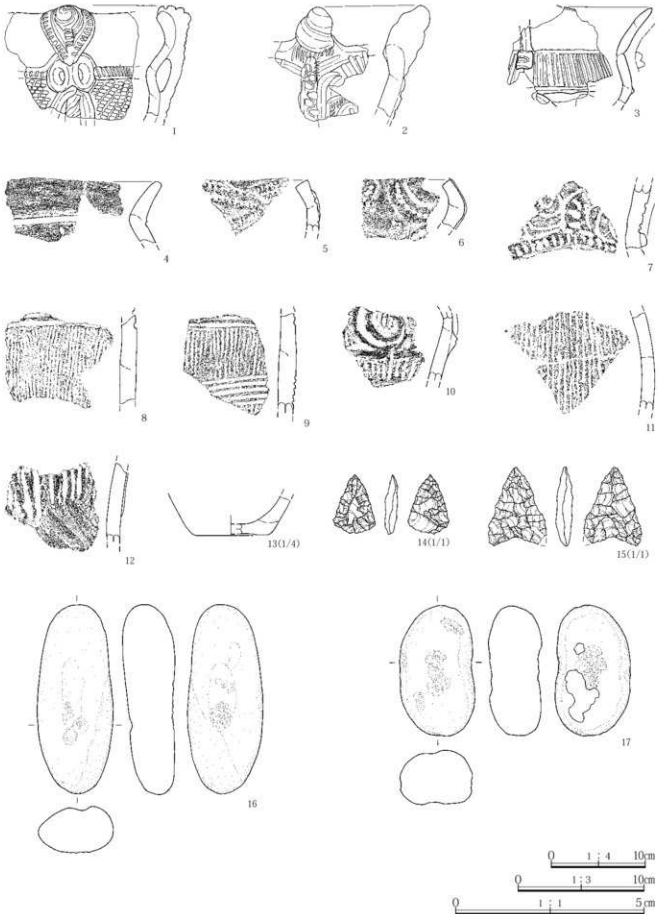
遺物出土状況

1. 黒褐色土 ローム粒・パミスを僅かに含む。

<p>P1 a 1-579.80m a'</p>	<p>P2 a 1-580.00m a'</p>	<p>P3 a 1-580.00m a'</p>	<p>P4 a 1-579.80m a'</p>	<p>P5 a 1-579.80m a'</p>	<p>P6 a 1-579.80m a'</p>
<p>P7 a 1-579.80m a'</p>	<p>P8 a 1-579.60m a'</p>	<p>P9 a 1-579.70m a'</p>	<p>P6 1. 黒色土 シルト質粘土、灰色粒僅かに含む。 2. 褐灰色土 粘性あり、黒色粘質土をブロック状に混入。 3. 黒色土 粘性あり、明黄褐色粒僅かに含む。 4. 灰黄褐色土 粘性、縮りあり、黒色のシルト質土を僅かに含む。</p> <p>P7 1. 黒色土 黄褐色粒僅かに含む。</p> <p>P8 1. 褐灰色土 粘性あり、黄色粒含む。 2. 黄灰色土 粘性あり、黄色ローム粒を含む。 3. 暗黒褐色土 ローム粒、白色軽石粒僅かに含む。</p> <p>P9 1. 黒色土 粘性あり、黄褐色粒、灰色粒を僅かに含む。</p>		

0 1; 60 2m

第52図 49号住居



第53図 49号住居出土遺物



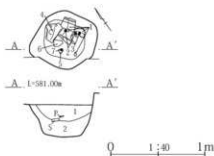
第2項 土坑・ピット

1 土坑

縄文時代の土坑は、不定形のものや円形を基本とするものに大きく分類できる。円形基調のものは、径80cm前後、深さは40から70cm、壁はほぼ垂直に立ち上がる。土器を伴うものが多く、中には完形に近いものも散見される。これらの土坑は主に、63区の東壁寄りに集中して検出されていることから、土坑群として捉えられよう。

195号土坑 62区X-6グリッド 後期初頭より比定される33号住居の床下で検出した。平面形状はゆがんだ隅丸方形に近い不整形で、長軸長63cm、短軸長59cm、深さ46cm。

195号土坑



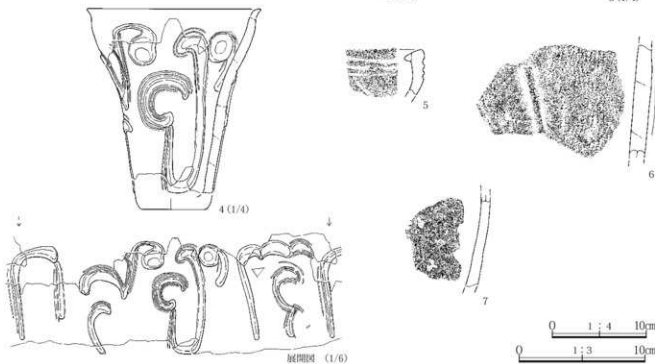
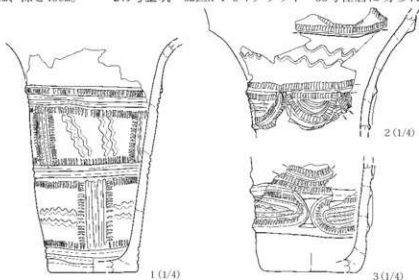
195号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒10%と非常に多く混入する。締りあり。粘性あり。
2. 暗褐色土 1層土よりローム粒の混入1~3%と少ない。

長軸方位はN-37°-Wである。断面形は上部の開いた逆台形で、底面はほぼ平坦。上層覆土から深鉢3個体(1~4)が出土した。時期は縄文時代中期中葉とした。土器埋設土坑と想定される。

214号土坑 62区X-6グリッド 後期初頭の33号住居内にある。平安時代の213号土坑に大きく切られ、平面形状は不明であるが、円形あるいは南北に長い長円形に近いものかと思われる。長軸残存長42cm、短軸長83cm、深さ45cm。長軸方位はN-38°-Wである。壁はほぼ直立し、底面は平坦である。北壁直下の床面近くで、ほぼ完形の深鉢(1)が出土している。

219号土坑 62区X-Y-6-7グリッド 33号住居に切られ



第54図 195号土坑・出土遺物

る。平面形状は楕円形で、長軸長247cm、短軸長167cm、深さ90cm。長軸方位はN-33°-Wである。壁は凹みを持って立ち上がり上方に開く。床はローム上面に当たり、凹凸があるが特別な構造は認められない。出土した土器片から弥生時代前期の可能性がある。

220号土坑 62区Y-4グリッド 平安時代の32号住居の床下で検出。平面形状は不整形円で、長軸長46cm、短軸長37cm、深さ24cm。長軸方位はN-63°-Wである。断面形状は上部の開いた碗状で、底面には小さな平坦面がある。縄文時代中期中葉末の深鉢片が出土している。

222号土坑 63区F-9-10グリッド 平面形状は東西に長い楕円形で、長軸長120cm、短軸長90cm、深さ37cm。長軸方位はN-87°-Wである。ローム漸移層で確認したもので、覆土は灰色岩片を混入する地山に近い土である。断面はやや深い碗状で南半がやや深く掘り込まれる。出土遺物はない。

225号土坑 63区D-7グリッド 縄文時代の44号住居の床下で検出。平面形状はややいびつな円形で、径77cm、深さ56cm。長軸方位はN-10°-Eである。確認面には焼けた大型の角礫がある。壁はほぼ直立するが、特に東西壁はややオーバーハング気味で弱い袋状の断面を呈する。底部近くから中期中葉末の深鉢片が出土している。

230号土坑 62区X-7グリッド 平安時代の229号土坑に切られる。平面形状は南北にやや長い円形で、長軸長95cm、短軸長80cm、深さ46cm。長軸方位はN-26°-Eである。南壁は崩れてやや上方に開くが、北壁はややオーバーハング気味で弱い袋状の断面を呈する。覆土の上位、中位から中期中葉の深鉢片などが出土している。

244号土坑 62区X-5グリッド 平面形状は倒卵形ないし隅丸の台形で、長軸長85cm、短軸長69cm、深さ56cm。長軸方位はN-50°-Wである。壁はほぼ直立し、底面は平坦である。覆土上層で中期中葉末の深鉢片が重なって出土している。表面同士、裏面同士が重なっていて、完形土器がつぶれた状態ではない。

245号土坑 62区Y-5グリッド 平面形状はゆがんだ楕円形で、長軸長68cm、短軸長52cm、深さ16cm。長軸方位はN-43°-Eである。北部が一段低く掘られていて、北壁は凹みを持って上方に開く。覆土上位から深鉢の大型破片が出土し、下位にも別個体の深鉢片がある。時期は中期中葉末と考えた。

246号土坑 62区Y-4グリッド 平面形状は整った円形で、径76cm、深さ38cm。長軸方位はN-38°-Wである。縄文時代の崩落土層をローム層まで掘り込んでいる。壁はほぼ直立するが、北壁は途中小さな段を持つ。覆土上層に炭化物や土器片が多く含まれる。

247号土坑 63区B-2グリッド 平面形状はやや南北に長い楕円形で、長軸長62cm、短軸長55cm。遺構確認面であるローム面からの深さは11cmだが、遺物はより上位から出土している。長軸方位はN-3°-Eである。後期前葉の注口土器大型破片の中に多孔石を含む石片が乗ったような状態で出土した。

248号土坑 63区A・B-4・5グリッド 46号住居を切る。58号ピットに切られる。平面形状は楕円形で、長軸長177cm、短軸長110cm、深さ26cm。長軸方位はN-32°-Wである。各壁は凹みを持って立ち上がり、上方に開く。底面も皿状にくぼむ。覆土上面に角礫が集中し、上位層には比較的大きな土器片が多数含まれる。覆土下層からも大型の深鉢頸部破片が出土している。(46号住居記載参照)

249号土坑 63区A-4グリッド 平面形状はややゆがんだ円形で、長軸長55cm、短軸長50cm、深さ37cm。長軸方位はN-54°-Eである。各壁はほぼ直立し、底面は平坦である。覆土上位に中期中葉の深鉢破片などが多く含まれている。

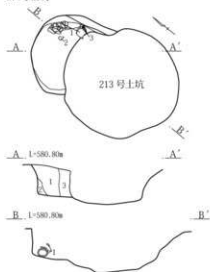
250号土坑 62区Y-4グリッド 平面形状は楕円形で、長軸長100cm、短軸長89cm、深さ75cm。長軸方位はN-44°-Eである。壁は小さな凹みを持って立ち上がる。底面南部は小さな円形掘り込みが重なり合うような状態でやや深くなる。覆土上位に角礫、円礫が集中し、深鉢底部片なども含まれる。時期は中期中葉と思われる。

252号土坑 63区A-4グリッド 平面形状は円形で、径83cm、深さ64cm。長軸方位はN-5°-Eである。壁はほぼ直立し、底面は小さな凹凸があるが、ほぼ平坦である。覆土上位、中位に角礫や土器片が多く含まれている。時期は後期前葉である。

253号土坑 63区A-4グリッド 平面形状は円形で、径74cm、深さ13cm。長軸方位はN-0°である。壁は凹みを持って立ち上がり、皿状の断面形を呈する。中央近くでやや大型の多孔石が出土した。また、覆土中には土器片が多く含まれている。時期は中期中葉であろう。

第2章 調査された遺構と遺物

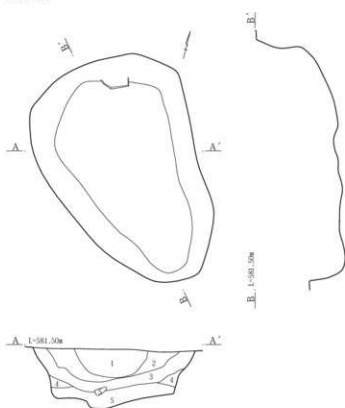
214号土坑



214号土坑

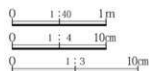
1. 暗褐色土 ローム粒7~10%。33住、28住埋土に土質類似。
2. 1層上に、ローム粒さらに多い。
3. 暗褐色土 ローム粒1%混入。

219号土坑

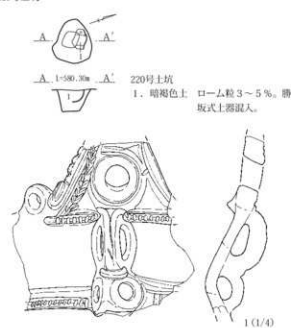


219号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒1~3%。ロームブロック5~10%。
2. 黒褐色土 ローム粒1~3%。
3. 暗褐色土 ローム粒1%。ロームブロック5~10%。
4. 黒色土 土坑壁のくずれか。
5. 黄褐色土 ロームブロック多く含みや軟質。



220号土坑



220号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒3~5%。磨板式土器混入。

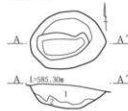
第55図 214・219・220号土坑・出土遺物

254号土坑 63区A・B-3グリッド 20号住居と重複するが、切り合いは不明。平面形状はいびつな円形で、長軸長65cm、短軸長63cm、深さ24cm。長軸方位はN-15°-Eである。北壁近くで柱状の角礫が出土している。また、覆土上層から中期中葉末の深鉢片が出土している。

255号土坑 63区A・B-3・4グリッド 20号住居を切る。平面形状は不整な楕円形で、長軸長100cm、短軸長75cm、深さ20cm。長軸方位はN-0°である。東壁は直立に近く立ち上がっている。覆土には土器片が含まれ、中央近くでは深鉢の大型破片が立位で出土しているが、表裏が合わず、完形品がつぶれたという出土状況ではない。後期前葉に比定されよう。

258号土坑 63区B-3グリッド 20号住居 平面形状は隅丸長方形で、長軸長66cm、短軸長50cm、深さ17cm。長軸方位はN-50°-Eである。壁は小さな凹みを持って立ち上がる。底面には壁際に凹凸があるもの特別な構造は認められない。出土遺物はない。

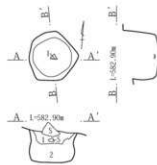
222号土坑



222号土坑

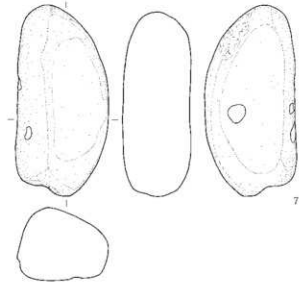
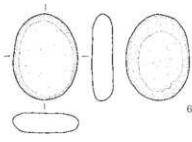
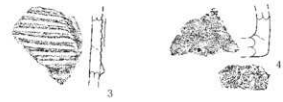
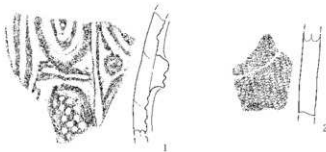
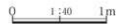
1. 黒褐色土  $\phi$ 10~50mmの灰色岩片を7~10%。地山に近い土質。
2. 暗褐色土 ロームブロック10~20%混入する。壁の崩れと考えられる。

225号土坑



225号土坑

1. 黒褐色土 パミス・ローム粒併せて1~3%。
2. 黒褐色土 パミス・ローム粒併せて1~3%。



第56図 222・225号土坑・225号土坑出土遺物

第2章 調査された遺構と遺物

230号土坑

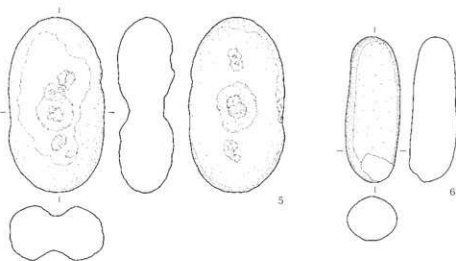


230号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒5~7%。
2. 暗褐色土 1層上に黒色土を混入する。



4



244号土坑

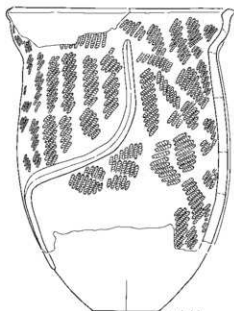


A. L=580.80m



244号土坑

1. にぶい黄褐色土 黄褐色粒子、炭化物粒、淡黄色粒子含む。
2. にぶい黄褐色土 黄褐色粒子含む。1cm大の粒子多く含む。
3. にぶい黄褐色土 黄褐色、淡黄色粒子含む。2と近似するが、浅黄橙色砂質シルトブロック含む。



1(1/4)

245号土坑



A. L=580.60m

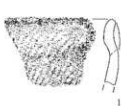


B. L=580.70m



245号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒3~5%。縄文崩落層を主体とする。



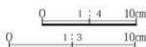
1



2

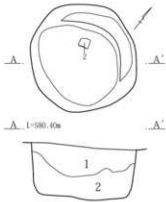


3(1/4)



第57図 230・244・245号土坑・出土遺物

246号土坑

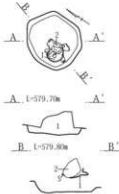


246号土坑

1. 暗褐色土 縄文崩落層主体。炭化物3~5%。  
 ローム粒1~3%。  
 2. 暗褐色土 ローム粒3~5%。

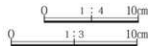
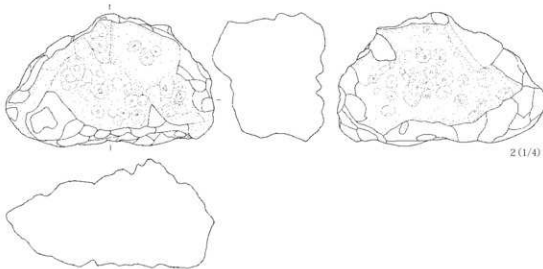
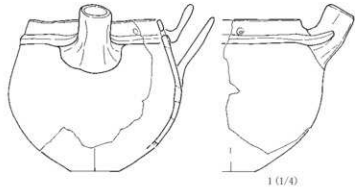


247号土坑



247号土坑

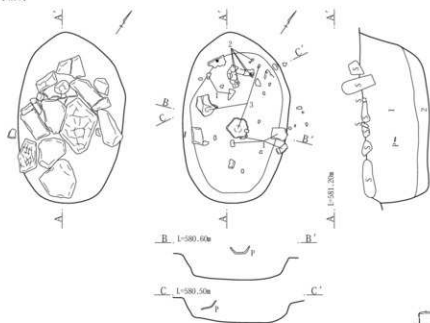
1. 黒色土 ローム粒、灰色岩片、ハミス併せて1~3%。



第58図 246・247号土坑・出土遺物

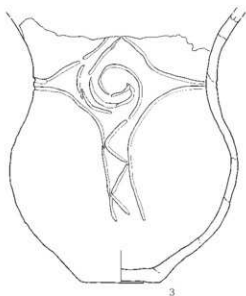
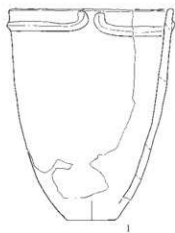
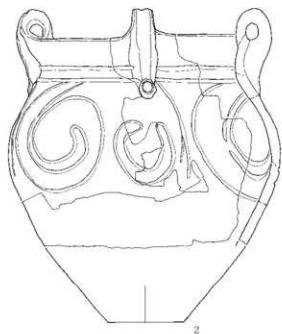
第2章 調査された遺構と遺物

248号土坑



248号土坑

1. 黒褐色土 黄色～淡黄色粒を含む。黄色～淡黄色の1cm大の粒を含む。
2. 暗黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロック混入し、締りあり。

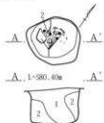


0 1:40 1m

0 1:4 10cm

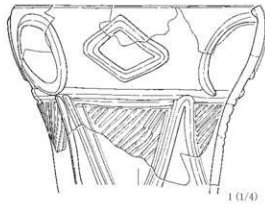
第59図 248号土坑・出土遺物

249号土坑

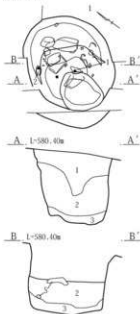


249号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒、岩片併せて3~5%。崩落層主体土層片混入多し。
2. 黒褐色土 岩片、ローム粒併せて3~5%。



250号土坑

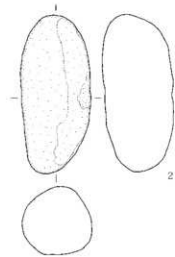


250号土坑A-A'

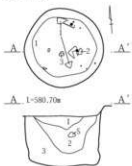
1. 灰黄褐色土 明黄褐色~灰白色粒子を含む。
2. 黒褐色土 明黄褐色~灰白色粒子を含む。
3. にふい黄褐色土 灰白色粒子を含む。

250号土坑B-B'

2. 黒褐色土 明黄褐色~灰白色粒子を含む。
3. にふい黄褐色土 灰白色粒子を含む。

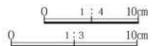
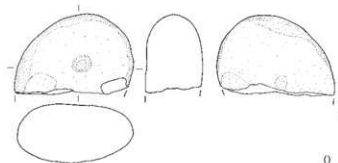
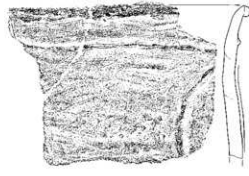


252号土坑



252号土坑

1. 黒褐色土 混入物少ない。
2. 黒褐色土 混入物少ない。
3. 黄褐色土 ローム粒、軽石粒多く含む。

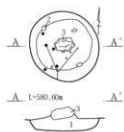


第60図 249・250・252号土坑・出土遺物



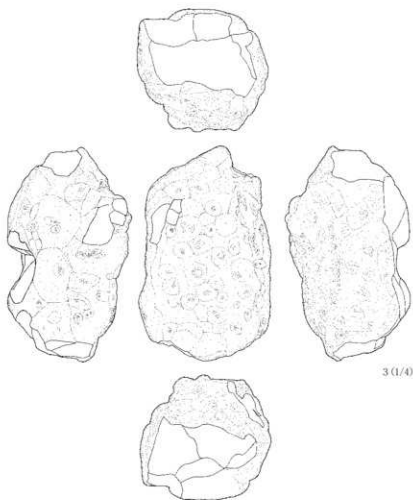
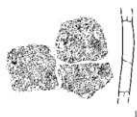
第2章 調査された遺構と遺物

253号土坑

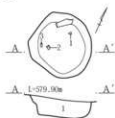


253号土坑

1. 黒褐色土 混入物少ない。

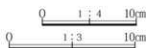


254号土坑



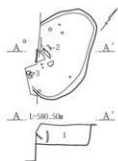
254号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒含む。縄文前期層を主体とする。



第61図 253・254号土坑・出土遺物

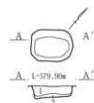
255号土坑



255号土坑

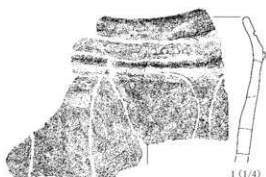
1. 黒色土 灰白色粒子を含む。黄褐色粒子を含む。砂礫を含む。

258号土坑



258号土坑

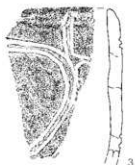
1. 黒色土 灰黄褐色シルトブロックを含む。黄色粒子を含む。  
2. 灰黄褐色土 黒色シルトブロックを含む。黄色粒子を含む。



1 (1/4)



2



3



第62図 255・258号土坑・255号土坑出土遺物

## 2 ビット

時代を特定できるビットは数少ないが、覆土が縄文時代の崩落層を主体とするもの、縄文土器を伴うものについては縄文時代のビットとして扱った。37～39号ビットは33・35号住居の北西に接してあり、56号ビットは49号住居の北東に位置する。

2号ビット 63区G-17グリッド 長円形の平面形を呈する。長軸長97cm、短軸長34cm、深さ66cm。

3号ビット 63区G-17グリッド 2号ビットに切られている。隅丸長方形の平面形と思われる。長軸長28cm、短軸長40cm、深さ58cm。2・3号どちらに帰属するか確定できないが、深鉢片が出土している。中期中葉末である。

37号ビット 62区Y-6グリッド 不定形の平面形を呈す

る。長軸長39cm、短軸長36cm、深さ20cm。中期中葉末の深鉢口縁部破片が出土している。

38号ビット 62区Y-6グリッド 隅丸台形の平面形を呈する。長軸長26cm、短軸長21cm、深さ22cm。遺物はない。

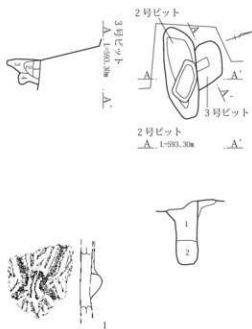
39号ビット 62区X-6・7グリッド ゆがんだ方形の平面形を呈する。長軸長33cm、短軸長26cm、深さ54cm。遺物はない。

56号ビット 63区A-3グリッド 長円形の平面形を呈する。長軸長45cm、短軸長40cm、深さ14cm。深鉢小片が出土している。弥生時代前期の所産であろうか。

59号ビット 63区B-2グリッド 不定形の平面形を呈する。長軸長28cm、短軸長24cm、深さ22cm。中期中葉の深鉢小片が出土している。

第2章 調査された遺構と遺物

2・3号ピット



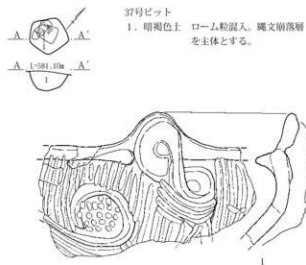
2号ピット

1. 黒褐色土 淡黄色粒子、礫含む。
2. 黒褐色土 淡黄色粒子、礫含む。全体的に酸化して変色。

3号ピット

1. 黒褐色土 明黄褐色粒子、礫含む。
2. 黒色土 明黄褐色粒子、礫含む。
3. 黒褐色土 明黄褐色粒子、礫含む。
4. 黒褐色土 明黄褐色粒子、黒色土粒含む。

37号ピット



37号ピット

1. 暗褐色土 ローム粒混入。縄文崩落層を主体とする。

38号ピット



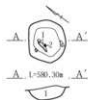
39号ピット



38・39号ピット

1. 暗褐色土 ローム粒混入。縄文崩落層を主体とする。
2. 暗褐色土 1よりも締りあり。

56号ピット



56号ピット

1. 暗褐色土 ローム粒、縄文崩落層を主体とする。

56号ピット



59号ピット



59号ピット

1. 黒褐色土 黄褐色粒子を含む。

59号ピット

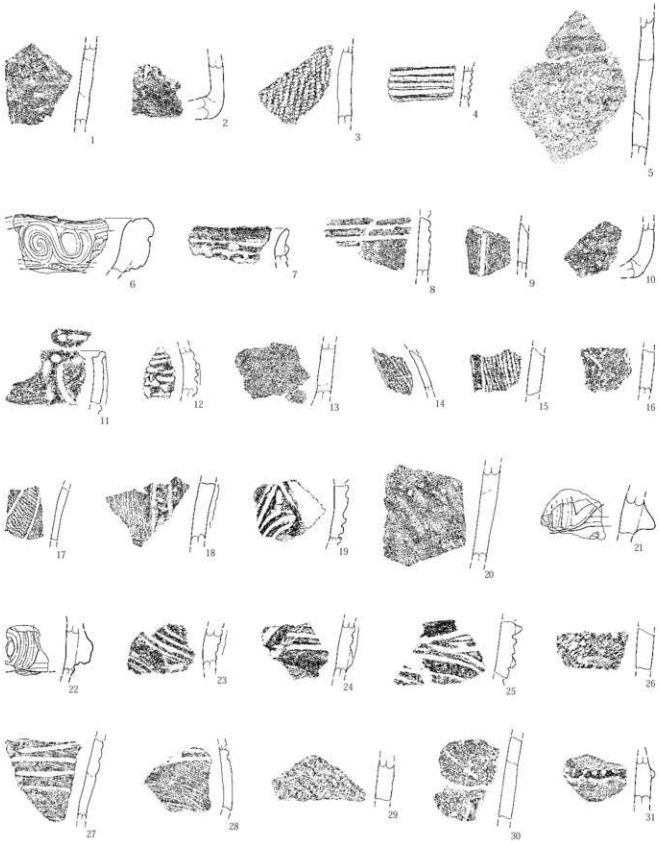


0 1:40 1m

0 1:3 10cm

第63図 2・3・37~39・56・59号ピット・出土遺物

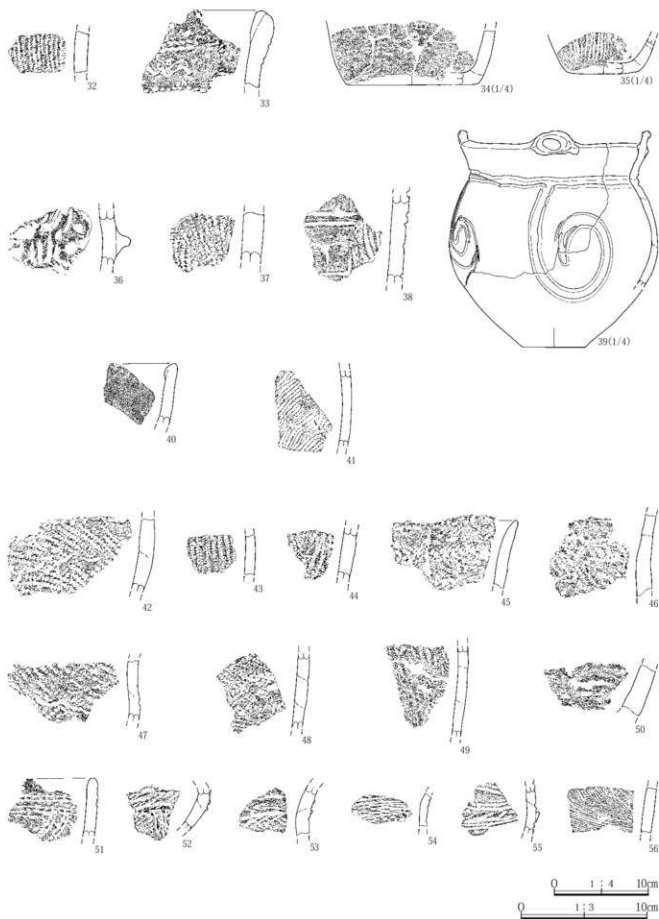
第3項 遺構外出土遺物



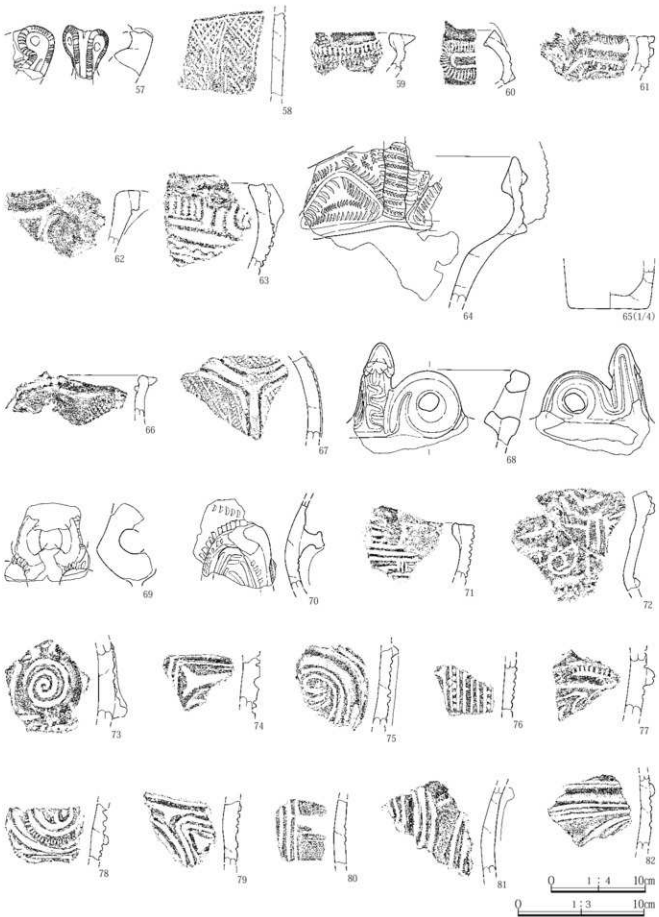
0 1:3 10cm

第64図 遺構外出土遺物(1)

第2章 調査された遺構と遺物



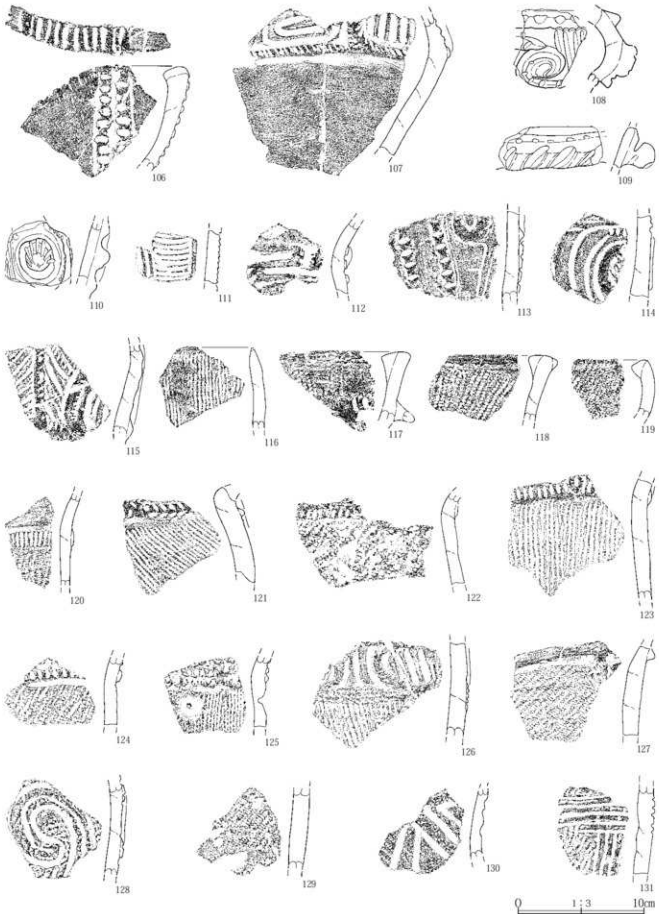
第65図 遺構外出土物(2)



第66図 遺構外出土遺物(3)

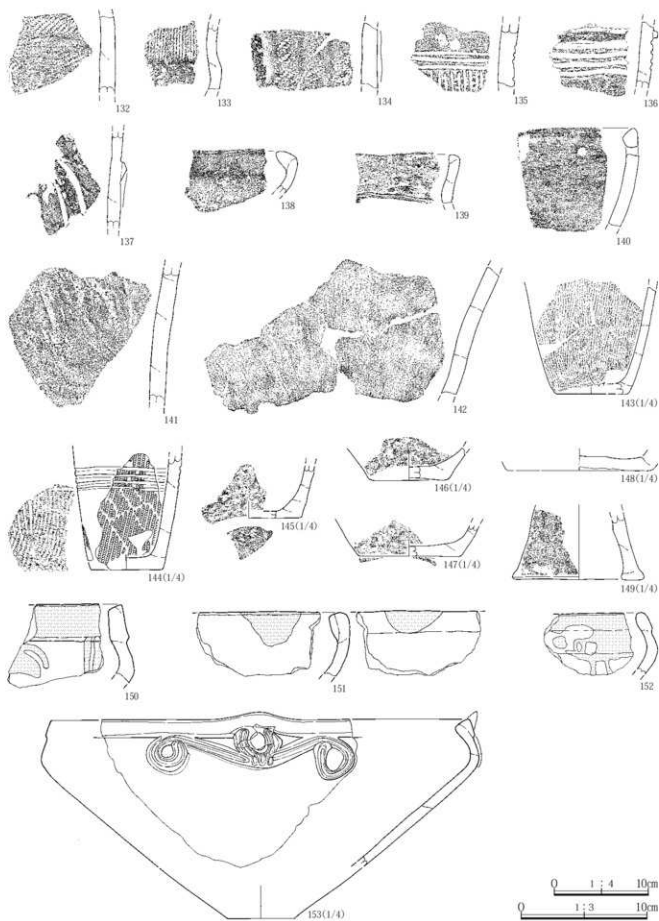


第67図 遺構外出土遺物(4)

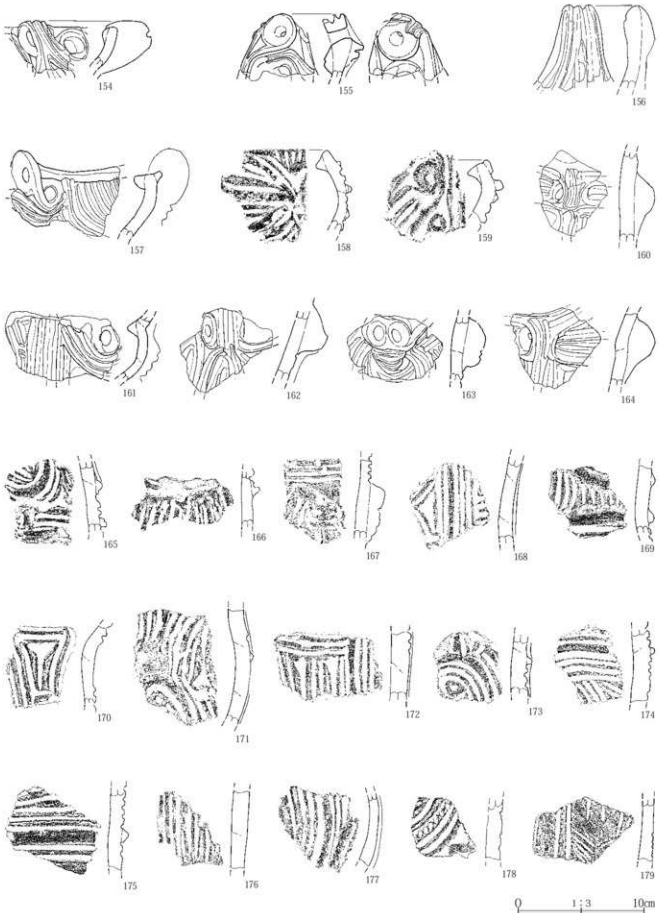


第68図 遺構外出土物(5)

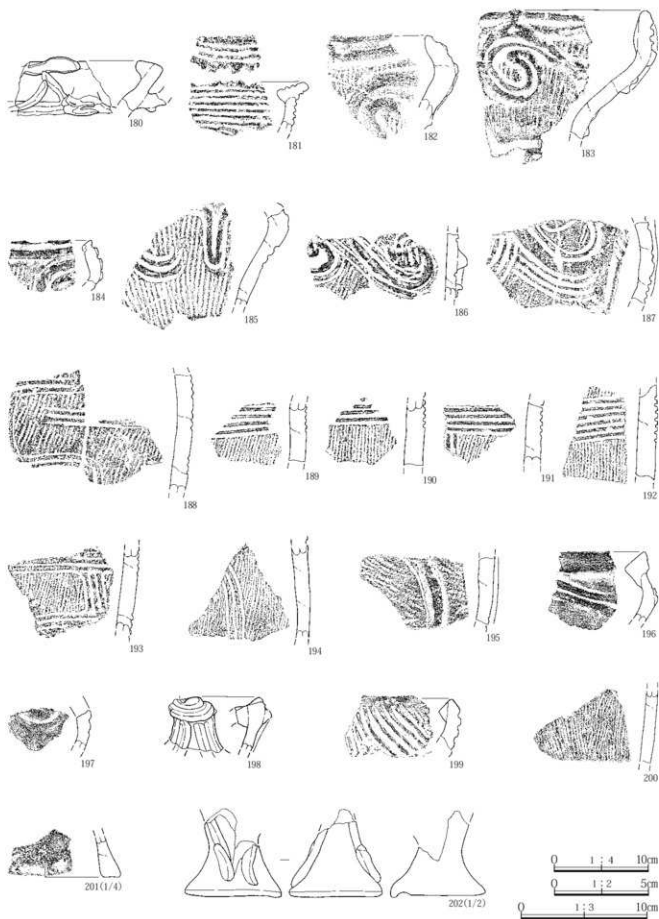




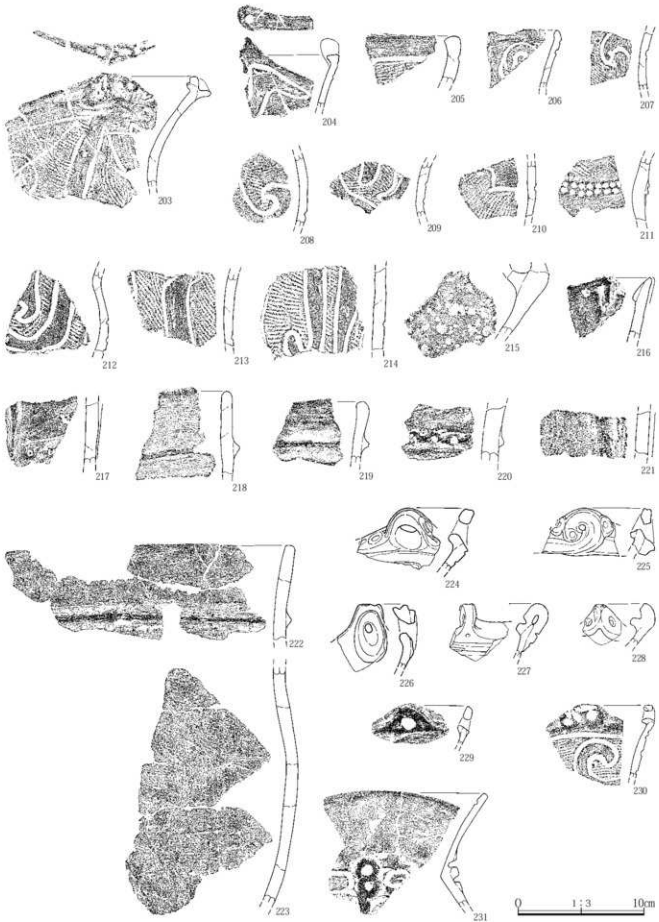
第69図 遺構外出土遺物(6)



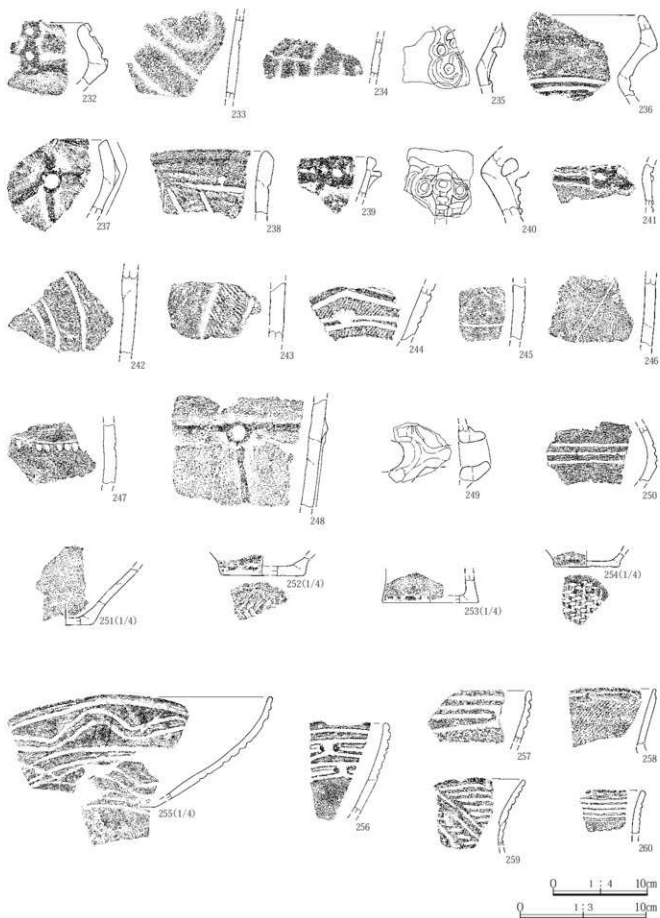
第70図 遺構外出土遺物(7)



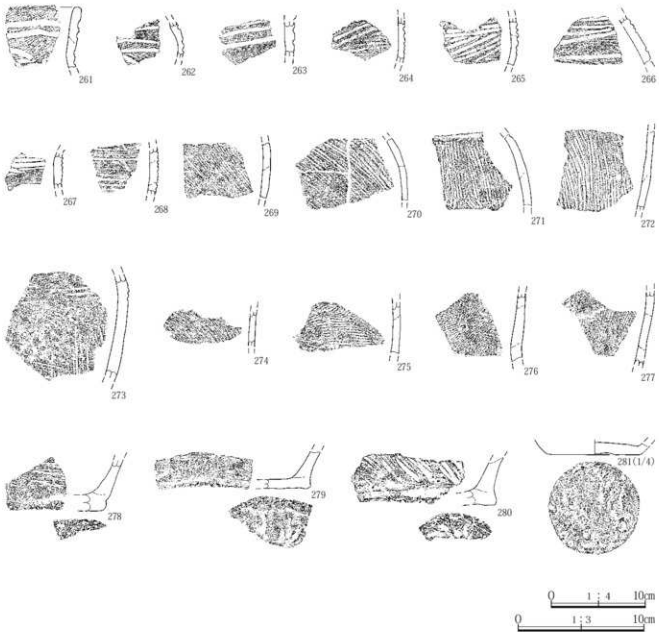
第71図 遺構外出土遺物(8)



第72図 遺構外出土物(9)

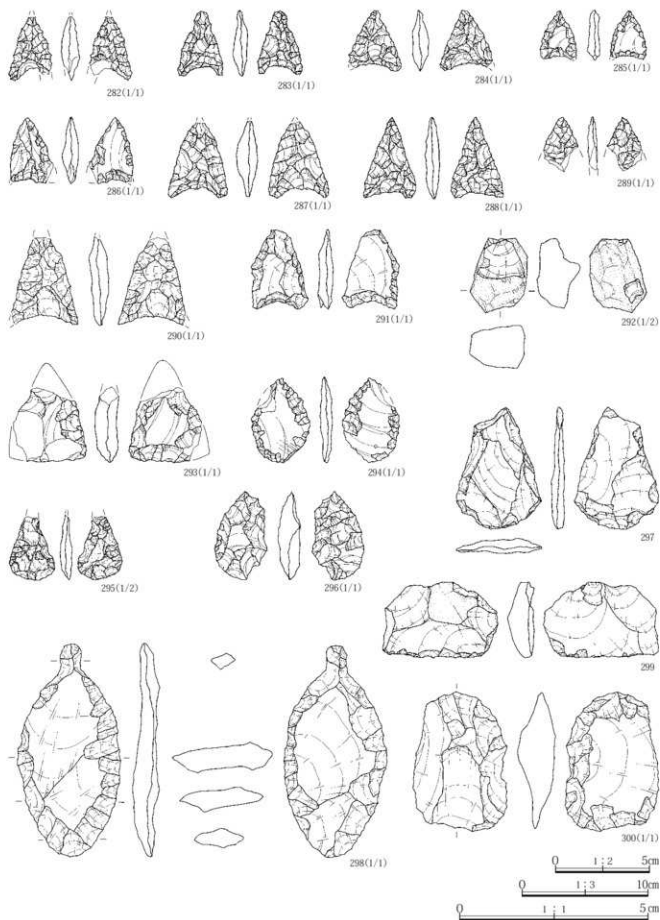


第73図 遺構外出土物(10)

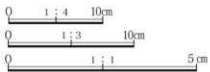
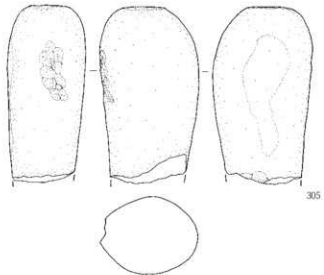
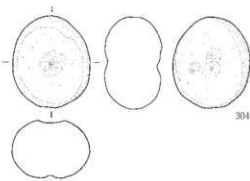
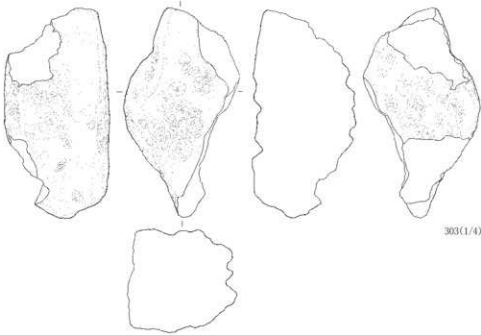
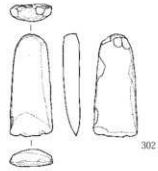
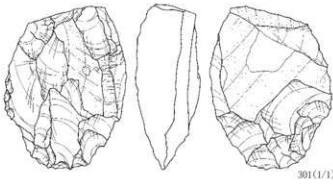


第74図 遺構外出土遺物(11)

第2章 調査された遺構と遺物

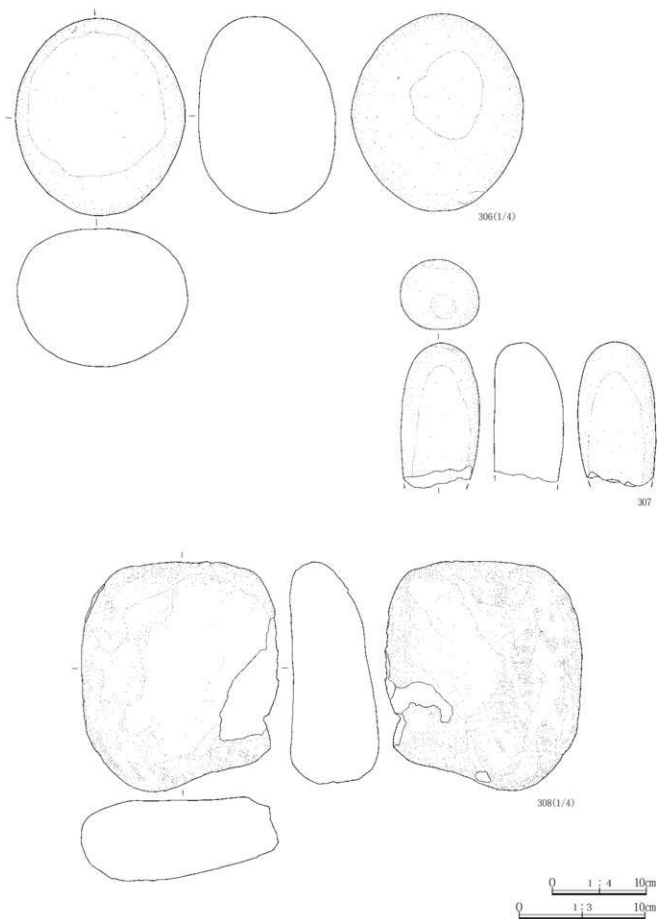


第75図 遺構外出土遺物(12)

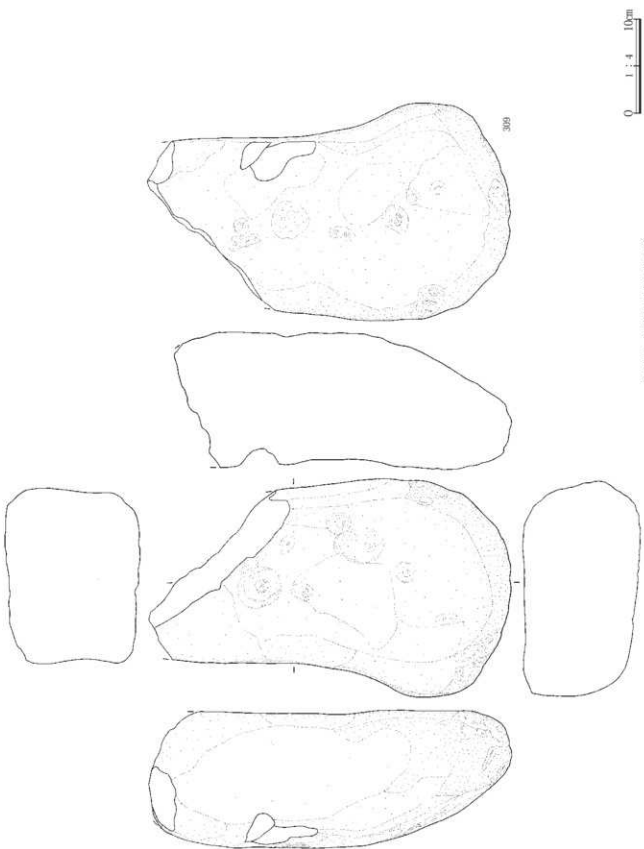


第76図 遺構外出土遺物(13)





第77図 遺構外出土遺物(14)



第78図 遺構外出土遺物(15)

## 第4節 平安時代の遺構と遺物

## 第1項 竪穴建物

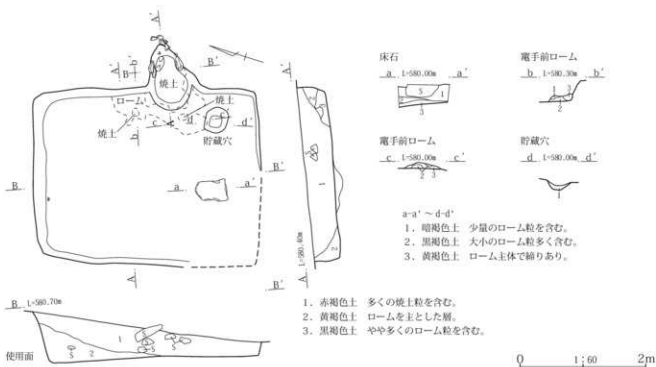
## 17号住居

位置 63区C-2グリッド

概要 調査区南西部に位置する。比較的小きな住居である。住居中央部の竈手前部分に、被熱した大型の角礫が多数投げ込まれていた。この角礫は住居中央部に集中し、調査時の所見では埋没土上層から中層にかけてあるものとされている。図では、南側のものが床面直上から出土していて、北側では床面から10cm前後浮いた覆土中で出土する状況が示されているため、住居が放棄され、埋没が始まった後に、北側から人為的に投げ込まれたものと解釈できる。

壁際には地山の状態に応じてロームを主体とする、あるいは黒褐色土を主体とする土壌の堆積が見られるが、礫を含む覆土には多くの焼土粒が含まれていて、壁際の埋没土堆積後に何らかの形で火熱が加えられたものと見られる。後述の23号住居などと同様に、住居放棄後時間を経過してから焼却され、角礫の被熱もそのときに生じたものかもしれない。

重複 南西コーナー部分を近世のものと思われる118・119号土坑に切られている。



第79図 17号住居(1)

形状 南西隅部を欠くが、南北方向にやや長い横長方形である。

構造 北半分では地山のロームを掘り込んで、このロームに少量の黒褐色土を混じた土で床面を構成する。南側は地山が黒褐色土であるため、これを主体として、少量のロームを混じた土で床面を構成していた。

竈右側に小穴がある。貯蔵穴と考えると良い位置であるが、深さが床面から13cmと浅く、性格の確定はためらわれる。柱穴は掘られていなかった。南壁面近くの床面に50×35cm厚さ20cmの上面平らな石が埋め込まれていた。石の上面は床面と同じ高さとなっており、明確な使用痕跡は観察されていないが、住居使用段階において、台石等の用途で使われていたものと思われる。

規模 南北方向3.6m、東西方向2.8m 壁高は残りのよい北東コーナー部分で0.80mである。

遺物 須恵器環、高台壇、土師器甕等の破片が出土しているが、出土数は少ない。

## 17号住居竈

位置 東壁面の南よりの地山を掘り込んで設けられている。

構造 地山の黒色土を掘り込んで造られている。黄褐色ローム土を構築材としており、燃焼部奥壁近くには構築材に用いられたと見られる石が残っていた。袖石や焚き

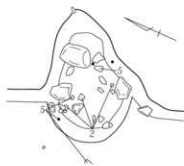


覆土中の出土状況

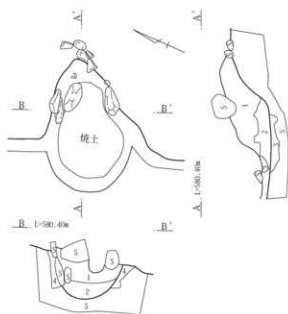


遺物出土状況

0 1:60 2m



甕遺物出土状況

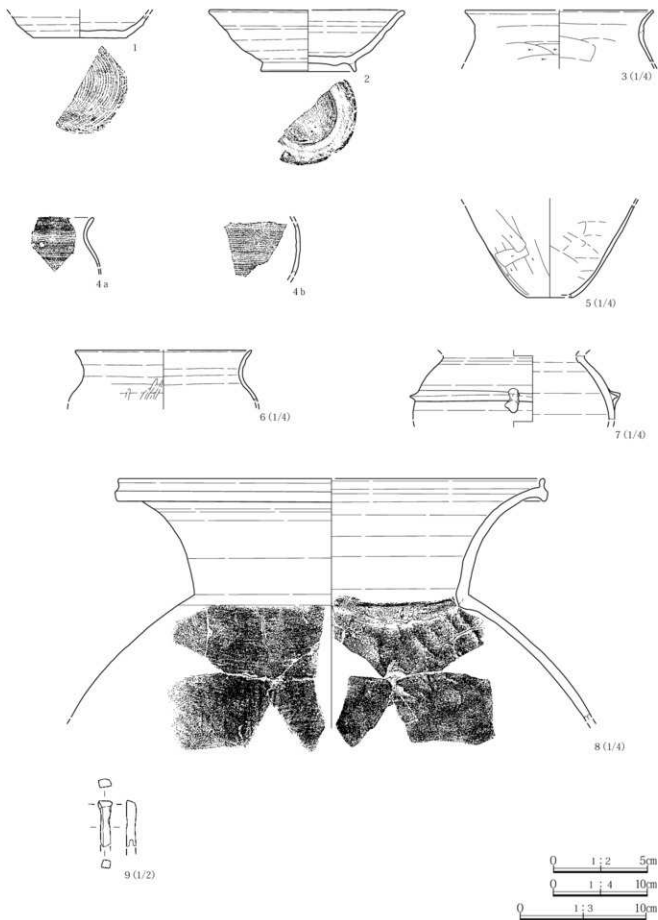


甕使用面

1. 黒色土 少量の焼土粒を含む。
2. 黒褐色土 多くのローム小ブロックと少量の焼土粒を含む。
3. 黄褐色土 ロームを主とする層。少し焼土化している。
4. 暗褐色土 多くのローム小ブロックと少量の焼土粒を含む。
5. 黒色土 少量の黄。

0 1:30 1m

第2章 調査された遺構と遺物



第81図 17号住居出土遺物

口の構造は失われており、支脚等の有無も判然としないが、川原石を構造材とし、ローム土を貼って竈が築かれていたのもであろう。竈の手前及び左手には構築材のローム土と焼土ブロック、黒色土のブロックが床面を直接覆う状態で分布しており、特に竈左手ではローム土が盛り上がった状態が観察されている。

燃焼部床面はほぼ全面が焼けて焼土化していた。竈を断ち割ってみると、燃焼部の焼土面の下に幅広い焼土層が確認され、竈構築に際して壁面から床面にかけてを大きく掘って構築土のロームを貼ったことがわかる。

規模 煙道部方向残存長110cm 袖方向巾90cm。

遺物 焼土、炭化物の中から若干の土器片が出土している。

### 23号住居

位置 63区B-6グリッド

概要 調査区中央南に位置する。竪穴の覆土と地山との違いがほとんど無く、掘り上がりの形状は明確であるが、黒色土内での遺構範囲の確認は非常に困難であった。住居規模は長辺が7mに近く、この遺跡の平安時代住居としては特に規模が大きい。竈は石組であり、非常に残りが良好であった。焼失住居であり、住居内から多くの焼土と炭が出土した。住居覆土上面から貞観永寶が出土して注目される。

重複 住居中央から南西部分にかけて同じ平安時代の29号住居によって約1/4ほど掘り込まれていた。また当住居より一回り小さい規模の48号住居が、当住居の真下に重なっていた。南部分は縄文時代の46号住居と重複している。さらに同じく平安時代の所産と考えられる242号土坑、近世のものと考えられる178号土坑により、西壁面近くを床面下まで掘り込まれていた。新旧関係は46号住居→48号住居→23号住居→29号住居→242号土坑→178号土坑である。

形状 東西方向に少し長いほぼ正方形の住居である。

構造 床面は、地山がロームとなっている北側、地山が黒褐色土となっている南側、真下で重複している48号住居部分で異なる。地山の残る北側と南側は、地山を削って、部分的に少量のローム混入の黒褐色土を貼って床面を構成していた。48号住居との重複部分では、48号住居覆土上面に大量のローム混じりの土を盛って床面としてい

た。床面中央付近は埋土であるが、踏み固められた堅い床面となっていた。貯蔵穴は掘られていなかった。通常4m以上の規模では柱穴が四隅に掘られていることが多い。しかしこの住居は7m前後の大きな住居であるにもかかわらず、多くの小穴は確認されたが、明瞭な柱穴は掘られていなかった。小穴は断面図で表示した。断面図の無いものは数字で深さを示した。北側壁面の下に周溝が掘られていた。

規模 東西6.9m 南北6.8m、壁高は北面で0.85m 南面では0.15m。

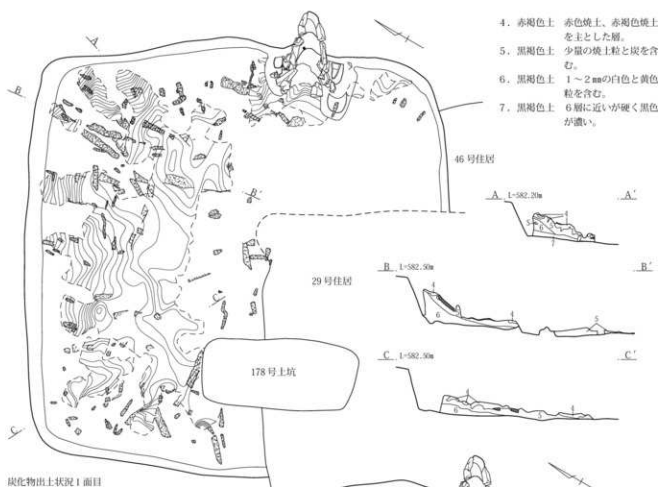
遺物 土師器の甕、須恵器壺・環、羽釜等の破片などが覆土中に多く含まれている。環には墨書を伴うものがある。貞観永寶が出土しているが、床面から30～40cmほど高い覆土上層中にある。刀子、鎌、鏝かと思われる鉄製品が出土しているが、これも覆土中位以上ものが多い。炭化したモモ核が多く出土している。床面近くから覆土下位にあるが、そのほとんどにアカネズミによる食痕が残されている。住居内の土壌サンプリング資料から、マタタビ属、タデ属、アカザ属、アカネ属、ツクサ、スゲ属などの雑草種実とともに、ササゲ属アズキ垂属アズキ型、ママ科、オオムギ、コムギ、オオムギ-コムギ、ヒエ、イネ、キビ、アワなどの作物種実が炭化資料として出土している。定量的な比較は困難であるが、アワ、オオムギが比較的多いという傾向が認められる。

### 23号住居竈

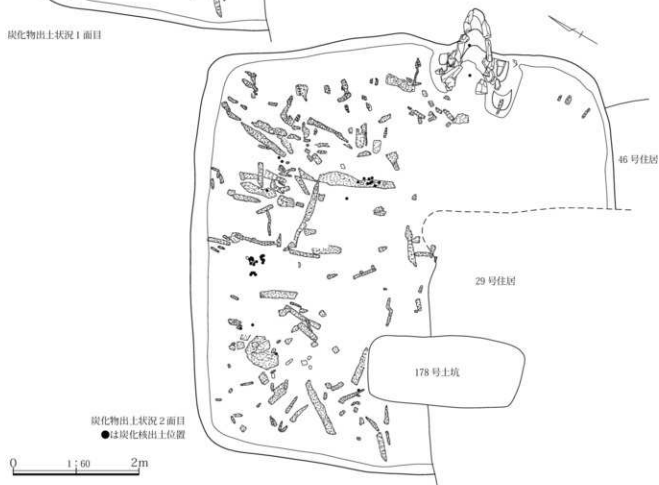
位置 東壁面の南よりを掘り込んで造られていた。焚き口部分と燃焼部の多くは床面上に造られ、煙道部は壁面を掘り込んで造られていた。

構造 焚き口部分の天井石は残っておらず、支脚の有無も不明であるが、壁との接合部より奥側の燃焼部天井石や壁石は残っていた。扁平な角礫を壁石とし、天井石は比較的大ぶりの角礫を用いている。竈内はほぼ全面が焼けて焼土化していた。地山は黒色土であるため、構築材のローム土が焼土化したものである。竈を断ち割ってみると、燃焼部の焼土面の下にも焼土面が確認され、竈を造る段階で一度基礎部分を大きく掘ってローム土を貼り、これを焼いて焼土化させた後、石を配し、さらにローム土を貼って竈を築いたことが示されている。

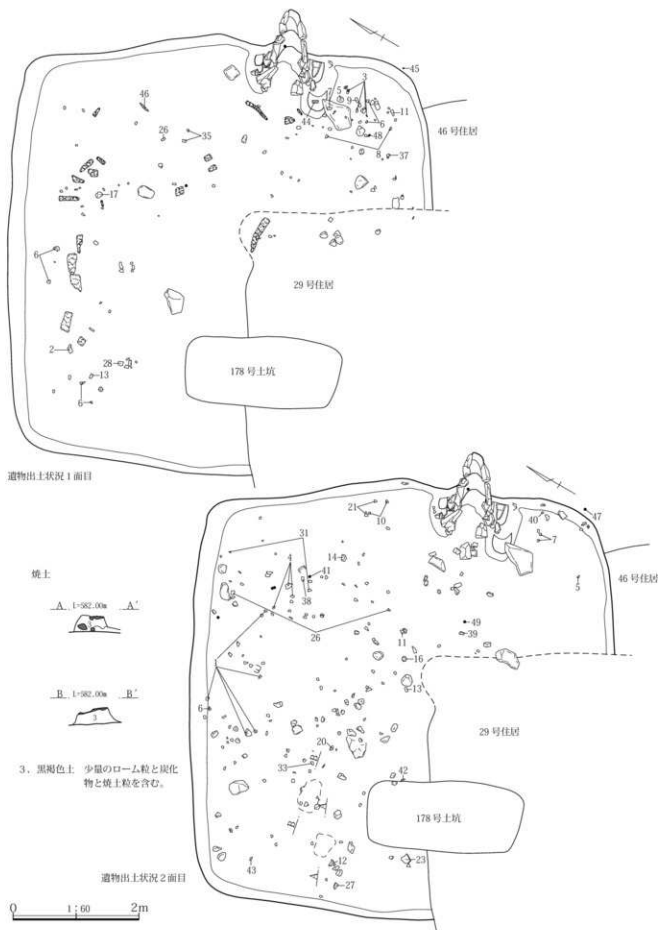
規模 煙道部方向140cm 袖方向90cm 燃焼部幅約40cm。  
住居焼失の状況 竈から南部分の床面上に多くの焼土と



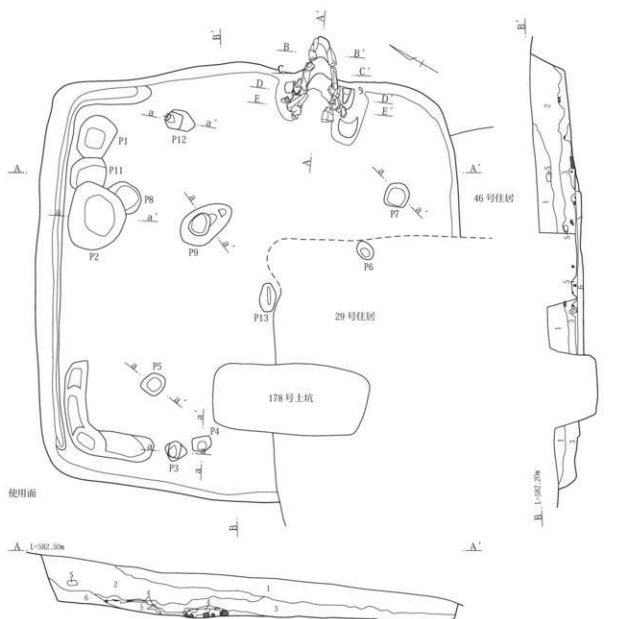
炭化物出土状況1面目



第82図 23号住居(1)







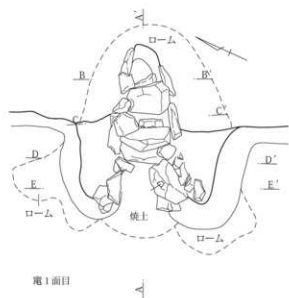
- |                             |                          |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1. 黒褐色土 少量のローム粒と僅かな炭化粒を含む。  | 5. 黒褐色土 少量の焼土粒と炭を含む。     |
| 2. 黒褐色土 1層より多くのローム粒とパミス混入。  | 6. 黒褐色土 1～2mmの白色と黄色粒を含む。 |
| 3. 黒褐色土 少量のローム粒と炭化物と焼土粒を含む。 | 7. 黒褐色土 6層に近いが硬く黒色が濃い。   |
| 4. 赤褐色土 赤色焼土、赤褐色焼土を主とした層。   |                          |



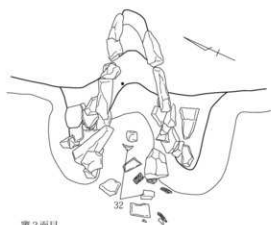
P2～5・7・9・12  
1～3. 黒褐色土 少量の焼土粒と炭を含む。

0 1:60 2m

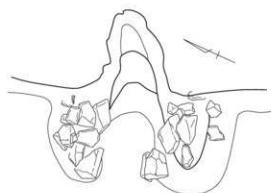
第84図 23号住居(3)



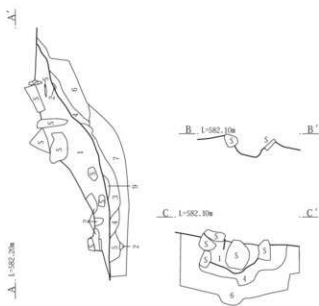
電1面目



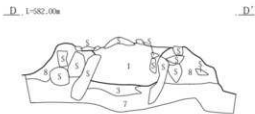
電2面目



電3面目



A. 1:582.20m



D. 1:582.00m

D'

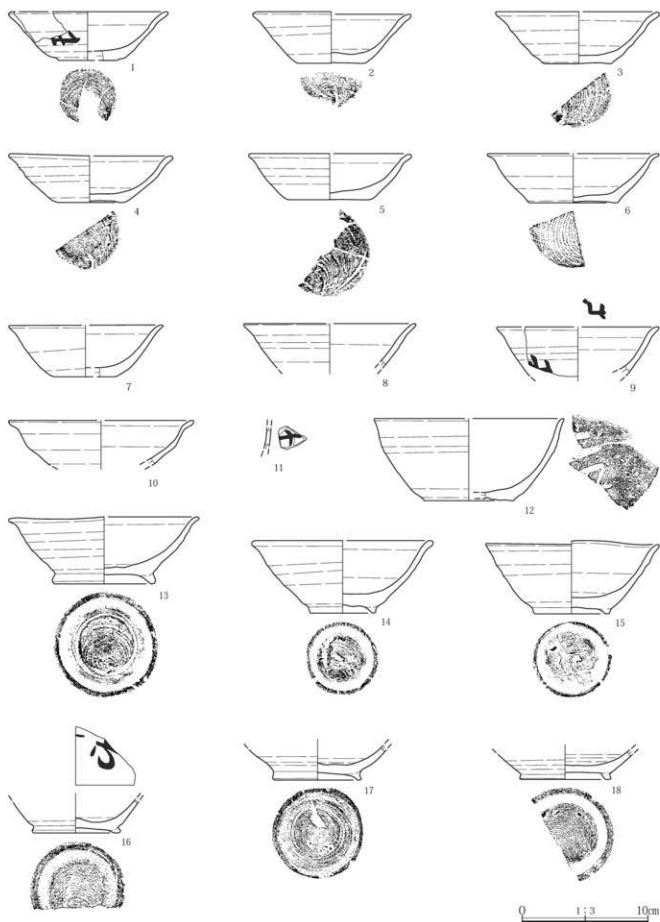


E. 1:582.00m

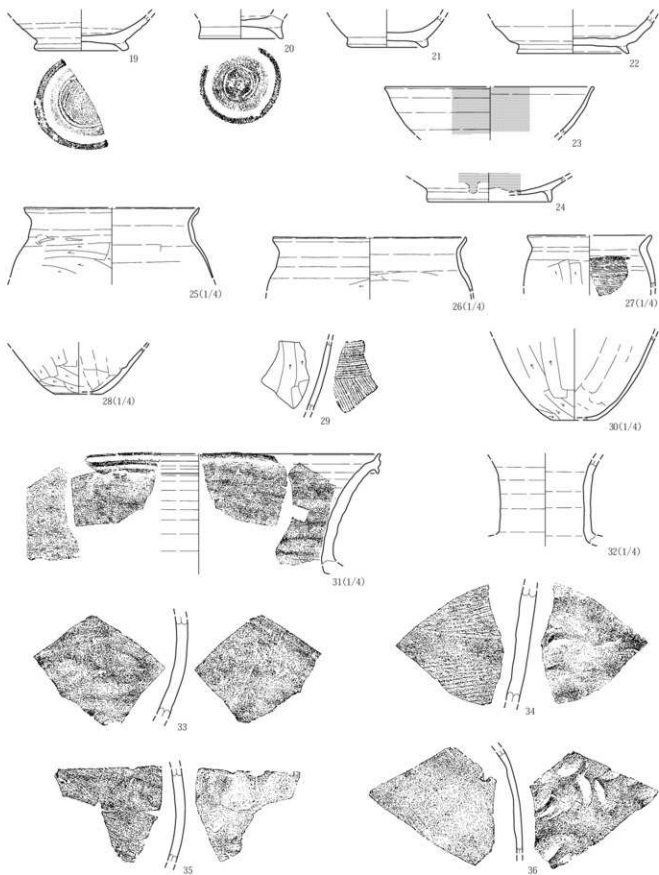
E'

1. 暗褐色土 少量の焼土粒を含む。
2. 赤色土 焼土ブロックを主とした層。
3. 赤色土 焼けて焼土化した部分(焼土ブロックの混入なし)。
4. 暗褐色土 多くの焼土粒を含む。
5. 黒褐色土 少量の焼土粒を含む。
6. 暗褐色土 1~3mmの黄色の軽石を多く含む。
7. 暗褐色土 1~3mmの黄色の軽石を多く含む。
8. 暗黄褐色土 多くの黄色粘土を含む。少量の黒褐色土を含む。
9. 黒褐色土 少量の焼土粒と多くの炭を含む。

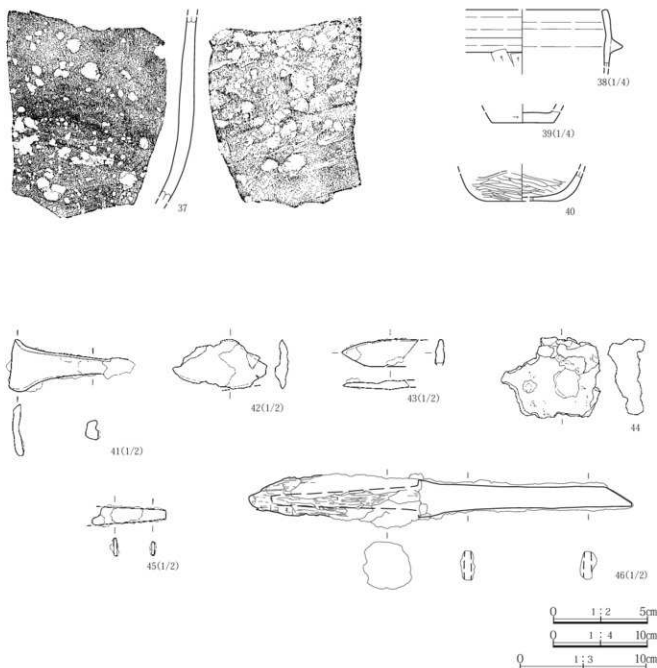
0 1:30 1m



第86図 23号住居出土遺物(1)



第87図 23号住居出土遺物(2)



第88図 23号住居出土遺物(3)

住居の建築材と思われる部材が折り重なるように出土した。この焼土を検出面に残して、等高線により堆積状況を調べてみた。その結果壁面部分では床面から30~50cmと厚いが、床面中央部になると5cmと浅くなっており、すり鉢状の堆積であった。北に近接する13号住居も焼失住居であるが、基本的に焼土の下から炭が出ており、本住居では焼土の上下に炭化材がある。焼失の状況がやや異なっていたようである。13号住居に見られた壁面の焼土化は無かった。炭は13号住居に見られたような、放射状の堆積はしていない。上屋構造を反映していないよう

である。事前に竈を解体し、上屋を解体し、必要部材を取り外したのちに火をつけたものと思われる。

また、モモ核がアカネズミの食害を受けた後に炭化している点にも注意したい。この住居の住人が貯蔵したモモ核が食害されたか、アカネズミの貯食行動によるものか判断がたいが、いずれにせよモモ核がアカネズミの食餌になるような状態が生じた後に、火を受けた可能性が高いことになる。この遺跡における遺構生成過程を示唆する資料かもしれない。

## 25号住居

位置 62KY/63区A-6・7グリッド

概要 調査区南東部の標高581～582mにかけての傾斜面にある。横長方形の平面形を有するやや小型の竪穴建物で、竈を東壁南寄りに設ける。主軸はN-30°-Wにおくが、これは等高線にほぼ沿った方向である。床から壁の立ち上がりにかけては、少量の灰白色土粒を含む黒褐色土が堆積するが、住居覆土の主体は灰白色土粒とローム粒を少量含む暗褐色土である。また、覆土上位に焼土の粒や小ブロックを含む部分が認められたが、焼失的な状況を示すものではない。

重複 171号土坑(近世墓か)に切られる。

形状 南北向に長い横長方形の平面形である。

構造 柱穴や周溝は認められていない。貯蔵穴も認められていないが、一般的な相当位置である東南隅部近くを171号土坑に切れ、かつ南壁は傾斜下位にあたって明確にとらえられていないため詳細が把握できない。竈右手にあたる東壁南部は北部の延長線上では確認されておらず、東壁が竈の左右で食い違い、棚状の構造を有した可能性を考えるべきかもしれない。床面には凹凸があり、顕著な硬化も捉えられていない。

規模 東西方向2.6m 南北方向3.5m。壁高は傾斜上位に当たる北隅部で0.56mあるが、傾斜下位の南西側では建物輪郭のみしか確認できない。

遺物 土師器甕、須恵器環が出土しているがいずれも小破片である。1の土師器甕は主体的な破片が竈左手の床面から出土している。5の須恵器環は住居西壁近くの中央付近に主体的な破片がある。

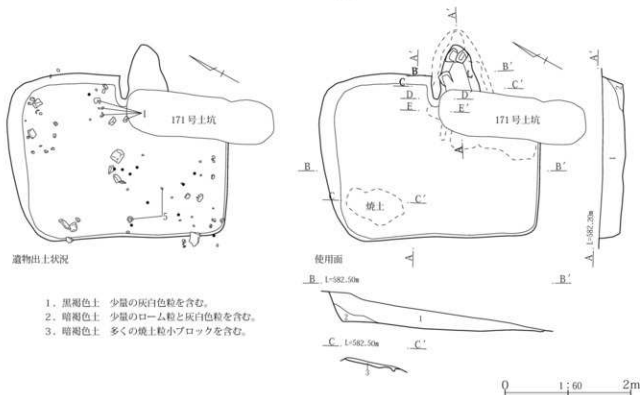
## 25号住居竈

位置 東壁南よりの壁面を掘り込んで造られる。燃烧部の過半は壁外に当たる。

構造 壁面の地山を大きく掘り込んで、ロームを混じた暗褐色土を貼って全体を構築している。袖石の下にも焼土が回るため、掘方にロームを貼ってから一度焼き締めた後に竈本体を構築するという手順が復元できる。焚き口部は171号土坑に切られてわからない。燃烧部右壁中央には構造材と思われる角礫が据えられている。燃烧部は強く焼けており、竈前には構築材の残骸と思われる焼土粒、小ブロックを含んだ暗褐色土が広がる。

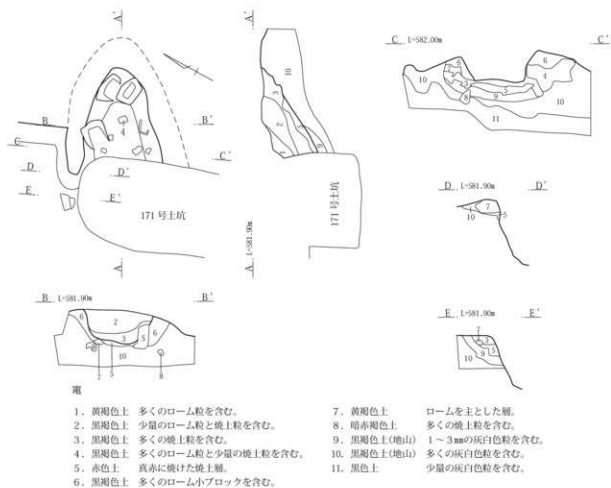
規模 残存する左袖部前端から燃烧部奥壁までの長0.98m、燃烧部最大幅0.6m。

遺物 燃烧部内から4の土師器甕片などが出土している。



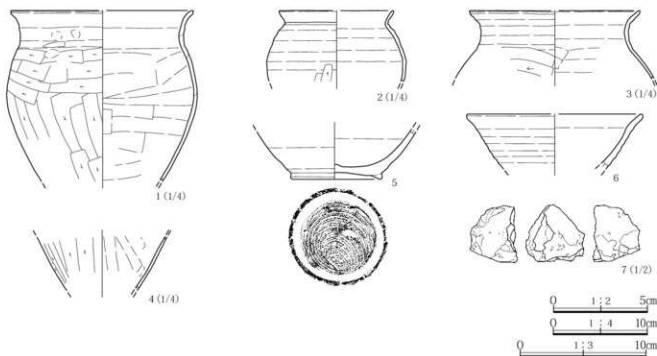
1. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。
2. 暗褐色土 少量のローム粒と灰白色粒を含む。
3. 暗褐色土 多くの焼土粒小ブロックを含む。

第89図 25号住居(1)



0 1:30 1m

第90図 25号住居(2)



第91図 25号住居出土遺物

## 27号住居

位置 53区N・0-18・19グリッド。

概要 調査区の南西端、やや南に傾斜を持つ場所にあり、焼土および炭化物の集中部が確認されたことから、当初は15号焼土として調査を行ったが、整理作業を進める中で住居と判断した。南東側半分は、近世の屋敷地を作る際に削られている。西側に直線的な壁の落ち込みと北西部のコーナーを確認している。竈は確認されず、東側にあったと思われるが壁自体ほとんど削平されており不明である。床面も明確には捉えられない。大量の焼土、炭化物の存在から焼失住居と考えられる。

重複 一部削平を受けてはいるものの他の遺構との重複は無い。西側に221号土坑(平安時代)が接している。

形状 隅丸の長方形あるいは方形と考えられる。

構造 前述した様に西側の一部のみの残存であるため、竈等も含め全容は不明である。

規模 南北方向は残存長で約8mとかなり大型と判断される。深さは約40cmを確認している。

遺物 焼土、炭化物の中より若干の土器片が出土している。

## 29号住居

位置 63区B-5グリッド

概要 調査区中央南に位置する。23号住居を掘り進んでいく中で、竈が確認され住居の存在が明らかとなった。しかし住居の覆土と地山との違いがほとんど無く、住居範囲の確認はほとんど出来なかった。慎重に掘り下げていく中で、覆土上面に焼土の広がりや確認されその範囲が住居の範囲であることが次第に明らかとなった。また薄い層であったが、覆土上面に粕川テフラ起源と思われるパミスが住居西側を中心に確認された。平安時代の竪穴住居の中でもっとも新しい住居であることが明らかとなった。

重複 住居北側で同じ平安時代の23号住居と重複しており、23号住居と48号住居の南東部分を本住居が掘り込んでいる。東側部分は縄文時代の46号住居と重複している。さらに北壁面近くを178号土坑により床面下まで掘り込まれていた。178号土坑の西に接する242号土坑と、当住居の南壁面部分で重複している218号土坑は本住居より古い。新旧関係は46号住居→48号住居→23号住居

→29号住居→242号土坑→178号土坑である。

形状 ほぼ正方形である。

構造 床面は、地山がロームとなっている北西部分以外地山の黒色土となっており、ローム粒等の混入した床面は造られていなかった。また踏み固められた床面もなく、遺物の出土も少なかった。そのために床面の検出は非常に困難であり、床面を確認できずに掘り抜いた部分もあった。西壁及び南壁に沿って焼土塊が認められる。北西部分に土坑が掘られており、覆土上面に焼土と炭が埋まっていた。貯蔵穴としては位置がおかしいが、貯蔵穴として扱った。大型の竪穴建物にもかかわらず、柱穴は確認できない。

規模 東西方向5.15m 南北方向5.1m、壁高は残りのよい北面で0.44m 残りの悪い南面では壁面は残っていなかった。

遺物 羽釜、須恵器杯、高台埴、甕などの破片が出土しているほか、雁又鐵、鎌かと思われる板状鉄製品があり、鉄滓も竈石手前近くに集中して出土している。

## 29号住居竈

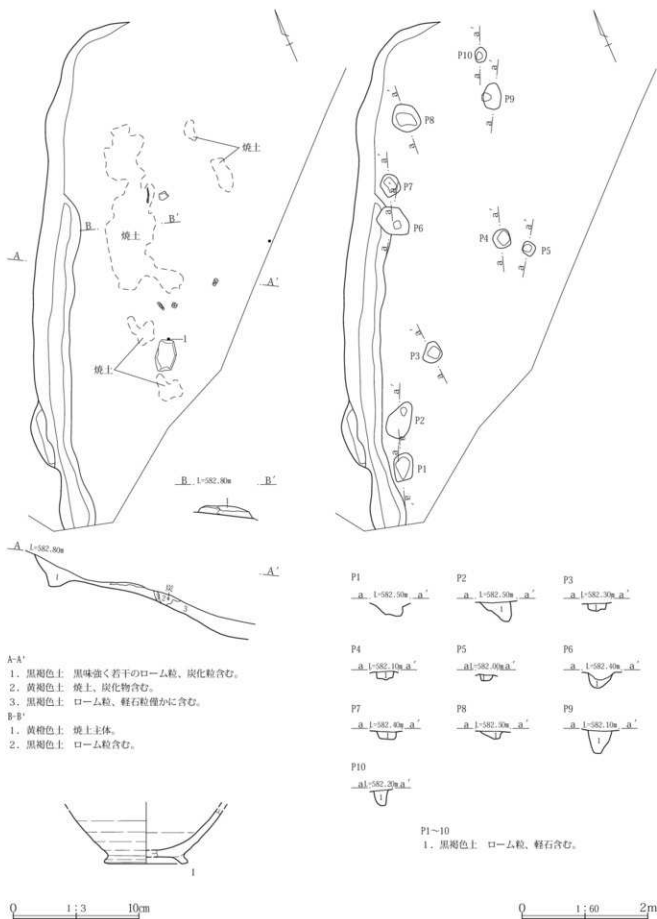
位置 北壁東端にある。燃焼部はほぼ壁内に置かれ、煙道部を壁のラインよりやや斜めに、北側に向けて掘り込んで造られていた。

構造 残りのよい竈である。焚口の天井石は落とされていたが、燃焼部奥から煙道部にかけては角礫を壁石とし、天井石を載せている。23号住居の覆土中に作られたためか、上部構築材にはロームが見られず、黒褐色土が主体である。また、燃焼部中位には円筒状の異形土器、奥壁近くには甕胴部状の異形土器が構築材として用いられていたらしい。燃焼部床面にはロームが貼られていたらしく、ほぼ全面が、焼けて焼土化していた。截頭四角錐状の礫を用いた支脚石が据えられた状態で、燃焼部中央に残っていた。土鍋を1個掛けで用いた竈であろう。

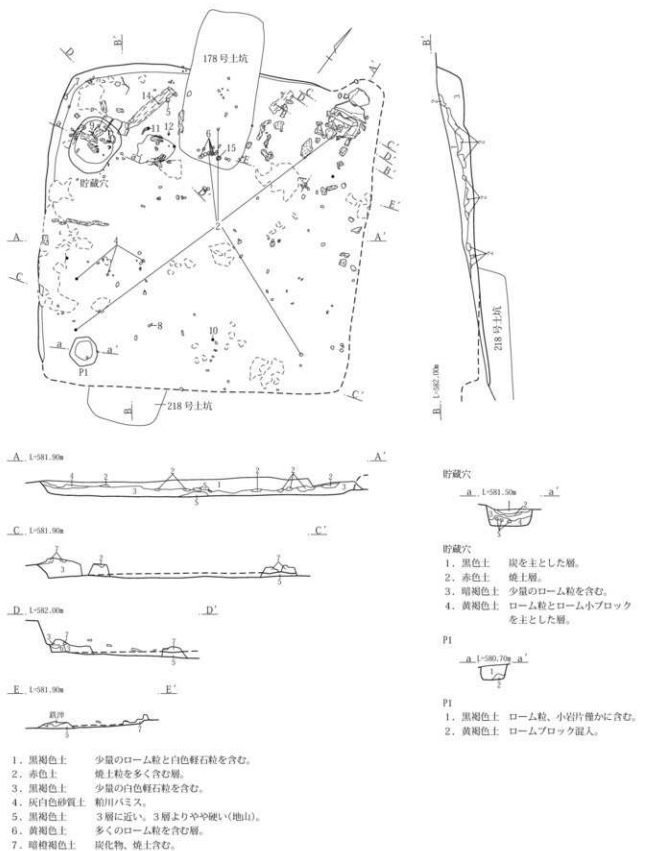
規模 煙道部方向110cm 袖方向90cm 燃焼部幅約40cm。

遺物 土師製の異形土器2点が竈から出土した。粗製の円筒形土器と甕の胴部に似た形状の土器で、調査時には甕として認識されているが、作りの悪さ、出土状況から見て竈の構築材として作られたものであろう。また、僅かながら焼骨片が出土している。

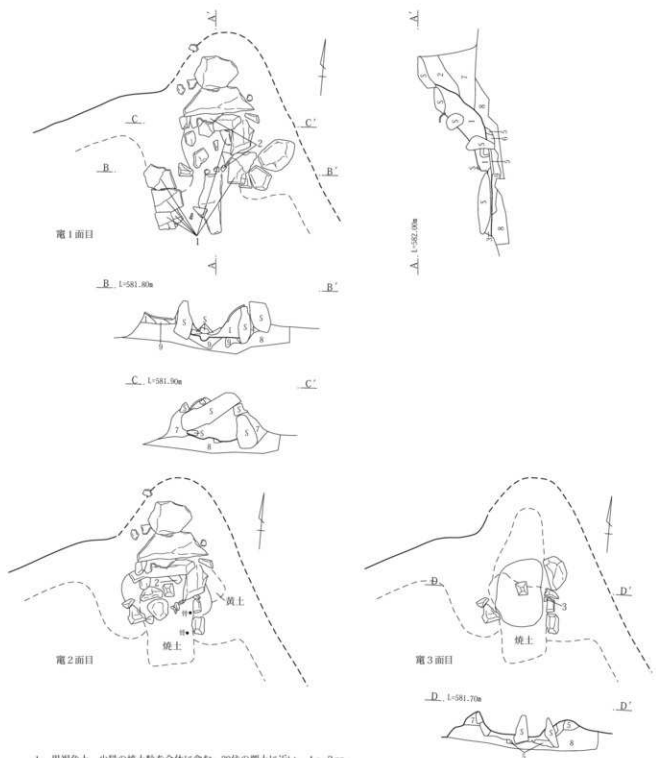




第92図 27号住居(15号焼土)・出土遺物



第93図 29号住居(1)

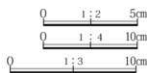
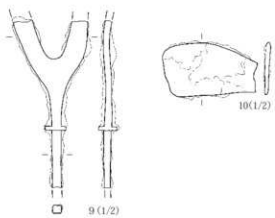
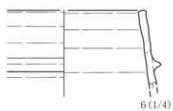
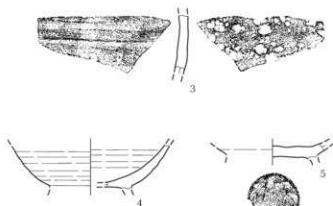
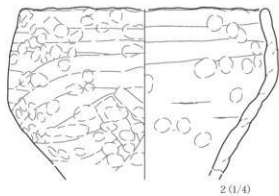
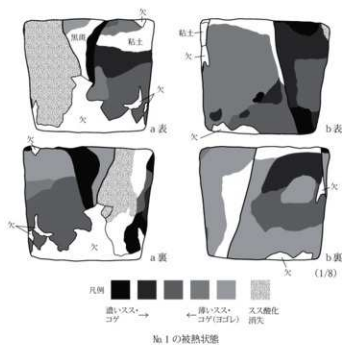
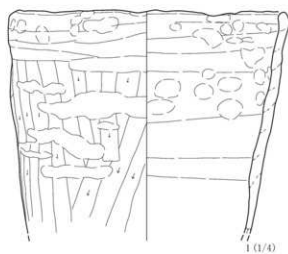


1. 黒褐色土 少量の焼土粒を全体に含む。29住の覆土に近い。1～2mmの白色粒や黄色の粒子を含む。量は少ない。
2. 黒褐色土 1層に近い。焼土粒はほとんど含まない。
3. 黒褐色土 少量の焼土粒と炭を含む。
4. 黒褐色土 少量の焼土粒とロームを含む。
5. 黄褐色土 ロームブロック。ローム層。
6. 黒褐色土 多くのローム粒と焼土粒を含む。
7. 黒褐色土 23住覆土。1～2mmの白色粒を多く含む。やや茶色。
8. 黒褐色土 23住床下覆土。7層に近い。やや黒色が強い。
9. 赤色土 真赤に焼けた焼土層。黒褐色土等混入していない。

0 1:30 1m

第94図 29号住居(2)

第4節 平安時代の遺構と遺物



第95図 29号住居出土遺物

32号住居

位置 62区Y-4グリッド

概要 調査区南西部南端に位置する。住居の南側約半分が調査区域外のために調査できなかった。東壁に竈を持つ平安時代の住居と思われる。

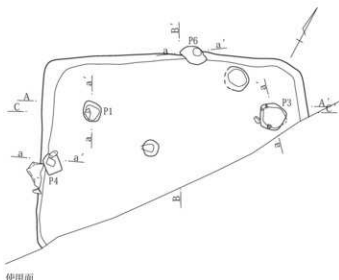
重複 なし。

構造 床面は、地山のロームを掘り込んで黒褐色土が混

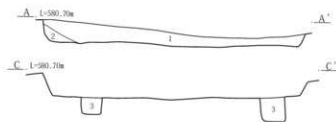
入した土で作られていた。踏み固められた床面は確認できなかった。貯蔵穴は確認できなかった。小穴が多く掘られていたが、柱穴と特定できるものは無かった。

規模 東西方向4.2m 南北方向不明、壁高は残りのよい北西コーナー部分で53cmである。

遺物 覆土を中心に須恵器類、環など多くの破片が出土した。



使用面

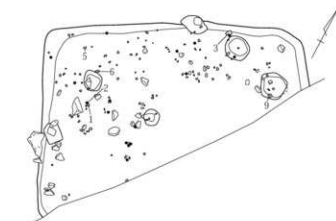


1. 暗褐色土 少量のローム粒と灰白色粒を含む。
2. 暗褐色土 少量の黒色土小ブロックを含む。
3. 黒色土 少量のローム粒を含む。



P1・3・4・6

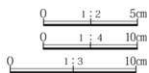
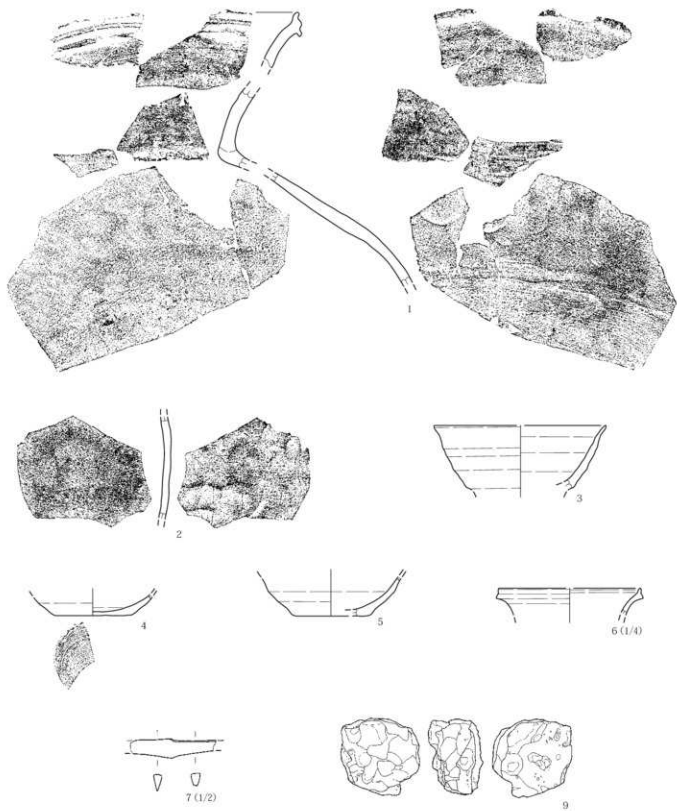
1. 黒色土 少量のローム粒を含む。
2. 暗褐色土 少量のローム粒を含む。
3. 暗褐色土 少量のローム小ブロックを含む。



遺物出土状況



第96図 32号住居



第97図 32号住居出土遺物

38号住居

位置 63区G-7グリッド

概要 調査区南西部に位置する。標高の高い北側の土砂が堆積してできた地山を掘り込み、ほぼ同じ土で埋まっていた。地山と覆土の違いは、地山に多く含まれる黄色で軟質の石を多く含む土層が地山であり、小さな石を少量含む土が住居の覆土であった。竈付近から南側の壁面は確認できなかったため、遺物と焼土の分布状況から住居範囲を想定した。

重複 なし。

形状 南北方向にやや長い縦長方形と想定される。

構造 床面は地山の黒色土であり、ローム等の持込みはない。特に堅く踏み固められた床面も無い。床面上には多くの炭化材が残っており、焼失住居と思われる。また

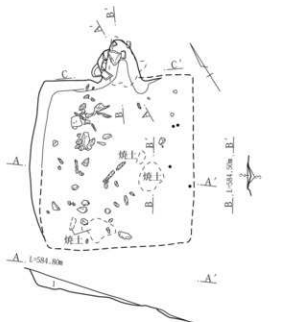
床面に3か所焼土化した面があった。焼失段階で焼土化したことも考えられるが、土層断面B-B'で示した焼土では、床下部まで焼土化していたので、炉等として使用した可能性があるものと思われる。貯蔵穴や柱穴は掘られていなかった。

規模 北東部しか壁が確認されていないため確定できない。床面と考えられる広がり東西約2.4m、南北方向約2.7m、壁高は残りのよい北東コーナー部分で31cmである。

38号住居竈

位置 北壁のほぼ中央に造られていた。焚き口部分と燃焼部の多くは壁面を掘り込んで造られていた。

構造 地山の黒色土を掘り込んで燃焼部の大半と煙道部を造っている。竈付近では、多くの扁平な角礫が出土し

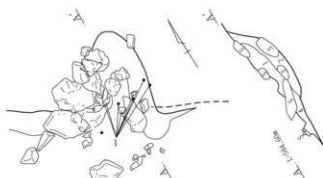


1. 黒褐色土 多くの灰白色粒と少量の小角礫を含む。
2. 黄褐色土 真赤ではないが焼土化している。
3. 黒褐色土 少量の焼土粒を含む。

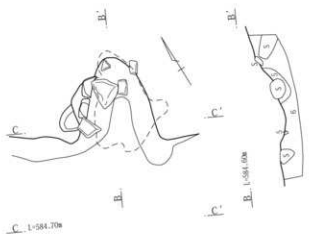
0 1:60 2m

竈

1. 黒褐色土 多くの焼土粒を含む。
2. 黒褐色土 少量の焼土粒を含む。
3. 赤色土 焼土を主とした層。
4. 黒色土 少量の炭を含む。
5. 黒褐色土 少量の焼土粒を含む(地山)。
6. 黒褐色土 地山の黒褐色土(やや灰色を帯びる)中に山塊による2~5cmの黄色で軟質の石を多く含む(地山)。



竈1面目



竈2面目

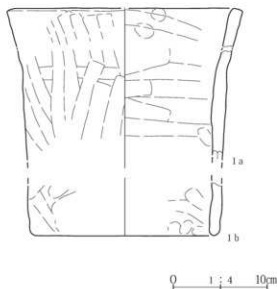
0 1:30 1m

ていて、構造材として使用されていたものと思われる。礫の分布の中心は、竈の中心より北側に片寄っており、本来の位置をとどめるものは奥壁左側の壁石1石のみであったが、左袖部には壁石の抜き取り穴と思われる凹みながら。住居廃棄に際して、竈右部分を中心に破壊が進められたものと思われる。

他の竪穴建物の竈とは異なり、地山の黒褐色土が主体的な構築材として用いられていて、ロームはあまり用いられていない。天井部の崩落土を主体にすると考えられる1層にも焼土は多く含まれず、燃焼部床面でも強い焼土の厚みを持った広がりには認められていない。

**遺物** 竈内から道具として作られたものと思われる異形土器が出土している。また、僅かながら焼骨片が出土している

**規模** 竈道部方向90cm 両袖方向65cm。

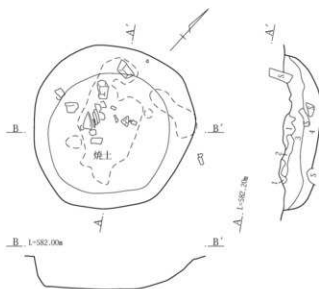


第99図 38号住居出土遺物

## 42号住居

**位置** 63区G-3グリッド

**概要** 調査区南西部に位置する。焼土と土器が出土していたので、調査段階では、竪穴建物に伴う竈の可能性は認めつつも、あまりにも残りが悪く、住居の範囲がまったくつかめなかったことから、土坑(113号土坑)として扱っている。しかし、当遺跡のこの時期の土坑では、まとまって土器が出土することがほとんど無いことから、やはり竈の残痕と想定することが妥当とし、整理段階で42号住居として扱ったものである。



第100図 42号住居竈(旧113号土坑)

**重複** 重複する遺構はない。

**形状・規模** 竪穴建物としての形状や規模、構造等は一切不明である。

## 42号住居竈

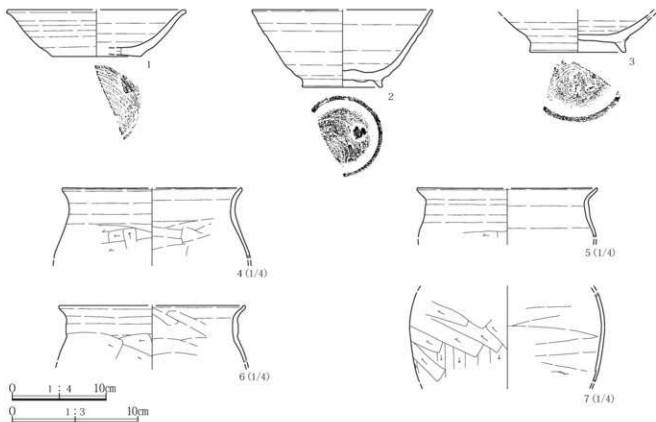
**概要** 竈残痕とした土坑部分は東西1.7m、南北1.8mのほぼ円形の平面形で、確認面最上部から4層底面までの深さは0.6mほどある。他の竪穴建物の竈の掘方底面までの深さとほぼ等しい。覆土1層・2層には焼土が含まれるが、3層以下には含まれないため、使用面は3層上面以上にあったものとする。北端部にある1石は立った状態にあって、構造材の一部が残ったものかと思われる。また、2層中の灰白色粘土が構築材の一部かと思われる。

**遺物** 焼土の広がりの左側に偏して、土師器甕3個体以上、須恵器杯、高台碗が出土している。

1. 暗褐色土 焼土多く混入。
2. 暗褐色土 若干の焼土、灰白色粘土含む。
3. 暗黒褐色土 小礫、軽石僅かに含み、掃りあり。
4. 黒褐色土 礫、軽石含み、3より掃りあり。

0 1:40 1m





第101図 42号住居出土遺物

#### 45号住居

位置 63区I-11グリッド

概要 平成19年度調査区の北端部に位置する。北が高く、南に下る傾斜地にある。北壁西よりの確認面最高位標高は589.45m、南東隅部の位床面標高は588.97mであった。標高の高い北側の土砂が堆積してできた地山を掘り込み、ほぼ同じ土で埋まっていた。地山と覆土の違いは、灰白色で軟質の石を多く含む土層が地山であり、小さな石を少量含む土が住居の覆土であった。竈が南壁面にある。この遺跡では前回報告した11号住居とともに2例目である。

形状 東西方向に長い横長長方形である。

構造 床面は地山の黒色土であり、ローム等の持込はない。踏み固められた床面も無い。貯蔵穴や柱穴は掘られていなかった。竈手前及び住居中央やや南側で角礫がまとまって出土した。竈手前では周辺にロームの広がりが見られる。竈周辺のロームや焼土の分布域とあわせて、竈構造材が散乱したものであろう。中央近くの角礫周辺ではロームは観察されていない。

規模 東西方向約3.5m 南半の壁が確認できないが、南北方向の床面想定長約2.7m、壁高は残りのよい北壁

部分で0.4mである。

遺物 竈手前の角礫集中部を中心に須恵器高台塚などが出土した。

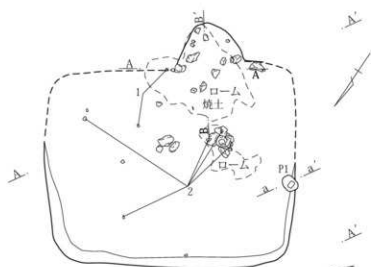
#### 45号住居竈

位置 南壁面西よりに造られていた。残りが悪く明らかでないが、焚き口を壁内に置き、燃焼部の過半と煙道は壁面を掘り込んで作られていた。

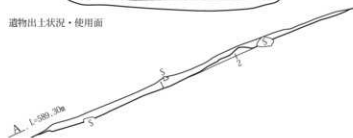
構造 竈手前の右側床面上に焼土混じりのロームと5個の石が、左側に焼けた石が3個散乱したような状態で出土した。竈部分に残っていたのは、左袖石と元の位置をとどめていない少量の石と焼土が多く含まれるローム交じりの黒褐色土で、覆土中に焼土は少なかったが、燃焼部床面は強く焼けて焼土化していた。また、竈周辺には広く、焼土やローム土の分布が見られた。これから見て、ロームを混じた暗褐色土を構築土とし、礫を構造材として竈を築いていたものと思われる。住居廃棄に伴って竈が破壊されたものであろう。

規模 残りが悪く明らかでない。推定で煙道部方向80cm 両袖方向75cm。

遺物 竈内から土師器甕、灰釉陶器高台塚が出土した。



遺物出土状況・使用面



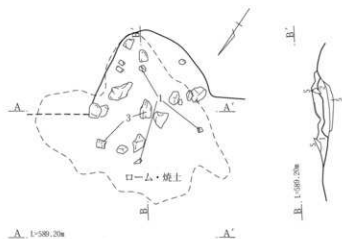
1. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。砂質土、ローム粒を含みます。
2. 黒褐色土 1層中に多くの焼土ブロック、黄色のロームブロックを含む。

- P1
1. 黒褐色土 地山の灰色。

0 1:60 2m

竈

1. 暗褐色土 少量の焼土粒とローム粒を含む。
2. 暗褐色土 淡い色の焼土粒を含む。
3. 黒褐色土 地山に近い黒色土。
4. 黒褐色土 地山に近い黒色土中に黄色ロームを混入。
5. 黒褐色土 少量の焼土粒を含む。

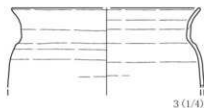
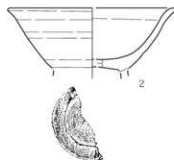
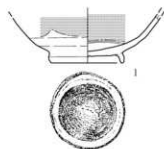


A. 1:580.30m

0 1:30 1m



第102図 45号住居



3 (1/4)

0 1:4 10cm

0 1:3 10cm

第103図 45号住居出土遺物

47号住居

位置 63区I-10グリッド

概要 平成19年度調査区の北部に位置する。北が高く、南に下る傾斜地にある。北隅部の確認最高位標高は587.45m、南部の床面標高は586.75mであった。標高の高い北側の土砂が堆積してできた地山を掘り込み、ほぼ同じ土で埋まっていた。地山と覆土の違いは、地山に多く含まれる灰白色で軟質の石を多く含む土層が地山であり、石をほとんど含まない土が住居の覆土であった。北側の住居範囲は、竈と床面に広がっている焼土の範囲および地山と覆土の違いで確認した。南半分は急な斜面であり残っていないかった。調査段階で、西側の焼土はこの住居に伴わないものと考え、19号焼土として調査した。しかし範囲や高さ等検討の結果、この焼土は47号住居の床面と考えられたので、この住居として報告する。

重複 東側で同じ平安時代の50号住居と重複しており、当住居が50号住居を掘り込んでいる。

形状 調査時点では東辺の床面長が2.85m程度と想定されているが、北辺の床面長が5.1mあることからみて、南北長は当初想定より長いものと考えられる。しかし、竈位置から見て縦長の東西方向に長い縦長長方形であることは間違いないと思われる。

構造 床面は地山の黒色土で、ローム等の持込はない。床面の数か所が、焼けて焼土化していた。また少量ではあるが炭が出土しており、焼失住居の可能性が高い。貯蔵穴や柱穴は掘られていない。

規模 東西方向約5.6m 南北方向不明、壁高は残りのよい北壁部分で24cmである。

遺物 羽釜3個体分の口縁破片及び須恵器環3、灰釉陶器碗1が出土した。

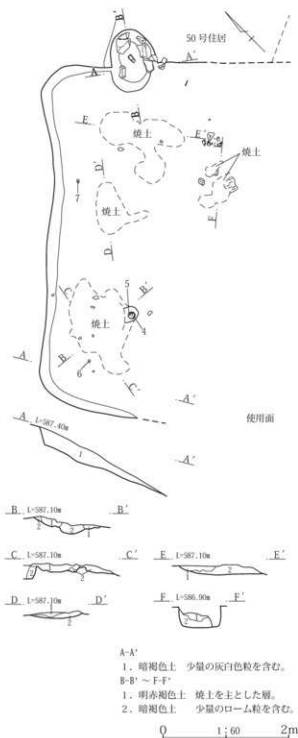
47号住居竈

位置 東壁面北寄りに造られていた。焚き口部分と燃焼部の多くは壁面を掘り込んで作られていた。

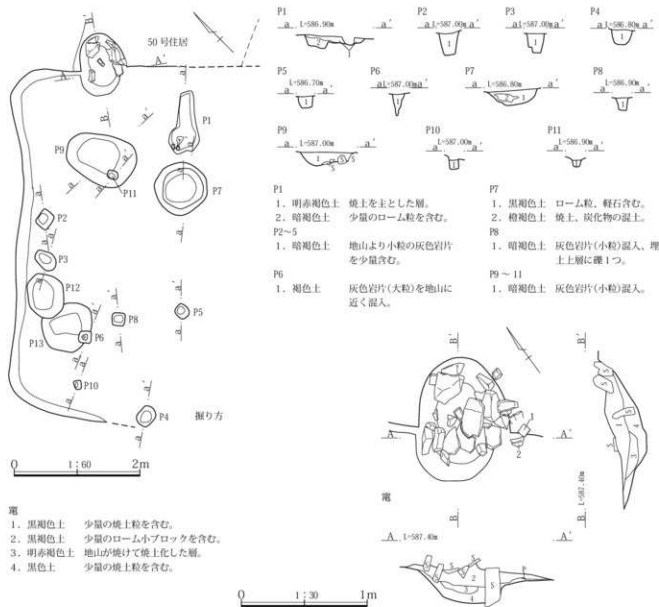
構造 地山の黒色土を掘り込んで造られていた。ロームは多用されずに、石と黒褐色土をもちいて竈が築かれていた。竈内から竈構造材として使用されていたものと思われる多くの石が出土した。動いた石を除去した結果、両袖石をはじめとして、燃焼部から煙道部までの側壁の石は良好な状態で残っていた。燃焼部中央付近に支脚石が残っており、土鍋1個掘りけで使用されたものと想定さ

れる。天井部の石ははずされて、竈内に投げこまれたような状態で壊されていた。燃焼部床面は焼けて焼土化しており、この部分にはロームが使用されていたものと考えられる。

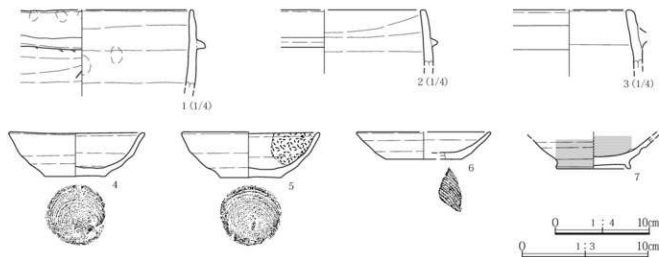
規模 煙道部方向80cm 両袖方向70cm。



第104図 47号住居(19号焼土) (1)



第105図 47号住居(19号焼土)(2)



第106図 47号住居(19号焼土)出土遺物

48号住居

位置 63区B-6グリッド

概要 23号住居の床面を調査する中で、掘り込まれた一回り小さな方形区画が確認され、23号住居とは別な住居の存在が判明した。しかし23号住居により大部分が削り取れており、竈もほとんど残っていなかった。

重複 住居中央から南西部にかけて同じ平安時代の29号住居によって約1/4ほど掘り込まれていた。また当住居を一回り大きい規模の23号住居が、当住居の真上に重なって作られており、当住居の大部分はこの23号住居により削り取られていた。南部分は縄文時代の46号住居と重複している。さらに西壁面近くを平安時代の所産と考えられる242号土坑、近世のものと考えられる178号土坑により床面下まで掘り込まれていた。新旧関係は46号住居→48号住居→23号住居→29号住居→242号土坑→178号土坑である。

形状 南北方向にわずかに長いほぼ方形である。

構造 残りの良い住居北側部分では明瞭な周溝や踏み固められた床面、また焼土や炭、灰等が残っていた。壁周溝は西壁北半から北壁を経て東壁北半の竈想定位置まで続く。巾12cm～18cm、床面からの深さ3cm～9cmある。床面はロームと白色粒を多く含む黒褐色土で造られていた。北西隅には焼土と炭化物、灰が分布し、竈前には竈

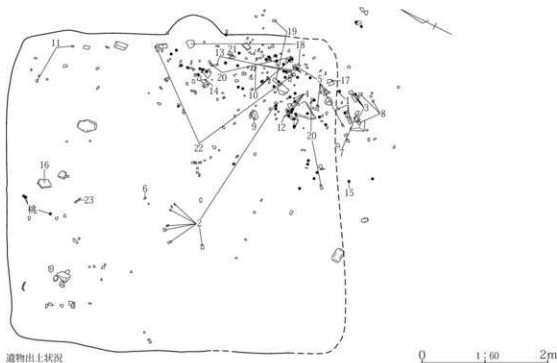
の軸に沿うように焼土が伸び、灰が重なる。竈右手に当たる南東隅にも焼土が広がり、地山の黒色土上に焼土化したロームあり、その上を焼けていないロームが覆う状態が見られた。浅い小穴は掘られていたが、柱穴や貯蔵穴は掘られていなかった。

規模 東西方向5.05m 南北方向5.29m、壁高は残りのよい北面で30cm。

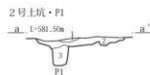
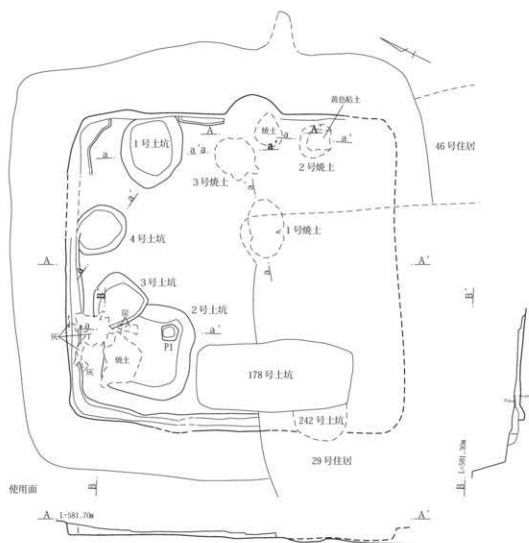
遺物 竈右手に当たる建物南東隅を中心に、土師器の裏・須恵器環・埴等の破片が多数出土している。取り上げ点数は323点に及ぶ。刀子かと思われる鉄製品やアカネズミの食痕を伴うモモ核も出土している。ただしモモ核は23号住居のモモ核と平面位置が接し、本住居覆土上層に当たって、レベル的にも23号住居出土モモ核の直下にあたることから、直接この住居に伴うものではない可能性が高い。

48号住居竈

概要 東壁面はほぼ中央部に造られていたものと思われる。構造材に用いられたであろう角礫などは全く残っていなかったが、焚き口想定部付近の床面に多くの焼土が残っていることや、この右側で大量の環・埴の破片が出土したこと等から、竈が造られていたものと考えた。23号住居の構築時に上部がほとんど削られてしまったものであろう。



第107図 48号住居(1)

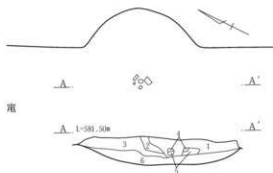


- A-A'
1. 黒褐色土 1～2cmの白色と黄色粒子を含む。
- B-B'
1. 暗褐色土 暗褐色土層中に1～3cmの大きなロームブロックを多く含む。
  2. 黒褐色土 少量のローム粒と焼土粒を含む。
  3. 黒褐色土 少量のローム粒と1cm前後の黄色軽石粒を含む。
- 1・2号焼土
1. 明赤褐色土 原位置で明確に使かれた焼土層。
  2. 明褐色土 ローム層(投入された層)。
- 3号焼土
1. 明赤褐色土 焼土層。
  2. 褐色土 ローム粒とロームブロックを主とし、少量の焼土粒を含む。
  3. 褐色土 多くのローム粒と、種かな焼土粒を含む。
- 1・2・4号土坑・P1
1. 黄褐色土 多くのローム粒とローム小ブロックを含む。
  2. 黒褐色土 黒褐色土中に15%前後のローム粒を含む。
  3. 黒褐色土 黒褐色土中に20%前後のローム粒を含む。

0 1:60 2m

第108図 48号住居(2)

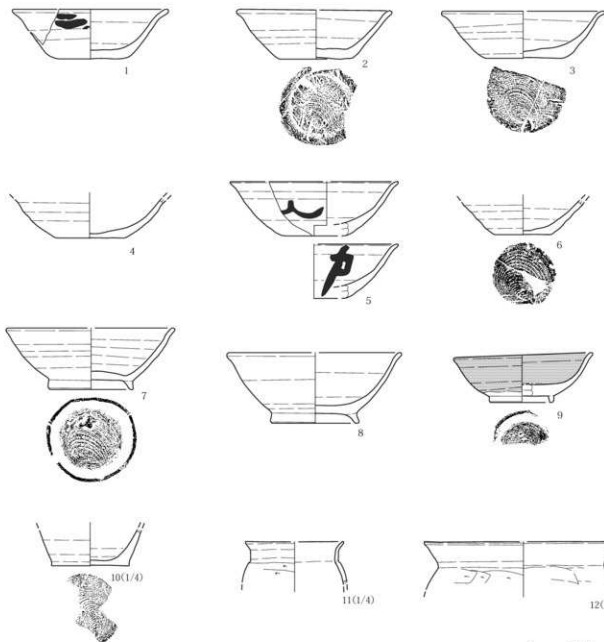
第2章 調査された遺構と遺物



1. 黒褐色土 少量のローム粒を含む。
2. 明赤褐色土 多くの焼土粒を含む。
3. 暗褐色土 少量のローム粒を含む。
4. 黄褐色土 ロームブロック。
5. 明赤褐色土 焼土層。
6. 暗褐色土 少量のローム粒とローム小ブロックを含む。

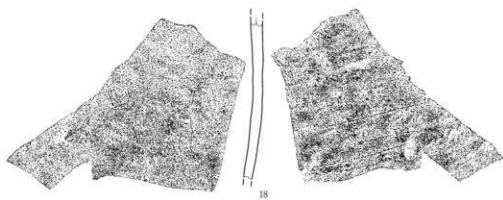
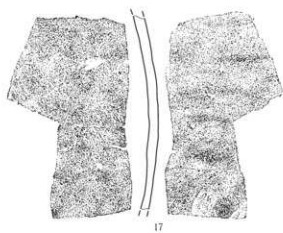
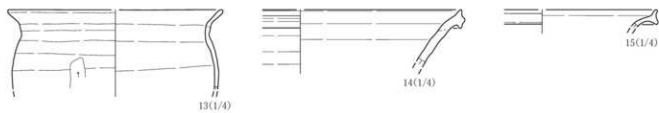
0 1:30 1m

第109図 48号住居(3)



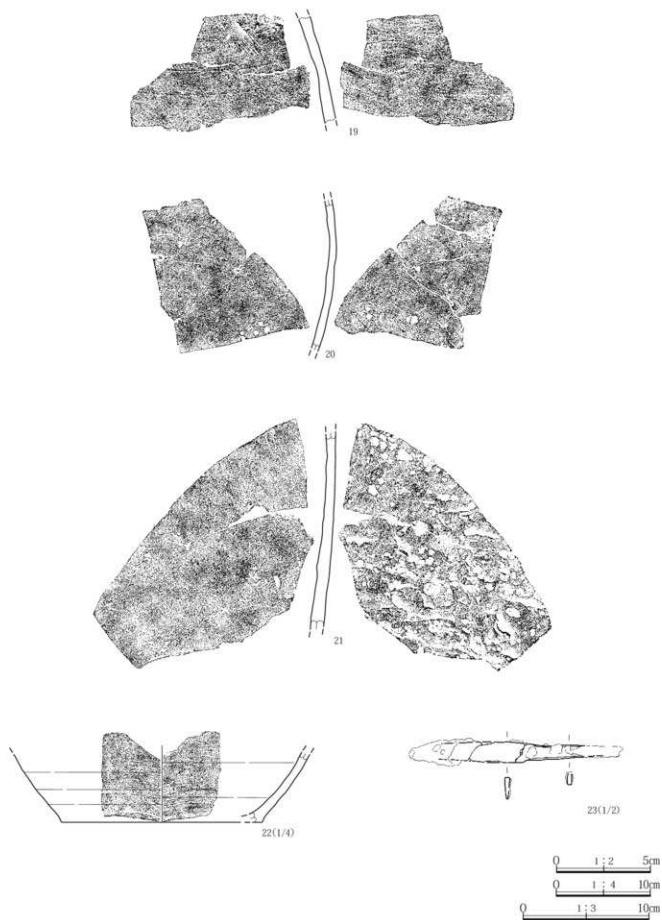
0 1:4 10cm  
0 1:3 10cm

第110図 48号住居出土遺物(1)



第111図 48号住居出土遺物(2)





第112図 48号住居出土遺物(3)

## 50号住居

位置 63区H-10グリッド

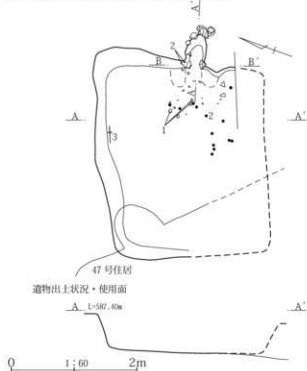
概要 調査区北部に位置する。47号住居同様に住居の確認が困難で、竈の確認から住居の存在が明らかとなった。しかし確認できた北側や東側の壁面も一部掘りすぎており、住居範囲の確認は難しかった。また南半分は急な斜面であり残っていないかった。

重複 西側で同じ平安時代の47号住居に覆上面を掘り込まれていた。北東コーナー部分で平安時代の竈あるいは炉の残痕とも思われる257号土坑、南東コーナー部分で平安時代の隠し穴である259号土坑と重複している。新旧関係は確認できなかったが、257号土坑からは羽釜破片が出土しており、本住居より新しいものであろう。形状 竈位置から見て東西方向に長い縦長長方形と思われる。

構造 床面は地山の黒色土であり、ロームを貼る、あるいは踏み固める等の遺作は認められていない。貯蔵穴や柱穴は認められていない。

規模 東西方向の床面長約3.0m 南北方向は不明。壁高は残りのよい北壁部分で0.4mである。

遺物 竈手前部分を中心に、土師器類、須恵器類等の破片が比較的多く出土した。また、残存状態の良い鉄製紡錘車が住居東部の北壁際から出土した。

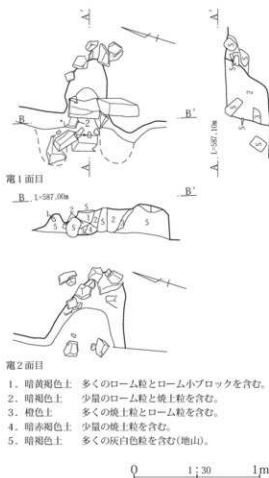


## 50号住居竈

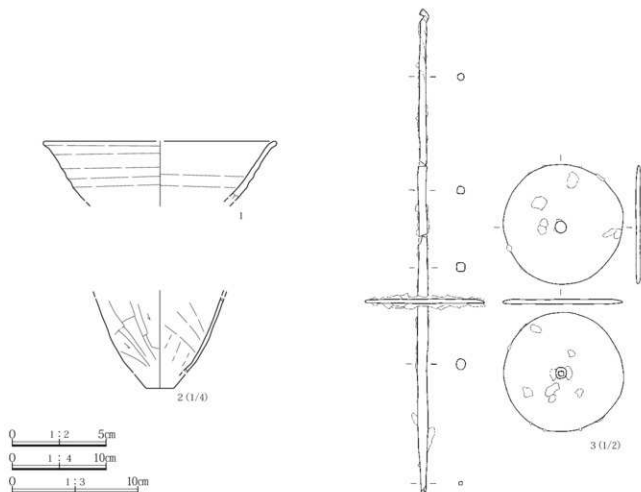
位置 東壁面に造られていた。壁との接点に置かれた石が焚き口の袖石と考えられ、燃焼部は壁面を掘り込んで造られている。

構造 竈は地山の黒色土を掘り込んで造られていた。多くのロームと石をもちいて竈が築かれていた。左袖石が残りその上に炊口の天井石が架けられていた。しかし右袖石がはずされており、天井石は炊口床面に割れた状態で落下していた。煙道部の燃焼部に接する天井石も移動はしていたが、左右の側壁の石の上に良好な状態で残っていた。他の煙道部の天井石は残っていなかった。調査時の所見では竈中央部の支脚石が据えられた状態で残っていたとされるが、竈焚き口部に当たり、焚き口高と支脚とされる石の上端がほぼ等しいなど、支脚としては考えにくい。焚き口右側石が移動したものではないか。燃焼部壁面の一部が赤化していたが、床面に明瞭な焼土面は残っていなかった。

規模 煙道部方向75cm 両袖方向60cm。燃焼部幅40cm。



第113図 50号住居



第114図 50号住居出土遺物

## 第2項 焼土遺構

火熱により酸化赤変した土粒子やブロックを多く含む土壌の不定形な広がりがあり、調査区内に散在する。これを焼土遺構として調査している。これについては、前報告に取められていないため、平成18年度調査分を含めて報告する。

調査時の所見としては、

1. 確認面はほぼ平安時代の遺構面である
2. 竈のような焼土の焼け方である
3. 少量の土器や石が伴うことがある
4. 竪穴住居のような掘り込み面は無い
5. 周辺に竪穴がある場合もない場合もある

があげられており、これらの特色から、

1. 住居外で煮炊きをする場所
2. 土器等を焼成した遺構
3. 平地住居の竈または囲が裏

の可能性が考えられている。

八ツ場ダム関連の調査では、三平1遺跡で10か所、同

II遺跡で2か所の同様な焼土が報告されているが、本遺跡とよく似た傾斜面に立地している。斜面崩落土が連続的に堆積するという特性から、崩落の旧地表面が部分的に保存されたために、通常では捉えがたい遺構が残されていると解釈される。

ただし、本遺跡の地山のうち、黒色土、黒褐色土は鉄分含有量が低いため、顕著な赤化は生じない。赤化した、いわゆる焼土として認識されるのは火熱を受けたローム土である。従って、焼土の形状は必ずしも火熱を受けた土壌全体の形状を示すものではない。さらに個々の焼土を見ると、ローム土の質や含有量によるものであろう、赤化の度合い、色調、硬軟も様々であり、単一の成因によるものとは考えがたい。また、面的に焼けたものが動植物によって攪乱、分断されたために複数の焼土が隣接して配されているように見える場合もある。加えて、12号焼土は45号住居の竈、15号焼土は27号住居に伴う焼土、19号焼土は47号住居に伴う焼土としたように、壁や床を把握できない竪穴建物の竈や焼失床面の残痕で

ある可能性も高いものとしなければならない。

1号焼土 72区0-5グリッド 東部が失われているが焼土分布域は東西に細長い紡錘形の平面形で、確認規模は110×70cm。長軸方位はN-53°-Eである。

2号焼土 72区P-5グリッド 焼土分布域は東西に長い

長円形で、規模は85×55cm。長軸方位はN-69°-Eである。

3号焼土 72区P-5グリッド 焼土分布域は南北に長い長円形で、規模は38×25cm。長軸方位はN-63°-Wである。

この3か所の焼土は比較的急な傾斜面から緩傾斜への変換点近くにある。4号住居(前報告所収)の北に、ローム土が焼土化した比較的大きなブロックが東西方向に並んでいるもので、本来は一連のものであろう。植物の根による攪乱が入り、特に2号焼土と3号焼土の間にはそれが顕著である。また、3号焼土は上下に根に貫かれていて、土層断面2層、3層はこうした植物根によって乱された結果として焼土粒を含んだものとする。ともに出土遺物はない。

4号焼土 63区E-12グリッド 焼土分布域は倒卵形に近く、規模は48×35cm。長軸方位はN-8°-Wである。暗い色調の焼土が暗褐色土中に含まれるもので、東側にやや大きな焼土ブロックが認められる。層としての厚みはないが、焼土粒は垂直方向にも広がっている。出土遺物はない。

5号焼土 63区F-12グリッド 焼土分布域は不正円形で、規模は59×42cm。長軸方位はN-7°-Wである。ロームが焼土化した橙色土のブロックが暗褐色土中に含まれる。炭化物を伴う。

この2か所の焼土周辺は等高線間隔の広い緩斜面だが、遺構は土坑、ピット以外にない。灰陶陶器片が集中して出土する地点である。

6号焼土 62区T-14グリッド 焼土分布域は東西に長い長円形に近く、規模は98×50cm。長軸方位はN-56°-Wである。分布域中軸線上に礫があることから、竈を想定して調査を進めたが、竈としての構造は認められなかった。にぶい橙色の軟質の焼土が厚みを持った斑状に、暗褐色土に含まれている。礫より西の部分がやや強く焼土化している。緩傾斜部にあり、南西に15号、16号住居が近接する。

7号焼土 62区S-23グリッド 焼土分布域は隅丸方形状

で、規模は60×50cm。長軸方位はN-63°-Eである。竈を想定して調査しているが、竈としての構造は認められなかった。若干の攪乱を受けているが、赤褐色の強い焼土が皿状に焼き締まってあり、竈底面というより鍛冶<sup>4)</sup>の炉床を思わせる。地山は暗褐色土であるので、ロームが貼られた上で強い火熱が加えられたものであろう。周辺にも焼土粒やロームブロックの分布が見られる。出土遺物はない。炭化物も観察されていない。緩傾斜部にあるが、直近に竈穴建物等はない。

8号焼土 63区B-2グリッド 焼土分布域は不正円形で、直径85cmほどある。竈を想定して調査したが、竈としての構造は認められなかった。橙色の強いやや締まった焼土と黄橙色の軟質の焼土が暗褐色土中に斑状に入り交じる。おおよそ外面、底面に橙色土のブロックや斑があり、中央に黄褐色土の斑がある。分布域の南辺と東辺に角礫があるが、焼土より下位にあたるようである。出土遺物はない。

9号焼土 62区Y-3グリッド 焼土分布域は調査区界にあたるため半円形ピット状に描かれているが、断面観察所見の通り暗赤褐色の焼土粒を多く含む暗褐色土の不定形斑である。規模は52×(26)cm。長軸方位はN-26°-Eである。緩傾斜部に当たり、周囲には20、29、32、48、49号住居や土坑など、遺構が多い場所である。出土遺物はない。

10号焼土 63区A-4グリッド 焼土分布域は径48cmほどの不正円形で、暗褐色土中に赤褐色の焼土ブロックや斑、粒子を含む。焼土ブロックは被熱方向が一定せず、焼土化した後に暗褐色土とともに埋められたものかもしれない。平面図に図示された土器は縄文土器深鉢で、この焼土と直接の関係はないものと思われる。西に20号住居が近接し、北には29、46、48号住居などがある遺構の多い部分にある。

11号焼土 63区I-13グリッド 標高500mラインに当たり、周辺の竈穴建物よりやや高い位置にある。焼土分布域は不正長円形で南部が突出する。長軸長50cm、短軸長34cm。長軸方位はN-47°-Wである。地山の暗褐色土中に橙色の焼土ブロックが含まれる。西部に礫があるが、炉や竈の構造をなすものではないようだ。

13号焼土 63区G・H-15グリッド 11号焼土よりさらに上位にある。南北に長軸を持つ長円形にロームや小礫を多

く含む暗褐色土があり、この中に特に焼土を多く含む部分が南北に並んで認められる。ローム分布の規模は142×65cm。長軸方位はN-25°-Wである。大小の角礫がローム分布域の中央近くにあるが、本来の構造をとどめているものではない。羽釜、須恵質の甕等の破片が出土しており、火所として使用されたものである可能性が高い。

14号焼土 63区G-10グリッド 焼土分布域は不正円形で、規模は37×26cm。長軸方位はN-22°-Eである。暗褐色土内に強い明橙色の焼土があるもので、攪乱は受けているものの現地性の焼土と判断できる。礫や土器などの出土はなく、焼土の存在以外に火所としての構造は認められない。50号住居に接した位置にある。

16号焼土 53区J-22グリッド 228号土坑に切られて平面形が確定できないが、焼土分布域は間丸方形の強い赤化部を中心に南北に不定形に広がる。規模は94×60cm。長軸方位はN-23°-Wである。強い焼土分布の南辺近くに角礫があり、板状の角礫には立っているものもある。分布域東側と北側には土師器甕の破片が散在しており、火所として使用されたものである可能性が高い。周辺には

竪穴建物はない。

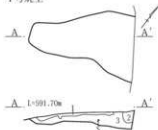
17号焼土 63区I-1グリッド 焼土分布域は不定形で、規模は50×50cm。長軸方位はN-25°-Eである。

18号焼土 63区H-1グリッド 焼土分布域は不定形で、規模は72×36cm。長軸方位はN-60°-Wである。

17、18号焼土はともに暗褐色土内に強く締まった明橙色の焼土面があるもので、攪乱は受けているものの現地性の焼土と判断できる。礫や土器などの出土はなく、焼土の存在以外に火所としての構造は認められない。類似した焼土が隣接してあるもので、周辺には炭化物も見られる。一連の建造物の焼失に伴って形成された焼土群かもしれない。

20号焼土 62区Y-6グリッド 33号住居がすぐ東にあり、29、32、46号住居も近い。この焼土のみ確認面がやや低く、縄文時代の所産である可能性も考えられる。焼土分布域は不定形で、規模は92×77cm。長軸方位はN-0°である。地山の暗褐色土内に焼土ブロックが含まれるものであるが、分布域中央部には焼土が少なく、周辺部、特に南側に強い焼土が多く分布する。

1号焼土



2・3号焼土



1・2・3号焼土

1. 赤褐色土 多くの焼土小ブロックと焼土粒を含む。
2. 黒褐色土 少量の焼土粒を含む。
3. 黒褐色土 わずかに焼土粒を含む。

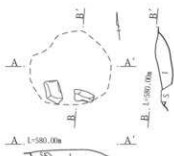
4号焼土



5号焼土



8号焼土



6号焼土



7号焼土



7号焼土

1. 赤色土 真っ赤に焼けた焼土を主とした層。

6号焼土

1. 暗褐色土 少量の焼土粒を含む。

8号焼土

1. 暗赤褐色土 少量の焼土小ブロックと焼土粒を含む。



第115図 1～8号焼土

9号焼土



9号焼土

1. 暗赤褐色土 多くの焼土粒を含む。

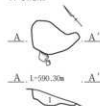
10号焼土



10号焼土

1. 赤褐色土 多くの焼土小ブロックと焼土粒を含む。  
2. 暗褐色土 わずかに焼土粒を含む。

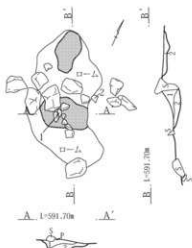
11号焼土



11号焼土

1. 暗褐色土 少量の焼土粒を含む。

13号焼土



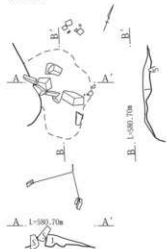
14号焼土



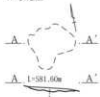
13・14号焼土

1. 赤褐色土 多くの焼土小ブロックと焼土粒を含む。  
2. 黒褐色土 少量の焼土粒を含む。

16号焼土



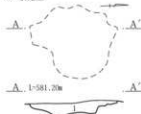
17号焼土



18号焼土



20号焼土

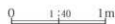


20号焼土

1. 赤褐色土 縄文崩落層(褐色)に焼土ブロックが混入。

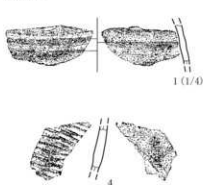
16・17・18号焼土

1. 赤褐色土 多くの焼土小ブロックと焼土粒を含む。

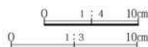


第116図 9～11・13・14・16～18・20号焼土

13号焼土



16号焼土



第117図 13・16号焼土出土遺物

## 第3項 土坑

平安時代の土坑50基を調査した。このうち、213号、243号、257号土坑は焼土や炭化物が認められて、前項の焼土遺構の一部と同様に竈あるいは炉の残痕と考えられる。218号は隅丸長方形の、242号は円形の平面形を有するいわゆる「土坑」で、何らかの貯蔵に用いられたのではないかと想定される。他はこの地域に特徴的に見られる陥し穴と考えられる形状を有するものである。前報告で記載した調査区北部の陥し穴群は列状に並ぶなどのまとまりがよく観察されたが、今回報告する調査区南部では群在、あるいは規則性の弱い列をなした一群が認められる程度であった。

63号土坑 63区G-17・18グリッド 東に72号土坑がある。平面形状は南北に長い隅丸長方形で、長軸長170cm、短軸長103cm、深さ115cm。長軸方位はN-6°-Eである。各壁はほぼ直立する。底面は北部がやや深く掘り込まれ、北壁底面がえぐられたような形状となるが、特別な構造は認められない。出土遺物はない。陥し穴であろう。

72号土坑 63区G-17・18グリッド 西に63号土坑がある。平面形状は南北に長い隅丸長方形で、長軸長122cm、短軸長79cm、深さ87cm。長軸方位はN-23°-Wである。各壁は上部がやや開くがほぼ直立する。底面は南部1/4ほどが一段深く掘り込まれるほか、北部は北壁に沿った溝状に、えぐるように掘り込まれている。出土遺物はない。陥し穴であろう。

115号土坑 63区D-E-1・2グリッド 周辺には近世と思われる土坑が多い。東に17号住居がある。平面形状は北東-南西に長い隅丸長方形で、長軸長226cm、短軸長102cm、深さ112cm。長軸方位はN-54°-Eである。等高線に沿って長軸を置く。短辺の東西壁はややオーバーハング気味に、南北壁はほぼ直立して立ち上がり、地山ロームの上部以上が開く。底面は南部に浅い方形の掘りこみ、北部には狭い溝状の掘りこみが見られる。出土遺物はない。陥し穴であろう。

135号土坑 63区G-3・4グリッド 南に平安時代の42号住居がある。上面の平面形状は東壁が膨らんだ隅丸長方形で、下部は南北に長い隅丸長方形を呈する。長軸長168cm、短軸長113cm、深さ127cm。長軸方位はN-12°-Wである。出土遺物はない。各壁はほぼ直立して立ち上がり、中位以上が開く。底面は北部が一段深く掘り込まれる。陥し穴

であろう。

137号土坑 63区C-D-4グリッド 直近に同時代の遺構はない。平面形状は東西に長い隅丸長方形で、長軸長192cm、短軸長85cm、深さ122cm。長軸方位はN-84°-Eである。等高線に沿って長軸を置くことになる。西壁は確認面から底部まで直立する。東壁は外方に膨らみを持つように掘り込まれる。長辺である南北壁はほぼ直立して立ち上がり、上部が開く。土師器片が出土している。陥し穴であろう。

147号土坑 63区D-9・10グリッド 1号柱穴列の東端に近いが、直近に同時代の遺構はない。確認面での平面形状は壁が崩れて長円形を呈するが、下位は南北に長い隅丸長方形である。長軸長247cm、短軸長203cm、深さ203cm。長軸方位はN-28°-Wである。北壁は確認面までほぼ直立するが、他の3壁は上部が開く。北東角部の壁面中位をえぐるような掘りこみも見られる。土師器片が出土している。陥し穴であろう。

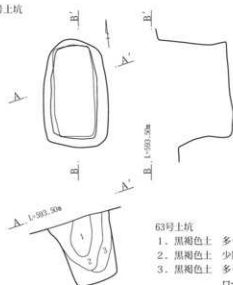
196号土坑 63区D-21グリッド 直近に同時代の遺構はない。確認面での平面形状は壁が崩れて長円形を呈するが、下部は各隅のしっかりした南北に長い長方形である。長軸長214cm、短軸長132cm、深さ117cm。長軸方位はN-26°-Wである。北壁は3段、他の3壁は2段の階段状を呈する。底面には特別な構造は認められない。出土遺物はない。陥し穴であろう。

197号土坑 63区E-F-17・18グリッド 西に72号、63号土坑がある。間隔はまちまちであるが、並列した状態にある。平面形状は北東-南西に長い隅丸長方形で、長軸長182cm、短軸長88cm、深さ67cm。長軸方位はN-35°-Wである。南壁は緩やかに立ち上がるが、他の壁はほぼ直立する。出土遺物はない。陥し穴の底部近くであろう。

198号土坑 63区E-F-10・11グリッド 西にやや離れて50号住居がある。147、199、200号土坑がおおよそ南北に並ぶ。確認面での平面形状は楕円形で、下部も南北に長い隅丸長方形を基本としつつ胴が張る。長軸長283cm、短軸長208cm、深さ128cm。長軸方位はN-6°-Wである。壁は上方に開き、底面も丸みを持っている。土師器片が出土している。陥し穴であろう。

199A号土坑 63区E-8・9グリッド 縄文時代の39号住居を切る。平安時代の199B号土坑を切る。200号土坑と並ぶ。2基の土坑が重なっている。新しいものをA号、古

63号土坑



63号土坑

1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。
2. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。
3. 黒褐色土 多くのロームブロックとローム粒を含む。

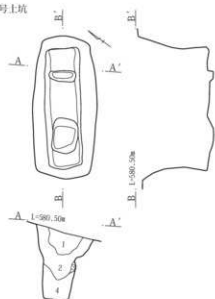
72号土坑



72号土坑

1. 黒褐色土 多くの灰白色粒と少量のローム小ブロックを含む。
2. 黒褐色土 細粒の灰白色粒を含む。
3. 黒褐色土 多くのローム小ブロックを含む。

115号土坑



115号土坑

1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。
2. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。
3. 黄褐色土 ロームを主体とした層。
4. 黒褐色土 多くのロームブロックとローム粒を含む。

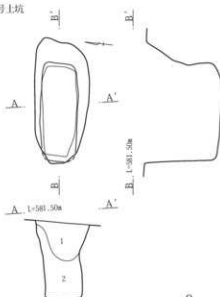
135号土坑



135号土坑

1. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。
2. 黒褐色土 少量のローム小ブロックとローム粒を含む。

137号土坑



137号土坑

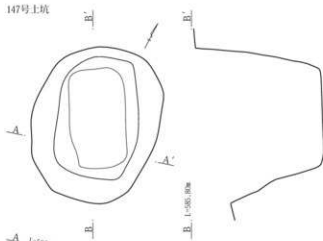
1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。
2. 黒褐色土 少量のローム小ブロックとローム粒を含む。



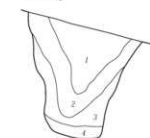


第2章 調査された遺構と遺物

147号土坑

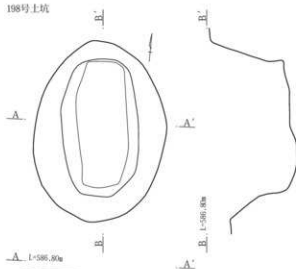


A, L=565.80m

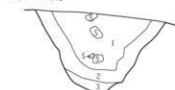


- 147号土坑
1. 黄褐色土 ローム粒を大量に含む。
  2. 黒褐色土 少量のローム粒を含む。
  3. 黄褐色土 多くのローム粒を含む。
  4. 黄褐色土 ロームブロックとローム粒を主とした層。

198号土坑



A, L=586.90m



- 198号土坑
1. 黒色土 多くの灰白色粒を含む。
  2. 黒色土 少量の灰白色粒を含む。
  3. 黒色土 多くのローム小ブロックを含む。

- 199号土坑
1. 黒色土 少量のローム粒を含む。
  2. 黒色土 多くの灰白色粒を含む。
  3. 黒色土 少量の灰白色粒を含む。
  4. 暗黄褐色土 ロームブロック含む。

0 1:60 2m

196号土坑



A, L=593.90m



- 196号土坑
1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。
  2. 暗褐色土 多くのローム粒を含む。
  3. 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒を主とした層。

197号土坑

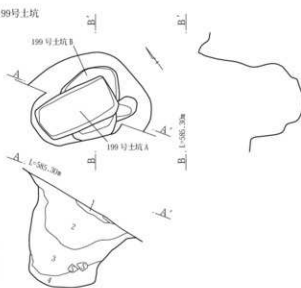


A, L=593.00m



- 197号土坑
1. 黒色土 多くの灰白色粒を含む。
  2. 黒色土 灰白色粒子ほとんど含まない。

199号土坑



A, L=585.30m

第119図 147・196～199号土坑

いものをB号とした。A号土坑の平面形状は東西に長い隅丸長方形で、長軸長177cm、短軸長136cm、深さ133cm。長軸方位はN-81°-Wであり、等高線に沿う。各壁は底面から丸みを持って立ち上がり、上方でやや開く。出土遺物はない。陥し穴であろう。

199B号土坑 平面形状は北西-南東に長い隅丸長方形で、長軸長136cm、短軸長140cm、深さ163cm。長軸方位はN-37°-W。出土遺物はない。陥し穴であろう。

200号土坑 63区E-F-9-10グリッド 147、198号土坑と南北に並ぶが199号土坑との並びとは方向が異なる。確認面の平面形状は長円形で、底面形状は北西-南東に長いゆがんだ長方形を呈する。長軸長219cm、短軸長189cm、深さ147cm。長軸方位はN-37°-Wである。ローム部分では3段の階段状に掘り進められている。底面には掘削単位の残痕であろう凹凸がある。ローム面以上は崩れて上方に開く。土師器片が出土している。陥し穴であろう。

201号土坑 63区D-E-11グリッド 北に202号土坑、南に247号土坑、西に200号土坑があるが、主軸方向が異なる。平面形状は東西に長い隅丸長方形で、長軸長154cm、短軸長98cm、深さ96cm。長軸方位はN-83°-Wである。各壁はやや上方に開く。底面には土師器片が出土している。陥し穴であろう。

202号土坑 63区E-F-11・12グリッド 198号土坑、200号土坑と南北に並ぶ。確認面での平面形状は長円形で、底面もほぼ相似形の南北に長い隅丸長方形である。長軸長224cm、短軸長155cm、深さ177cm。長軸方位はN-9°-Wである。北部が大きく乱されているが、底面には特別な構造は認められない。各壁は底面から丸みを持って立ち上がる。出土遺物はない。陥し穴であろう。

203号土坑 63区E-6-7グリッド 縄文時代の43号住居を切る。平面形状は南北に長い長円形で、長軸長168cm、短軸長114cm、深さ110cm。長軸方位はN-0°である。各壁は上方にやや開く。底面は中央が高く、南北がやや深く掘り込まれる。土師器片が出土している。陥し穴であろう。

204号土坑 63区G-8グリッド 北に260号土坑、西に240号土坑があるが、軸方向は異なる。上面の平面形は長円形で、下部では東西に長い隅丸長方形である。長軸長160cm、短軸長101cm、深さ110cm。長軸方位はN-72°-Eで

あり、等高線と平行する。各壁は丸みを持って立ち上がり、上方に開く。底面には平坦で特別な構造は見られない。土師器片が出土している。陥し穴であろう。

205号土坑 63区H-1-5・6グリッド 直近の遺構少ないが、207号土坑が南に並ぶ。上面の平面形状は隅丸長方形で、底面は整った東西に長い長方形を呈する。長軸長130cm、短軸長70cm、深さ112cm。狭く深い形態で、各壁は直立に近く立ち上がり、上部で開く。底面は平坦で特別な構造は見られない。長軸方位はN-74°-Wで、等高線と斜行する。出土遺物はない。陥し穴であろう。

207号土坑 63区I-5グリッド 205号土坑が北に並ぶ。平面形状は東西に長い隅丸長方形で、長軸長144cm、短軸長80cm、深さ105cm。長軸方位はN-84°-Wで、等高線と斜行する。覆土中位以上に角礫が多く含まれる。各壁は丸みを持って立ち上がり、上部でやや開く。底面は東西が深く掘り込まれ、中央が掘り残されて高まる。出土遺物はない。陥し穴であろう。

208号土坑 63区F-5グリッド 縄文時代の41号住居を切る。西に209号土坑がある。平面形状は胴の張った東西に長い長円形で、長軸長153cm、短軸長113cm、深さ130cm。長軸方位はN-90°-Wで、等高線と斜行する。覆土上部に角礫を含む。各壁は丸みを持って立ち上がり、上部で開く。底面は東部がやや深く掘られている。土師器片が出土している。陥し穴であろう。

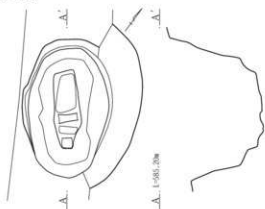
209号土坑 63区G-H-4・5グリッド 東に208号、西に211号土坑がある。平面形状は東西に長い長方形で、長軸長182cm、短軸長91cm、深さ138cm。長軸方位はN-72°-Eで等高線とほぼ並行する。覆土中に角礫が含まれる。各壁は上方でやや開くもののほぼ直立する。底面は西部がやや深く掘られているが、特別な構造は認められない。土師器片が出土している。陥し穴であろう。

211号土坑 63区H-1-4グリッド 東に209号、北に205・207号土坑が並ぶ。上面の平面形状は長円形であるが、下部は東西に長い整った長方形を呈する。長軸長210cm、短軸長112cm、深さ173cm。長軸方位はN-90°-Wで等高線と斜行する。各壁は直立に近く立ち上がり、上部は開く。底部は平坦で特別な構造は認められない。土師器片が出土している。陥し穴であろう。

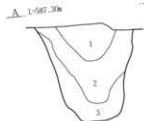
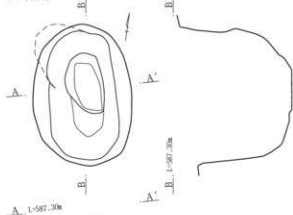
212号土坑 62区Y-4グリッド 32号住居に切られる。上面の平面形状は長円形であるが、下部は東西に長い比較

第2章 調査された遺構と遺物

200号土坑



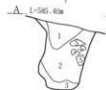
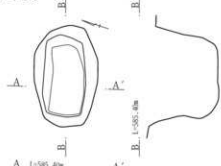
202号土坑



202号土坑

1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。
2. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。
3. 黒褐色土 多くのロームブロックとローム粒を含む。

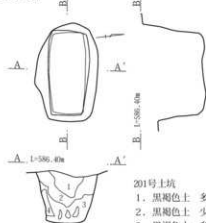
204号土坑



204号土坑

1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。
2. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。
3. 黒褐色土 少量のローム小ブロックを含む。

201号土坑



201号土坑

1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。
2. 黒褐色土 少量の白色粒を含む。
3. 黒褐色土 多くのローム小ブロックとローム粒を含む。
4. 黄褐色土 ロームブロック。

203号土坑



203号土坑

1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。
2. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。
3. 黒褐色土 多くのロームブロックとローム粒を含む。

205号土坑



205号土坑

1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。

0 1:60 2m

第120図 200～205号土坑

的整った長方形である。長軸長189cm、短軸長95cm、深さ120cm。長軸方位はN-88°-Wで等高線とは斜行する。壁は丸みを持って立ち上がり、上部で開く。底面は東西がやや深く掘り込まれて中央が高まる。また、東壁下端はえぐり込むようにやや深く掘られる。出土遺物はない。陥し穴であろう。

213号土坑 62区X-5・6グリッド 縄文時代の33号住居、214号土坑を切る。平面形状は円形で、長軸長121cm、短軸長115cm、深さ30cm。長軸方位はN-38°-Wである。断面図2・3層は214号土坑覆土で、椀状の断面形が想定されている。覆土には焼土、炭化材等が多く含まれるが、出土遺物はない。竈または炉の残骸かとされる。

215号土坑 62区W-6グリッド 縄文時代の33号住居を切る。平面形状は東南が調査区外に当たり、乱れているもの。北西-南東に長い隅丸長方形を呈するものと思われる。長軸確認長91cm、短軸長85cm、深さ25cm。長軸方位はN-46°-Wである。須臾器?底部分が出土している。陥し穴の底部近くかと思われる。

216号土坑 62区X・Y-5・6グリッド 縄文時代の33号住居を切る。上面の平面形状は胴の張った長円形で、下部では北西-南東に長い隅丸長方形の平面形を呈する。長軸長271cm、短軸長215cm、深さ218cm。長軸方位はN-58°-Wである。各壁は小さな丸みを持って直立するが、上部は大きく崩れて上方に開く。土師器片が出土している。陥し穴であろう。

217号土坑 63区E-10グリッド 西に200号、北に198号土坑などが並ぶ。上面の平面形は長円形ないし隅丸長方形で、下部は北西-南東に長い比較的整った長方形である。長軸長167cm、短軸長70cm、深さ101cm。長軸方位はN-28°-Wである。各壁は直立に近く立ち上がり、上部で開く。底面は平坦で特別な構造は認められない。狭く深い形態である。土師器片が出土している。陥し穴であろう。

218号土坑 63区B-4・5グリッド 平安時代の29号住居、縄文時代の46号住居を切る。平面形状は南北に長い隅丸長方形で、長軸長246cm、短軸長122cm、深さ37cm。長軸方位はN-22°-Wである。確認面近くの覆土上位に平坦な角礫がある。各壁は小さな丸みをもって直立する。底面は平坦で、特別な構造は認められない。出土遺物はない。底部巾が広く、陥し穴とは考えがたい。

221号土坑 53区0-19グリッド 調査区南部にある。平安時代の27号住居に接する。平面形状は南北に長い隅丸長方形で、長軸長197cm、短軸長112cm、深さ142cm。長軸方位はN-27°-Eである。各壁は小さな丸みを持って直立する。底面は北部がやや深く掘られていたが、特別な構造は認められない。出土遺物はない。陥し穴であろう。

223号土坑 63区L-5・6グリッド 近世の1号礎石建物に接する。上面の平面形状は南北に長い長円形で、下部は隅丸長方形の掘方が南北に連続している。長軸長185cm、短軸長141cm、深さ190cm。長軸方位はN-6°-Wである。出土遺物はない。各壁は小さな丸みを持って直立し、上方に開く。北部と中央南寄りが高く、中央部は掘り残されてやや高まる。陥し穴であろう。

224号土坑 63区G-9・10グリッド 北に256号土坑、南に204、260号土坑など、平安時代の陥し穴と思われる土坑が多い地区である。平面形状は南北に長い隅丸長方形で、長軸長244cm、短軸長124cm、深さ275cm。長軸方位はN-2°-Wである。各壁は直立し、上部で崩れて大きく開く。底面には北壁東西隅と南西隅に小ピットがあるほか、三日月形の耕作具痕が中央部を中心に残されている。出土遺物はない。陥し穴であろう。

226号土坑 63区G-12・13グリッド 西にやや離れて平安時代の45号住居、周辺には散在的なピットがあるが、直近には遺構が少ない。平面形状は南北に長い隅丸長方形で、長軸長170cm、短軸長75cm、深さ85cm。長軸方位はN-12°-Wである。各壁は下部がややえぐり込まれたように膨らみ、上部はほぼ直立する。底面には特別な構造は認められていない。出土遺物はない。陥し穴であろう。

228号土坑 53区J・K-22グリッド 16号焼土を切る。平面形状は北西-南東に長い隅丸長方形で、長軸長133cm、短軸長64cm、深さ97cm。長軸方位はN-51°-Wである。各壁はほぼ直立する。底面は北部と中部南よりが工具痕を残しながらやや深く掘り込まれ、その間と南壁部が掘り残されて高い。出土遺物はない。陥し穴であろう。

229号土坑 62区X・Y-7グリッド 縄文時代の230号土坑を切る。周辺に同時代の遺構が希薄な部分である。平面形状は南北に長い隅丸長方形で、長軸長188cm、短軸長108cm、深さ123cm。長軸方位はN-29°-Eで、等高線と平行気味に斜行する。各壁は小さな丸みを持って直立し、上部で開く。底面には特別な構造は認められない。土師

第2章 調査された遺構と遺物

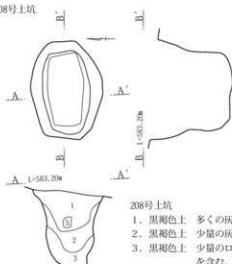
207号土坑



207号土坑

1. 黒褐色土 多くの灰白色粒と5~10cmの山石を含む。
2. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。
3. 黒褐色土 少量のローム小ブロックを含む。

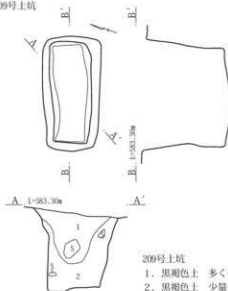
208号土坑



208号土坑

1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。
2. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。
3. 黒褐色土 少量のローム小ブロックを含む。

209号土坑



209号土坑

1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。
2. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。

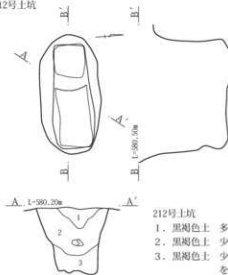
211号土坑



211号土坑

1. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。
2. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。
3. 黒褐色土 少量の灰白色粒とローム粒を含む。

212号土坑



212号土坑

1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。
2. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。
3. 黒褐色土 少量のローム粒とロームブロックを含む。

213号土坑



214号土坑



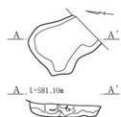
213号土坑

1. 赤褐色土 しっかり焼けた焼土層。炭化材、炭化物を多量に含む。
2. 暗褐色土 ローム粒1%混入。
3. 褐色土 ローム粒7~10%混入。縄文崩落層を主体とする。

0 1:60 2m

第121図 207~209・211~213号土坑

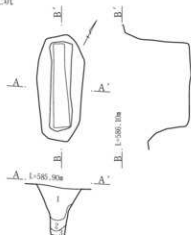
215号土坑



215号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒1%混入。
2. 暗褐色土 1層上にロームブロック5~10%混入。

217号土坑



217号土坑

1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。
2. 黄褐色土 ローム小ブロックを主とする層。
3. 黒褐色土 1層に近い軟質である。

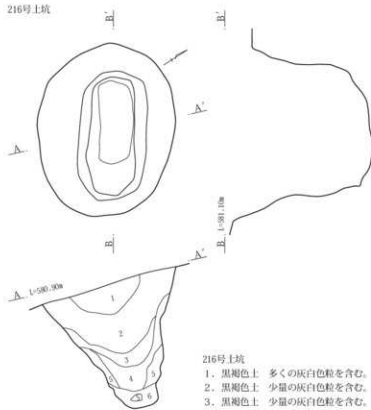
218号土坑



218号土坑

1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。
2. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。

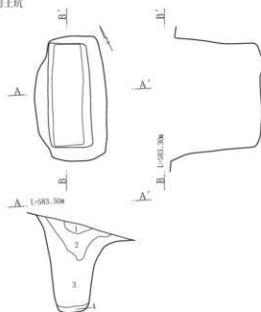
216号土坑



216号土坑

1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。
2. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。
3. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。
4. 黒褐色土 3層よりローム粒を多く含む。
5. 黄褐色土 ローム粒の崩れた層。
6. 褐色土 多くのローム粒とロームブロックを含む。

221号土坑



221号土坑

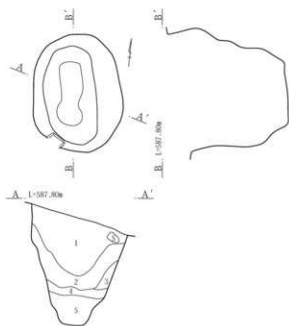
1. 暗褐色土 As-kkをブロック状に混入。
2. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。
3. 黒色土 灰白色粒ほとんど含まず。
4. 黒褐色土 少量のローム粒とローム小ブロックを含む。



第122図 215～218・221号土坑

## 第2章 調査された遺構と遺物

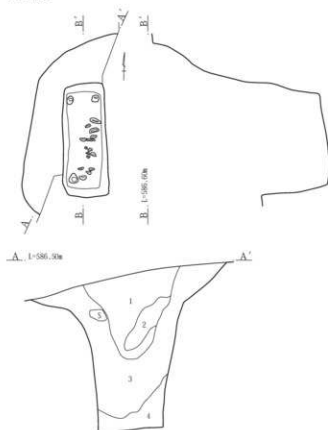
223号土坑



223号土坑

1. 黒褐色土 地山に混入する灰色岩片5~7%含む。締まっている。
2. 黒褐色土 灰色岩片5~7%含む。
3. 暗褐色土 灰色岩片5~7%、ロームブロック10~15%含む。
4. にがい赤褐色土 鉄分沈着層。締まっている。
5. 黒褐色土 鉄分少量混入。

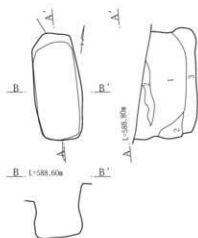
224号土坑



224号土坑

1. 黒褐色土 径1~3cmの灰色岩片5~7%含む。
2. 暗褐色土 赤っぽく見える。
3. 黒色土 径5~10cmの灰色岩片5~7%含む。
4. 3層上に壁の崩れのロームブロック5~10%含む。

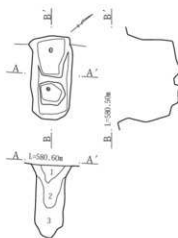
226号土坑



226号土坑

1. 黒色土 混入土少ない。
2. 黄褐色土 ローム小ブロックとロームを主とした層。
3. 暗褐色土 やや多くのローム粒とローム小ブロックを含む。

228号土坑



228号土坑

1. 黒褐色土 少量のローム粒を含む。
2. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。
3. 暗褐色土 多くのローム粒とローム小ブロックを含む。

0 1:60 2m

第123図 223・224・226・228号土坑

器片が出土している。陥し穴であろう。

231号土坑 53区I-24グリッド 南に233号、東に234号、239号土坑、北には232号土坑などが、南北に並ぶ土坑群の南端近くに当たる。上面での平面形状は長円形で、下部では東西に長い隅丸長方形を呈する。長軸長180cm、短軸長122cm、深さ63cm。長軸方位はN-83°-Wで、等高線と直交気味に斜行する。各壁は小さな丸みを持って直立するが、上部は特に東側で大きく崩れる。西壁には段状の掘り残しがある。出土遺物はない。陥し穴であろう。

232号土坑 53-63区I-25・1グリッド 南に231号、233・234号、北には17、18号焼土を挟んで235～238号などが並ぶ。上面の平面形状は楕円形だが、下部は東西に方形の掘方を連ねて、全体としては中央部にわずかに丸みを持つ東西に長い隅丸長方形の平面形を呈する。長軸長161cm、短軸長105cm、深さ120cm。長軸方位はN-76°-Wで等高線と斜行する。各壁は丸みを持って立ち上がり、上部で開く。出土遺物はない。陥し穴であろう。

233号土坑 53区I-23・24グリッド 231・234号土坑など、北に連続する土坑群の南端に当たる。平面形状は南北に長い長方形で、長軸長125cm、短軸長70cm、深さ25cm。長軸方位はN-11°-Eで、等高線とほぼ並行する。各壁はほぼ直立する。底面は南部、中部でわずかに深く掘り込まれるが、特別な構造は認められない。出土遺物はない。陥し穴の下部が残存したものであろう。

234号土坑 53区H-24グリッド 西に231号、233号土坑、北には232号土坑など、北に連続する土坑群の南端に当たる。上面の平面形状は長円形で、下部は南東から北西にかけて動物の生痕と思われる攪乱に大きく切られているが、南北に長い隅丸長方形を呈すると思われる。長軸長206cm、短軸長154cm、深さ139cm。長軸方位はN-0°で等高線と直交気味に斜行する。各壁は小さな丸みを持って直立し、上部で開く。出土遺物はない。陥し穴であろう。

235号土坑 63区I-1・2グリッド 南に232号、北に236号土坑など、南北に並ぶ土坑群の中部にある。平面形状は東西に長い長方形で、長軸長138cm、短軸長63cm、深さ40cm。長軸方位はN-84°-Wで等高線と平行気味に斜行する。各壁は小さな丸みを持つがほぼ直立する。底面は西部がやや深く掘られているが、特別な構造は認められない。出土遺物はない。陥し穴の下部にあたると思われる。

236号土坑 63区I-2グリッド 南に235号、東に237号、

北に238号など、南北に並ぶ土坑群の中部にある。

東西に方形の掘り方が並んだものと思われ、中央部にわずかに丸みを持つ東西に長い隅丸長方形を呈する。長軸長140cm、短軸長75cm、深さ123cm。長軸方位はN-87°-Wで等高線と平行気味に斜行する。壁面は丸みを持って立ち上がり、途中地山ロームの崩落などがあるもののほぼ直立する。底面には小さな凹凸がある。出土遺物はない。陥し穴であろう。

237号土坑 63区H-2グリッド 西に236号土坑が並ぶ。南北に並ぶ土坑群の中部にある。平面形状は東西に長い隅丸長方形で、長軸長168cm、短軸長110cm、深さ90cm。長軸方位はN-85°-Eで等高線と平行気味に斜行する。各壁は小さな丸みを持って直立する。下部では東部を掘削した後に西部を掘削したらしく、西部の方が広く、また底面も深く掘削されている。底面には特別な構造は認められない。出土遺物はない。陥し穴であろう。

238号土坑 63区I-2・3グリッド 南に236号、237号土坑がある。南北に並ぶ土坑群の中部にある。平面形状は南北に長い、胴張りの強い長円形で、長軸長137cm、短軸長88cm、深さ72cm。長軸方位はN-5°-Eで周辺土坑とは大きく異なる。等高線とは斜行する。各壁は丸みをもって立ち上がり、上方に開く。底面は北部が一段深く掘られている。出土遺物はない。陥し穴であろう。

239号土坑 53区H-1・24グリッド 南に234号、231号土坑などがある。南北に並ぶ土坑群の南端近くにある。南部を大きく攪乱されているため、平面形状は確定できないが、南北に長い隅丸長方形と思われる。長軸確認長50cm、短軸長63cm、深さ98cm。長軸方位はN-20°-Eである。北壁はほぼ直立し、底面は平坦である。出土遺物はない。陥し穴であろう。

240号土坑 63区H-8グリッド 東に204号、260号土坑がある。東西に並ぶ土坑群の西端に当たる。上面の平面形状は円形で、下部は東西に長い隅丸長方形である。長軸長204cm、短軸長187cm、深さ158cm。長軸方位はN-63°-Wで等高線と直交気味に斜行する。各壁は小さな丸みを持って直立するが、上部では崩れて大きく開く。

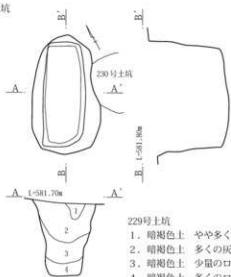
土師器片が出土している。底面には特別な構造は認められない。陥し穴であろう。

241号土坑 63区I-3グリッド 南に238号、北にやや離れて211号土坑がある。南北に並ぶ土坑群に中部北端に



第2章 調査された遺構と遺物

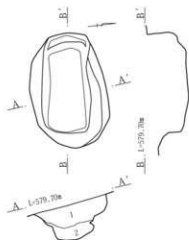
229号土坑



229号土坑

1. 暗褐色土 やや多くのローム粒を含む。
2. 暗褐色土 多くの灰白色と褐色粒を含む。
3. 暗褐色土 少量のローム粒を含む。
4. 暗褐色土 多くのローム小ブロックとローム粒を含む。

231号土坑



231号土坑

1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。
2. 黒褐色土 多くのロームブロックとローム粒を含む。

232号土坑



232号土坑

1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。
2. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。
3. 黒褐色土 多くのロームブロックとローム粒を含む。

233号土坑



233号土坑

1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。

234号土坑



234号土坑

1. 黄褐色土 ロームを主体とした層。
2. 黒褐色土 少量のローム粒を含む。
3. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。
4. 黒褐色土 多くのロームブロックとローム粒を含む。

235号土坑



235号土坑

1. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。

0 1:60 2m

第124図 229・231～235号土坑

あたる。平面形状は東西に長い隅丸長方形で、下部では中央にくびれが認められる。長軸長138cm、短軸長68cm、深さ59cm。長軸方位はN-82°-Eで等高線にほぼ並行する。各壁は丸みを持って立ち上がる。東から西に向かって順次掘り進めていったようで、中央部の掘り残した高まりを挟んで東西がやや深い。出土遺物はない。陥し穴であろう。

242号土坑 63区B・C-5グリッド 平安時代の23・29・48号住居を切る。近世の178号土坑に切られる。平面形状はほぼ円形で、直径85～86cm、深さ58cm。壁面は小さな丸みを持って直立する。底面は平坦である。土師器片が出土している。用途・機能は特定できない。

243号土坑 63区B・C-7グリッド 新旧関係は判然としなないが、23号住居に接している。平面形状は南北にやや長い卵形で、長軸長84cm、短軸長74cm、深さ22cm。長軸方位はN-37°-Wである。椀状の凹みで、焼土、炭化物、灰層が広がる。出土遺物はない。竈ないし炉の残痕と考えられる。

256号土坑 63区G-10グリッド 西に50号住居、東に198号土坑、北に1号竪穴、南に224号土坑がある。上面の平面形状は楕円形で、下部は南北に長い隅丸長方形に近い。長軸長176cm、短軸長124cm、深さ180cm。長軸方位はN-3°-Wで等高線と直交気味に斜行する。各壁は上方に開くが、北壁下はえぐり込むように広がる。底面は南北が低く、中央が掘り残されて高まる。出土遺物はない。陥し穴であろう。

257号土坑 63区G-H-10グリッド 50号住居を切るものと思われる。平面形状は南北にやや長い円形で、皿状の断面形である。長軸長110cm、短軸長93cm、深さ35cm。長軸方位はN-3°-E。底面から西側に焼土が広がり、須恵器皿、羽釜が出土している。竈または炉の残痕かと思われる。

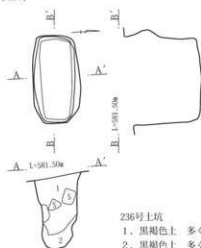
259号土坑 63区G-9・10グリッド 50号住居と重複するが、新旧関係は捉えられない。南に260号土坑、東に224号土坑など、陥し穴が多い部分である。上面の平面形状は特に東側の側が張った長円形で、下部では南北に長い隅丸長方形を呈する。長軸長185cm、短軸長149cm、深さ210cm。長軸方位はN-12°-Eである。各壁は丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立するが上部は開く。底面は南北に一段深い掘りこみがあり、中央が掘り残されて高まる。

土師器片が出土している。陥し穴であろう。

260号土坑 63区G-8・9グリッド 北に259号土坑、南に204号、240号土坑など、陥し穴が多い部分である。上面の平面形状は楕円形で、下部では隅丸長方形の掘方が南北に連続していて、中央にくびれを持った、南北に長い隅丸長方形を呈す。長軸長215cm、短軸長145cm、深さ227cm。長軸方位はN-10°-Eである。各壁は丸みを持って立ち上がり、上部でやや開く。底面は南北がやや低く、また、西部がやや低く掘られている。出土遺物はない。陥し穴であろう。

第2章 調査された遺構と遺物

236号土坑



- 236号土坑  
 1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。  
 2. 黒褐色土 多くのロームブロックとローム粒を含む。

237号土坑



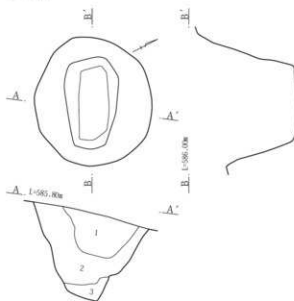
- 237号土坑  
 1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。  
 2. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。  
 3. 黒褐色土 多くのロームブロックとローム粒を含む。

238号土坑



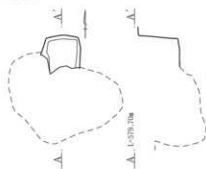
- 238号土坑  
 1. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。  
 2. 黒褐色土 多くのロームブロックとローム粒を含む。

240号土坑



- 240号土坑  
 1. 黒褐色土 多くの灰白色粒と少量の山石を含む。  
 2. 黒褐色土 1層に近いやや黒色が強い。  
 3. 黒褐色土 多くのロームブロックとローム粒を含む。

239号土坑



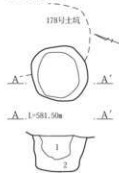
- 241号土坑  
 1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。

- 242号土坑  
 1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。  
 2. 黒褐色土 少量の灰白色粒とローム粒を含む。

241号土坑



242号土坑



0 1:60 2m

第125図 236～242号土坑

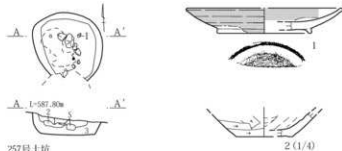
243号土坑



243号土坑

1. 黒褐色土 少量の灰白色粒と灰を含む。

257号土坑

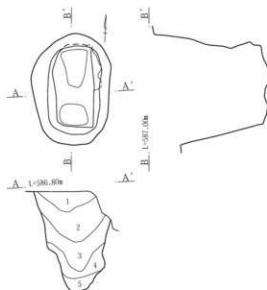


257号土坑

1. 黒褐色土 少量のローム粒を含む。
2. 赤褐色土 焼土粒を主とした厚い層。
3. 黒褐色土 灰白色粒を多く含む。



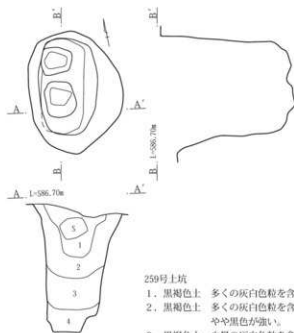
256号土坑



256号土坑

1. 黒褐色土 小さな山礫を多く含む。
2. 黒褐色土 少量の山礫を含む。
3. 黒褐色土 少量のローム粒を含む。
4. 黒褐色土 黒色の強い層。
5. 黒褐色土 多くのロームブロックとローム粒を含む。

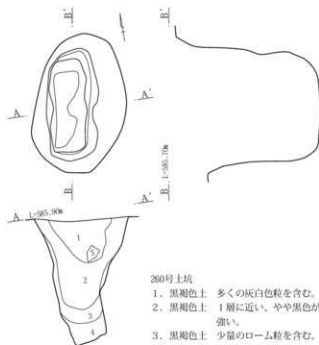
259号土坑



259号土坑

1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。
2. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含み、やや黒色が強い。
3. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。
4. 黒褐色土 多くのロームブロックとローム粒を含む。

260号土坑

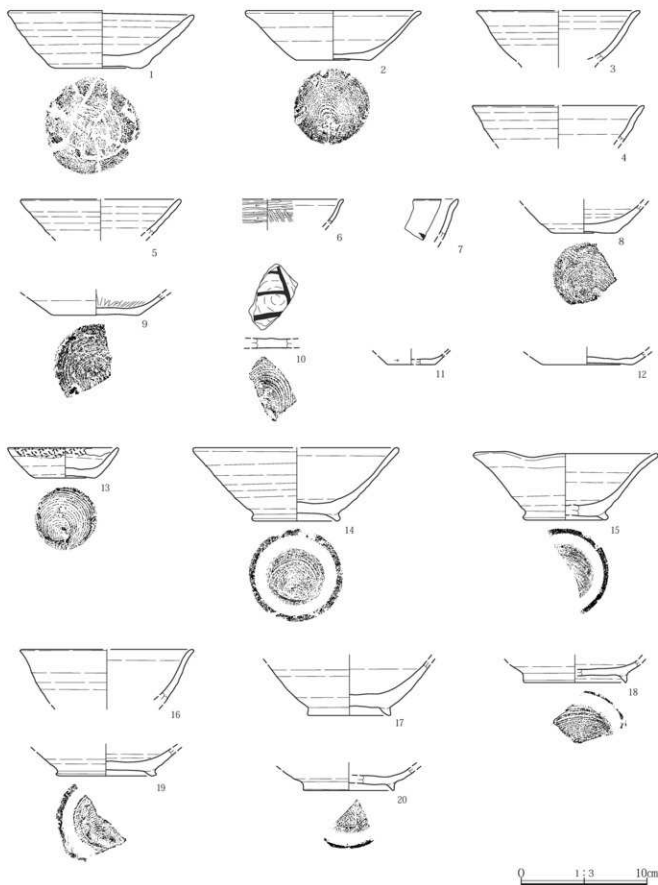


260号土坑

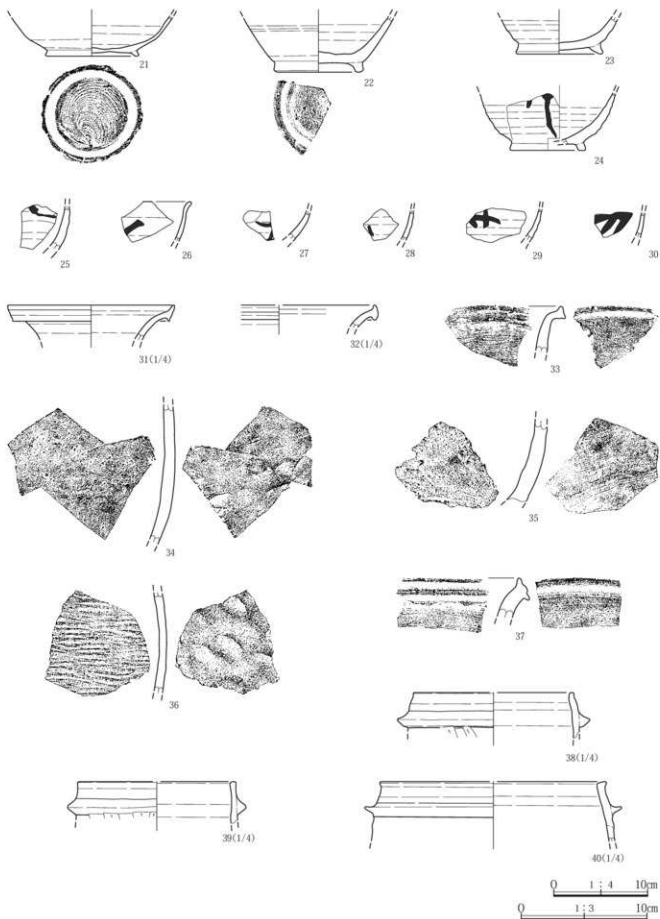
1. 黒褐色土 多くの灰白色粒を含む。
2. 黒褐色土 1層に近い、やや黒色が強い。
3. 黒褐色土 少量のローム粒を含む。
4. 暗褐色土 多くのローム粒とローム小ブロックを含む。



第4項 遺構外出土遺物

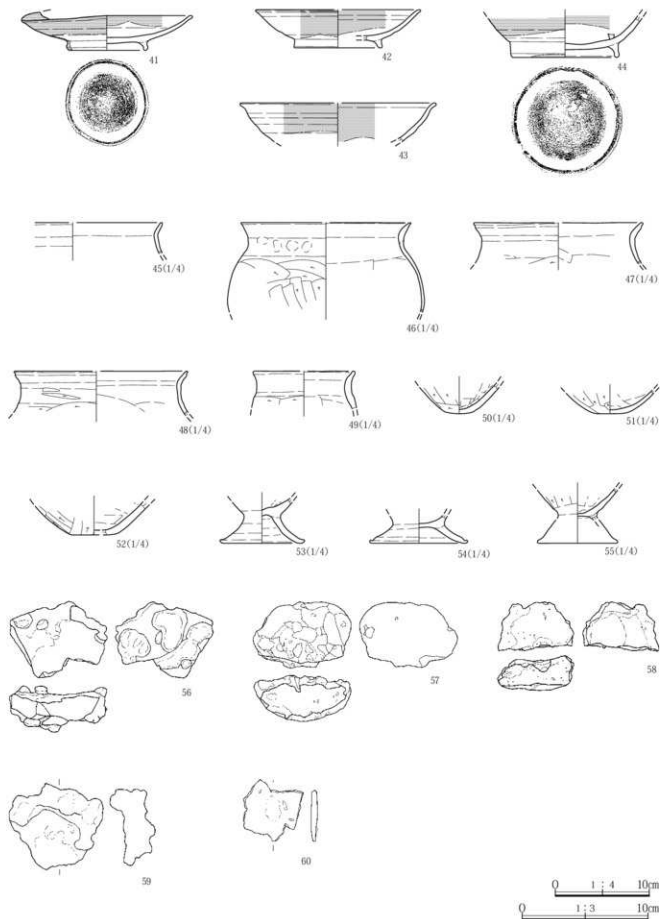


第127図 遺構外出土遺物(1)



第126図 遺構外出土遺物(2)

第2章 調査された遺構と遺物



第129図 遺構外出土遺物(3)

## 第5節 中世以後の遺構と遺物

## 第1項 野口茂四郎氏居宅跡

概要 調査区の最南部にあたる北西から南東に向かって傾斜する斜面を切り込んで整地し、南西―北東方向の長辺長47m、北西―南東の短辺長18―21mほどの平坦面を作って敷地としている。平坦面の最高位は578mで、緩やかに北西から南東に、576.5mラインまで下る。北西部での切り土高は約2mあり、一部張り出しを持つ石垣を構える。北西隅は不明確だが、南西壁石垣基部の石積み部分が部分的に残っている。北東壁は南部の盛り土部分に石垣が設けられる。北西壁の基部から約14.5mの位置に、南石垣があって、これから段をもって平坦面が2分される。南石垣より南東側では傾斜がやや強くなる。

建物やその基礎はほとんど残されていない。遺構として認められたのは、敷地を囲む石垣、石列のほか、敷地中央よりやや北西寄りのコンクリートを敷設した建物基礎とおもわれるもの1か所、北西の石垣際に作られた井戸3基、敷地南西隅に作られた池1か所であった。

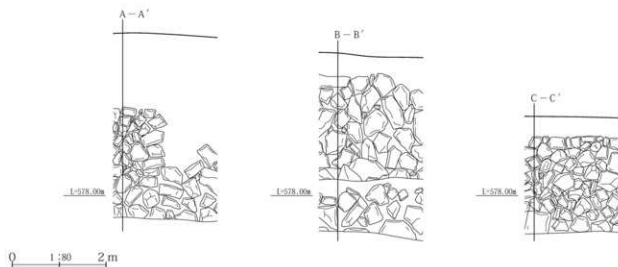
北石垣 北西は斜面を切り土して、長39mにわたって高さ2mほどの石垣(北石垣)を備える。北東端は比較的小ぶりの角礫8〜10石ほどを乱積みに近い谷積みになっている。この西側はやや大ぶりの角礫5〜6石を谷積みになっている。この西側は北東端に似た小ぶりの角礫によるもので、円礫を交える。さらにその西は大ぶりの角礫による石積みとなる。本来は大振りの角礫による石垣が連続していたものが、部分的に崩れたために補修したもので

あろう。北石垣の正面図(第130図)では、E.P.B-B'部分が元の石垣に、E.P.C-C'部分が補修部にあたる。

石垣全体のほぼ中央部分には、幅9.5mにわたって、造成面より1.4mほど高い位置に奥行2mほどの棚状の張り出し部を設けている。角部は整った長方形の平石を5石算木に積んでいるが、これに続く張り出し部北東壁は、基部を角礫で構成するものの、上部は長円礫を谷積み積む。この部分以外の張り出し部北西壁と張り出し部の下段にあたる石垣は角礫の谷積みであるが、目地が広く、やや雑な積み方に見える。北西の張り出し部奥壁では、中央部に薄手の礫を左下がりには使う傾向が見えるが、左右ではこれがみられないため、ここでも積み直しがあつたようである。張り出し部左側壁は崩れていて詳細がわからない。また、張り出し部の北西隅部近くには方形の鉄板を敷き、これをやや大きめの角礫で囲うような痕跡が認められている。この鉄板を含め、張り出し部の用途、性格は把握されていない。

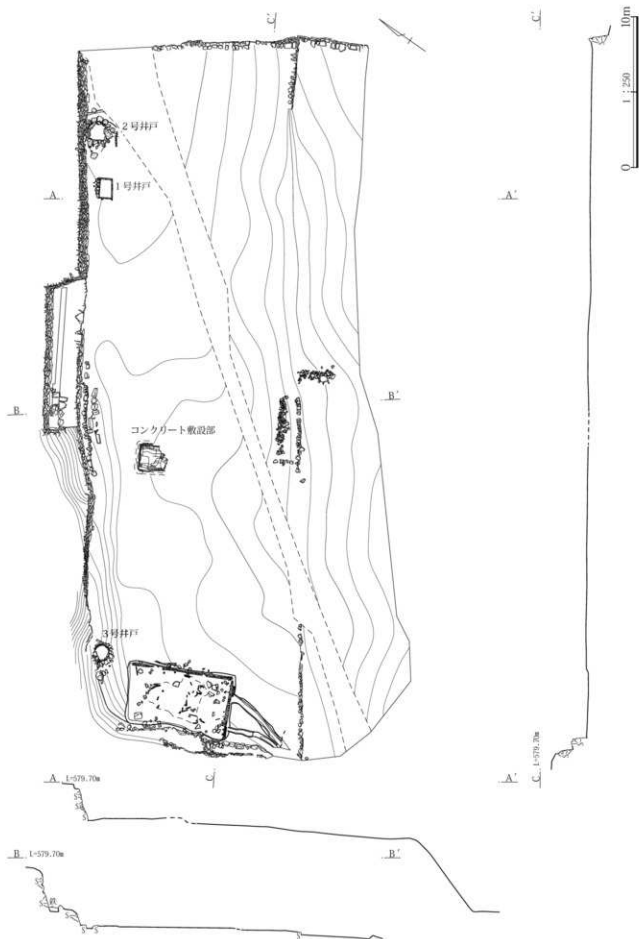
張り出し部の左側5mほどは、上部が大きく崩れており、造成面に角礫が崩落している。張り出し部の右側に近い状態で比較的大ぶりの角礫を谷積みにするが、目地がやや広く、扁平礫がほぼ垂直に差し込まれたり、四ツ目に近い状態がみられるなど、全体として張り出し部右よりもやや粗雑な積み方であるように感じられる。さらに、礫の積まれる方向や粗密が異なる部分があり、何回か積み直された可能性が高い。

西石垣 南西辺の石垣を西石垣として調査しているが、半ばまでは基部の石列がかろうじて残る状態である。北



第130図 野口茂四郎氏居宅跡 石垣





第131図 野口成四郎氏邸宅跡

石垣との接続部は確認されない。池遺構の南端近くからは基部に比較的大型の角礫を据え、その上にやや小ぶりの角礫や円礫を交えて、谷積みを意識したであろう積み方の残痕がみられる。

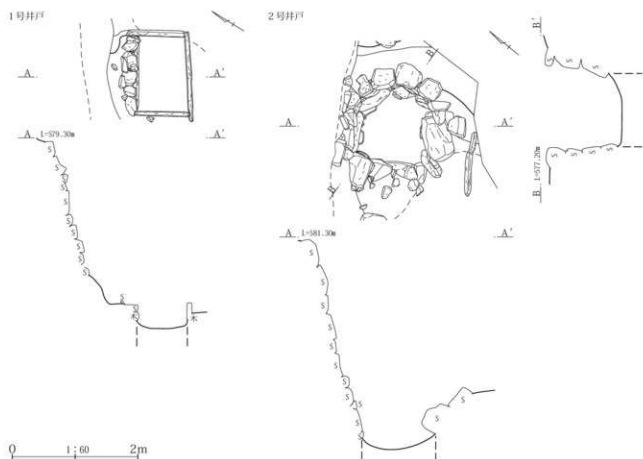
**東石垣** 北東辺の石垣を東石垣として調査している。北石垣が接続する隅部は確認されていない。東石垣は屋敷地南部の盛り土部分を抑えるため、屋敷地の外を表面とする石垣である。比較的大ぶりの角礫、円礫を谷積みになっている。各石は北石垣より大きい。南石垣より北では4～6石を、以南では3～4石を積む。高さは1.2mほどある。

**南石垣** 北石垣の基部から13mほどの位置にあり、屋敷地を二分する石垣である。東部の東石垣との接続部では、やや小ぶりの角礫、円礫を交えて3～4石を0.5mほどの高さに積み上げている。これは4.5mほどで途切れる。延長線上の屋敷地中央近くでは、角礫、円礫が5mほど並べられて、石垣というより石列に近い形状で残っている。また、これと幅1mほどの間隔をあけて並行して、扁平な円礫や小ぶりの円礫が集中する部分があり、両者

の間にはローム土が集中して見出されている。さらに、この東にこれと直行する方向に円礫が集中する。位置的に見て、門などの構造があった痕跡かとも思われる。南西部には大小さまざまな円礫、角礫の基部一石のみが列状に残されていた。

**1号井戸** 屋敷地の北東部の北石垣直下にある。北東に2.5mほど離れて2号井戸がある。北西辺を樹皮をはいだ丸太の上に礫を置き、他の三辺は厚板で囲う。北東—南西の長辺の内側長1.2m、直行する短辺の内側長0.75m。南東辺の板は長1.42mで、左右の短辺を構成する板がその内側にとりつく。右辺板の長さ0.91m、左辺板の長さ0.88m、厚さはともに6cmほどである。井戸底面までは掘りぬいておらず、各板の高さについては記録がない。地山井筒の井戸の上面に井桁を組んだものか、木枠内で湧出水をためるだけのものか判断できない。

**2号井戸** 地山を深く掘り、角礫、円礫を緊密に組んだ井筒を設けている。上面は東部は丸みを持ち、西部は直線的な平面形を呈し、縦横各1mほどの大きさである。造成面下1mほどまで掘り下げたところ、3段から4段



第132図 野口茂四郎氏居宅跡 1・2号井戸

の石組が確認できた。北西部は北石垣の石組と連続しているが、この部分は崩落していない部分にあたるため、石垣構築当初から併存していた井戸であろう。また、石垣に接して作られることから、上部に井桁構造を持ったとは考えにくい。

**3号井戸** 1・2号井戸とは反対側の、屋敷地北西隅近くにある。北石垣の基部のみが残された部分にあたるが、やはり切り土した斜面直下に作られている。2号井戸と同様の石組の井筒を持つ。平面形は比較的整った、径0.95mほどの円形で、2号井戸に比べると円礫を多用する。造成面下1mほどまで掘り下げたところ、4段から6段の石組が確認されている。2号井戸同様に北西部は北石垣の石組と連続している。石垣の崩落が激しい部分であるので、前後関係は把握できない。石垣に接して作られることからやはり、上部に井桁構造を持ったとは考えにくい。

**コンクリート敷設部** 屋敷地の南西部、北石垣基部からの距離3.2m、北石垣張り出し部左壁の延長線から南西に0.9mほどの位置にある。南東部が失われているが、北西—南東に長軸を持つであろう方形の構造物の残骸である。長軸方向の残存長2.1m、北東—南西の短辺長2.2m。最外周を幅0.2mほどの帯状に砂質土で固め、その内部全面に、薄くコンクリートを張っている。コンクリートを除去したところ、その直下には長軸方向に合わせて、それぞれ30cmほどの幅の5枚の木の板が敷き詰められている。

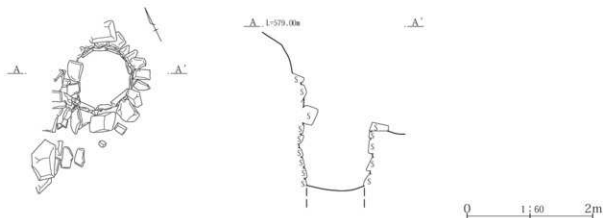
**西小屋(池)** 敷地の北西隅近く、西石垣に接した位置に造られた池の遺構である。調査当初においては建物跡と考えられたため「西小屋」として記録されている。北西—

南東に長軸を置く、基本的には長方形の平面形を呈するが、短辺の北西辺が南東辺よりやや短い。西石垣直下にあたる南西辺は中部でくびれるが、石垣の崩落に起因するものであろう。掘り込みの上部で計測すると、北東辺長7.1m、南西辺6.9m、北西辺4.1m、南東辺4.3mほどの規模である。池は鉄分の沈着斑を含む粘質の暗褐色土で埋まっている。斜面からの差し水で含水率が高く、池周囲の木質の護岸や底に設置された桶などが残されていた。

図示されていないが、南東辺から傾斜に沿って2条の溝が流下する。池からオーバーフローした水を逃がしたものであろうか。

北東辺と南西辺には、掘り込みの内側に沿って丸太や角材を2段重ねて土留めとし、これを丸木杭で止める構造がみられる。北東辺では北側から、長さ1.5m、2.6m、2mの3本の材が並べられ、南西辺は東から1.6m、1.5m、0.7mの3本が並ぶ。角材の中には建築材を転用したものであろう、ほぞ穴を持つものも見受けられる。丸木杭は池側に打たれるが、必ずしも規則的ではない。また、北東辺中央付近では岸側に1本打たれており、北東部には池内に独立して1本打たれている。

池の中央やや南東寄りに木製の桶が埋設されていた。口径82.4cm、底径79.7cm、高さ82.6cmの比較的大型の桶で、24枚の板を竹釘で接続し、竹の箍で上下を締めて作っている。池の底面は青灰色の還元した粘質土であるが、そこに穴を掘って埋め込んでいる。桶内部の埋没土は池の埋没土と同じ暗褐色土であるため、湛水時には内容物がなく、池の埋没時に同時に埋められたものと思われる。池の底面から15cmほど高い位置に口縁があるが、池が満



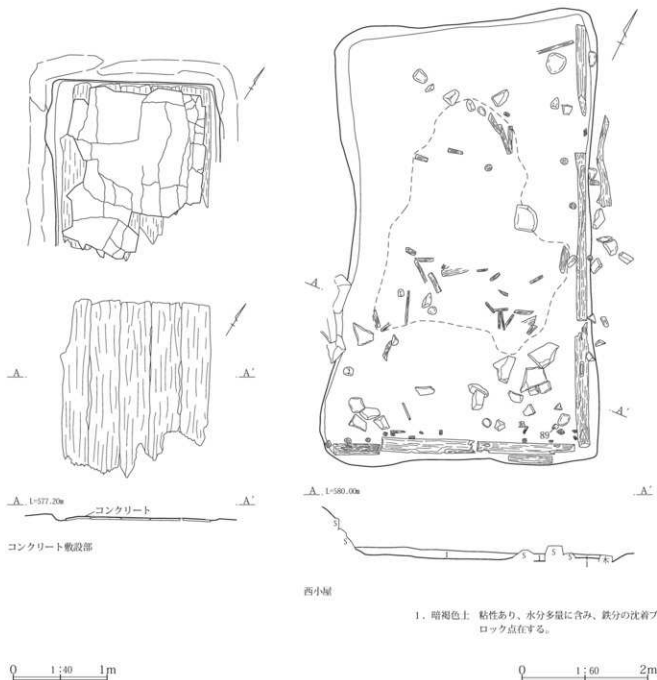
第133図 野口茂四郎氏居宅跡 3号井戸

水であるとなると、水面下25cmほどの位置である。底板の痕跡が側板内側で観察できるが、外されており、底抜けの状態で水中にあったことになる。また、桶の内側に沿って1本の棒が立てかけるように置かれたままの状態出土した。長さ112cm、幅5.1cm、厚さ2.7cmの面取りされた角材であった。冬季の魚の避寒場所として設置されたものであろうか。

埋没土上面には西石垣から崩落したと思われる角礫が点在していたが、底面では比較的大型の角礫2石が確認

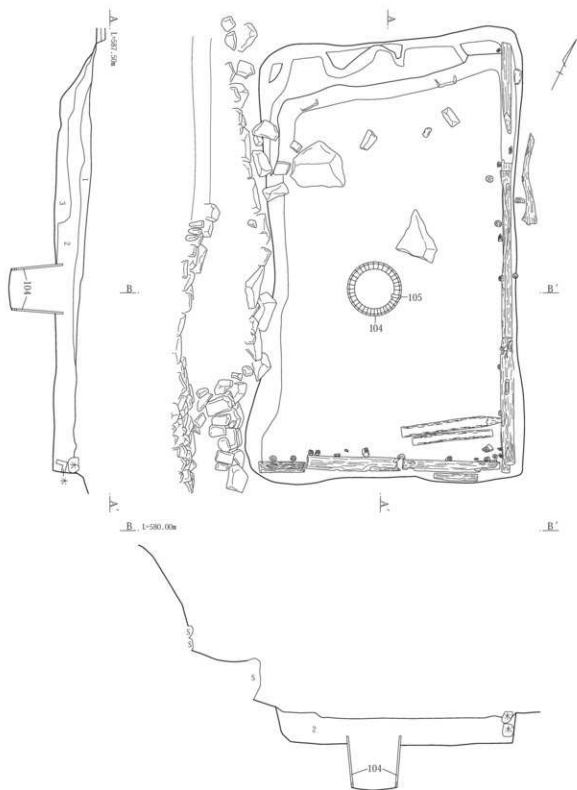
された。意図的に置かれたものであろうが、水面上に出る高さではないので、修景上の効果があったものとは思われない。

出土遺物 池の埋没土中から銅製の蓋が出土しているほか、屋敷地内の各所で陶磁器、ガラス瓶、石製品、木製品、銭を含む金属製品などが出土している。磁器には「野口」銘を持つ染付が含まれる。水車に用いられたと考えられる大型の石臼もある。



第134図 野口茂四郎氏居宅跡 コンクリート敷設部・西小屋(1)

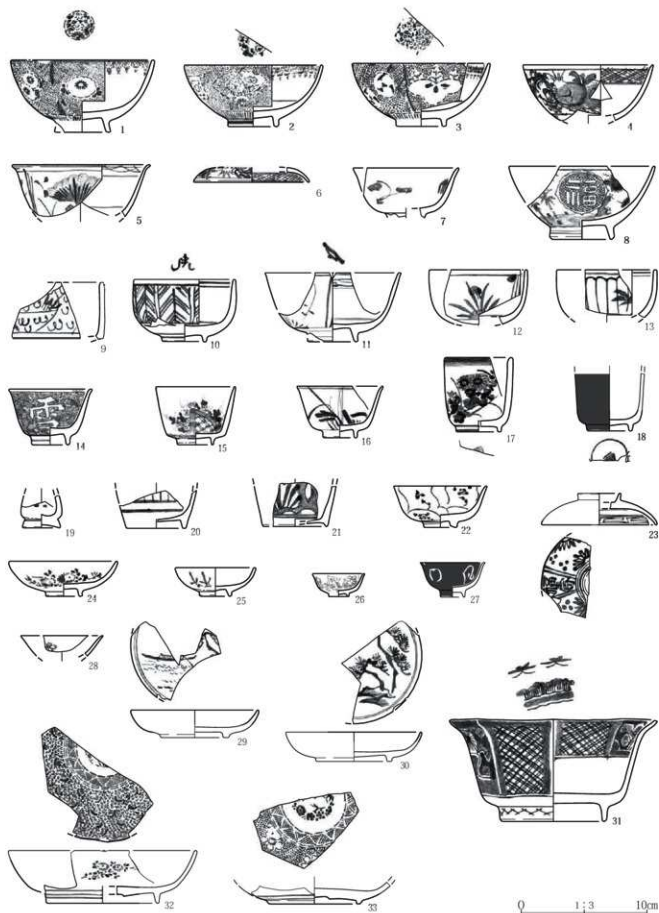
1. 暗褐色土 粘性あり、水分多量に含み、鉄分の沈着ブ  
ロック点在する。



1. 暗褐色土 粘性あり、水分多量に含み、鉄分の沈着ブロック点在する。
2. 褐灰色土 粘性あり、微細な沈殿土層。
3. 青灰色土 粘性あり、青みを帯びた無酸素土。

0 1:60 2m

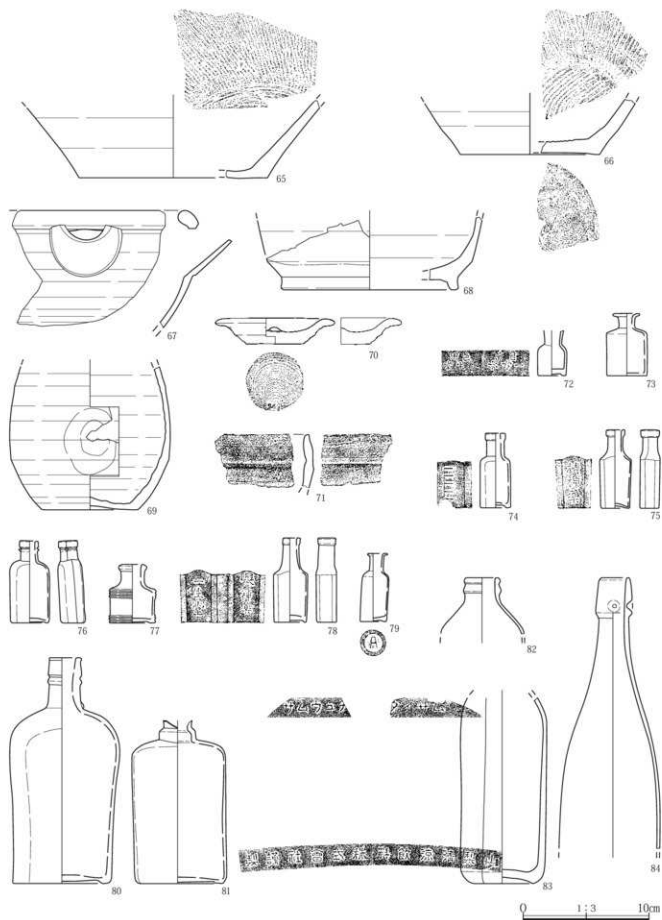
第135図 野口茂四郎氏居宅跡 西小屋(2)



第136図 野口茂四郎氏居宅跡出土遺物(1)

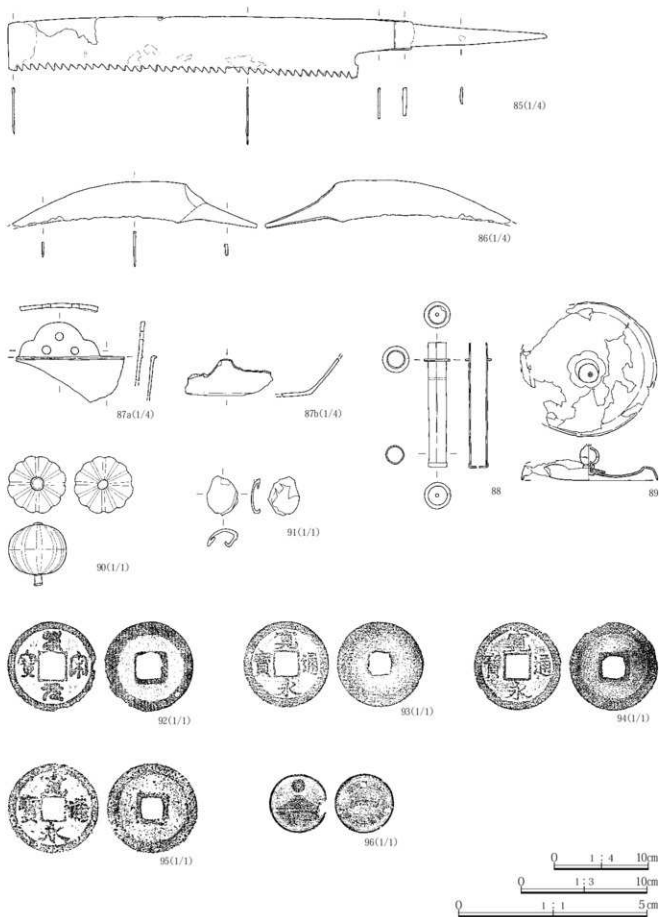


第137図 野口茂四郎氏居宅跡出土遺物(2)

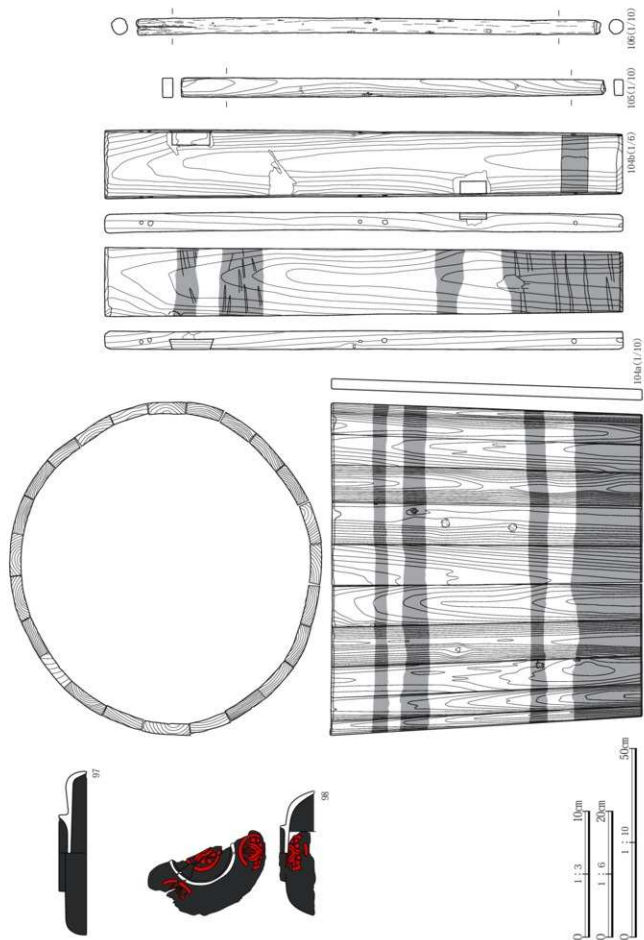


第138回 野口茂四郎氏居宅跡出土遺物(3)

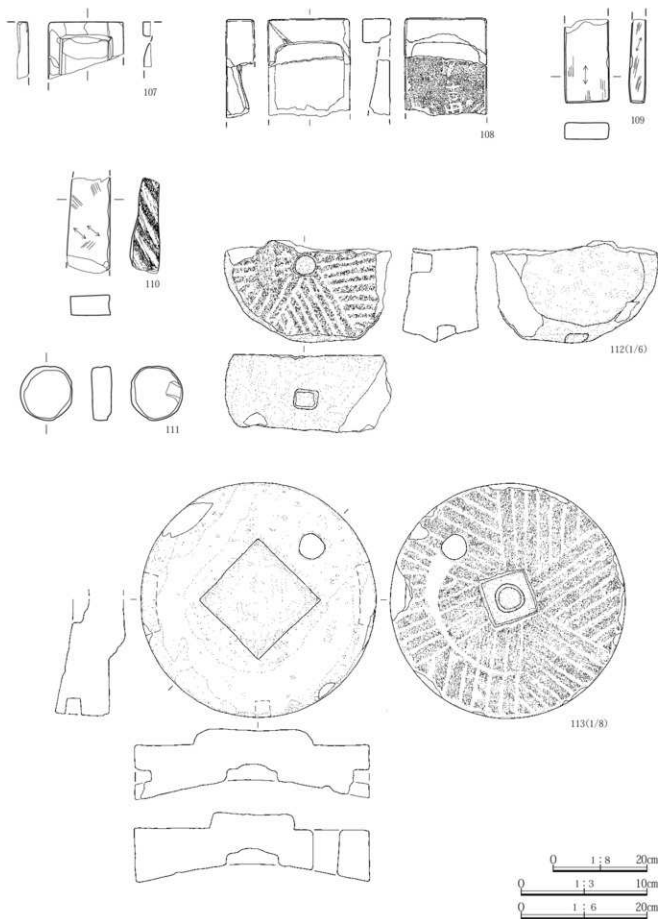




第139回 野口茂四郎氏居宅跡出土遺物(4)



第140図 野口茂四郎氏邸宅跡出土遺物(5)



第141図 野口茂四郎氏居宅跡出土遺物(6)

## 第2項 礎石建物

**概要** 野口茂四郎氏居宅跡の北30mほどの位置に、小さな平坦面が造成されている。北東—南西方向にやや長い方形の平面形で、間口9m、奥行き8mほどの規模である。斜面下位にあたる南東辺に石垣を構える。石垣基部の標高は587.2m、石垣上面の標高は588.2mで、山際の平坦面最高位では588.8mほどとなる。山際には石垣はないが、北西辺中央部近くに湧水を溜める小さな井戸が設けられている。その前に礎石建ちの建物が作られている。北西辺の間口方向は1列8間分9石とこれと接続する南西辺の2間3石のみが残されていた。野口茂四郎氏在世中には神明宮として祀られていた場所であろう。

**石垣** 平坦面は北西から南東に下がる傾斜面の上位を切り土し、下位に盛り土して造成されている。石垣はその南東端を留めるもので、敷地の全面のみに設けられている。長さ9.2m、高さ約1mほどの規模である。大小の角礫を谷積み気味の乱積りで3石から5石ほど組んでいる。上り口や階段状の施設はない。北東辺は2mほど、南西辺は1mほどしか認められない。

**井戸** 山際にあたる北西辺の中央近くに設けられる。最上部は角礫、円礫を2～3段組み上げて、南東方向にコ字状に開く構造を作る。石積みの外側で幅80cm、奥行き100cm、内法では幅50cm、奥行き70cmほどの大きさである。この中に、丸木を横に5～6段積み上げて組んだ井筒を設け、四隅を縦方向の丸木杭で留めている。

**礎石** 山際から1mほど離れた位置から、20cmほどの深さで一段低く整地し、その上に礎石を置いている。南西隅の礎石1を起点として北東方向に、礎石9までの9石が並ぶ。礎石4以外には柱当たりの痕跡があり、礎石8以外はその痕跡がE-P-Aラインにほぼ乗っているため、大きくは動いていない状態で残されているものと考えられる。No1から南東方向に直交してNo11、No10が並ぶ。No11には柱痕跡がある。

**礎石1** 北東に頂点を持つ五角形の平面形の円礫。長さ40cm、幅30cm、厚さ20cm。ほぼ中央に円形の柱痕跡がある。上部標高は588.39m。

**礎石2** 北に頂点を持つ五角形の平面形の垂角礫の割石。長さ39cm、幅34cm、厚さ22cm。中央に方形の柱痕跡がある。上部標高は588.33m。

**礎石3** ゆがんだ円形の平面形の円礫。長軸長33cm、短

軸長31cm、厚さ17cm。白い漆喰状の付着物がある。中央に方形の柱痕跡がある。上部標高は588.27m。

**礎石4** 南東に頂点を持つ五角形の平面形。割られた垂角礫の剖面を上にして据えている。長さ28cm、幅26cm、厚さ6cm。柱痕跡は認められない。上部標高は588.31m。

**礎石5** 細長い楕円形の平面形の円礫。長軸長47cm、短軸長19cm、厚さ17cm。南東寄りに円形の柱痕跡がある。上部標高は588.34m。

**礎石6** 不整な平面形の垂角礫の割石。長軸長33cm、短軸長27cm、厚さ21cm。中央に方形の柱痕跡がある。上部標高は588.35m。

**礎石7** ゆがんだ円形の平面形の垂円礫。長軸長34cm、短軸長25cm、厚さ22cm。白い漆喰状の付着物がある。中央に方形の柱痕跡がある。上部標高は588.35m。

**礎石8** 北辺と西辺を切った垂角礫の割石。長軸長32cm、短軸長25cm、厚さ18cm。白い漆喰状の付着物が南西角部近くにある。上部標高は588.34m。周辺に小角礫が散在する。

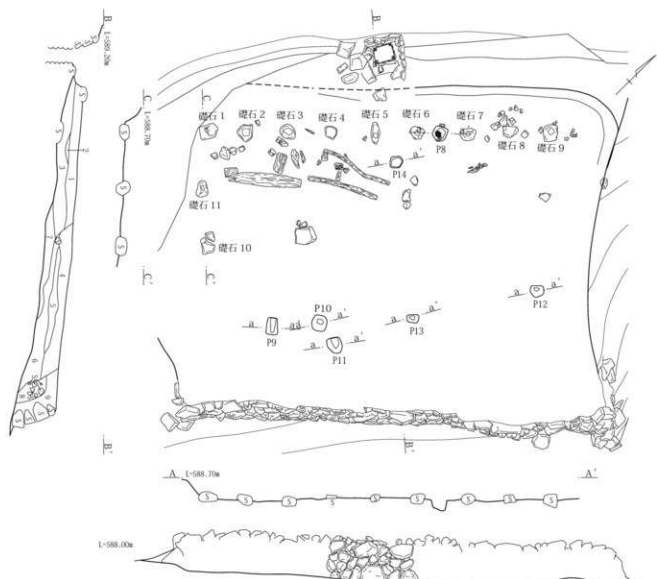
**礎石9** 一端が丸い方形の平面形の垂円礫の割石。長軸長36cm、短軸長31cm、厚さ33cm。中央に方形の柱痕跡がある。上部標高は588.35m。

**礎石10** 隅丸長台形の平面形の垂円礫。上面は広く敲打により調整されている。北隅部が割れている。長軸長35cm、短軸長28cm、厚さ27cm。上部標高は588.35m。

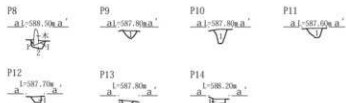
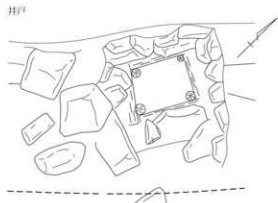
**礎石11** まるみのある長台形の平面形の垂円礫。長軸長34cm、短軸長17～26cm、厚さ28cm。中央近くに長方形の柱痕跡がある。上部標高は588.40m。

他にもやや大ぶりの角礫がみられるが、柱痕跡は認められず、位置も合わないために礎石とはしない。また、北西部に北西辺に並行するような状態で角材や丸木材などの木片が出土しているが、建築部材としての位置づけはわからない。

図上計測であるが、痕跡の芯々間距離は、1～2間0.85m、2～3間0.90m、3～5間1.85m、5～6間0.95m、6～7間1.07m、7～9間1.77mである。1～11間の芯々距離は1.20mある。10には柱痕跡が認められないが、10～11間もおよそ1.2m離れている。1～9間は7.39m、1～10間は約2.4mとなり、桁行8間25尺、梁間2間8尺となる。それぞれ2間×2間の4社殿が連接されていた、あるいは1～3、4～6、7～9で別れた3棟



- |          |                                 |          |   |
|----------|---------------------------------|----------|---|
| 1. 黒色土   | 木材片・等を多量に含む。水分が多く、軟らかい。腐植土層。    | 5. 黄色土   | ローム二次堆積層。                               |
| 2. 灰白色土  | 木材・粗礫を含む。水分を含み、軟らかい。            | 6. 明青灰色土 | 砂礫を多量に含み、砂層に近い。水分を含むが、硬い。グライ化層。4層の二次堆積。 |
| 3. 灰白色土  | なにも含まない。水分を含み、軟らかい。             | 7. 黒色土   | 1層によく似ているが、木材・等を含まない。軟らかい。              |
| 4. 明青灰色土 | 砂礫を多量に含み、砂層に近い。水分を含むが、硬い。グライ化層。 | 8. 棕色土   | 遺物を包含する。参加して変色している。硬い。                  |
|          |                                 | 9. 灰白色土  | 何も含まない。水分を含み、軟らかい。                      |



- P8
1. 黒褐色土 粘性ある埋土。
  2. オリーブ黒色土 泥炭層状の粘性ある土質鉄分の沈着部見える。
- P9～14
1. 暗褐色土 混入物少ない。部分的に地山の黒色土、ブロック状に混入。

0 1:20 50cm

0 1:60 2m

第142図 礎石建物

の独立した社殿があったなどが考えられる。

**ピット** 礎石建物との関係は明確ではないが、造成された範囲内で8号から14号ピットまで、計7基のピットが見つかった。8号ピットは礎石№6と№7の間にあり、建物と何らかの関連を持つ可能性が考えられるが、他は散在的であり、底部レベルもまちまちである。

**8号ピット** 高さ、幅ともに33cmのゆがんだ五角形の平面形。深さ12cm。下部はオリーブ黒色の粘質土、上位は粘質の黒褐色土で埋められ、丸木の柱材が残っている。

**9号ピット** 長軸長35cm、短軸長18～24cmの隅丸長形の平面形。深さ22cm。粘質の黒褐色土で埋まっている。

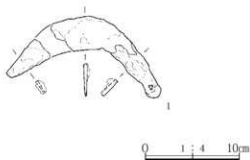
**10号ピット** 長軸長34cmの胴の張る隅丸長形の平面形。深さ19cm。粘質の黒褐色土で埋まっている。

**11号ピット** 長軸長34cm、短軸長28cmの不整な平面形。深さ30cm。粘質の黒褐色土で埋まっている。

**12号ピット** 長軸長30cm、短軸長24cmの不整な平面形。深さ17cm。粘質の黒褐色土で埋まっている。

**13号ピット** 長軸長26cm、短軸長14～17cmの隅丸長台形の平面形。深さ10cm。粘質の黒褐色土で埋まっている。

**14号ピット** 長軸長26cm、短軸長22cmのゆがんだ方形の平面形。深さ14cm。粘質の黒褐色土で埋まっている。



第143図 礎石建物出土遺物

### 第3項 土坑・ピット

**103号土坑** 63区C-8・9グリッド 平面形は長円形。長軸長204cm、短軸長48cm、深さ9cm。長軸方位はN-27°-W。礫、土器片が出土。

**110号土坑** 63区B-2・3、C-3グリッド 20号住居を切る。平面形は隅丸長方形。長軸長155cm、短軸長115cm、深さ不明。長軸方位はN-28°-W。礫が出土。

**111号土坑** 63区C-D-4グリッド 137号土坑と重複する。

平面形は長円形。長軸長147cm、短軸長50cm、深さ不明。長軸方位はN-32°-W。礫が出土。

**112号土坑** 63区E-2・3グリッド 19号住居を切る。平面形は隅丸長方形。長軸長305cm、短軸長65cm、深さ103cm。長軸方位はN-26°-W。礫、土器片が出土。

**114号土坑** 63区G-4グリッド 平面形は長円形。長軸長136cm、短軸長68cm、深さ不明。長軸方位はN-29°-W。礫が出土。

**116号土坑** 63区D-2・3グリッド 平面形は隅丸長方形。長軸長135cm、短軸長75cm、深さ85cm。長軸方位はN-35°-W。出土遺物はない。

**117号土坑** 63区D-1・2グリッド 平面形は隅丸長方形。長軸長104cm、短軸長54cm、深さ80cm。長軸方位はN-21°-W。出土遺物はない。

**118号土坑** 63区C-1・2グリッド 17号住居を切る。平面形は長円形。長軸長77cm、短軸長58cm、深さ55cm。長軸方位はN-20°-W。出土遺物はない。

**119号土坑** 63区C-D-2グリッド 17号住居を切る。平面形は円形。長軸長131cm、短軸長128cm、深さ80cm。長軸方位はN-28°-W。出土遺物はない。

**120号土坑** 63区D-3・4グリッド 平面形は隅丸長方形。長軸長206cm、短軸長157cm、深さ95cm。長軸方位はN-32°-W。出土遺物はない。

**121号土坑** 63区E-3・4グリッド 平面形は長円形。長軸長135cm、短軸長100cm、深さ108cm。長軸方位はN-33°-W。出土遺物はない。

**171号土坑** 62区Y-6・7グリッド 25号住居を切る。土坑墓か。平面形は隅丸長方形。長軸長235cm、短軸長71cm、深さ51cm。長軸方位はN-22°-W。須恵器片と鉄製絞具が出土。

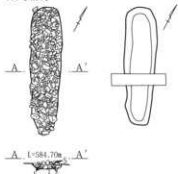
**177号土坑** 63区C-1グリッド 平面形は隅丸長方形。長軸長130cm、短軸長106cm、深さ76cm。長軸方位はN-29°-W。出土遺物はない。

**178号土坑** 63区B-C-5・6グリッド 23・29・46・48号住居・242号土坑を切る。平面形は隅丸長方形。長軸長233cm、短軸長128cm、深さ63cm。長軸方位はN-31°-W。礫、土器片が出土。

**227号土坑** 53区J-22グリッド 平面形は隅丸長方形。長軸長172cm、短軸長88cm、深さ36cm。長軸方位はN-50°-E。出土遺物はない。

第2章 調査された遺構と遺物

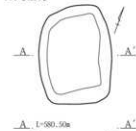
103号土坑



103号土坑

1. 黒褐色土 礫を主体とする。粘性がややあるが、締り悪く、やわらかい。

110号土坑



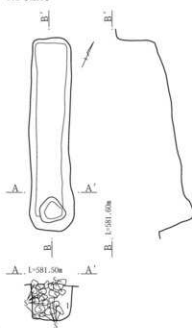
111号土坑



112号土坑

1. 1-2を主体とし多量の礫を含む。

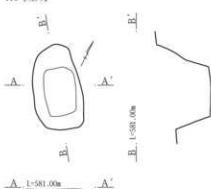
112号土坑



114号土坑



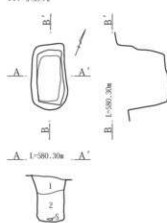
116号土坑



116号土坑

1. 暗褐色土 多くのローム粒を含む。  
2. 暗褐色土 少量のローム粒と砂礫を含む。

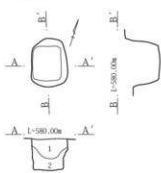
117号土坑



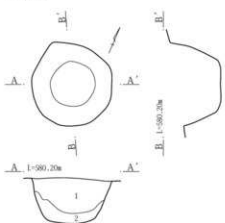
117号土坑

1. 黒褐色土 多くの炭化物とローム粒を含む。  
2. 黒褐色土 多くの炭化物とロームブロックを含む。

118号土坑



119号土坑



118号土坑

1. 黒褐色土 多くのローム小ブロックとローム粒を含む。  
2. 黒褐色土 少量のローム小ブロックとローム粒を含む。

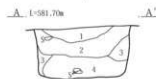
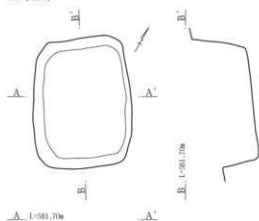
119号土坑

1. 黒褐色土 少量のローム粒を含む。  
2. 黒褐色土 多くのローム粒とロームブロックとを含む。

0 1:60 2m

第144図 103・110~112・114・116~119号土坑

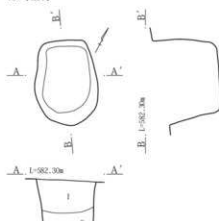
120号土坑



120号土坑

1. 黒褐色土 少量のロームブロックと灰白色粒を含む。
2. 黒褐色土 少量の灰白色粒を含む。
3. 暗褐色土 少量のロームブロックとローム粒を含む。
4. 褐色土 多くのロームブロックとローム粒を含む。

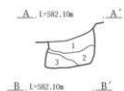
121号土坑



121号土坑

1. 黒褐色土 多くの砂礫と灰白色粒を含む。
2. 黒褐色土 少量の砂礫を含む。下部に石を含む。

171号土坑

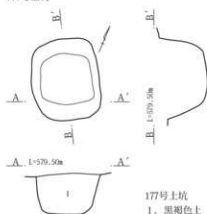


171号土坑

1. 黒褐色土 少量の焼土粒・炭化物を含む。
2. 黒褐色土 1層より多くの焼土粒を含む。
3. 黒褐色土 黒色を多く含む。



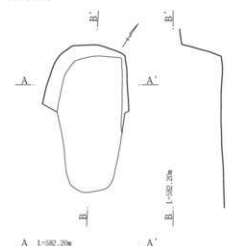
177号土坑



177号土坑

1. 黒褐色土 少量のローム粒を含む。

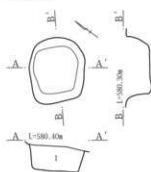
178号土坑



178号土坑

1. 黒褐色土 少量のローム粒を含む。

227号土坑



227号土坑

1. 暗褐色土 表上に近い新しい土の土質。ボソボソしている。



第145図 120・121・171・177・178・227号土坑・171号土坑出土遺物



## 第2章 調査された遺構と遺物

1号ピット 63区C-16グリッド 隅丸長方形の平面形を呈する。長軸長30cm、短軸長17cm、深さ46cm。

4号ピット 63区D-11グリッド 不定形の平面形を呈する。長軸長33cm、短軸長24cm、深さ28cm。

5号ピット 63区D-11グリッド 不定形の平面形を呈する。長軸長18cm、短軸長14cm、深さ20cm。

6号ピット 63区H-6・7グリッド 円形の平面形を呈する。長軸長34cm、短軸長28cm、深さ61cm。

7号ピット 63区H-7グリッド 円形の平面形を呈する。長軸長32cm、短軸長28cm、深さ40cm。

15号ピット 63区F-12グリッド 隅丸方形の平面形を呈する。長軸長28cm、短軸長28cm、深さ31cm。

16号ピット 63区F-12グリッド 隅丸方形の平面形を呈する。長軸長25cm、短軸長21cm、深さ31cm。

27号ピット 53区F-18グリッド 楕円形の平面形を呈する。長軸長37cm、短軸長30cm、深さ25cm。

28号ピット 53区F-19グリッド 長円形の平面形を呈する。長軸長65cm、短軸長52cm、深さ58cm。

29号ピット 53区F-20グリッド 楕円形の平面形を呈する。長軸長32cm、短軸長30cm、深さ30cm。

27～29号ピットは野口茂四郎氏居宅跡地内にある。

35号ピット 63区J-9グリッド 円形の平面形を呈する。長軸長25cm、短軸長25cm、深さ18cm。

36号ピット 63区H-10グリッド 円形の平面形を呈する。

長軸長39cm、短軸長38cm、深さ57cm。

44号ピット 53区M-15グリッド 長円形の平面形を呈する。長軸長80cm、短軸長62cm、深さ33cm。

45号ピット 53区L-15グリッド 長円形の平面形を呈する。長軸長35cm、短軸長30cm、深さ20cm。

46号ピット 53区L-16グリッド 長円形の平面形を呈する。長軸長60cm、短軸長47cm、深さ37cm。

47号ピット 53区L-15グリッド 不定形の平面形を呈する。長軸長67cm、短軸長54cm、深さ59cm。

44～47号ピットは野口茂四郎氏居宅跡地内にある。47号ピットから北宋の聖徳元寶が出土している。これについては野口茂四郎氏居宅跡出土遺物として掲載した。

51号ピット 63区D-5・6グリッド 不定形の平面形を呈する。長軸長28cm、短軸長27cm、深さ28cm。

52号ピット 63区D-5グリッド 不定形の平面形を呈する。長軸長35cm、短軸長21cm、深さ37cm。

53号ピット 63区C-4グリッド 隅丸方形の平面形を呈する。長軸長48cm、短軸長47cm、深さ58cm。

57号ピット 63区B-2グリッド 不定形の平面形を呈する。長軸長18cm、短軸長17cm、深さ18cm。

60号ピット 63区I-11グリッド 長円形の平面形を呈する。長軸長28cm、短軸長23cm、深さ40cm。

61号ピット 63区J-9グリッド 不定形の平面形を呈する。長軸長73cm、短軸長51cm、深さ80cm。

1号ピット



1号ピット

1. 黒色土 深い黄褐色粘土粒、黄褐色粒子含む。褐色シルトブロック、礫含む。

4号ピット

1. 黒色土 灰黄色粒子、礫含む。  
2. 黒褐色土 黄色粒子、灰白色粒子、黒色土ブロック含む。  
3. 灰黄色土 黒色土ブロック含む。

4号ピット



5号ピット

1. 黒褐色土 黄色ロームブロック、ローム粒、礫含む。  
2. 深い黄褐色土 黄色斑文がみられる。礫含む。

3. 淡黄色土

層理面と土中に線状の褐色の斑文をもつ。上部中心に褐色シルト粒を含む。2cm大の黄褐色ロームブロックを粒子状に含む。

4. 明黄褐色土

5. 褐色土

6. 明黄褐色土

黄色YpK粒、3を粒子状に全体に含む。

明黄褐色ロームを粒子状に全体に含む黄色YpK粒含む。

黄色YpK粒含む。

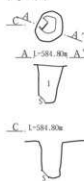
5号ピット



第146図 1・4・5号ピット

0 1:40 1m

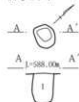
6・7号ビット  
6号ビット



15号ビット



16号ビット



6号ビット

1. 褐灰色土 淡黄色粒子、淡黄色粗塵含む。

7号ビット

1. 暗褐色土 灰色岩片僅かに混入。締りない。

2. 黒色土 灰色岩片僅かに混入。

15号ビット

1. 黒褐色土 締り少なく、混入物少ない。

16号ビット

1. 暗褐色土 1より締りある。ローム粒僅かに含む。

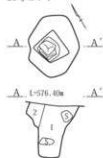
16号ビット

1. 黒褐色土 締り少なく、混入物少ない。

27号ビット



28号ビット



29号ビット



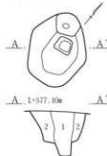
35号ビット



36号ビット



44号ビット



27号ビット

1. 暗褐色土 赤褐色土ブロック混入。(地山ローム)

28号ビット

1. 暗褐色土 柱痕部。

2. 暗褐色土

1に地山のくすんだロームブロック混入。

29号ビット

1. 黒褐色土 地山のくすんだロームブロック混入。

35号ビット

1. 褐色土

36号ビット

1. 黒褐色土 締りなく、地山に含まれる大粒岩片混入しない。

44号ビット

1. 暗褐色土 ローム粒・YPK粒僅かに混入。

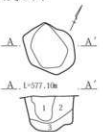
2. 褐色土

YPK粒主体。YPKアッシュの硬化したブロック含む。

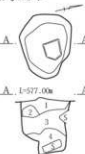
45号ビット



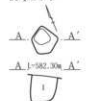
46号ビット



47号ビット



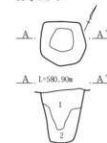
51号ビット



52号ビット



53号ビット



45号ビット

1. 黒褐色土 ローム粒含む。

46号ビット

1. 黒褐色土 赤褐色の焼土ブロック、炭化粒含む。

2. 黒褐色土

混入物少ない。

3. 黒褐色土

2にYPK粒混入。

47号ビット

1. 黒色土 混入物なし。

2. 黄褐色土

ローム土主体。

3. 黒褐色土

混入物なし。

4. 黒褐色土

3にロームブロック混入。

53号ビット

1. 黒褐色土 バミス・ロームブロック混入。2より締る。

2. 黒褐色土

1より締りなく、ローム・バミスの混入も少ない。

57号ビット



57号ビット

1. 黒褐色土 混入物少ない。

60号ビット

1. 黒褐色土 混入物少なく地山に比べて赤味を少々帯びる。

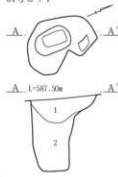
61号ビット

1. 褐色土 ローム粒・灰色岩片併せて含む。

2. 暗褐色土

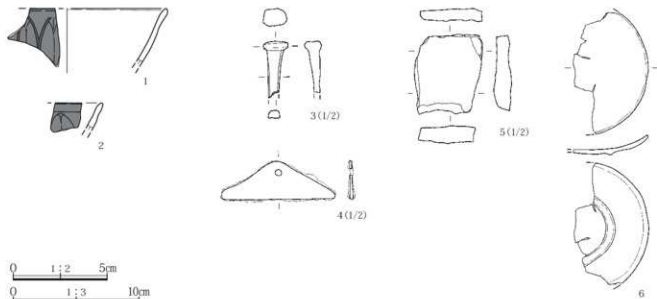
地山の岩片含む黒色土と1との混土。大粒灰色岩片含む。

61号ビット



第147図 6・7・15・16・27~29・35・36・44~47・51~53・57・60・61号ビット

第4項 遺構外出土遺物



第148図 遺構外出土遺物

### 第3章 調査のまとめ

#### 第1節 縄文時代の遺構と遺物について

上ノ平1遺跡は既に第1分冊として「上ノ平1遺跡(1)」(参考文献1)が刊行されている。縄文時代の遺構・遺物に関しては、縄文時代中期中葉末と後期初頭～前葉の比定される遺構と遺物が報告されている。本書で扱った資料も、前冊と調査地点の連続であり、ほぼ同時期の遺構・遺物を掲載した。前冊掲載遺構を併せると、住居跡は中期17軒、後期6軒、土坑は中期20基、後期4基、埋設土器3基を数える。傾斜地に営まれた集落としては、比較的規模の大きな集落と捉えられよう。

ここでは、本遺跡の縄文時代全体像を把握し、総括としたいが、出土した遺物の中で中期土器群が極めて特徴的な様相を示しているため、主に中期中葉末の土器様相を提示しておきたい。

**(1) 中期** 中期中葉～中葉末の遺構・遺物を主とする。特に中葉末の資料は充実し、吾妻川流域の代表的な様相を示している。

**前葉～中葉段階**：勝坂1式新段階の資料を中心とする。本書で掲載した195号土坑と214号土坑が相当しよう。両土坑とも後期に比定される33号住床面下で近接して検出されている。前冊でもこの時期の住居跡は見られず、埋設土器の検出に止まっていることから、居住域は近接した調査区域外に存在すると思われる。

**中葉末段階**：勝坂3式終末段階あるいは「焼町類型」が共存する時期を充てる。住居跡は調査区全域で認められるものの、62区から63区にかけて集中する傾向が見られる。緩やかな南東斜面に群在する占拠状況を示す。全体観は未調査区があるため、把握できないが、おそらく弧状配置が想定されよう。

出土土器は、勝坂3式終末段階あるいは「勝坂系」を中心として、「焼町類型」や「三原田類型」などが見られる。この段階で最も良好な出土を示す例が、前冊で報告した31号住出土土器群であろう。第149図に一部を示したが、「勝坂系」(1・5・7・8)や「焼町類型」(2～4・6)、大木8a式の影響を受けた個体(9・11～13)、「三原田類型」(10)など充実した土器様相を示す。特に「焼町類型」の多様性は著しく、口縁部突起が退変化した例(2)、波状縁を呈す深鉢(3)、体部が区画文化した例(3・4・

6)の他、ここでは掲載しなかった破片資料を併せると、「焼町類型」内部の文様構成の変化が読み取れる資料群である。さらに「勝坂系」も大型深鉢(1)や台付き深鉢(5)、搬入品(7)とあり単純な様相ではない。大木8a式の影響を受けた土器では、体部文様の変化が区画化した例(9・12・13)を見ることができる。

また、18号住出土土器(第149図下)も「焼町類型」(18)、中鉢式(20)、「勝坂系」(21)との共存が認められる。22は体部破片のため、不明部分が多いが「道訓前類型」の可能性がある。18は31号住に見られた体部区画文化した例と同様である。「焼町類型」の変化形と判断できよう。20は中鉢式の「台耕地面深鉢」と判断できよう。均整の取れた器形ながら、口縁部文様の在り方などは在地化した様相と捉えられる。「勝坂系」(21)は幅広の無文口縁部を設ける樽状深鉢である。体部上半の文様帯は区画化されず、横方向へ連接する文様構成を示す。

このように、前冊では充実した中期中葉末の土器群が提示されたが、31号住出土土器に関しては、筆者自身が幾つか分析の俎上に乗せた経緯がある。いずれも、加曾利E1式古段階における、吾妻川中流域の特徴的な様相として、検討を重ねた(参考文献2・3)。それらを踏まえて、上ノ平1遺跡は、前冊において良好な中期中葉末土器を出土する集落遺跡として位置付けられたが、本書で掲載した中期土器群も加えて、当地域の概期土器様相の把握が果たされる資料として位置付けている。

本書掲載の住居跡出土土器としては、19号住、37号住、41号住、44号住に該期の良好な例が見られ、前冊と併せると吾妻川流域における、縄文時代中期中葉末土器群の代表的な事例となろう。第150図に本書に掲載した住居跡出土土器のうち幾つかを挙げてみた。

19号住は「勝坂系」(1)が個体として出土しており、加曾利E1式古段階に位置付けられよう。その他の土器としては、2は北陸系の土器と捉えられる例だが、施文手法や胎土などは在地的な要素が強い。新潟県域の土器が在地化した例であろうか。3は筆者が「横壁類型」と位置付けた例であるが、長野県域では曾利E1式と群馬県西部・北西部で「勝坂系」や加曾利E1式古段階の土器と共存する。19号住でも同様な共存関係を示している。5・6は体部にクランク状の沈線意匠で区画化効果を描出する。31号住9などに見る大木8a式新段階の影響を受け

た土器の様相に近い。

37号住も単独の検出で、出土土器の一括性は高い。出土量は少ないが「勝坂系」(8)と加曾利EⅠ式(9)を挙げた。9は裾歯状口縁を呈し「横壁類型」との関連も想起されよう。8は「勝坂系」としたが、体部上半の文様描出方法などに伝統性が窺える。しかしながら単位文を再区画しておらず、勝坂3式より新しい要素が垣間見える。おそらく、9との共存からも加曾利EⅠ式古段階に相当しよう。

41号住は40号住・43号住・44号住と近接して調査されており、出土量も少なく、良好な一括資料ではない。その中で、「焼町類型」(10)は炉に使用されていた土器で、居住に伴う例である。口縁部突起が縦位を向くことから、「焼町類型」でもやや古相を示す。11は大型橋状把手を付す筒形の器形で、おそらく勝坂3式であろう。本書に掲載した中期住居跡でも古く位置付けられよう。

44号住は南半で40号住と重複するが、新旧関係は不明である。出土土器からも前後関係を捉えられなかった。掲載遺物は重複部を避けた遺物を優先しており、おそらく同時期の廃棄による例と考えた。「勝坂系」(12)の体部は横位連繫構成を示し、隆帯上に縄文施文の特徴は19号住の「勝坂系」(1)に近い。共存する2は截痕列が施され古相を示す。あるいは幅狭の横位区画帯から「道前類型」の可能性もある。

このように、前冊で具体化された上ノ平Ⅰ遺跡の中期土器様相であるが、本書においても同様の様相が把握された。中期中葉末(加曾利EⅠ式古段階)に比定される一群と位置付けられる。また、調査区内の住居跡分布を概観すると、10号住と26号住、40号住～44号住以外はほぼ単独の占地を示す。すべての住居が同時に併存していたとは思われないが、中期中葉末において、数軒単位の住居構成で集落を設けていたと考えられる。

本節で扱った住居跡出土資料の雑駁な変遷を追うと、41住→37住→44住・19住・31住→18住という流れが想定できる。しかしながら、各住居跡の出土状態の差、出土土器の時間幅を考慮しなければならない。詳細な土器変遷は提示できず、住居跡出土土器には加曾利EⅠ式古段階とした、やや曖昧な時間的な位置付けに止まることになる。

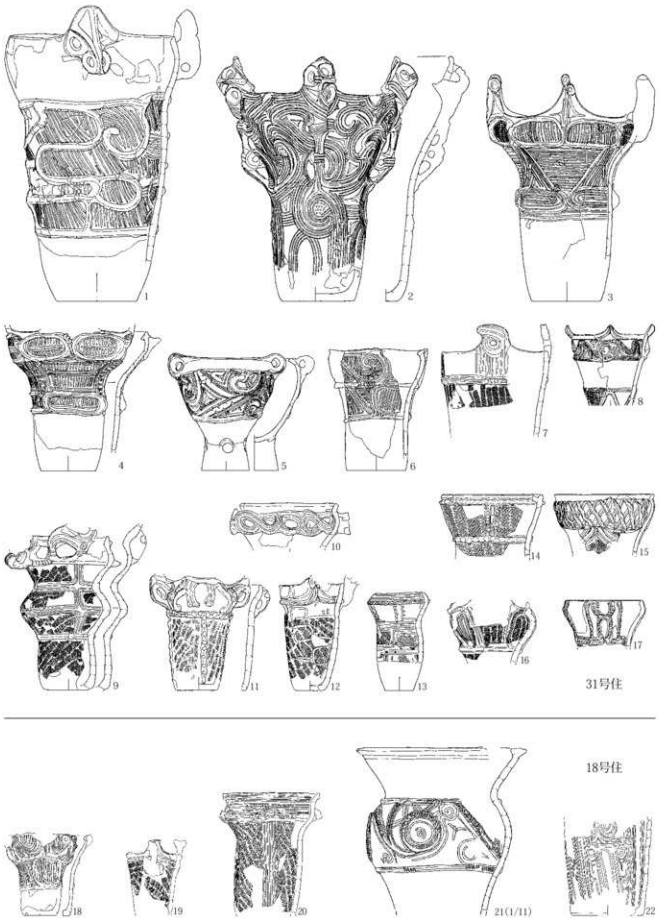
(2)後期 敷石住居跡を主とする集落跡と位置付けられ

る。前冊では28号住が敷石住居跡である。本書では、20号住、33・35号住、39号住、46号住を敷石住居跡として位置付けたが、残念ながら斜面調査のため、明瞭な出入口部が検出されておらず、住居跡形状としては、判然としない資料提示となっている。住居跡分布を概観すると、調査区全域に分布した中期住居に比して、南東部に集中する傾向がある。これは中期住居跡も同様で、調査区内で傾斜が最も緩やかな箇所に占地した状況が把握される。

出土土器としては、称名寺式と堀之内Ⅰ式が主体であり、称名寺式期にあたる例は20号住、33・35号住、46号住である。このうち46号住は称名寺式末期から堀之内Ⅰ式初期にかけての所産と捉えられる。堀之内Ⅰ式を出土した住居跡は、39号住と前冊の28号住があたる。また、土坑出土土器とすれば、247号坑、248号坑、252号坑、255号坑が堀之内Ⅰ式期に相当しよう。

上ノ平Ⅰ遺跡は吾妻川左岸最上位段丘面に占地する。吾妻川中流域における、敷石住居跡が検出された遺跡の立地段丘面を概観すると、中位段丘面に横壁中村遺跡、尾坂遺跡、久々戸遺跡、東宮遺跡(註1)が挙げられる。一方、本遺跡のように最上位段丘面で調査された敷石住居跡は長野原一木松遺跡、林中原Ⅱ遺跡、上原Ⅳ遺跡がある。多くの遺跡が中期集落跡と混在しており、中期集落占地傾向と類似する様相である。これは、中期～後期前葉における食料獲得資源に変化が無かったのか、あるいは各段丘面の平坦地形を優先的に選地したのか、様々な要因が考えられる。上ノ平Ⅰ遺跡における後期敷石住居跡の存在は、山間の僅かな平坦地形を選んで、集落を設ける動態を提示することになる。

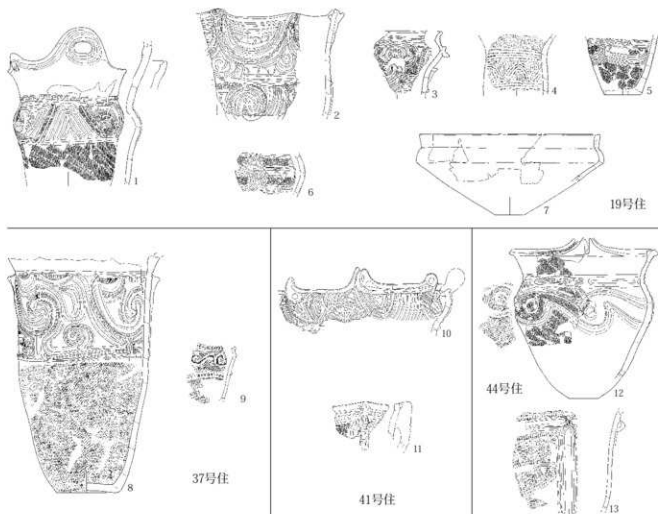
本遺跡では弥生時代の遺構・遺物も出土している。前冊でも包含層出土として、弥生時代中期前半とされる小型壺などが掲載されている。本書でも219号土坑で前期に比定される土器片が出土している。また、遺構外として、破片資料ながら前期～中期前半の土器を提示している(第73図255～260)。当地域では、各遺跡で少量ながら該期資料が出土している。段丘面も最上位段丘面から中位段丘面まで、広がりを見せる。居住痕跡としての住居跡の検出は僅かだが、他地域に比して特色ある資料が出土している。今後の調査に期待したい。



31号住

18号住

第149図 31号住居・18号住居出土土器(瀧川2008、山口2009より) 縮尺は1:8



第150図 19号住居・37号住居・41号住居・44号住居出土土器 縮尺は1:8

上ノ平Ⅰ遺跡の縄文時代中期と後期の遺構・遺物を中心に概観し、特に中期中葉末の土器群を中心に述べる。

中期は勝坂Ⅰ式期の土坑が確認されており、中期前葉～中葉初期の事例を加えることができた。当地域では、楠木Ⅱ遺跡や立馬Ⅱ遺跡、林中原Ⅱ遺跡などに見る、中期前葉から中葉に至る集落との関連性が想起されよう。中葉末の勝坂Ⅲ式終末期から加曾利EⅠ式段階における充実はこの遺跡を凌駕する様相である。おそらく、当地域の中葉末段階の拠点集落の一つと捉えられる。前冊報告の31号住居出土土器を顧みても、様々な系統の土器群が共存している。さらに本書で扱った19号住居なども新潟県域や長野県域との根強い交渉が土器様相に具体化されていた。当地域の中期土器編年研究に有効な資料を提供することになる。

後期はおそらく敷石住居を主体とする集落と考えたが、前述のように、斜面地形での黒色土中の遺構検出作業のため、出入口部や柱などの様相が把握できなかつ

た調査である。そのため、住居跡の様相や住居内施設の確定などに不備があったが、本遺跡の敷石住居跡は上位段丘面に立地しており、山間地における後期集落遺地傾向の一端を提示できた。

上ノ平Ⅰ遺跡は、平成28年度に新たな発掘調査が行われている。縄文時代前期の住居跡などが検出されており、本遺跡の縄文時代様相はさらに充実している。今後の整理・研究に期待したい。

註及び参考文献

註1. 東宮遺跡では、平成27・28年度の発掘調査で、後期前葉～中葉の敷石住居や河石が調査されており、当地域における後期集落の広がり把握されている。

参考文献

1. 藤川伸男 2008「上ノ平Ⅰ遺跡(1)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
2. 山口遼弘 2009「上ノ平Ⅰ遺跡31号住居跡出土土器の再検討」『研究紀要』27 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
3. 山口遼弘 2013「吾妻川中流域における縄文時代中期後葉の土器様相-加曾利EⅠ式段階を中心として-」『研究紀要』31 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

## 第2節 植物遺体から見た

## 上ノ平1遺跡の平安時代集落

## 第1項 13号住居・23号住居出土穀類

一般的に、弥生時代以後における農耕集落遺跡では、水田可耕地が集落の周辺に存在し、その水田からの生産物であるイネ・コメが主食穀物の首位を占めるものと考えられる。これは群馬県内各地の遺跡における炭化穀類出土例を見ても裏付けられる。

本遺跡を含む吾妻北部地域は、水稲耕作には不向きな土地柄である。農林水産省ホームページに掲載された2015年農林業センサスにおける耕地面積1270haのうち、田耕地面積はわずか57ha (4.5%)にすぎず、耕地全体に占める水田の割合は3.6%にすぎない<sup>(1)</sup>。やや遡って明治8年の記録である上野国郡村誌を見ると、例えば川原畑村の項では、畑三十一町九反六畝九歩に対し水田は九反七畝であり、水田率は3%にも満たない<sup>(2)</sup>。

上ノ平1遺跡内には湧水があるため、生活用水に事欠くことはなかったと思われるが、やはり直近には水田耕地は求められない。上記の水田面積、比率を勘案すれば、平安時代においてもこの地域には水田はごく少なかったはずであり、水田がなかった可能性も十分考えられるのである。

平安時代に至って、こうした水田耕地の乏しい、あるいは水田耕地を欠く地域にも集落が出現することは既に知られており、手工業的な生産や流通に携わる非農業集落、あるいは逃散農民が拵いた集落等と、さまざまな解釈が為されてきた。神谷は前報告において、上ノ平1遺跡を含むこの地域の平安時代集落は、郡司・富豪層が郡内の郷戸を裂いて形成した、農耕生産のみによらない集落との見通しを示した。石田は更に進めて、この地域に顕著な平安時代隘穴の存在と合わせて、皮革生産に関わる集落と想定した<sup>(3)</sup>。

集落の成因としてはこうした背景が考えられているのだが、さて実際に集落に住んだ人々の主食を担った穀物が何であったのかについては、問題化すらされていない。実はこれは、集落の経済的な基盤にかかわる問題であり、具体的な当時の生活像を復元する上でも、解決されなければならない課題である。上ノ平1遺跡では、この課題に取り組むべく、13号住居と23号住居の土壌内炭化種実抽出が試みられた。

13号住居では、調査担当者により土壌袋78袋分の土壌が採取され、各袋から1リットルずつを取り分けて水洗選別した。23号住居の土壌は、計100袋が採取され、これから各2リットルを取り分けて、水洗選別及び浮遊選別を行った。当初はこの「ためし洗い」の結果を参照しながら、全体的な資料分析を行う計画であったが、結局これには着手されなかったという経過がある。「ためし洗い」結果の詳細は、洞口ほかによる別稿<sup>(4)</sup>を参照されたいが、ムギ類とアワが主食穀物の主体をなしていることが判明した。ムギ類が88粒、アワを主体とする雑穀が94粒出土したのに対し、イネは13号住居で1粒、23号住居で9粒が出土しているのみで、格段に少ない。少数ではあるがイネが出土しており、陸稲作がなされていたとの想定もできないではないが、いずれにせよイネ比率の低さは顕著である。夏作のアワ、冬作のムギ類がこのムラの生活を支えていたと見られるのである。

周知のとおり、統日本紀寛元(715)年十月乙卯条に出された「宣旨百姓兼種麦」との詔以来、アワ、ムギ類やソバを含む、イネ以外の穀物栽培を奨励する政策が打ち出されるようになる。この中であっても、税としての水稲の位置づけは不動である。平川南は、食品としてのイネを奪われた農民は、イネ以外の雑穀、木の実、魚類、動物など、山野河海のあるゆる資源を使って生活していたとする<sup>(5)</sup>。ムギ類を含む雑穀の栽培や、狩猟・漁労・採取を含めた、複合的な食糧獲得システムが構築されていたのである。

本遺跡で認められた主食穀物の構成も、大きく見ると稲以外の作物栽培が一般化する流れの中で形成されたものとみてよいだろう。本遺跡をはじめとする、水田耕地の乏しい地域での集落出現の基礎には、麦作、雑穀作の普及があったのである。神谷、石田の述べた集落観と併せれば、コメの流通も考えられる。こうした新しい食料獲得システムの形成が非水田地域における集落形成の基盤を形成したと考えられるのではないだろうか。

## 参考文献

- (1) 農林水産省ホームページ「統計情報」わがマチ・わがムラ」都道府県選別」群馬県」長野原町詳細データ  
<http://www.nachiura.aaff.go.jp/nachi/contents/10/424/details.html> 2016年8月10日閲覧
- (2) 上野国郡村誌 第11巻吾妻郡 群馬県文化事業振興会 1985
- (3) 石田良 群馬県北西部における古代の隘穴の意義 ぐんま史料研究 25 群馬県立文庫館 2008



表2 上ノ平1遺跡から出土した炭化種実(括弧は破片数を示す)

分類群	遺構名 部位/出土位置	23号住居				区分なし	小計
		一括	カマド周辺	東部	西部		
モモ	炭化核	1 (5)			1 (1)		1 (6)
マタビ属	炭化種子	1					1
ウルシ属	炭化内果皮				2		2
ニワトコ	炭化核			1	1		2
タデ属	炭化果実		4	3	5		12
アカザ属	炭化種子			4 (1)	2	1	7 (1)
ハコベ属	炭化種子				2		2
サヤゲ属アズキ亜属アズキ型	炭化種子	(1)					(1)
マメ科	炭化種子		(1)	1 (1)	(1)	3	4 (3)
アカネ属	炭化種子			3	1	1	6
オカトラノオ属	炭化種子				1		1
シソ属A	炭化果実	1					1
シソ属B	炭化果実	1					1
ツクサ	炭化種子	1			1		2
ヒエ属	炭化種子	1		3		1	5
イネ	炭化種子	1	3	1 (1)	2 (2)		7 (3)
イネ属	炭化種子			1			1
キビ	炭化種子	2	1	3	1		7
キビ?	炭化種子	1		1			2
アワ	炭化果実				1	1	2
エノコログサ属	炭化種子	15 (2)	21 (2)	13	11 (1)	15	78 (5)
オオムギ	炭化種子	1				1	2
コムギ	炭化種子	9	6	12 (2)	7 (1)	3	37 (3)
オオムギ・コムギ	炭化種子	7	2	14	6	2	31
スグ属	炭化種子	6 (3)	(1)	2 (2)	1	(2)	9 (8)
ホタルイ属	炭化果実			1			1
不明A	炭化種実				2		2
不明	炭化種実	(1)	1 (1)	2	4 (1)	1	9 (2)
同定不能	炭化種実	(2)		2 (3)	(6)	(2)	2 (14)
出さない	炭化	2			1		3
子査菌	炭化子査				1 (1)		1 (1)

(4) 洞川正史 外山政子 有山経世 小此木真理 佐々木由香 バンダリ スタルシヤン 平安時代土食穀物についての素描 2 長野原町上ノ平1遺跡の土器使用前と出土炭化種実 研究紀要32 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2014

(5) 平川南「種子科と古代の稲作」『古代地方木簡の研究』吉川弘文館 2003

## 第2項 炭化モモ核が示すもの

前項の土壌水洗選別とは別に、遺構調査時に個別に取り上げられた炭化モモ核がある。1号住居から3点(ほかにムクロジ核1)、4号住居から1点(ほかにバラ科と思われる炭化核片1)、8号住居から2点、9号住居から1点、13号住居から10点、22号住居から1点、23号住居からは59点、30号住居から2点(ほかにウメかと思われる炭化核片1)、48号住居から4点の、計8棟の竪穴建物から83点の出土が記録されている。

モモ *Amygdalus persica* L. バラ科炭化核

上面観は両凸レンズ状、側面観は楕円形、偏円形、涙滴形で先が尖るものと尖らないものがある。下端に着点がある。表面には縦方向に流れる不規則な深い皺がある。片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。多くに齧歯

類による食痕があるため、大きさを実測できる個体は少ないが、長さ1.2～2.9cm(測定数41・平均2.16cm)、幅1.0～1.65cm(測定数4・平均1.58cm)、厚さ1.0～1.6cm(測定数34・平均1.27cm)であった。

ムクロジ *Sapindus mukurossi* ムクロジ科 炭化核  
ほぼ完形だが、着点近くが擦れたように欠損する。ほぼ球形。種皮表面は平滑で厚く、上部に線状の着点がある。長さ2.1cm、幅2.1cm、高さ1.8cm。

前報告に掲載された1、4、8、9、22、30号住居はモモ核に関する記載がないが、前報告13号住居および本報告23、48号住居では出土位置が記載されている。13号住居では住居の北西部に散在的に分布しているが、特定の分布傾向は認めがたい。23号住居では、住居中央やや北東寄りと北西壁中央からやや離れた位置の2か所に集中する。48号住居出土モモ核については、上位に重複する23号住居のモモ核集中部と平面位置がごく近接し、出土層位の記載はないものの、垂直位置においても他の出土遺物より上位にあって、23号住居出土モモ核の直下に連続する。このため、このモモ核は本来的に48号住居で

はなく、23号住居にあったモモ核の一部が土壤攪乱により垂直的に移動したものと考える。

13号、23号住居ともに多数の炭化材を伴う焼失建物で、モモ核は上層以下の炭化材調査時に出土が記録されている。したがって堅穴建物の屋根以下、床面以上にあったもので、それぞれの堅穴建物の焼失時に、築材と同時に火を受けて炭化したものと考えられる。23号住居におけるモモ核の産状は、屋根からつりさげられた棚状構造上に収納されたものが焼失時に落下したような状況を想起させる。13号住居のモモ核産状もこの想定と矛盾しない。

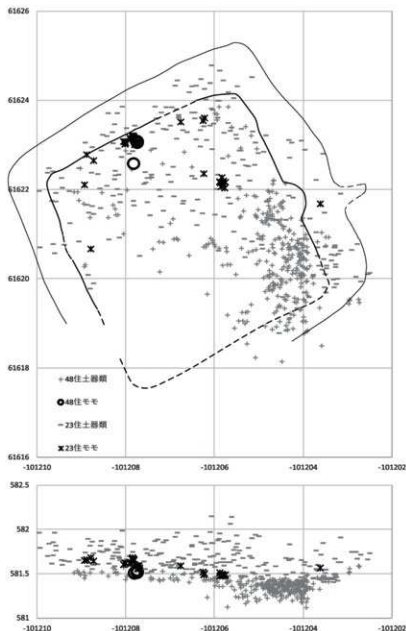
モモといっても、明治期とされる水蜜桃伝来以前の「在

来桃」「野生桃」とされるモモである。小粒で甘みの少ない果実であった。毛桃系、油桃系、それぞれいくつかの系統があるが、生食に向くものは少ないといわれる<sup>11)</sup>。モモ果肉の食べ方についての古い事例を知らないのだが、菅江真澄は天明五(1785)年に岩手県二戸郡一戸町小島谷あたりの民家に宿を頼み、飢饉のさなか食糧の乏しい折に、粟の飯と桃の塩漬けを食べている<sup>12)</sup>。一方、モモ種子は特に血行の改善や関節痛、神経痛、筋肉痛の改善に効能がある生薬「桃仁」として用いられる<sup>13)</sup>。

上ノ平1遺跡出土のモモ核には、平面形が円形のもの、先端のとがった、やや縦長の平面形で溝の浅いもの、先

端のとがった、縦長の平面形で溝の深いもの三者それぞれに類似したものがみられる。中でもやや縦長の、小さめのものが多くを占める。後述するようにネズミ食痕による欠損が多いため、大きさを実測できた個体は少ない。資料番号60017は8号住居出土で、長2.2cm、幅1.9cm、厚1.4cm、同60030は22号住居から出土したもので、長2.2cm、幅1.8cm、厚1.3cmである。この大きさを在来桃と比較する。永井・柴本<sup>14)</sup>によれば、長野県下伊那郡大鹿村の野生桃は形状から4系統に大別できるという。上ノ平1遺跡出土モモ核のサイズは一番小さなD系統に近い。この核を伴う果実は、長3.13cm、幅3.16cm、厚さ3.10cmで、重量は17.9gとのことである。果肉はごく薄く、生食や塩漬けというより、核・種子の薬用利用を考えたい大きさである。

ムクロジのように、環境中に自生している植物のものの場合、それが魚毒や洗濯用として有用であったとしても、一点ないし少数の出土にとどまる限り、人為を述べる根拠を欠く。モモは基本的には外来の植物であり、さらには食欲や栄養素を満た



第151図 23号住居と48号住居の土器類とモモ核の出土位置比較

表3 上ノ平1遺跡出土種実

遺跡	番号	種類	残存率	長×幅×厚(cm)	特徴
1号住居	60011	ムタロジ 炭化種子	ほぼ完形	2.4×2.4×2.1	
	60012	毛毛 炭化核	ほぼ完形	1.8×(1.7)×1.3	食痕あり、(上部)胚残
	60013	毛毛 炭化核	1/2	(1.9)×(1.5)×—	
	60014	毛毛 炭化核	1/2	(1.3)×(1.6)×(1.2)	食痕あり
4号住居	60015	不明 炭化核	破片	—×—×—	不明小片 やや厚い果皮で表面平滑
	60016	毛毛 炭化核	1/4	(2.0)×(1.0)×—	食痕あり
8号住居	60017	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.6×2.2×1.7	
	60018	毛毛 炭化核	1/4	(1.6)×(1.2)×(1.2)	食痕あり、胚残
9号住居	60019	毛毛 炭化核	2/3	1.7×(1.3)×(1.2)	食痕あり
	60020	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.3×(1.7)×1.3	食痕あり
13号住居	60021	毛毛 炭化核	破片	—×—×—	小片
	60022	毛毛 炭化核	1/2	(1.7)×(1.4)×(0.9)	食痕あり
	60023	毛毛 炭化核	—	2.0×(1.5)×1.2	食痕あり、胚残
	60024	毛毛 炭化核	1/4	(1.8)×(1.1)×—	
	60025	毛毛 炭化核	1/2	(2.1)×(1.3)×—	
	60026	毛毛 炭化核	3/4	(1.6)×(1.4)×(1.2)	食痕あり
	60027	毛毛 炭化核	1/3	(2.2)×(1.4)×—	食痕あり
	60028	毛毛 炭化核	1/2	(1.5)×(1.5)×—	食痕あり
	60029	毛毛 炭化核	1/2	(1.7)×(1.3)×(1.0)	食痕あり
22号住居	60030	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.6×2.1×1.5	
23号住居	60031	毛毛 炭化核	1/4	(1.3)×(1.3)×(0.8)	
	60032	毛毛 炭化核	—	(2.0)×(1.6)×(1.3)	食痕あり
	60033	毛毛 炭化核	—	2.8×2.0×1.3	食痕あり
	60034	毛毛 炭化核	1/3	(2.1)×(1.7)×—	食痕あり
	60035	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.5×(1.6)×1.3	食痕あり
	60036	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.8×(1.7)×1.3	食痕あり
	60037	毛毛 炭化核	ほぼ完形	1.8×(1.2)×1.1	食痕あり
	60038	毛毛 炭化核	1/4	(1.7)×(1.0)×—	
	60039	毛毛 炭化核	1/6	(1.4)×(1.3)×—	
	60040	毛毛 炭化核	1/2	(2.1)×(1.7)×—	
	60041	毛毛 炭化核	2/5	(2.4)×(1.7)×—	
	60042	毛毛 炭化核	1/2	(2.8)×(2.0)×—	
	60043	毛毛 炭化核	1/2	(2.5)×(1.3)×(1.3)	食痕あり
	60044	毛毛 炭化核	2/3	(1.9)×(1.7)×(1.1)	食痕あり
	60045	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.4×(1.6)×1.2	食痕あり
	60046	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.3×2.0×1.2	食痕あり
	60047	毛毛 炭化核	4/5	2.4×(1.4)×1.3	食痕あり
	60048	毛毛 炭化核	1/2	(1.9)×(1.0)×(1.3)	食痕あり
	60049	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.2×(1.6)×(1.3)	食痕あり
	60050	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.2×(1.5)×1.0	食痕あり
	60051	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.2×(1.5)×1.1	食痕あり
	60052	毛毛 炭化核	1/2	(2.2)×(1.4)×—	食痕あり
	60053	毛毛 炭化核	1/2	(2.1)×(1.8)×(1.2)	食痕あり
	60054	毛毛 炭化核	ほぼ完形	(2.5)×(1.9)×1.5	食痕あり
	60055	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.9×2.1×1.6	食痕あり
	60056	毛毛 炭化核	9/10	(2.2)×(1.6)×1.3	食痕あり
	60057	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.6×(1.7)×1.3	食痕あり
	60058	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.3×(1.4)×1.4	食痕あり
	60059	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.2×(1.4)×1.3	食痕あり
	60060	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.6×(1.6)×1.3	食痕あり
	60061	毛毛 炭化核	1/4	(1.4)×(1.3)×—	食痕あり
	60062	毛毛 炭化核	破片	(1.8)×(1.0)×—	食痕あり
	60063	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.7×(1.8)×1.6	食痕あり、炭化胚残
	60064	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.2×(1.5)×1.3	食痕あり
	60065	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.4×(1.6)×1.3	食痕あり
	60066	毛毛 炭化核	ほぼ完形	(2.1)×(1.7)×1.3	食痕あり
	60067	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.6×(1.7)×(1.2)	食痕あり
	60068	毛毛 炭化核	ほぼ完形	(2.4)×(1.9)×(1.4)	食痕あり
	60069	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.4×(1.6)×1.3	食痕あり
	60070	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.8×(1.8)×1.3	食痕あり
	60071	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.4×(1.5)×1.2	食痕あり
	60072	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.6×(1.6)×(1.3)	食痕あり
	60073	毛毛 炭化核	9/10	2.4×(1.6)×(1.3)	食痕あり
	60074	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.8×(1.6)×1.1	食痕あり
	60075	毛毛 炭化核	ほぼ完形	(1.9)×(1.4)×1.3	食痕あり
	60076	毛毛 炭化核	ほぼ完形	2.0×(1.6)×1.3	食痕あり
	60077	毛毛 炭化核	1/3	2.3×(1.2)×(1.2)	食痕あり
	60078	毛毛 炭化核	1/2	(1.8)×(1.4)×—	

遺構	番号	種類	残存率	長×幅×厚(cm)	特徴
23号住居	60079	モモ 炭化核	ほぼ完形	1.9×(1.4)×1.2	食痕あり
	60080	モモ 炭化核	ほぼ完形	2.0×(1.3)×1.1	食痕あり
	60081	モモ 炭化核	1/3	(2.0)×(1.3)×-	
	60083	モモ 炭化核	ほぼ完形	2.5×(1.8)×(1.4)	食痕あり
	60084	モモ 炭化核	1/4	(1.7)×(1.2)×(1.1)	食痕あり
	60085	モモ 炭化核	ほぼ完形	2.9×1.9×1.3	食痕あり
	60086	モモ 炭化核	ほぼ完形	2.1×(1.6)×(1.3)	食痕あり
	60087	モモ 炭化核	3/4	(2.1)×(1.4)×(1.2)	食痕あり
	60088	モモ 炭化核	1/4	(1.9)×(1.3)×-	
	60089	モモ 炭化核	破片	-×-×-	
	60090	モモ 炭化核	破片	-×-×-	
(48号住居)	60094	モモ 炭化核	ほぼ完形	2.7×2.0×1.7	食痕あり
	60095	モモ 炭化核	1/4	(2.3)×(1.3)×-	食痕あり
	60096	モモ 炭化核	3/4	2.2×(1.7)×1.2	食痕あり
	60097	モモ 炭化核	ほぼ完形	2.0×(1.5)×1.1	食痕あり
30号住居	60091	モモ 炭化核	1/2	(1.8)×(1.6)×-	肝1/2炭化
	60092	モモ 炭化核	1/3	(2.0)×(1.3)×-	食痕あり
	60093	ウメカ 炭化核	1/2	(1.2)×(1.0)×(0.8)	

す以上の目的で栽培される植物である。加えて、13号住居から11点、23号住居からは61点以上が集中的に出土しているのであり、住居内の空間的位置と相まって、これが人為的に建物内に持ち込まれ、蓄えられていたものである可能性はすこぶる高い。一方、これらのモモ核は、そのほとんどに円形の切削痕を持つ。調査時には人工的な加工痕として注意されたが、核の縫合線をまただいだ側面に、円錐形に切削したような穴を穿つという形状から見て、この食痕はアカネズミのものであろうと思われる。オニグルミの場合は両側面に食痕が残されることが多いが、モモでは種子が小さいために、両側を齧ることが少なかったようだ。しかし、焼失建物内において、ネズミによる食痕を持つモモ核が炭化しているという事実は解釈に苦しむ。林ら<sup>10)</sup>は、「ネズミ類などでは一般に、素早く食べられる小さな種子などはその場で食べるが、採食時間がかかる大きな堅果類などは、その場で食べず運んで貯食したり、安全な採食場まで運んでから食べることが知られている」としている。アカネズミは林縁や明るい林床の地上に生活圏を持つ。人が居住する竪穴建物の棚上と想定されるモモ核の貯蔵場所が「安全な採食場所」であったとは考えにくい。

ネズミによる貯食行動の結果として、竪穴内に持ち込まれたという考え方も、全く成り立たないわけではないが、食痕がありながら、内部に種子を残したままのものもあって、好まれた食物ではなかったようにも思われる。貯食行動の結果とするのはためらわれる。いずれにせよモモ核をネズミが食することができたのは、竪穴を人が利用しなくなってから後のことと考えざるを得ない。さ

らに、モモ核が炭化する、すなわち建物に火が放たれたのは、ネズミがモモ核を食べ終わってからのことということになる。

竪穴建物の放棄→モモ核の食害→竪穴建物の焼失=モモ核の炭化というストーリーが描けるのであり、建物の放棄と焼失の間に、時間差があることになる。23号住居以外の竪穴出土の炭化モモ核にもネズミ食痕が残されており、この時間差は特定竪穴に限られないことが示される。竪穴建物の焼失には、失火や自然災害、戦闘などに際しての放火など、建物使用中に起きた出火、あるいは建物廃棄時の焼却という2つの状況が想定されるのが通常である<sup>11)</sup>。上ノ平1遺跡では新たに第3の状況を付け加えたことになる。竪穴建物のライフヒストリーはもとより、集落の変遷消長を考える上で、新たな視点が示されたのではないだろうか。

## 参考文献

- (1) 永井喬・柴本一好 伊那地方の野生核について(第1報) 園芸学会雑誌 21 (2) 1952
- (2) 菅江真澄著/宮本常一・内田武志編 菅江真澄遺稿記1 ワイド版 東洋文庫 平凡社 2003
- (3) 富山大学和漢医薬学総合研究所 伝統医薬データベース 桃仁 <http://dentoad.u-toyama.ac.jp/ja/%E7%94%9F%E8%96%A0%E5%A1%B9%E6%83%85%E5%A0%B1/%E6%A1%83%E4%B8%81/SCC000062> (2016年8月15日閲覧)
- (4) 金原 正明 古代モモの形態と品種 月刊考古学ジャーナル409 ニューサイエンス社 1996
- (5) 林典子・井上真理子・大石康彦 アカネズミの食性調査手法の簡易化と環境教育における利用の試み 森林総合研究所研究報告 10 (3) 森林総合研究所 2011
- (6) 文化庁文化財部記念物課 焼失竪穴建物 発掘調査の手引き-集落遺跡発掘編- 文化庁 2010



スケール1—8：5mm

第152図 上ノ平I遺跡から出土した種実

1. モモ炭化核完形(No.60030) 2. モモ炭化核破損(No.60017) 3. モモ炭化核動物食痕(No.60033) 4. モモ炭化核動物食痕(No.60046)  
5. モモ炭化核動物食痕(No.60055) 6. モモ炭化核動物食痕(No.60085) 7. モモ炭化核動物食痕(No.60094) 8. ムクロジ炭化種子(No.60011)

## 遺構一覽表

## 縄文・弥生時代

## 竪穴建物

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長軸×短軸×深さ) cm	時代	出土遺物・特徴等	本文	写真	観察表
19	63	E-F-2-3	円形	480×430×68	縄文時代中期	深鉢・浅鉢・石灘・石斧・磨石	P16	PL 1	P168
20	63	A~C-2~4	円形	(520)×510×60	縄文時代後期	深鉢・石灘・磨石	P23	PL 6	P170
21	63	D・E-4+5	円形	445×(415)×58	縄文時代中期	深鉢・石灘・石皿	P26	PL 9	P172
33	62	W・X-5~7	不明	(760)×(340)×58	縄文時代後期	深鉢・磨石・円石	P28	PL11	P172
35	62	V-W-7	不明	(325)×(110)×40	縄文時代後期	深鉢・磨石・円石・石棒	P32	PL14	P173
37	63	D・E-8-9	円形	360×(350)×50	縄文時代中期	深鉢・石灘・円石	P34	PL16	P173
39	63	E・F-7-8	円形	(574)×(585)×(58)	縄文時代後期	深鉢・磨石	P37	PL19	P173
40	63	D・E-6-7	楕円形	(366)×316×60	縄文時代中期	深鉢・石灘・磨石	P39	PL21	P174
41	63	E・F-5-6	ほぼ円形	(350)×(330)×50	縄文時代中期	深鉢・円石	P42	PL24	P175
43	63	E・F-6-7	円形?	(360)×(350)×53	縄文時代	深鉢	P45	PL27	P175
44	63	C・D-6-7	楕丸長方形	(340)×310×35	縄文時代中期	深鉢・浅鉢・石斧・磨石・台石	P46	PL29	P175
46	63	A・B-4+5	楕圓形?	(540)×(560)×(55)	縄文時代後期	深鉢・石灘・石斧・磨石・台石	P49	PL31	P176
49	63	A-3	円形	300×(297)×49	縄文時代中期	深鉢・石灘・磨石	P54	PL34	P177

## 土坑

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長軸×短軸×深さ) cm/長軸方位	時代	出土遺物・特徴等	本文	写真	観察表
195	62	X-6	不整形	63×59×46 / N-37°-W	縄文時代中期	土器埋設土坑 深鉢3個体	P56	PL36	P177
214	62	X-6	不明	(42)×83×45 / N-38°-W	縄文時代	深鉢	P56	PL37	P178
219	62	X・Y-6-7	楕円形	247×167×90 / N-33°-W	弥生時代前期	深鉢	P56	PL38	P178
220	62	Y-4	不整形円形	46×37×24 / N-63°-W	縄文時代中期	深鉢	P57	PL38	P178
222	63	F-9-10	楕円形	120×90×37 / N-87°-W	縄文時代	深鉢	P57	PL39	-
225	63	D-7	不整形	77×87×56 / N-10°-W	縄文時代	深鉢・磨石	P57	PL39	P178
230	62	X-7	円形	95×(80)×46 / N-26°-E	縄文時代	深鉢・磨石・円石	P57	PL39	P178
244	62	X-5	不整形	85×69×56 / N-50°-W	縄文時代	深鉢	P57	PL40	P178
245	62	Y-5	ゆがんだ円形	68×52×16 / N-43°-E	縄文時代	深鉢	P57	PL40	P179
246	62	Y-4	円形	76×74×38 / N-38°-W	縄文時代	壇上土層に炭化物含む	P57	PL41	P179
247	63	B-2	楕円形	62×55×11 / N-3°-E	縄文時代	注口土器・多孔石	P57	PL41	P179
248	63	A・B-4+5	楕円形	177×110×26 / N-32°-W	縄文時代	深鉢3個体 配石遺構	P57	PL42	P179
249	63	A-4	円形	55×50×37 / N-54°-E	縄文時代	深鉢	P57	PL43	P179
250	62	Y-4	楕円形	100×89×75 / N-44°-E	縄文時代	深鉢・磨石	P57	PL44	P179
252	63	A-4	円形	83×83×64 / N-5°-E	縄文時代	深鉢・磨石	P57	PL44	P179
253	63	A-4	円形	74×74×13 / N-0°	縄文時代	大型の多孔石	P57	PL45	P179
254	63	A・B-3	円形	65×63×24 / N-15°-E	縄文時代	深鉢 柱状の角礫	P59	PL45	P180
255	63	A・B-3+4	不整形	100×(75)×20 / N-0°	縄文時代	深鉢	P59	PL46	P180
258	63	B-3	楕丸長方形	66×50×17 / N-50°-E	縄文時代	深鉢	P59	PL46	-

## ピット

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長軸×短軸×深さ) cm	時代	出土遺物・特徴等	本文	写真	観察表
2	63	G-17	長円形	97×34×66	縄文時代	深鉢	P65	PL46	P180
3	63	G-17	楕丸長方形	(28)×40×58	縄文時代	深鉢	P65	PL47	-
37	62	Y-6	不定形	39×36×20	縄文時代	深鉢	P65	PL47	-
38	62	Y-6	楕丸台形	26×21×22	縄文時代	深鉢	P65	PL47	-
39	62	X-6-7	ゆがんだ方形	33×26×54	縄文時代	深鉢	P65	PL47	-
56	63	A-3	長円形	45×40×14	縄文時代	深鉢	P65	PL47	P180
59	63	B-2	不定形	28×24×22	縄文時代	深鉢	P65	PL47	P180

## 平安時代

## 竪穴建物

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長軸×短軸×深さ) cm/長軸方位	時代	出土遺物・特徴等	本文	写真	観察表
17	63	C-2	楕丸長方形	360×280×84 / N-72°-E	平安時代	土師器甕、須恵器環・高台壇・甕、鉄釘	P82	PL56	P190
23	63	A~C-5~7	楕丸方形	682×(660)×96 / N-60°-E	平安時代	破欠建物 土師器甕、須恵器高台壇・環・羽釜・甕、鉄刀子・鎌・竈 壇上土層から真鍮水皿、炭化材・石棒・石槌	P85	PL58	P190
25	62	63・A-6-7	楕丸方形	(348)×(256)×64 / N-62°-E	平安時代	土師器甕、須恵器環・甕、鉄洋	P93	PL65	P192
27	53	N・O-18-19	楕丸長方形	810×(350)×40 / N-26°-E	平安時代	須恵器高台壇	P95	PL67	P192
29	63	A~C-4~6	楕丸方形	504×(471)×29 / N-34°-W	平安時代	須恵器環・高台壇・甕・羽釜、異形土器、鉄鍋、鉄洋	P95	PL67	P192
32	62	X・Y-4+5	楕丸方形	425×(282)×40 / -	平安時代	須恵器高台壇・環・甕・甕、鉄刀子、鉄洋	P100	PL70	P193
38	63	F・G-6-7	楕丸方形	(271)×(261)×29 / N-33°-E	平安時代	異形土器	P102	PL71	P193
42	63	G-2-3	楕丸方形	410×(350)×40 / N-26°-E	平安時代	土師器甕、須恵器環・高台壇	P103	PL72	P193
45	63	I・J-11-12	楕丸方形	350×(275)×14 / N-148°-E	平安時代	土師器甕、須恵器高台壇	P104	PL72	P194
47	63	H・I-9-10	楕丸方形	(296)×(200)×- / N-38°-E	平安時代	須恵器環・羽釜、灰桶陶器高台壇	P106	PL74	P194
48	63	A~C-5+6	楕丸方形	525×500×25 / N-64°-E	平安時代	土師器甕、須恵器環・高台壇・甕、甕、鉄刀子	P108	PL76	P194

## 遺構一覽表

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長軸×短軸×深さ) cm/長軸方位	時代	出土遺物・特徴等	本文	写真	観察表
50	63	G・H-9-10	隅丸方形	311×(27)× - / N-69°-E	平安時代	土師器甕、須恵器環、鉄紡錘車	P113	PL81	P195

## 埴土遺構

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長軸×短軸×深さ) cm/長軸方位	時代	出土遺物・特徴等	本文	写真	観察表
1	72	O-5	不定形	(110)×70 / N-53°-E	平安時代		P115	PL83	-
2	72	P-5	長円形	85×55 / N-69°-E	平安時代		P115	PL83	-
3	72	P-5	長円形	38×25 / N-63°-W	平安時代		P115	PL83	-
4	63	E-12	不定形	48×35 / N-8°-W	平安時代		P115	PL83	-
5	63	F-12	不定形	59×42 / N-7°-W	平安時代	周辺に灰土陶器	P115	PL83	-
6	62	T-14	不定形	98×50 / N-56°-W	平安時代		P115	PL83	-
7	62	S-23	不定形	60×50 / N-63°-E	平安時代		P115	PL83	-
8	63	B-2	不定形	85× - / N-85°-W	平安時代		P115	PL83	-
9	62	Y-3	不定形	52×(26) / N-26°-E	平安時代		P115	PL83	-
10	63	A-4	不定形	48×48 / N-6°-W	平安時代	縄文土器	P115	PL83	-
11	63	I-13	不定形	50×34 / N-47°-W	平安時代		P115	PL84	-
13	63	G・H-15	不定形	142×65 / N-25°-W	平安時代	須恵器環・貫・羽釜	P115	PL84	P195
14	63	G-10	不定形	37×26 / N-22°-E	平安時代		P116	PL84	-
16	53	J-22	不定形	94×60 / N-23°-W	平安時代	土師器甕	P116	PL84	P195
17	63	I-1	不定形	50×50 / N-25°-E	平安時代		P116	PL85	-
18	63	H-1	不定形	72×36 / N-60°-W	平安時代		P116	PL85	-
20	62	Y-6	不定形	92×77 / N-0°	平安時代		P116	PL85	-

## 土坑

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長軸×短軸×深さ) cm/長軸方位	時代	出土遺物・特徴等	本文	写真	観察表
63	63	G-17-18	隅丸長方形	170×103×115 / N-6°-E	平安時代	陶七穴	P118	PL85	-
72	63	G-17-18	隅丸長方形	122×79×87 / N-23°-W	平安時代	陶七穴	P118	PL85	-
115	63	D・E-1・2	隅丸長方形	226×102×112 / N-54°-E	平安時代	陶七穴	P118	PL85	-
135	63	G-3・4	隅丸長方形	168×113×127 / N-12°-W	平安時代	陶七穴	P118	PL86	-
137	63	C・D-4	隅丸長方形	192×85×122 / N-84°-E	平安時代	陶七穴 土師器	P118	PL86	-
147	63	D-9-10	長円形	247×203×203 / N-28°-W	平安時代	陶七穴 土師器	P118	PL86	-
196	63	D-21	長円形	214×132×117 / N-26°-W	平安時代	陶七穴	P118	PL86	-
197	63	F-17-18	隅丸長方形	182×88×67 / N-35°-W	平安時代		P118	PL86	-
198	63	E・F-10-11	楕円形	283×208×128 / N-6°-W	平安時代	陶七穴 土師器	P118	PL86	-
199A	63	E-8-9	隅丸長方形	(177)×(136)×133 / N-81°-W	平安時代	陶七穴	P118	PL86	-
199B	63	E-8-9	隅丸長方形	(136)×(140)×163 / N-37°-W	平安時代	陶七穴	P121	PL86	-
200	63	E・F-9・10	長円形	219×(189)×147 / N-37°-W	平安時代	土師器	P121	PL86	-
201	63	D・E-11	隅丸長方形	154×98×96 / N-83°-W	平安時代	陶七穴 土師器	P121	PL87	-
202	63	E・F-11-12	長円形	224×155×177 / N-9°-W	平安時代	陶七穴	P121	PL87	-
203	63	E-6・7	長円形	168×114×110 / N-0°	平安時代	陶七穴 土師器	P121	PL87	-
204	63	G-8	長円形	160×101×110 / N-72°-E	平安時代	陶七穴 土師器	P121	PL87	-
205	63	H・I-5・6	隅丸長方形	130×70×112 / N-74°-W	平安時代	陶七穴	P121	PL87	-
207	63	I-5	隅丸長方形	144×80×105 / N-84°-W	平安時代	陶七穴	P121	PL87	-
208	63	F-5	長円形	153×113×130 / N-90°-W	平安時代	陶七穴 土師器	P121	PL87	-
209	63	G・H-4・5	長方形	182×91×138 / N-72°-E	平安時代	陶七穴 土師器	P121	PL87	-
211	63	H・I-4	長円形	210×(112)×173 / N-90°-W	平安時代	陶七穴 土師器	P121	PL87	-
212	62	Y-4	長円形	189×95×120 / N-88°-W	平安時代	陶七穴	P121	PL88	-
213	62	X-5・6	円形	121×115×49 / N-38°-W	平安時代	焼土・炭化材	P123	PL88	-
215	62	W-6	隅丸長方形	91×85×25 / N-46°-W	平安時代	須恵器	P123	PL88	-
216	62	X・Y-5・6	長円形	271×215×218 / N-58°-W	平安時代	陶七穴 土師器	P123	PL88	-
217	63	E-10	隅丸長方形	167×70×101 / N-28°-W	平安時代	陶七穴 土師器	P123	PL88	-
218	63	B-4・5	隅丸長方形	246×122×37 / N-22°-W	平安時代	陶七穴	P123	PL88	-
221	53	O-19	隅丸長方形	197×112×142 / N-27°-E	平安時代	陶七穴	P123	PL88	-
223	63	L-5・6	長円形	185×141×190 / N-6°-W	平安時代	陶七穴	P123	PL88	-
224	63	G-9-10	隅丸長方形	(244)×(124)×275 / N-2°-W	平安時代	陶七穴 三日月形瀬戸貝	P123	PL88	-
226	63	G-12-13	隅丸長方形	170×75×85 / N-12°-W	平安時代	陶七穴	P123	PL89	-
228	53	J・K-22	隅丸長方形	133×64×97 / N-51°-W	平安時代	陶七穴	P123	PL89	-
229	62	X・Y-7	隅丸長方形	188×108×123 / N-29°-E	平安時代	陶七穴 土師器	P123	PL89	-
231	53	I-24	長円形	180×122×63 / N-83°-W	平安時代	陶七穴	P127	PL89	-
232	53-63	I-25-1	楕円形	161×105×120 / N-76°-W	平安時代	陶七穴	P127	PL89	-
233	53	I-23・24	長方形	125×70×25 / N-11°-E	平安時代		P127	PL89	-
234	53	H-24	長円形	206×154×139 / N-0°	平安時代	陶七穴	P127	PL89	-
235	63	I-1・2	長方形	138×63×40 / N-84°-W	平安時代		P127	PL90	-
236	63	I-2	隅丸長方形	140×75×123 / N-87°-W	平安時代	陶七穴	P127	PL90	-
237	63	H-2	隅丸長方形	168×110×90 / N-85°-E	平安時代	陶七穴	P127	PL90	-
238	63	I-2・3	長円形	137×88×72 / N-5°-E	平安時代	陶七穴	P127	PL90	-
239	53	H・I-24	不明	(50)×(63)×98 / N-20°-E	平安時代	陶七穴	P127	PL90	-
240	63	H-8	円形	204×187×158 / N-63°-W	平安時代	陶七穴 土師器	P127	PL90	-
241	63	I-3	隅丸長方形	138×68×59 / N-82°-E	平安時代	陶七穴	P127	PL90	-
242	63	B・C-5	円形	87×86×58 / N-29°-W	平安時代	土師器	P129	PL90	-
243	63	B・C-7	円形	(84)×74×22 / N-37°-W	平安時代	焼土・炭化物・灰	P129	PL91	-

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長軸×短軸×深さ) cm/長軸方位	時代	出土遺物・特徴等	本文	写真	観察表
256	63	G-10	楕円形	176×124×180 / N-3°-W	平安時代	陶七穴	P129	PL91	-
257	63	G-H-10	円形	110×(93)×35 / N-3°-E	平安時代	須恵器皿・羽釜 焼土	P129	PL91	P195
259	63	G-9-10	不整形	185×149×210 / N-12°-E	平安時代	陶七穴 土師器	P129	PL91	-
260	63	G-8-9	楕円形	215×145×227 / N-10°-E	平安時代	陶七穴	P129	PL91	-

## 中世以後

## 野口茂四郎氏唐土跡 井戸

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長軸×短軸×深さ) cm	時代	出土遺物・特徴等	本文	写真	観察表
1	53	G・H-21・22	角	120×78×(40)	近代～現代	木枠	P137	PL96	-
2	53	G-22	丸	110×100×(120)	近代～現代	石積み	P137	PL97	-
3	53	N-17	丸	100×100×(95)	近代～現代	石積み	P138	PL97	-

## 野口茂四郎氏唐土跡 コンクリート敷設部

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長軸×短軸×深さ) cm/長軸方位	時代	出土遺物・特徴等	本文	写真	観察表
	53	J・K-18-19	長方形	(2.1)×2.2 / N-28°-W	現代		P138	PL97	-

## 野口茂四郎氏唐土跡 西小屋(池)

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長軸×短軸×深さ) cm/長軸方位	時代	出土遺物・特徴等	本文	写真	観察表
	53	M・N-15-16	長方形	686×384×36 / N-28°-W	近代～現代	副製器	P138	PL98	P198

## 礎石建物

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長軸×短軸×深さ) cm/長軸方位	時代	出土遺物・特徴等	本文	写真	観察表
	63	L・M-5-6	長方形	734×(244) / N-45°-W	近代～現代	礎石、ビット 木材、鉄鎌	P147	PL105	P201

## 礎石建物 井戸

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長軸×短軸×深さ) cm	時代	出土遺物・特徴等	本文	写真	観察表
	63	L・M-3-6	角	100×80×-	近代～現代	井桁石積み・丸木積み井筒	P147	PL105	-

## 土坑

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長軸×短軸×深さ) cm/長軸方位	時代	出土遺物・特徴等	本文	写真	観察表
103	63	C-8-9	長円形	204×48×9 / N-27°-W	中世以後	礫が充填される 土器	P149	PL108	-
110	63	B-2-3, C-3	楕丸長方形	155×115×? / N-28°-W	中世以後	礫	P149	PL108	-
111	63	C・D-4	長円形	147×50×? / N-32°-W	中世以後	礫、土器	P149	PL108	-
112	63	E-2-3	楕丸長方形	305×65×103 / N-26°-W	中世以後	礫、土器	P149	PL108	-
114	63	G-4	長円形	136×68×? / N-29°-W	中世以後	礫	P149	PL108	-
116	63	D-2-3	楕丸長方形	135×75×85 / N-35°-W	中世以後		P149	PL108	-
117	63	D-1-2	楕丸長方形	104×54×80 / N-21°-W	中世以後		P149	PL108	-
118	63	C-1-2	長円形	77×58×55 / N-20°-W	中世以後		P149	PL108	-
119	63	C・D-2	円形	131×128×80 / N-28°-W	中世以後		P149	PL108	-
120	63	D-3-4	楕丸長方形	206×157×95 / N-32°-W	中世以後		P149	PL109	-
121	63	E-3-4	長円形	135×100×108 / N-33°-W	中世以後		P149	PL109	-
171	62	Y-6-7	楕丸長方形	235×71×51 / N-22°-W	中世以後	須恵器・鉄製杖具	P149	PL109	P201
177	63	C-1	楕丸長方形	130×106×76 / N-29°-W	中世以後		P149	PL109	-
178	63	B・C-5-6	楕丸長方形	233×128×63 / N-31°-W	中世以後	礫、土器	P149	PL109	-
227	53	J-22	楕丸長方形	172×88×36 / N-50°-E	中世以後		P149	PL109	-

## ビット

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長軸×短軸×深さ) cm	時代	出土遺物・特徴等	本文	写真	観察表
1	63	G-16	楕丸長方形	30×17×46	中世以後		P152	PL110	-
4	63	D-11	不定形	33×24×28	中世以後		P152	PL110	-
5	63	D-11	不定形	18×14×20	中世以後		P152	PL110	-
6	63	H-7	円形	32×28×40	中世以後		P152	PL110	-
7	63	H-6-7	円形	33×32×63	中世以後		P152	PL110	-
15	63	F-12	楕丸方形	28×28×31	中世以後		P152	PL110	-
16	63	F-12	楕丸方形	25×21×31	中世以後		P152	PL110	-
27	53	F-18	楕円形	47×30×25	中世以後		P152	PL110	-
28	53	F-19	長円形	65×52×58	中世以後		P152	PL110	-
29	53	F-20	楕円形	32×30×30	中世以後		P152	PL110	-
35	63	J-9	円形	25×25×18	中世以後		P152	PL110	-
36	63	H-10	円形	39×38×57	中世以後		P152	PL110	-
44	53	M-15	長円形	80×62×33	中世以後		P152	PL111	-
45	53	L-15	長円形	35×30×20	中世以後		P152	PL111	-
46	53	L-16	長円形	60×47×37	中世以後		P152	PL111	-
47	53	L-15	不定形	67×54×59	中世以後	聖栄元寶(1101年)	P152	PL111	P200
51	63	D-5-6	不定形	28×27×28	中世以後		P152	PL111	-
52	63	D-5	不定形	35×21×37	中世以後		P152	PL111	-
53	63	C-4	楕丸方形	48×47×58	中世以後		P152	PL111	-
57	63	B-2	不定形	18×17×18	中世以後		P152	PL111	-
60	63	J-11	長円形	28×23×40	中世以後		P152	PL111	-
61	63	J-9	不定形	73×51×80	中世以後		P152	PL111	-



遺物観察表

縄文・弥生時代

19号住居

種別 No.	No.	種類	部位 残存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備考
第13図 PL.2	1	縄文土器 深鉢	口縁部～体部	北側埋土下 位	胎:石英・輝石・片岩/ 良好/明赤褐色	口:25.0。扁平な環状把手と波状部に波状突起を配す。1単位 の配置で、非対称な印象を受ける。口縁部は幅広で無文。頸部屈曲 部に横位隆線2条を設け、体部2本は強く内湾し2条隆線によ る渦巻状意匠を配す。側部・充填文は沈線。下平は斜位R.L。口 縁部外面及び内面は研磨を施す	中期中葉末
第13図 PL.2	2	縄文土器 深鉢	口縁部～体部 上半1/4 口縁部破片	2 a 西側 2 b 東側 埋土上位	胎:石英・雲母/良好/ にぶい赤褐色	口:(53.8)。緩やかな波状口縁を呈し体部は内湾気味。口縁部に 小型の渦巻状と環状突起を付す。おそらく4単位。突起間を刺交 文を加えた弧状隆線が並び、沈線2条を側線とする。弧状区画よ り沈線による渦巻文や三文文を施す。体部は横位隆線で画され、 刺交文を加える隆線による渦巻文を配す。側部・充填文は沈線	中期中葉末 貫系統か?
第13図 PL.3	3	縄文土器 深鉢	口縁部～体部 1/5	中央埋土中 位	胎:石英少・雲母/良 好/褐色	口:(19.0)。平縁で口縁部横位沈線部を設ける。内湾部に大型突 起を配し、体部は弧状隆線を付す。側部は平行沈線。横位沈線も 施される。地文は斜位R.L。内面は平滑な撫で調整	中期中葉末 一後葉初
第13図 PL.3	4	縄文土器 深鉢	口縁部破片	北側埋土上 位	胎:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	平縁で無文口縁部に小型の双環状突起を付す。横位沈線を設け、 体部は縦位沈線を施す	中期中葉末
第13図 PL.3	5	縄文土器 深鉢	口縁部～体部 1/4	中央埋土下 位	胎:石英/良好/褐色	口:(38.0)。口縁部直立し、体部上半に「く」字状に屈曲を持たせる。 内外ともに丁寧な研磨を施す。赤彩を施す。赤彩意匠は不明	中期中葉末
第13図 PL.3	6	縄文土器 深鉢	体部1/3	北側埋土上 位	胎:輝石/良好/にぶ い赤褐色	体部直立し頸部は強く開く。内湾平行沈線により分帯され、副 沈線による波状文が設けられる。地文は燃赤・縦位文。内面は 研磨。少量の稜が付着する	中期中葉末
第13図 PL.3	7	縄文土器 深鉢	体部下平～底 部1/2	南側埋土中 位	胎:石英・輝石/やや 軟/にぶい赤褐色	底:7.8。緩やかに開く体部下平。5条の平行沈線による横位弧状 意匠を配す。小渦巻文や沈線の途切れも加える。縄文はR.L斜位 施文。体部内面弱い研磨を施す。内底面彫刻剥落	中期中葉末
第14図 PL.3	8	縄文土器 深鉢	口縁部破片	中央埋土中 位	胎:石英・片岩/良 好/赤褐色	大型突起部を環状突起。中に内孔を設け、縁辺は刻みや交互刺 交文を施す。口縁部は内湾し、弧状隆線と沈線を施す	中期中葉末
第14図 PL.3	9	縄文土器 深鉢	口縁部破片	中央埋土中 位	胎:石英・輝石/良好/ 黒褐色	隆線による双波状口縁下に双環状突起を付す。隆線には刻みを 施す。内縁は強い	中期中葉末
第14図 PL.3	10	縄文土器 深鉢	口縁部突起片	中央埋土中 位	胎:輝石/良好/明褐 色	強く突出する波状口縁。連続波形紋を加えた蛇行隆線が重なる。 屈曲部には横位沈線2条を設ける。突起上縁は弧状呈し、平円 状刺交文が縁取る	中期中葉末
第14図 PL.3	11	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土	胎:石英・雲母/良好/ にぶい褐色	波状突起。隆線による蛇行文を頂部に配し刻みを施す隆線が重 なる。側部は沈線	中期中葉
第14図 PL.3	12	縄文土器 深鉢	口縁部破片	東側埋土下 位	胎:石英・良好/にぶ い赤褐色	口唇部肥厚。口縁部に押圧を加えた横位隆線を設け、以下低位隆 線と沈線による弧状意匠が施される。口縁部外面研磨を加える	中期中葉末
第14図 PL.3	13	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土	胎:石英・雲母/良好/ 明赤褐色	口縁部肥厚し無文。直下に内湾平行沈線を傾位に施す。器面磨滅	中期中葉末
第14図 PL.3	14	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土	胎:輝石/良好/暗褐 色	波状縁。口縁部に横位隆線部が施される。交互刺交文も重なる。 内面凹凸有り	中期中葉末
第14図 PL.3	15	縄文土器 深鉢	口縁部破片	東側埋土中 位	胎:輝石/やや軟/暗 褐色	口縁部内湾し矢羽状刻みを加えた垂下隆線を付す。側部は無文。器 面磨滅	中期中葉
第14図 PL.3	16	縄文土器 深鉢	頸部破片	中央埋土下 位	胎:輝石/良好/暗赤 褐色	波状縁か。頂部下に内孔を設ける。頸部は刻みを付す2条隆線で 画され無文。体部上半に横位隆線を設け沈線を重ねる。縦位加 沈線3条も施す。外面弱い研磨	中期中葉末
第14図 PL.3	17	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:輝石/良好/明赤 褐色	体部上半。頸部は強く反折し、体部に刻みを付す横位隆線を付す。 沈線を側線とし、側部沈線を施す	中期中葉末
第14図 PL.3	18	縄文土器 深鉢	頸部破片	埋土	胎:石英・輝石/やや 軟/明赤褐色	頸部屈曲部に刻みを付す横位隆線を設け、体部は同隆線による渦 巻状意匠を配す。渦巻左は突出する。器面磨滅。内面撫で	中期中葉末
第14図 PL.3	19	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋土下 位	胎:石英・輝石/やや 軟/褐色	横位隆線で分帯され、双環状突起を中核に縦位隆線による区画文 を配す。側部は2条の沈線。体部下平は縦位沈線間に刻みを施す。 外面磨滅多し。内面平滑な撫で調整	中期中葉末
第14図 PL.3	20	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	垂下平行沈線による懸垂文構成。側部とし平円形の刺交文(雷 文)を施す	中期中葉
第14図 PL.3	21	縄文土器 深鉢	体部破片	北2坑土内	胎:石英・良好/にぶ い赤褐色	垂下隆線による懸垂文構成。側部の沈線3条、縦位波状沈線が重 なる。内面付着	中期中葉
第14図 PL.3	22	縄文土器 深鉢	体部破片	東側埋土上 位	胎:石英・輝石・雲母/ 良好/明褐色	小径で筒状の器形か。隆部による環状意匠。側部に1条の三角通 続刺交文を施す	中期中葉
第14図 PL.3	23	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋土下 位	胎:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	刻みを付す横位弧状隆線を設け、沈線による弧状意匠を配す。意 匠上端に刺交文の刻み目を施す。内面平滑な撫で	中期中葉
第14図 PL.3	24	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:石英・雲母/良好/ 明赤褐色	体部上半か。横位弧状隆線を頸部に付し、垂下隆線が派生する。 縦位沈線・横位沈線を施し、刺交文を加える	中期中葉
第14図 PL.3	25	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:輝石/良好/明赤 褐色	横位平行沈線による懸垂文構成。浅い沈線や斜位沈線も施される が判然としない	中期中葉
第14図 PL.3	26	縄文土器 台付深鉢	脚部上位破片	西側埋土上 位	胎:石英・輝石/やや 軟/にぶい赤褐色	脚部と体部の接合部。体部は横位隆線で画され隆線による平滑渦 巻文を配す。連続波形文を側線とする。脚部は無文で孔2か所を有 する。外面彫刻剥落多い	中期中葉末
第14図 PL.3	27	縄文土器 深鉢	口縁部破片	西側埋土上 位	胎:輝石/良好/褐色	内湾する口縁部に2条の浅い沈線を設ける。頸部に沈線2条によ る弧状意匠を配す。地文はL.R縦位施文。内面撫で	中期中葉末
第14図 PL.3	28	縄文土器 深鉢	口縁部破片	東側埋土中 位	胎:石英・雲母/良好/ 褐色	口縁部内湾し、頸部に横位隆線1条を設ける。縄文は縦位L.R。 内湾丁寧な撫で	中期中葉末

挿入 PL.No.	No.	種 類	部 位	出上位置	胎土/成成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
1414R PL.3	29	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋土上	胎土:輝石/良好/明赤褐色	内湾する体部上半か、内皮平行沈線による流水文状の区画文、区画文に渦巻文を配す。地文は斜線R L。内面弱い研磨を施す	中期中葉末
1414R PL.3	30	縄文土器 深鉢	体部破片	南側埋土中	胎土:輝石/良好/にぶい赤褐色	内皮平行沈線による横位沈線と同沈線による逆U字状意匠。地文は帯系L縦位施文。内面平滑な撫で	中期中葉末
1414R PL.3	31	縄文土器 深鉢	頸部破片	中央埋土上	胎土:石英・輝石/良好/明褐色	刻み付を頸部隆線と設け、2条沈線による弧状意匠や逆U字状意匠を配す。地文は縦位R L	中期中葉末
1414R PL.3	32	縄文土器 深鉢	体部破片	北側埋土上	胎土:石英・雲母/良好/にぶい黄褐色	体部上半か、頸部外反し体部内湾する。稜状突起下部より弧状隆線が垂下する。側線は内湾。空白部にも縦位弧状の沈線を施す。地文は斜線R L。内面強い研磨	中期中葉末
1414R PL.3	33	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋土上	胎土:石英・雲母/良好/にぶい赤褐色	体部上半か。上位は平行沈線による横位弧状意匠を配し、横位隆線と両す。下位は平行沈線が垂下する。地文はL R斜位施文	中期中葉末
1414R PL.3	34	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎土:輝石/良好/にぶい赤褐色	体部中央に横位隆線を設ける。沈線が重なる。地文は帯系L縦位施文。内面平滑な撫で	中期中葉末
1414R PL.4	35	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土	胎土:石英・雲母/やや軟/明褐色	口縁部～頸部外反し、体部上半が内湾する。縦位R Lが覆う。器面磨滅	中期中葉
1414R PL.4	36	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎土:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	弧状沈線を施す。地文はR L縦位施文。内面平滑な撫で	中期中葉
1515R PL.4	37	縄文土器 深鉢	体部破片	西側埋土下	胎土:石英・輝石/良好/褐色	縦位R Lを施す。無施文で無文箇所もあるが、意図的ではない	中期中葉
1515R PL.4	38	縄文土器 深鉢	体部破片	西側埋土上	胎土:石英・雲母/良好/にぶい赤褐色	縦位R Lが覆う。内面少量の煤付着	中期中葉
1515R PL.4	39	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋土上	胎土:石英・片岩粒/良好/褐色	帯系L縦位施文。内面撫で	中期中葉末
1515R PL.4	40	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎土:輝石/良好/明赤褐色	帯系L縦位施文。内面横位撫で	中期中葉末
1515R PL.4	41	縄文土器 深鉢	体部破片	東側埋土上	胎土:石英・輝石/良好/明赤褐色	帯系R斜位施文。器面磨滅	中期中葉末
1515R PL.4	42	縄文土器 深鉢	底部破片	西側埋土中	胎土:石英・輝石/良好/褐色	僅かに内湾気味に開く体部下半。帯系L縦位施文。内面弱い研磨	中期中葉末
1515R PL.4	43	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土上	胎土:石英・雲母/良好/にぶい赤褐色	斜位双環状突起下部にコイル状突起を配す。下部より弧状隆線が派生し、側線・充填文は平行沈線を充てる。内面も環状突起を配し、上位に延長する様相を有す。内外面平滑な撫で調整	中期中葉末
1515R PL.4	44	縄文土器 深鉢	口縁部突起片	中央埋土上	胎土:石英/良好/にぶい黄褐色	口縁部文様帯を約ぐ廻るの楕円把手。内縁に平行沈線による弧状短沈線を施す。器壁割落著しい。内面横位研磨	中期中葉末
1515R PL.4	45	縄文土器 深鉢	口縁部破片	中央埋土中	胎土:石英・雲母/白色粒/良好/黒褐色	口唇部欠損。片環状突起を中核に横位隆線が派生する幅狭の区画文か。内皮平行沈線を側線とし、体部は縦位・弧状沈線を施す。内面研磨。器壁割落著しい	中期中葉末
1515R PL.4	46	縄文土器 深鉢	口縁部突起片	南側埋土中	胎土:輝石/良好/にぶい赤褐色	波面突起か。頂部に深い刻みを施し、中に大型の円孔を設ける。表面には横位弧状沈線を配す。内外面平滑な撫で調整	中期中葉末
1515R PL.4	47	縄文土器 深鉢	突起破片	南側埋土下	胎土:輝石/良好/暗赤褐色	波状突起。波頂下を粘土層で盛り上げさらに隆線層付による縦位蛇行意匠を配す。内面に円孔を配す	中期中葉末
1515R PL.4	48	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土	胎土:石英・雲母/良好/黒褐色	波状部柱状突起。上部に内凹斜位文を施し下位を横位沈線でコイル状意匠を表す。内縁の突出著しい	中期中葉末
1515R PL.4	49	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土上位	胎土:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	腹口縁か。口唇部であろう。縦位沈線を加えた弧状突起より弧状隆線が派生する。おそらく渦巻状意匠か。側線は沈線	中期中葉末
1515R PL.4	50	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土上位	胎土:石英・雲母/良好/にぶい赤褐色	コイル状小突起下に隆線による分岐縦重文を配し、刺突文を充填する。側線は沈線を重なる。交互短沈線も施す	中期中葉末
1515R PL.4	51	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎土:輝石/良好/にぶい赤褐色	内湾する体部上半。腹り表面の斜位隆線を設け、横位隆線が接する。斜位沈線を施す。内面及び口縁部は研磨を施す	中期中葉末
1515R PL.4	52	縄文土器 深鉢	体部破片	西・東側埋土上	胎土:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	隆線による環状区画意匠。上位に縦位内皮平行沈線や内文、三叉文を施す。区画内面は剥落する	中期中葉末
1515R PL.4	53	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎土:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	隆線による弧状意匠を配す。1本描き沈線を側線とし、斜位沈線や波状文を施す	中期中葉
1515R PL.4	54	縄文土器 深鉢	体部破片	東側埋土中	胎土:石英・雲母/良好/褐色	低小突起を中核に弧状隆線が派生する。側線は沈線で、1本描き沈線による渦巻状意匠が配される。内面縦位研磨も施す	中期中葉
1515R PL.4	55	縄文土器 深鉢	体部破片	北側埋土下	胎土:石英・雲母/良好/黒褐色	斜位双環状突起下にコイル状突起を設け、弧状隆線が派生する。側線と充填文は内皮平行沈線	中期中葉末
1515R PL.4	56	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土上位	胎土:石英・雲母/良好/褐色	縦位弧状隆線を配す。内皮平行沈線を側線とし重複施文を重ねる。内面平滑な撫で	中期中葉末
1515R PL.4	57	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土上位	胎土:石英・雲母/良好/褐色	隆線による弧状意匠。側線は内皮平行沈線を重複施文する	中期中葉末
1515R PL.4	58	縄文土器 深鉢	体部破片	北側埋土下	胎土:石英・雲母/良好/暗褐色	隆線による環状意匠か。1本描き沈線2条を側線とし、空白部に三叉文を配す。短沈線2条も重なる	中期中葉
1515R PL.4	59	縄文土器 深鉢	体部破片	西側埋土中	胎土:石英・輝石/良好/褐色	双環状突起下部にコイル状突起を設け、内側より弧状隆線が派生する。沈線を側線とする	中期中葉
1515R PL.4	60	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土上位	胎土:石英・雲母/良好/明赤褐色	横位弧状隆線が連続する。側線はやや幅広の平行沈線3条を施す	中期中葉
1515R PL.4	61	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋土下	胎土:石英・雲母/良好/明赤褐色	定位隆線による反転する弧状意匠。沈線を側線とし、意匠内は縦位沈線を充填する	中期中葉
1515R PL.4	62	縄文土器 深鉢	体部破片	東側埋土下	胎土:石英・雲母/良好/にぶい赤褐色	弧状隆線が接する箇所に横位隆線も重なる。側線は平行沈線で、短沈線も加わる	中期中葉
1515R PL.4	63	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎土:石英・雲母/良好/褐色	体部下半か。横位隆線と底部と両す。上位に側線沈線を施す	中期中葉

遺物観察表

種 別 PL.No.	No.	種 類	部 位 現 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
1504	64	縄文土器 深鉢	体部破片	南側埋土中位	胎:石・雲母/良好 黒褐色	降線による楕円状区画文やコイル状突起を連続する。分岐降線も配され、側縁・充填文は内皮沈線を施す。文様構成は判然としないが、体部一帯磨成か	中期中葉末 →後葉初
1504	65	縄文土器 深鉢	体部破片	東側埋土下位	胎:石/英/やや軟/浅 褐色	体部外反部に弧状降線2条による菱形状意匠を配す	中期中葉
1604	66	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土	胎:石/英/良好/明 褐色	口縁部外傾し頸部で屈曲、体部は強く内湾する。内外面とも丁寧な磨きを施す。赤彩は口唇部内外面に僅かに残る	中期後葉初
1604	67	縄文土器 深鉢	口縁部破片	南側埋土中位	胎:輝石/良好/にぶ い黄褐色	内湾する無文の口縁部。頸部は外反する光しを示す。内外面強い研磨を施す。内面保付着	中期中葉
1604	68	縄文土器 深鉢	体部破片	中央床直上	胎:石・雲母/良好/ 黄褐色	外反する無文の頸部破片か。内面撫で	中期中葉
1604	69	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:輝石/良好/褐色	無文。外面縦位撫で調整、内面は横位撫で調整	中期中葉
1604	70	縄文土器 深鉢	体部下平～底 部	埋土	胎:輝石/やや軟/ ぶい褐色	底:7.4。内湾気味に開く体部下平。平行沈線による縦位斜位密接 条線が施される。器面磨減。内面保付着	中期中葉末
1604	71	縄文土器 深鉢	底部のみ	東側埋土中位	胎:石・輝石/良好/ 褐色	底:6.7。底面下底気味。体部下平は強く開き無文。外面は強い 研磨、内面は撫で調整。被熱痕跡あり	中期中葉末
1604	72	縄文土器 深鉢	底部破片	中央埋土中位	胎:輝石/良好/明 褐色	底:(10.8)。直立気味の体部下平。縦位研磨を施す。内面は横位 撫で調整	中期中葉末
1604	73	縄文土器 深鉢	底部のみ	東側埋土上位	胎:石・輝石/良好/ にぶい赤褐色	底:6.4。小型の深鉢か。厚手の器厚で体部下平は緩やかに開く。 無文で内外面とも撫で調整を施す	中期中葉末
1604	74	縄文土器 深鉢	底部のみ	南側埋土中位	胎:輝石/良好/褐色	底:13.6。大型の深鉢。体部下平は内湾気味に開き無文。内外面 とも撫で調整、底面側代痕あり	中期中葉末
1604	75	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋土中位	胎:石・雲母/少/良 好/灰黄褐色	小突起を付した降線による弧状・環状意匠。沈線を縦線とし、中位 は渦巻文を細く	中期中葉
1604	76	縄文土器 深鉢	頸部破片	東側埋土上位	胎:石・雲母/良好/ 褐色	横位降線よりY字状垂懸文が派生する。側縁は平行沈線	中期中葉
1604	77	縄文土器 深鉢	体部破片2点	東側埋土下位	胎:石・雲母/やや 軟/にぶい赤褐色	垂下降線と沈線による懸垂文構成。沈線は斜位短沈線を充填する に磨面を残す。割片下部の素材形状をそのままだよと	中期後葉
1604	78	使用痕ある 割片	完形	埋土	黒色安山岩	長:5.1, 幅:4.5, 厚:1.2, 重:16.4。楕長割片を素材とし、表面に 磨面を残す。割片下部の素材形状をそのままよと	
1604	79	石鏝	先端欠	埋土	黒色安山岩	長:1.7, 幅:1.8, 厚:0.4, 重:1.2。平基無茎鏝。完成状態。周 縁に押圧割痕を施す	
1604	80	搔器	石平欠	埋土	珪質頁岩	長:3.2, 幅:4.0, 厚:1.0, 重:14.3。楕長割片を素材とし、平端部、 左右側縁に細かい調整を施し対部を作出する	
1604	81	石鏝	先端欠	埋土	黒曜石	長:1.7, 幅:2.0, 厚:0.4, 重:0.9。平基無茎鏝。完成状態。不 純物の多い石を素材とする。丁寧に押圧割痕が覆う	
1604	82	使用痕ある 割片	完形	炉内	黒曜石	長:2.3, 幅:1.1, 厚:0.5, 重:1.1。薄手の楕長割片を使用し、表面 左が内縁及び裏面内縁側に使用痕が見られる	
1604	83	打製石斧	完形	埋土	変質玄武石	長:9.8, 幅:5.5, 厚:1.6, 重:113.9。短形器。やや平な楕長割 片を素材とし、周縁を調整割痕する。対部へ僅かな磨減痕を見る が磨痕は無い	
1604	84	打製石斧	完形	中央埋土上 位	変質玄武石	長:11.7, 幅:4.4, 厚:1.5, 重:118.4。やや湾曲する短形器。楕 長割片を素材とし、周縁を丁寧に調整割痕する	
1604	85	使用痕ある 割片	破片	埋土	黒色安山岩	長:5.7, 幅:3.3, 厚:1.1, 重:16.7。楕長割片を素材とし、 左側縁に細かな使用痕を見る	
1704	86	磨石	完形	埋土	デイサイト凝灰岩	長:4.9, 幅:4.8, 厚:3.5, 重:105.9。小型の内際。表裏面に強い 平滑面を持つ。敲打痕も僅かに見られる	
1704	87	磨石	完形	中央埋土中 位	粗粒輝石安山岩	長:9.5, 幅:6.9, 厚:4.1, 重:407.1。円礫を素材とし表裏面、左 側縁に平滑面と僅かな敲打痕を見る	
1704	88	磨石	完形	中央埋土上 位	粗粒輝石安山岩	長:12.4, 幅:4.6, 厚:4.2, 重:369.5。棒状円礫表裏面と下端に 敲打痕を見る。表面には平滑面を持つ	
1704	89	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:14.1, 幅:6.0, 厚:5.8, 重:717.5。棒状円礫表裏面と上下端 部に敲打痕を持つ	
1704	90	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:13.0, 幅:7.8, 厚:2.9, 重:447.8。扁平な楕円状円礫の表裏 面に平滑面を持つ。敲打痕も僅かに見られる	
1704	91	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:13.5, 幅:5.5, 厚:3.7, 重:366.9。棒状円礫上下端部と裏面 に敲打痕を持つ。裏面に平滑面を見る	
1704	92	磨石	一部欠	炉石	粗粒輝石安山岩	長:38.0, 幅:11.6, 厚:10.3, 重:7200.0。断面方形の大型直角 礫。四面に平滑面を持ち、一部に敲打痕が集中する	

20号住居

種 別 PL.No.	No.	種 類	部 位 現 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
2004	1	縄文土器 深鉢	口縁一部・体 部・底部欠損	南西側埋土 上位	胎:輝石/良好/黒 褐色	直立する幅狭無文口縁部に、波状突起を設け、横位筋状降線と8 字状貼付文を付す。体部は7・8本単位の密接条線を縦位に弧状 に施す。やや乱雑な施文。突起内面も円文を施す。口縁部単位は 不明。内面磨減	後期前葉
2004	2	縄文土器 深鉢	口縁部～体部 破片	南西側埋土 中位	胎:石/英/良好/にぶ い赤褐色	大型深鉢。縦位の無文口縁部と横位降線を設け、降線による分岐 懸垂文を配す。施文部横文はLR充填施文。磨石部は入念な研 磨を施す。内面は撫で調整	後期初葉
2004	3	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土	胎:石・輝石/良好 黒褐色	口唇部内面に突出し口縁部は強く開き無文。頸部は屈曲し体部 に沈線で画された施文部による意匠文が配される。横位LR充填	後期初葉

種 別 PL.No.	No.	種 類	部 位 残 存	出土位置	胎土/成成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第208 PL.7	4	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋上	縄:輝石/良好/黒褐色	口唇部内屈。口縁部無文。頸部屈曲部に沈線を施すが判然とし ない。内外面研磨を施す	後期初頭
第208 PL.7	5	縄文土器 深鉢	口縁部破片	南西側埋上 下位	縄:石英・輝石/良好/ 黒褐色	口唇部内屈。口縁部無文。頸部屈曲部に横位沈線を施す。内外面 弱い研磨を施す	後期初頭
第208 PL.7	6	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋上	縄:輝石/良好/暗褐 色	小径の小型深鉢か。口唇部内屈。口縁部無文。内外面弱い研磨を 施す	後期初頭
第208 PL.7	7	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋上	縄:石英/良好/にぶ い黄褐色	口唇部内折。沈線で画された施文部と磨消部による渦巻状意匠か。 施文部縄文はL R充填施文。口唇部は研磨。磨消部及び内面は平 滑な撫で	後期初頭
第208 PL.7	8	縄文土器 深鉢	口縁部破片	南西側埋上 上位	縄:石英・輝石/良好/ 黒褐色	口唇部内折。横位沈線2条に画された施文部。L Rを充填施文す る。口唇部及び内面弱い研磨	後期初頭
第208 PL.7	9	縄文土器 深鉢	口縁部破片	中央床直	縄:輝石/良好/にぶ い黄褐色	口唇部内折。2条の横位沈線で画された施文部。縄文は横位L R 充填施文。口唇部に丁寧な研磨を施す	後期初頭
第208 PL.7	10	縄文土器 深鉢	頸部～体部破 片	埋上	縄:石英/良好/褐色	頸部は外反し無文。沈線で画された横位施文部と弧状意匠か。L R 充填施文。内面平滑な撫で調整	後期初頭
第218 PL.7	11	縄文土器 深鉢	口縁部破片	南西側埋上 上位	縄:輝石/良好/極暗 褐色	沈線で画された最先状意匠が懸架する。意匠内は刺突文を疎らに 施す。口縁部内外面は強い横位研磨を施す	後期初頭
第218 PL.7	12	縄文土器 深鉢	口縁部破片	南東側床直	縄:石英/良好/にぶ い黄褐色	幅状の無文口縁部と横位隆線。横位隆線はやや斜位に付される。 口縁部外面弱い研磨を施す。内面横位撫で	後期初頭
第218 PL.7	13	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋上	縄:石英/やや軟/に ぶい黄褐色	薄手で直立気味の器形。幅状の無文口縁部と横位隆線を設ける。 口縁部弱い研磨	後期初頭
第218 PL.7	14	縄文土器 深鉢	頸部破片	埋上	縄:輝石/やや軟/ にぶい黄褐色	やや外反気味の無文口縁部。横位隆線を設ける。内面磨滅	後期初頭
第218 PL.8	15	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋上	縄:輝石/良好/暗褐 色	幅状の無文口縁部と斜位刻みを付す横位隆線を設ける。内面平滑 な撫で調整	後期初頭
第218 PL.8	16	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋上	縄:石英/良好/にぶ い黄褐色	丸頭状の口唇部。口縁部に横位刺突文を施す	後期初頭
第218 PL.8	17	縄文土器 深鉢	口縁部破片	郭内	縄:輝石/やや軟/暗 褐色	胴身で楕円状の把手上位。中央に貫孔を設け、外面上端に小突起 を付す。器面磨滅	後期初頭
第218 PL.8	18	縄文土器 深鉢	把手破片	埋上	縄:輝石/良好/明褐 色	楕状把手下端部。斜位の深い刻みを施す。丁寧な撫で調整	後期初頭
第218 PL.8	19	縄文土器 深鉢	体部破片	埋上	縄:輝石/良好/褐色	頸部強く外反し無文。体部に幅状の横位弧状の隆帯を設け、円形 刺突文を加える。刺突文工具は2種類ある。縄文はL R充填施文。 内面は横位撫で調整	後期初頭
第218 PL.8	20	縄文土器 深鉢	体部破片	北西側埋上 上位	縄:石英/良好/にぶ い黄褐色	体部下平か。弧状沈線を配し、刺突文を充填する。内面平滑な撫 で調整	後期初頭
第218 PL.8	21	縄文土器 深鉢	体部破片	埋上	縄:輝石/良好/褐色	外反する体部中位。斜位沈線で画された磨消部と施文部。L R 充 填施文	後期初頭
第218 PL.8	22	縄文土器 深鉢	体部破片	埋上	縄:石英・輝石/良好/ 明褐色	沈線で画された施文部と磨消部の意匠。施文部縄文はL R 充 填か。器面磨滅	後期初頭
第218 PL.8	23	縄文土器 深鉢	体部破片	南西側埋上 中位	縄:石英/良好/褐色	内湾する体部中位。沈線で画された施文部と磨消部の渦巻文を配 す。施文部はL R 充填施文。内面平滑な撫で調整	後期初頭
第218 PL.8	24	縄文土器 深鉢	体部破片	北西側埋上 上位	縄:石英/良好/暗灰 色	無節L斜位施文	後期初頭
第218 PL.8	25	縄文土器 深鉢	体部破片	南西側埋上 上位	縄:石英/良好/暗灰 色	無節L斜位施文	後期初頭
第218 PL.8	26	縄文土器 深鉢	体部破片	埋上	縄:石英/やや軟/ にぶい黄褐色	内湾する体部中位か。無節Lを斜位施文する。内面撫で調整。少 量の保存者	後期初頭
第218 PL.8	27	縄文土器 深鉢	体部破片	埋上	縄:輝石/良好/灰黄 褐色	体部下平か。無文で外面縦撫で調整で平滑。内面不定方向の撫 で調整	後期初頭
第218 PL.8	28	縄文土器 深鉢	体部破片	南西側埋上 中位	縄:石英多/良好/暗 褐色	垂下隆線を見るが剥落し、判然とし。他は無文で平滑な撫で 調整を施す	後期初頭
第218 PL.8	29	縄文土器 台付深鉢	頸部破片	郭内	縄:石英/良好/にぶ い黄褐色	外反気味に開く裾部。中位に透孔2か所を見る。無文で縦位研磨 を施す。内面撫で調整	後期か?
第218 PL.8	30	縄文土器 深鉢	体部破片	埋上	縄:石英少/良好/赤 褐色	体部下平か。無文で弱い研磨を施す。内面は撫で調整。外面に厚 付き	後期初頭
第218 PL.8	31	石織未製 品	完形	埋上	黒曜石	長:1.9, 幅:1.5, 厚:0.5, 重:1.1。粗削り段階の未製品か。左 下部相当の割離が深く、これにより欠損したため製作中断に至っ たか	
第218 PL.8	32	石織未製 品	完形	埋上	黒曜石	長:1.5, 幅:1.5, 厚:0.3, 重:0.5。三角形状の扁平な素材削片の 左右及び下側縁に丁寧な縦調整が施される	
第218 PL.8	33	石織	完形	南東側床直	チャート	長:1.0, 幅:1.2, 厚:0.3, 重:0.4。円錐形。完成状態。裏面 中央に右側縁からの割離を残し、表裏両縁に丁寧な押圧割離を 施す	
第218 PL.8	34	石織	完形	南西側埋上 上位	黒曜石	長:4.5, 幅:3.5, 厚:2.8, 重:35.0。素材原石の1か所のみを割 離する例	
第228 PL.8	35	掻器	完形	南東側床直	黒色安山岩	長:6.6, 幅:8.9, 厚:1.2, 重:82.9。縦長削片を素材とし、表面 は深く裏面は浅く割離で形状を整え、下端部に表裏面よりの細か い調整割離を施す	
第228 PL.8	36	掻器	完形	埋上	粗粒輝石安山岩	長:12.4, 幅:7.2, 厚:2.7, 重:246.4。踵面を大きく残す縦長削 片を素材とし、内側縁に調整割離を施す	
第228 PL.8	37	砥石	一部欠	埋上	砂岩	長:13.1, 幅:5.4, 厚:1.6, 重:101.3。扁平な楕円状の形態を呈す。 表裏面とも端部まで平滑面を持つ。擦痕は判然とし	

遺物観察表

種 類 No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第229号 PL.8	38	凹石	完形	北西側埋土 中位	粗粒輝石安山岩	長:9.6、幅:6.9、厚:4.0、重:424.5。楕円状円礫表裏面中央に浅い敲打痕による凹みを有す。光沢を持つ平滑面を見る	
第229号 PL.8	39	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:9.8、幅:10.9、厚:3.0、重:494.9。扁平な円礫表裏面中央に浅い敲打痕による凹みを有す。平滑面を見る	
第229号 PL.8	40	磨石	上端部欠	埋土	粗粒輝石安山岩	長:12.8、幅:8.5、厚:4.4、重:654.8。楕円状円礫表裏面に光沢を持つ平滑面を有す。敲打痕も散漫に見られる	

21号住居

種 類 No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第250号 PL.10	1	縄文土器 深鉢	体部破片	北西側埋土 下位	胎:石英/良好/にぶい黄褐色	体部下平か。横位隆線で画し、体部は隆帯による弧状意匠や三又文が配される。沈線は平行沈線重複施文。隆帯上に縄文施文か	中期中葉末
第250号 PL.10	2	縄文土器 深鉢	体部破片	北西側埋土 下位	胎:石英/輝石/良好/明赤褐色	体部中位の外反部に横位隆帯を設ける。地文は帯系L縦位施文。隆帯上には横位Lを施す	中期中葉末
第250号 PL.10	3	縄文土器 深鉢	体部破片	北西側埋土 下位	胎:輝石/良好/明赤褐色	縦位Lを施す	中期中葉末
第250号 PL.10	4	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:石英/良好/にぶい赤褐色	弧状沈線を配し、横位短沈線を施す。地文は縦位R L	中期中葉
第250号 PL.10	5	縄文土器 深鉢	底部1/4	北壁際床直上	胎:石英/片岩/良好/赤褐色	厚手の器厚。外面縦位撫で調整より平滑だが、凹凸多い。内面平滑撫で調整	中期中葉
第250号 PL.10	6	石鏡	右脚踏端部欠	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:1.3、厚:0.3、重:0.7。円基無蓋鏡。完成状態。丁寧な押圧調整が窺うが、左側縁が内湾し左右対称である	
第250号 PL.10	7	石鏡未製型	完形	埋土	黒色安山岩	長:2.9、幅:1.2、厚:0.9、重:4.3。加工は粗いもの素材面は残っていない。形状を整えた段階で中断か	
第250号 PL.10	8	石皿	左平欠	砂南	粗粒輝石安山岩	長:(26.2)、幅:(12.9)、厚:5.5、重:2500.0。縁は縁状をなし底面に平滑面を見る。側縁、裏面に断面円礫状の孔を集中する	

33号住居

種 類 No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第290号 PL.13	1	縄文土器 深鉢	口縁部～底部 片6点	北側床直	胎:輝石/良好/にぶい黄褐色	口:(29.6)、底:9.6、高:(42.3)。図は破片4点の復元のため、器高は復元高。無文の口縁部は内傾し、押圧を加えた横位隆線が設けられる。体部は中位に影らみを持たせ無文。内外面強い研磨を施す器面剥落のため判断ししない	後期初頭～ 前葉
第290号 PL.13	2	縄文土器 深鉢	口縁部～体部 1/4	北側床直	胎:輝石/良好/褐色にぶい褐色	口:(27.7)。口縁部～体部上半強く固く体部中位で括れる。緩やかな波状突起を付す。3単位か。沈線で画された施文部と磨消部による幾何学文構成。L Rを充填する。下平も区画文を配するが内面強い研磨	後期前葉
第290号 PL.13	3	縄文土器 深鉢	口縁部～体部 破片	北側床直	胎:石英/輝石/良好/明赤褐色	口縁部隆線以下沈線で画された施文部弧状・渦巻意匠が配される。施文部は無筋L充施文施文。磨消部及び内面は強い研磨	後期初頭
第290号 PL.13	4	縄文土器 深鉢	口縁部破片	北側床直	胎:石英/輝石/良好/暗褐色	縦位環状把手を付す。沈線と刺交文が重なるが、内面は無文。外面に少量の厚付層。内面は平滑撫で調整	後期初頭
第290号 PL.13	5	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土	胎:輝石/良好/黒褐色	波状縁か。口唇部内屈。沈線で画された施文部意匠文が配される。L R充填施文。口唇部から内面に研磨が施される	後期初頭
第290号 PL.13	6	縄文土器 深鉢	口縁部破片	北側埋土下 位	胎:石英/良好/黒褐色	大型の環状孔を設ける波状突起。沈線で画された施文部による意匠文が配される。L Rを充填する。突起内面も同様に施文部区画文が設けられる。口唇部の研磨が顕著	後期初頭
第300号 PL.13	7	縄文土器 注口土器	体部破片	北側床直	胎:石英/良好/黒褐色	体部屈曲部。上半に弧状隆線が配される。内外面とも研磨	後期初頭
第300号 PL.13	8	縄文土器 深鉢	体部破片	北側埋土中 位	胎:石英/良好/褐色	強い横位刻みを施す。器厚やや薄手	後期前葉 異系統か
第300号 PL.13	9	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:輝石/良好/褐色	横位沈線を多段に配し、小型の刻みを沈線の始点と終点に加える	後期前葉?
第300号 PL.13	10	縄文土器 深鉢	体部約1/2	北側床直	胎:輝石/やや軟/にぶい褐色	体部中位。沈線で画されたスベード状・屈伏状意匠が型重文構成として配される。施文部は設けられない。内面研磨	後期初頭
第300号 PL.13	11	縄文土器 深鉢	底部	埋土	胎:石英/輝石/やや軟/にぶい褐色	小径で外反気味に固く、無文で薄手の器厚を呈し器面は磨滅する	後期初頭か
第300号 PL.13	12	縄文土器 深鉢	底部1/2	北側埋土下 位	胎:輝石/やや軟/にぶい褐色	器面磨滅。内面は丁寧な撫で調整	後期初頭か
第300号 PL.13	13	加工痕あ る割片	完形	埋土	チャート	長:1.7、幅:2.5、厚:0.7、重:3.6。断面が三角形を呈す厚手の横長割片下部の調整を施す	
第300号 PL.13	14	使用痕あ る割片	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:6.9、幅:4.9、厚:1.5、重:41.5。縦長割片を素材とし、右側縁中央に使用痕を見る	
第300号 PL.14	15	磨石	完形	埋土	点紋緑片岩	長:9.8、幅:5.5、厚:1.2、重:125.6。片割の扁平な楕円状礫表裏面に平滑面を見る。周縁を調整調整し形状を整える	
第300号 PL.14	16	磨石	一部欠	北側埋土下 位	デイスait	長:10.2、幅:6.4、厚:3.9、重:375.7。楕円状円礫表裏面に平滑面を持つ。表面に光沢面がある。上下端部は敲打痕を見る	
第300号 PL.14	17	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:9.9、幅:8.8、厚:4.6、重:339.0。円礫表裏面に施文による浅い凹みが集中する。裏面には平滑面を見る	
第300号 PL.14	18	多孔石	破片	北側床直	粗粒安山岩	長:14.5、幅:15.3、厚:10.3、重:2940.0。垂角礫表面に断面円礫状の孔が集中する。裏面・側面には見られない	

35号住居

棟 号 Pl.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
3519 Pl.-15	1	縄文土器 深鉢	口縁部突起片	床直	胎:石英/良好/ぶい 黄褐色	小型の環状突起。表面はY字状隆線を貼付する。裏面は環状で 中に首孔を設ける	後期初頭か
3519 Pl.-15	2	縄文土器 深鉢	体部破片	床直	胎:石英・輝石・雲母/ 良好/褐色	体部下平か。無文である	後期初頭か
3519 Pl.-15	3	縄文土器 深鉢	体部破片	埋上下位	胎:輝石/良好/褐色	外反する体部中位。垂下沈線による滑消部懸垂文構成か	後期初頭
3519 Pl.-15	4	縄文土器 深鉢	体部破片	床直上	胎:輝石/やや軟/褐色	2条沈線に画された滑消部懸垂文構成。施文部は不明	後期初頭
3519 Pl.-15	5	縄文土器 深鉢	体部破片	床直	胎:輝石/やや軟/褐色	横位沈線以下、沈線による同心円状の意匠が配される	中期中葉か
3519 Pl.-15	6	縄文土器 深鉢	体部破片	床直	胎:石英・雲母/良好/ 赤褐色	横位隆線が突出する。側縁に2条沈線を施す	中期中葉か
3519 Pl.-15	7	石錘	完形	埋上	珪質変質岩(流紋岩 質凝灰岩)	長:2.1、幅:1.4、厚:0.6、重:1.0。表面中央に縁を持ち断面三角 形を呈す。下端部に表裏左右から丁字状刺突調整を施す	中期後葉 初期
3519 Pl.-15	8	凹石	完形	埋内	粗粒輝石安山岩	長:10.5、幅:8.5、厚:5.0、重:557.3。扁平な凹縁表面に敲打痕 による凹みを2か所有す。裏面は散漫である	中期中葉末?
3519 Pl.-15	9	凹石	完形	埋上	粗粒輝石安山岩	長:10.7、幅:8.8、厚:4.0、重:535.1。凹縁を素材とし表面及び左 側縁に敲打痕が集中する。裏面は散漫である	中期中葉末?
3519 Pl.-15	10	石棒	中位のみ	埋内	デイスait	長:14.8、幅:14.0、厚:13.7、重:4555.0。器表面は敲打による 仕上げ。上下端部の欠損は意匠的な例である	中期中葉末?

37号住居

棟 号 Pl.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
3749 Pl.-18	1	縄文土器 深鉢	口縁部一体部	北西側埋上 中位	胎:石英・輝石・雲母/ 良好/赤褐色	小径で縦溝状口縁を呈す。突起を付す。口縁部横位沈線2条、横 位S字状隆線を配し頸部に横位隆線に連続爪形文を加える。 地文は縦位R L	中期後葉 初期
3749 Pl.-18	2	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋上下位	胎:石英多・雲母/良好/ 褐色	隆帯による弧状意匠と縦線の沈線が重なる。刺突文や三叉文も加 わる	中期中葉末?
3749 Pl.-18	3	縄文土器 深鉢	体部破片	北側埋土上 位	胎:石英・輝石/良好/ ぶい赤褐色	縦位R Lが覆う	中期中葉末?
3749 Pl.-18	4	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋上下位	胎:小礫・輝石/良好/ ぶい黄褐色	垂下隆線2条による懸垂文構成か。側縁は沈線。交互三叉文による 縦位旋文も配される。器面に平滑な印痕を得る	中期中葉末?
3749 Pl.-18	5	縄文土器 深鉢	体部破片	中央床直	胎:輝石・雲母/良好/ ぶい赤褐色	横位隆線で画された前部部破片。上位は中空状突起を付し、弧状 沈線が施される。横位隆線には刻みを付す	中期中葉末?
3749 Pl.-18	6	縄文土器 深鉢	体部破片	埋上	胎:石英・雲母/良好/ 赤褐色	沈線による弧状意匠や平滑文、三叉文、連続刺突文が施される	中期中葉末?
3749 Pl.-18	7	縄文土器 深鉢	口縁部破片	西側埋土上 位	胎:石英・雲母/良好/ 赤褐色	口縁部内面強く外傾する。外面には隆帯による弧状・環状意匠の 貼付か	中期中葉末?
3749 Pl.-18	8	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋上下位	胎:石英・雲母/良好/ ぶい赤褐色	体部下平か。無彫L縦位・斜位施文下端を見る	中期中葉末?
3749 Pl.-18	9	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋上下位	胎:石英・輝石/良好/ 暗褐色	コイル状の小突起を付し、左端より隆線2条が生ずる。側縁は 沈線。三叉文も施される	中期中葉末?
3749 Pl.-18	10	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋土中 位	胎:小礫・輝石/良好/ ぶい赤褐色	強く外反する体部中位。2条隆線が垂下し一方に刻みを付す。器 糸L縦位に施す。内面凹窪、窪付着	中期中葉末?
3749 Pl.-18	11	縄文土器 深鉢	体部1/2、底 部	北西壁際	胎:石英・輝石/良好/ 暗褐色	底:13.0。頸部は無文で外反する。体部は上位に横位沈線、下位 に横位隆線を設け一帯を滑す。文様部上位に小突起を付し、刻み を付す隆線による滑巻状意匠が生ずる。4単位を数える。側縁 は沈線。充填文は沈線による滑巻文や刺突文、縦位細沈線を施す。 下平は縦位R L。内面丁字状横位隆線。外面に窪付着	中期中葉末?
3509 Pl.-12	12	石匙	完形	西側埋土中 位	チャート	長:6.1、幅:2.4、厚:1.1、重:10.9。扇形石匙。直対状の逆三角 形を呈す。柄みは大型。両側縁とも丁字状刺突調整を施す	中期中葉末?
3509 Pl.-18	13	凹石	一部欠	南東壁際床 直	粗粒輝石安山岩	長:31.4、幅:13.4、厚:11.3、重:5900.0。大型の棒状凹石。表面 に散漫に敲打痕が広がる	中期中葉末?

39号住居

棟 号 Pl.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
3719 Pl.-20	1	縄文土器 深鉢	体部破片	♀	胎:白色粒/良好/ぶ い赤褐色	垂下する弧状隆線による懸垂文構成か。側縁は無彫。無彫Lの縦 位充填施文。内面磨研	後期前葉 期之内1式
3719 Pl.-20	2	縄文土器 深鉢	体部破片	♀	胎:白色粒/良好/ぶ い赤褐色	縦やかに内湾する。横位・縦位無彫Lを施す。内面縦位磨研。30 住1と同一個体か	後期前葉 期之内1式
3719 Pl.-20	3	縄文土器 深鉢	口縁部破片	♀	胎:白色粒/やや軟/ ぶい褐色	口唇部僅かに欠損。内側状の口唇部は内面肥厚する。以下無文。 強い靡で調整を施す	後期前葉 期之内1式
3719 Pl.-20	4	縄文土器 深鉢	体部破片	埋上	胎:白色粒/良好/ぶ い黄褐色	体部中位か。2条の横位沈線と斜位沈線による区画文下端か。沈 線間隙は施文されない。内外面磨研	後期前葉 期之内1式
3719 Pl.-20	5	縄文土器 深鉢	口縁部破片	♀	胎:白色粒/やや軟/ ぶい褐色	口縁部は僅かに凹縁により横位区画されるが、明瞭ではなく。無 文である。内面磨研調整	後期前葉 期之内1式
3719 Pl.-20	6	縄文土器 深鉢	底部1/3	♀	胎:白色粒/良好/ぶ い褐色	底:(8.0)。直立気味に開く体部下平。無文で内外面靡で調整。底 面凹窪は判然としない	後期前葉?
3719 Pl.-20	7	縄文土器 深鉢	底部1/4	♀	胎:白色粒/良好/ぶ い褐色	底:(6.4)。体部下平は縦やかに開く。2条の沈線による弧状意匠 下端を見る	後期前葉 期之内1式

遺物観察表

種 別 PL.No.	No.	種 類	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第377例 PL.20	8	縄文土器 深鉢	体部~底部	砂地	胎:輝石/良好/褐色	頸部は緩やかに括れ、体部中位に膨らみを持たせる。頸部は横位隆線か。体部は無文で下半に弱い縦位研磨。内面撫で。体部上半に炭灰痕跡を見る	後期前葉 幅之内1式
第377例 PL.9	9	赭石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:7.6, 幅:4.2, 厚:2.2, 重:397.9。小型の楕円状円礫。左側に敲打痕が集中する。表面に平滑面を有す	
第377例 PL.10	10	赭石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:6.4, 幅:4.2, 厚:2.8, 重:110.5。小型の楕円状円礫の表面に弱い平滑面を見る	
第377例 PL.11	11	赭石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:5.2, 幅:5.3, 厚:3.0, 重:127.6。小型の円礫状表面に弱い平滑面を見る	
第377例 PL.12	12	赭石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:6.7, 幅:4.8, 厚:1.8, 重:103.4。小型で扁平な円礫状表面に平滑面を有す。表面が顕著で光沢面を見る	
第377例 PL.13	13	赭石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:7.8, 幅:4.7, 厚:1.8, 重:121.0。小型で扁平な方形円礫の表面に平滑面を有す。表面が顕著で光沢面を見る	

40号住居

種 別 PL.No.	No.	種 類	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第399例 PL.23	1	縄文土器 深鉢	口縁部突起片	埋土	胎:石英・雲母/良好/褐色	環状突起を連ねる中空状突起。裏面に環状意匠。外縁には2・3条の短沈線を加える。体部は弧状沈線を充満する	中期中葉末
第399例 PL.23	2	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土	胎:石英・雲母/良好/黒褐色	口縁部内湾し、口唇部外面とも突出する。弧状沈線が充満され、一部陥凹状の施文を見る	中期中葉末
第399例 PL.23	3	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土	胎:石英・雲母/良好/黒褐色	口縁部直立し、体部上半は外反する。横位隆線で両され、口縁部は横位隆線。体部は円弧状意匠を配し、弧状沈線を埋める。沈線は内皮施文	中期中葉末
第399例 PL.23	4	縄文土器 深鉢	口縁部把手破片	埋土	胎:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	強く屈曲する口縁部に大型の双環状把手を配す。口縁部は沈線による渦巻文や三叉文、小突起を配す。把手下部は隆線による小渦巻文を付す。前面部は横位隆線を設け、体部は斜位R Lを施す。丁寧な作りで内面弱い研磨を施す	中期中葉末 搬入か
第399例 PL.23	5	縄文土器 深鉢	口縁部突起破片	埋土	胎:石英/良好/黒褐色	柱状の突起。内側面に三叉文を施す。平滑な撫で調整を施す	中期中葉末?
第399例 PL.23	6	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:石英・雲母/良好/黒褐色	低位隆線を縦位に付し、縦位沈線による縦位区画文。斜位沈線や三角連続斜突文を埋める	中期中葉末
第399例 PL.23	7	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:石英・輝石/良好/赤褐色	体部上半か。瘤状小突起側面より重下隆線が派生する。側面に沈線を施す	中期中葉末
第399例 PL.23	8	縄文土器 深鉢	口縁部破片	砂内	胎:石英/良好/にぶい黄褐色	口縁部内湾し、口縁部に横位平行沈線を設け、以下縦位隆線を配す。縹文は判然としないが、斜位R Lか	中期中葉末
第399例 PL.23	9	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土	胎:石英・雲母/良好/褐色	口縁部は強く屈曲し無文。以下縦位沈線数を施す	中期中葉末
第399例 PL.23	10	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土	胎:輝石/良好/にぶい黄褐色	緩やかに内湾する口縁部。横位沈線2条を設け、以下弧状沈線を施す。沈線間にR Lを充満する	中期中葉末
第399例 PL.23	11	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋土	胎:輝石/良好/褐色	体部上半。横位隆線2条を配し、以下縦位R Lを施す。側面に沈線を施す	中期中葉末
第399例 PL.23	12	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:輝石/良好/明褐色	体部上半か。弧状沈線と縦位沈線を見る。おそらく波状意匠か。地文は縹系L縦位施文	中期中葉末
第399例 PL.23	13	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:輝石/良好/にぶい黄褐色	体部上半か。破片上面あるいは隣接下端か。横位縹系Lを施す。以下縦位縹系Lが電う。内面撫で調整	中期中葉末
第399例 PL.23	14	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:輝石/良好/褐色	体部上半か。横位隆線で分指する。上位に重下隆線下端を見る。隆線には縦位斜突文が重なる。下位は縹系L縦位施文	中期中葉末
第399例 PL.23	15	縄文土器 深鉢	体部破片	北西側床直	胎:石英・輝石/良好/褐色	体部下半か。小径である。縹系Lが縦位施文される。内面横位研磨を施す	中期中葉末
第399例 PL.23	16・17	縄文土器 深鉢	体部破片2点	中央埋土	胎:石英・輝石/良好/明褐色	体部上半か。横位沈線以下縹系Lが縦位施文される。内面弱い研磨を施す	中期中葉末
第399例 PL.23	18	縄文土器 深鉢	体部破片	北壁際埋土 下位	胎:石英・輝石/良好/黒褐色	体部上半。頸部が外反し体部は僅かに内湾する。無文。厚手の器厚を呈す	中期中葉末
第399例 PL.23	19	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:輝石/良好/にぶい黄褐色	緩やかに外反する。無文	中期中葉末
第399例 PL.24	20	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	内湾する体部中位。無文で外面下半に煤が付着する	中期中葉末
第399例 PL.24	21	縄文土器 深鉢	底部1/3	埋土	胎:石英/良好/明赤褐色	底:(6.0)。小型の深鉢か。外面は丁寧な研磨を施す。内面撫で	中期中葉末?
第399例 PL.24	22	縄文土器 深鉢	底部破片	埋土	胎:石英・輝石/良好/褐色	大型深鉢か。直立気味に開く。無文	中期中葉末?
第400例 PL.24	23	加工痕ある 割片	完形	埋土	黒曜石	長:1.5, 幅:1.9, 厚:0.6, 重:0.9。薄手の三角形の割片を使用し左下側縁に表面から細かい調整を施し対面を作出する	
第400例 PL.24	24	加工痕ある 割片	一部欠	埋土	黒曜石	長:(1.9)、幅:1.5, 厚:0.4, 重:1.2。薄手の割片の左右側縁に細かい調整を施す	
第400例 PL.24	25	加工痕ある 割片	完形	埋土	黒曜石	長:1.1, 幅:1.6, 厚:0.7, 重:1.3。断面方形の小型割片周縁に比較的粗い調整を施す	
第400例 PL.24	26	石鏃	右側縁欠	埋土	黒曜石	長:1.5, 幅:(1.3)、厚:0.4, 重:0.6。薄手の素材を使用し、左右側縁に細かい押圧調整を施す。先端部は交互斜縁による作出	
第400例 PL.24	27	石鏃未製品	先端欠	埋土	黒曜石	長:(1.6)、幅:(1.2)、厚:0.4, 重:0.7。長身の平基無茎未製品か。全体的に粗い調整で厚手の器厚。左側縁の不純物による欠け	

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 現 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第40図 PL.24	28	加し痕あ る割片	完形	埋上	粗粒輝石安山岩	長:5.4, 幅:11.1, 厚:1.2, 重:71.2. 横長割片を素材とし、端部に使用痕を見る。挿器未製品の可能性もある	
第40図 PL.24	29	使用痕あ る割片	一部欠	埋上	黒色安山岩	長:5.1, 幅:(5.4), 厚:1.1, 重:26.7. 表面主要部隆面を広く残す。厚手の割片で左右側縁上位に使用痕を見る	
第40図 PL.24	30	磨石	完形	埋上	粗粒輝石安山岩	長:8.0, 幅:2.8, 厚:2.8, 重:93.8. 小型の棒状円礫に平面面を見るが顯著ではない	
第40図 PL.24	31	磨石	半欠	埋上	粗粒輝石安山岩	長:(9.4), 幅:(8.7), 厚:4.9, 重:635.6. 厚手の非円礫を素材とする。表裏面に平面面を有す	

41号住居

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 現 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第42図 PL.26	1	縄文土器 深鉢	口縁部1/5	砂体	胎:石英・雲母/良好 /ぶい・赤褐色	口:(38.4). 口縁部に縦位滑車状突起と斜位双環状突起を付し、下縁より弧状隆線が派生し平渦巻状意匠を配す。頸部隆線による口縁部分帯が不明である。側縁、充填文として1本描きの沈線を描く。内縁は強く突出し、口唇部内外面は研磨を施す	中期中葉末
第42図 PL.26	2	縄文土器 深鉢	体部破片	砂体	胎:石英・雲母/良好 /褐色	体部上半に横位隆線を描き、以下斜位双環状突起を中核に弧状隆線が派生する。1本描き沈線を側縁とし、充填文も沈線より三文文を施す	中期中葉末
第42図 PL.26	3	縄文土器 深鉢	体部破片	北東・南西側 床直	胎:石英・雲母/良好 /暗褐色	体部中位か、屈曲部にコイル状突起を付し、弧状隆線が派生する。下縁は分岐懸垂文を配し刺突文を充填する。側縁は1本描き沈線より弧状沈線や交互短沈線を施す	中期中葉末
第42図 PL.26	4	縄文土器 深鉢	体部破片	北東側埋上 土位	胎:石英・雲母/良好 /褐色	弧状隆線を縦位に配す。側縁は1本描き沈線、三文文や刺突文も施される。内面強い研磨	中期中葉末
第42図 PL.26	5	縄文土器 深鉢	体部破片	北東側床直	胎:石英・雲母/良好 /褐色	椀口状区画下縁の突起を欠す。弧状隆線が派生し、1本描き沈線が重なる。内面強い研磨	中期中葉末
第42図 PL.26	6	縄文土器 深鉢	体部破片	北東側埋上 下位	胎:石英・雲母/良好 /褐色	小突起より弧状隆線が派生し、椀口状区画を配す。区画内は刺突文を充填する。側縁は沈線	中期中葉末
第42図 PL.26	7	縄文土器 深鉢	体部破片	埋上	胎:石英・雲母/良好 /褐色	体部下下。隆線による分岐懸垂文下縁。1本描き沈線が重なる。内面に磨着	中期中葉末
第42図 PL.26	8	縄文土器 深鉢	口縁部破片	P2内	胎:石英・輝石/良好 /黒褐色	筒状の器形か。口縁部一体部に大型の楕状把手を設け、把手内面に沈線による渦巻文を配す。口縁部に横位沈線を描き、体部に縦位弧状沈線を施す。口縁は斜位上L。口唇部及び内面に研磨を施す	中期中葉末
第42図 PL.26	9	縄文土器 深鉢	口縁部破片	北西側埋上 中位	胎:輝石/良好/暗 褐色	円筒形の器形。口縁部は縦位、以下斜位上Lを施す。口唇部端部は丁寧な研磨を施す	中期中葉末
第42図 PL.26	10	使用痕あ る割片	完形	北西側埋上 下位	珪礫石	長:1.7, 幅:2.8, 厚:0.7, 重:1.9. 表裏面に節理面を残す。割片下縁部に僅かな縦状突起を見る	
第42図 PL.26	11	凹石	上下端部欠損	北東側床直	粗粒輝石安山岩	長:15.5, 幅:7.4, 厚:4.9, 重:681.1. おそらく楕石か、棒状の円礫表裏面に敲打による凹みが散漫に広がる。裏面に平面面を有す	

43号住居

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 現 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第43図 PL.28	1	縄文土器 深鉢	底部欠損	中央埋上土 位	胎:石英・雲母/良好 /褐色	口:17.2. 平縁で筒状の器形を呈す。口縁部に幅広の無文部を設け以下縦位上Lが重なる。内面施磨	中期中葉末
第43図 PL.28	2	縄文土器 深鉢	体部破片	埋上	胎:石英・雲母/良好 /褐色	横位沈線以下平行沈線による椀口状意匠。内皮施文が深い	中期中葉末

44号住居

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 現 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第45図 PL.30	1	縄文土器 深鉢	口縁部～体部 1/5	北側埋上土 下位	胎:石英/良好/赤 褐色	口:(31.6). 波状突起を付す。4単位波状縁か。口縁部外反し頸部で屈曲し、体部上半に強い内凹部を持つ。頸部屈曲部に沈線による椀口状区画文を配し、交互刺突文を加える。体部は低位隆線による環状意匠を横位に連続し側縁に2条の沈線を描く。沈線による渦巻文も施される。口縁は斜位上L充填施文、内面研磨	中期中葉末
第45図 PL.30	2	縄文土器 深鉢	口縁部1/6	南西床直	胎:石英・輝石/良好 /灰褐色	口縁部強く外反し無文。頸部に縦位沈線を描き、縦位短沈線を加える。内外面研磨	中期中葉末
第45図 PL.30	3	縄文土器 深鉢	口縁部破片	北側埋上土 上位	胎:石英・輝石・雲母 /良好/明赤褐色	口縁部～頸部直立。口唇部に突起部に隆線を付し、横位沈線や交互短沈線を施す。頸部は無文	中期中葉末
第45図 PL.30	4	縄文土器 深鉢	体部破片	北側埋上土 上位	胎:石英・輝石/良好 /赤褐色	頸部破片か。下部に僅かに横位沈線を見る。沈線による同心円状意匠や縦位椀口状意匠を配す。地文は燃系L縦位施文	中期中葉末
第45図 PL.30	5	縄文土器 深鉢	体部破片	北西埋上土 上位	胎:石英・輝石/良好 /褐色	頸部破片か。横位沈線3条を設け、上位に縦位燃系Lを地文とする	中期中葉末
第45図 PL.30	6	縄文土器 深鉢	体部破片	埋上	胎:輝石/良好/橙 褐色	頸部破片か。刻みを付す横位隆線を描き、体部は沈線と横位上Lを施す	中期中葉末
第45図 PL.30	7	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋上土 下位	胎:石英・輝石/良好 /明赤褐色	横位隆線による分帯。隆線には連続爪形文を重ねる。側縁として連華文が沿う。体部下下は無彫L縦位施文と刻みの一端を見る	中期中葉末
第45図 PL.30	8	縄文土器 深鉢	体部1/5	全域埋上土 上位	胎:石英・輝石/良好 /褐色	体部中位に横位隆線2条に囲まれた楕状の無文部を設け小型の楕状把手を付す。把手下縁より隆線による分岐懸垂文が派生し、空白部は2条の横位沈線より小区画される。区画内は連続爪形文による載道列が沿う	中期中葉
第45図 PL.30	9	縄文土器 深鉢	体部破片	東側床直	胎:石英・輝石/良好 /ぶい・褐色	縦位平行沈線による懸垂文構成か。幅広のL具で施文は深い。区画内は強い磨で調整のみ凹凸を見る	中期中葉末



遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 器	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
4650R PL.30	10	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋土上	曜石/良好/にぶ い褐色	沈線による渦巻状意匠より横位弧状沈線が派生する	中 期 中 葉 末?
4650R PL.30	11	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋土上	曜石/良好/褐色	頸状隆線を横位に設け、上位に幅広の平行沈線による弧状意匠を配す。下位は無文	中期中葉末
4650R PL.30	12	縄文土器 深鉢	体部破片	北東側埋土 下位	曜石/良好/褐色 /赤褐色	低位隆線を横位に設け、幅広の横位平行沈線を多段に施文する	中期中葉末
4650R PL.30	13	縄文土器 深鉢	体部破片 2点	北西側埋土 上位	曜石/良好/赤褐色	刻みを付す横位隆線上位に沈線による横位隆線を多段に施文。地文は横位・斜位 R L。内面平滑な態	中期中葉末
4650R PL.30	14	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋土上	曜石/良好/明褐色	体部下平。縦位隆線 2 / 3 条による懸垂文構成。隆線には平行沈線が重なり、施文は深い。区内には無文	中期中葉末
4650R PL.30	15	縄文土器 深鉢	体部～底部破 片	北側埋土下	曜石/良好/赤褐色	縦位隆線 1 条による懸垂文構成。縦線は平行沈線で重複施文する。区内には横位 R L を施す	中期中葉末
4650R PL.30	16	縄文土器 深鉢	底部 1/2	北側埋土中 位	曜石/良好/にぶ い赤褐色	底:10.0。大型の深鉢か。内湾気味に開く。縦位 R L を施す。外面及び底面強い研磨。底面に平行沈線工具の圧痕残る	中期中葉末
4650R PL.30	17	縄文土器 浅鉢	体部～底部 1/2	中央埋土中 位	曜石/良好/明褐色	底:10.0。強く開く体部下平。底面外縁は磨滅する。外面強い研磨、内面縦位研磨を施す。赤彩痕は見られない	中期中葉
4650R PL.31	18	剥片	完形	北側埋土上 位	黒曜石	長:2.7, 幅:1.9, 厚:0.8, 重:2.9。断面台形を呈する厚手の剥片。石鏝としての素材形状と思われる	
4660R PL.31	19	打製石片	基部・縁欠	西側埋土中 位	細粒輝石安山岩	長:9.0、幅:(5.1)、厚:1.2、重:75.1。短冊形。横長割片を素材とし、周辺に細かい調整を施す。各欠損部の加撃点は左下端部か	
4660R PL.31	20	四石	完形	内内	粗粒輝石安山岩	長:15.3, 幅:6.7, 厚:14.8, 重:817.9。棒状円盤を素材とし。表面もとも上位に敷打による凹みを含む。平滑面も見られる	
4660R PL.31	21	台石	完形	内内	粗粒輝石安山岩	長:26.3, 幅:24.3, 厚:7.4, 重:8250.0。扁平な垂角錐の表裏面に平滑面及び少量の敷打痕を見る	

46号住居

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 器	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
5050R PL.32	1	縄文土器 深鉢	口縁部～体部 破片	南東側埋土直	曜石・輝石/やや軟 軟/にぶい黄褐色	突起部欠損。口縁部内縁に無文。頸部隆線以下縦位弧状沈線が派生し、体部に弧状意匠が配される。器面磨滅する	後期初期
5050R PL.32	2	縄文土器 深鉢	口縁部～体部 破片	中央埋土下	曜石/やや軟軟/ にぶい黄褐色	口縁部内湾。沈線で面された施文部と磨消線による区画意匠。器面は磨滅し判別しにくい。施文部縦位弧状意匠 L R か	後期初期
5050R PL.32	3	縄文土器 深鉢	口縁部破片	南西側埋土 中位	曜石/良好/灰 黄褐色	口唇部内折。沈線で面された施文部意匠 L R を充填し沈線に沿って刺突文を重ねる。内面研磨。器厚薄手	後期初期
5050R PL.32	4	縄文土器 深鉢	口縁部破片	北東側埋土 下位	曜石/良好/にぶ い褐色	口唇部直下に沈線による弧線文を配し、刺突文を加える。横位短沈線を充填する	後期初期
5050R PL.32	5	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋土上 位	曜石/やや軟軟/ にぶい黄褐色	垂下隆線 1 条による懸垂文構成。縦線は磨滅。縦位密接条線を施す。器面磨滅	後期初期
5050R PL.32	6	縄文土器 深鉢	体部破片	北東側埋土 上位	曜石/良好/明赤 褐色	器厚薄手。6 / 7 条単位の密接条線を縦位・斜位に施す	後期初期
5050R PL.32	7	縄文土器 深鉢	体部破片	北東側埋土 上位	曜石/良好/にぶ い黄褐色	体部上平。口縁との境に横位隆線を付す。無文である	後期初期
5050R PL.32	8	縄文土器 深鉢	口縁部破片	中央埋土上 位	曜石/良好/黒曜 石	強く開く口縁部。沈線による区画意匠や円弧状意匠が配され L R を充填する。口唇部内面に横位沈線を配す。内外面研磨	後期初期
5050R PL.32	9	縄文土器 深鉢	口縁部破片	中央埋土上 位	曜石/良好/にぶ い褐色	口縁部内屈し横位沈線を設ける。内外面とも丁寧な態で調整	後期初期
5050R PL.32	10	縄文土器 深鉢	底部破片	中央埋土上 位	曜石/輝石/良好/ 明赤褐色	内湾気味に開く。内外面とも態で調整	後期初期
5050R PL.32	11	縄文土器 深鉢	口縁部～体部 1/5	25I 坑	曜石・輝石/良好/ にぶい黄褐色	口縁部下に横位隆線を設ける。他は無文。薄手の器厚を呈し、器面磨滅を施す	後期初期?
5050R PL.32	12	縄文土器 深鉢	体部破片	25I 坑	曜石・輝石/良好/ にぶい黄褐色	体部中位か。僅かな湾曲を見る。無文で外面撫で調整、内面強い研磨を施す	後期初期?
5050R PL.33	13	縄文土器 深鉢	体部破片	25I 坑	曜石/良好/にぶ い褐色	頸部隆線を配す。内外面とも研磨を施す	後期初期?
5050R PL.33	14	縄文土器 深鉢	体部破片	25I 坑	曜石/良好/にぶ い褐色	沈線で面された器口字状意匠か。意匠内は縦位 L R 充填施文。磨消線及び内面に研磨を施す	後期初期
5050R PL.33	15	縄文土器 深鉢	口縁部一部 破片～底部	5号埋土	曜石・輝石/良好/ 明褐色	大型の深鉢。口縁部内湾を施す。無文・縁線は外傾し、頸部隆線を設け、体部は中央に膨らみを持つ。体部も無文で内外面とも強い研磨を施す。底面に刺突文を見る	後期初期?
5110R PL.33	16	石鏝	完形	北東側埋土上 位	黒色安山岩	長:2.8, 幅:1.7, 厚:0.5, 重:1.4。凸基有葉槌。完成状態。表面もとも左右側面から丁寧な押圧調整を施す。基部表面の調整は細かい	
5110R PL.33	17	石鏝 未製品?	下半欠	南東側埋土 床直上	黒曜石	長:(4.3)、幅:1.4, 厚:0.4, 重:0.5。表面は周縁からの押圧調整が及ぶが裏面は強い調整が施される。欠損部加撃点に不純物が見られる	
5110R PL.33	18	磨製石片	上半・左半欠	248坑上位	緑色片岩	長:9.2、幅:(3.3)、厚:2.8、重:172.2。乳棒状石片刃部。欠損後に刃部、左側縁に調整調整を加え、再利用を意図したと見られる	
5110R PL.33	19	磨石	完形	中央埋土上 位	粗粒輝石安山岩	長:7.8, 幅:7.3, 厚:2.6, 重:221.0。扁平な円盤を素材とし。表面もとも平滑面を持つ。表面が磨滅で表面は強い	
5110R PL.33	20	磨石	下端欠損	北東側埋土上 位	石英閃緑岩	長:(15.4)、幅:(7.3)、厚:4.9, 重:841.9。棒状円盤を素材とする。表面及び右側面に敷打痕が集中する	
5110R PL.33	21	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.5, 幅:6.9, 厚:5.4, 重:695.5。方形の垂角錐が素材。各面に平滑面を見るが、表面が磨滅で光沢面を持つ	

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第518 PL-33	22	台石	完形	北西側床直	粗粒輝石安山岩	長:22.5, 幅:15.7, 厚:5.3, 重:3070.0, 扁平な円礫が素材。表裏面に平滑槽と散漫な敲打痕を見る	
第518 PL-33	23	磨石	一部欠	掘出部?	粗粒輝石安山岩	長:31.3, 幅:11.9, 厚:12.3, 重:5800.0, 大型の棒状円礫。表裏面に平滑面を持つ。上下端部に少量の敲打痕を見る	

49号住居

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第538 PL-36	1	縄文土器 深鉢	口縁部～体部 破片	中央埋土中 位	胎:石英・輝石/良好/ /にぶい赤褐色	内湾する無文口縁部に尚脊状突起を配す。頸部屈曲部に横位隆線 を設け、双環状突起を付す。突起下端より分岐懸垂文を振り状隆 線が派生する。縄文は縦位R L。口唇部及び内面に磨付着	中期中葉
第538 PL-36	2	縄文土器 深鉢	口縁部破片	中央埋土上 位	胎:石英・片岩/良好/ /にぶい石化色	口縁部上に螺旋状突起を付す。下端より押圧を加えた垂下隆線 が派生する。無線は太い沈線2条。空白部は沈線による渦巻文や 斜位沈線、刻み目を施す。内外面平滑な態で調整	中期中葉
第538 PL-36	3	縄文土器 深鉢	口縁部～頸部 破片	中央埋土中 位	胎:石英/良好/明赤 褐色	波状線。波頂部より垂下隆線が派生する。口縁部外縁し無文。頸 部屈曲部に横位沈線、体部屈曲部に横位隆線を設ける。頸部は縦 位沈線を充填し、体部は弧状隆線を付すが明瞭としない。内面に 磨付着	中期中葉
第538 PL-36	4	縄文土器 深鉢	口縁部破片	中央埋土上 位	胎:石英・片岩/良好/ /にぶい赤褐色	口縁部強く外反し、頸部屈曲する。屈曲部に沈線を配し以下縦位 刻突文を施す	中期中葉
第538 PL-36	5	縄文土器 深鉢	口縁部破片	中央埋土上 位	胎:輝石/良好/にぶ い黄褐色	2条隆線による口縁部区画文か、隆線間には連続刻突文や連続 筋形文が重なる	中期中葉
第538 PL-36	6	縄文土器 深鉢	口縁部破片	北西側埋土 上位	胎:石英・輝石/良好/ /にぶい黄褐色	2条隆線による口縁部U字状突起。下端より弧状隆線が垂下する。 隆線間には刻突文を重なる	中期中葉
第538 PL-36	7	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋土上 位	胎:石英・輝石/良好/ /にぶい赤褐色	体部中位か。刻みを付す縦位隆帯で分帯する。上位は隆帯による 弧状区画文を配す。側縁は沈線。沈線による同心円状意匠も配す	中期中葉
第538 PL-36	8	縄文土器 深鉢	体部破片	南西側埋土 上位	胎:石英・片岩/良好/ /にぶい赤褐色	体部中位か。横位沈線2条を設け以下縦位懸垂Lを施す	中期中葉末
第538 PL-36	9	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋土中 位	胎:輝石/良好/にぶ い褐色	横位沈線数条による体部多段区画。沈線は内皮使用。地文に縦位 懸垂Lを施す	中期中葉末
第538 PL-36	10	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋土中 位	胎:石英・輝石/良好/ /にぶい黄褐色	体部中位か。横位隆線を設け上位に隆線による同心円状意匠を配 す。地文は縦位懸垂L。内面丁寧な磨	中期中葉
第538 PL-36	11	縄文土器 深鉢	体部破片	中央埋土上 位	胎:石英・輝石/良好/ /にぶい赤褐色	内湾する体部中位。縦位懸垂Lが覆う	中期中葉末
第538 PL-36	12	縄文土器 深鉢	体部破片	北西側埋土 上位	胎:石英・雲母/良好/ /にぶい赤褐色	体部下半。隆線による懸垂文構成。1本描き沈線を側縁とする	中期中葉
第538 PL-36	13	縄文土器 深鉢	底部1/4	南西側埋土 上位	胎:小礫・石英/良好/ /にぶい赤褐色	強く内湾する体部下半。内面強い研磨。内面は態で調整	中期中葉
第538 PL-36	14	石鏡	完形	中央埋土中 位	黒曜石	長:1.6, 幅:1.1, 厚:0.3, 重:0.5, 平基無葉縁。完成状態。表裏面 中央に刺刺面を残し、側縁に丁寧な押圧磨を施す	
第538 PL-36	15	石鏡	ほぼ完形	北東壁埋土 上位	珪質変質岩(流紋岩 質凝灰岩)	長:2.0, 幅:1.0, 厚:0.5, 重:0.8, 円基無葉縁。完成状態。丁寧 な押圧磨で覆われる。右脚端部は表面からの刺刺角が深く丁寧 僅かに欠損	
第538 PL-36	16	凹石	完形	北西側埋土 上位	粗粒輝石安山岩	長:14.9, 幅:6.0, 厚:4.1, 重:518.2, 表裏面中央に敲打による 凹みを持つ。上下端部の敲打痕は僅かである	
第538 PL-36	17	凹石	完形	北西側埋土 上位	粗粒輝石安山岩	長:10.3, 幅:6.0, 厚:4.3, 重:389.2, 表裏面及び両側面中位に 敲打による凹みが集中する。上下端部にも顕著。表裏面には強い 平滑面を持つ	

195号土坑

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第548 PL-37	1	縄文土器 深鉢	頸部～底部	埋土上位	胎:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	底:9.6, 頸部外反し筒状の体部器形を呈す。体部上半には刻みを 付す横位隆線を設け横位沈線3条で2帯に分帯し更に縦位沈線 条で小区画する。区画内は幅広連続筋形文を縦位に施し、沈線 による波状文を充てる。内外器面磨	中期中葉
第548 PL-37	2	縄文土器 深鉢	頸部～体部 1/3	埋土上位	胎:輝石/良好/にぶ い赤褐色	口縁部は横位隆線で画され、三角区画文構成か。頸部は沈線による 横位波状文2条が配される。体部は横位隆線で画され平円状区 画文が連なる。隆線の側縁は幅広連続筋形文。内面磨	中期中葉
第548 PL-37	3	縄文土器 深鉢	体部下半～底 部	埋土上位	胎:輝石/良好/明赤 褐色	底:(9.8)。底面中央欠損。体部下半に横位隆線で画された楕円状 区画文を配す。3単位。側縁は幅広連続筋形文。区画中位沈線に よる波状文等を充てる。体部中位は隆線による弧状意匠か。内面 少量の磨付着。熱熱研磨を見る	中期中葉
第548 PL-37	4	縄文土器 深鉢	口縁部と底部 欠損	埋土上位	胎:石英・輝石/やや 軟/明赤褐色	小型深鉢。口縁部を造るがおそらく外反する形態。体部は二帯 構成で、隆線による環状・弧状意匠が3条を設け、以下沈線による 意匠文を配す	中期中葉
第548 PL-37	5	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土上位	胎:輝石/やや軟/ にぶい赤褐色	口唇部内面突出する。口縁部に横位沈線3条を設け、以下沈線による 意匠文を配す	中期中葉か
第548 PL-37	6	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土上位	胎:石英・雲母/やや 軟/明赤褐色	垂下隆線1条による懸垂文構成。側縁は沈線2。縦位R Lを施す	中期中葉
第548 PL-37	7	縄文土器 浅鉢	体部破片	埋土上位	胎:輝石/良好/明赤 褐色	無文。内外面丁寧な磨を施す。赤彩痕は見られない。器厚薄手	中期中葉か

遺物観察表

214号土坑

種 類 Pl.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第55回 PL.38	1	縄文土器 深鉢	口縁部・体部 一部欠損	北壁底面	胎:輝石/良好/ぶい 赤褐色	口:17.2、高:21.7、底:17.0。波状突起1単位を配す。他は渦巻状突起3単位。口縁部は隆線による交互三角区画構成。体部も三角区画文を交互に配す。下位は楕円状文を連ねる。側縁は幅広く楕円形文と三角連続刺突文を施す。外面磨面磨滅。内面撫で調整	中期中葉
第55回 PL.38	2	縄文土器 深鉢	把手破片	埋土中位	胎:小礫・片岩/軟質 褐色	振り状の粘土紐状物を配す。下位には円文と三叉文を施す。器面磨滅し判然としない	中期中葉
第55回 PL.38	3	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土中位	胎:石英・片岩/良好 黒褐色	無文。外面丁寧な撫で、内面弱く撫で調整を施す	中期中葉?

219号土坑

種 類 Pl.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第55回 PL.38	1	弥生土器 深鉢?	口縁部破片	埋土	胎:石英/良好/ぶい 黄褐色	双波状小突起を付す。口縁部は横位LRを施し、以下横位波線により有段状の効果を示す	前期後半?
第55回 PL.38	2	弥生土器 深鉢?	体部破片	埋土	胎:石英・片岩/や 軟成/ぶい黄褐色	器面磨滅。斜位密接条線を見る	前期後半?
第55回 PL.38	3	弥生土器 深鉢?	体部破片	埋土	胎:石英・輝石/良好 褐色	薄手の器厚を呈し無文。内外面撫で調整	前期後半?
第55回 PL.38	4	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:石英・輝石/良好 褐色	体部上半は外反する。縦位密接条線と縦位波状文を施す	中期後葉 加賀利EⅢ式

220号土坑

種 類 Pl.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第55回 PL.38	1	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土上位	胎:石英多・輝石/良 好/黒褐色	口:(30.0)。大型の深鉢。口縁部に富士山形の突起を付し中位に円孔を設ける。小型の環状突起も配す。突起下端に縦位の双環状突起を連ね、屈曲部に割欠を付す横位隆線を付す突起円周縁は三叉文や矢羽状割欠を付す隆線を施す	中期中葉末 ～ 藤沢3式

225号土坑

種 類 Pl.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第56回 PL.39	1	縄文土器 深鉢	体部破片	底面	胎:石英・輝石/良好 明赤褐色	小突起を中核とし、隆線によるU字状底面区画と分枝型垂文を配す。区画内は刺突文を充填、隆線側縁は1本筋状波線が重なる。円文、三叉文を施される。内面撫で調整	中期中葉
第56回 PL.39	2	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:石英・輝石/良好 ぶい褐色	体部下平か。斜位RLを施す。内面に微量の煤付着	中期中葉
第56回 PL.39	3	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:石英・雲母/良好 褐色	横位隆線と斜位隆線を付し、横位平行波線を充填する。内面弱く撫でを施す	中期中葉
第56回 PL.39	4	縄文土器 深鉢	底部破片	埋土	胎:小礫/良好/褐色	ほぼ直立気味の体部下平。無文で内外面とも丁寧な撫で調整。底面に網代痕を見るが判然としない	中期中葉
第56回 PL.39	5	縄文土器 深鉢	体部破片2点	埋土	胎:石英・輝石/良好 褐色	底部近くの体部下平。縦位RLが覆う。器面磨滅。内面微量の煤付着	中期中葉
第56回 PL.39	6	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:6.8、幅:5.1、厚:1.6、重:75.5。小型の扁平な円盤。表裏面に平滑面を有す。敲打痕は見られない	
第56回 PL.39	7	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:15.0、幅:7.1、厚:5.7、重:990.2。表裏面、両側面に顕著な平滑面を持つ。右側面上位に敲打痕が集中する。	

230号土坑

種 類 Pl.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第57回 PL.40	1	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土	胎:石英・輝石/良好 ぶい赤褐色	口縁部内湾し幅広い平行波線による区画文構成か。区画内は同波線による弧線文が配される。地文は縦位LR。内面は平滑な撫で	中期中葉
第57回 PL.40	2	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土上位	胎:石英・輝石/良好 ぶい赤褐色	口縁部内湾し口部肥厚部下に平行波線を施す。以下弧線文を施す。器面磨滅。あるいは1と同一個体か	中期中葉
第57回 PL.40	3	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土中位	胎:石英・雲母/良好 ぶい赤褐色	口部突る。内縁を付す口縁部より斜位隆線が派生し波線側縁を重なる。器面磨滅	中期中葉
第57回 PL.40	4	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:輝石/良好/赤褐色	斜位波線による体部区画文か。波線を充填する。地文は無彫1層位施文	中期中葉
第57回 PL.40	5	磨石	完形	南壁埋土中位	粗粒輝石安山岩	長:13.8、幅:7.6、厚:4.5、重:550.4。楕円状円盤表裏面中位に広い円凹を持つ。両側面中位にも敲打痕が集中する	
第57回 PL.40	6	磨石	完形	埋土	石英閃緑岩	長:11.5、幅:4.3、厚:3.5、重:296.4。縦身の棒状円盤。表裏面に弱い平滑面を持つ	

244号土坑

種 類 Pl.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第57回 PL.40	1	縄文土器 深鉢	口縁部～体部	埋土上位	胎:石英・輝石/良好 暗赤褐色	口:24.1。口縁部内湾し頸部で屈曲する。屈曲部より1条の隆線がクラック状に懸垂する。2単位である。隅文は縦位RLを間隔的に施文する。下半に粗粒鉄胎	中期中葉末

## 245号土坑

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第57号 PL.41	1	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土上位	胎:石英・雲母/良好 /ぶい赤褐色	口縁部外反。外反部に乳状隆線を付す。おそらく文字状の貼付か、 縄文は横位L R	中期中葉
第57号 PL.41	2	縄文土器 深鉢	体部破片	底面	胎:石英・輝石・雲母 /良好/明赤褐色	体部上半。頸部屈曲し乳形連続突文を施す。体部は2条隆線 や矢羽状刻みを加えた隆線による弧状意匠が配される。沈線を撫 撫とし、沈線による渦巻文が埋められる。下半は燃赤R 腐位施文	中期中葉末
第57号 PL.41	3	縄文土器 深鉢	底部	埋土上位	胎:輝石/やや軟く /ぶい褐色	底:7.8。直線的に開く体部下平。無文。撫で調整を施すが外面凹 凸顕著。被熱痕跡も見られる	中期中葉

## 246号土坑

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第58号 PL.41	1	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土	胎:石英・輝石/良好 /ぶい赤褐色	口唇部内面突出。口縁部に縦位L R を施す。器面剥落	中期中葉
第58号 PL.41	2	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土上位	胎:石英・雲母/良好 /ぶい赤褐色	体部下平か。無文で内外面とも撫で調整	中期中葉

## 247号土坑

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第58号 PL.42	1	縄文土器 注口土器	口縁部～体部 1/3	埋土上位	胎:石英・輝石・雲母 /少/良好/褐色	口縁部～体部上半一体化し内縮す。口縁部横位隆線を設け、注 口部に連接させる。口縁部下に焼成前小孔を対するようにつつ、 体部は無文で器面磨滅	後期前葉
第58号 PL.42	2	多孔石	完形	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:13.4、幅:21.7、厚:11.9、重:3730.0。表裏面に断面円錐状の 孔を密に設ける。側面には見られない	

## 248号土坑

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第59号 PL.43	1	縄文土器 深鉢	口縁部～体部 1/2	埋土上位～ 中位	胎:石英/良好/褐色	口:17.4。小型深鉢。幅狭の無文口縁部と横位隆線を設ける。横 位隆線は対弧状の意匠を2単位配す。体部は無文。内外面体部下 平に被熱痕跡を見る。器面磨滅	後期前葉
第59号 PL.43	2	縄文土器 深鉢	口縁部～体部 1/4	埋土上位～ 中位	胎:石英・輝石/良好 /ぶい黄褐色	口:(24.0)。口縁部上に瘤状把手を設ける。3・4単位か。把手 下端に内形貼付文を付し、頸部屈曲部に横位沈線2条を施す。体 部は沈線による弧状意匠や渦巻状意匠を配す。内外面撫で調整	後期前葉
第59号 PL.43	3	縄文土器 深鉢	体部1/3～底 部	埋土上位～ 中位	胎:石英・輝石/良好 /明黄褐色	底:8.6。体部中位が折れるキャリヤ状の器形。2条の沈線による 渦巻状意匠を配し、弧状沈線で意匠間を繋ぐ。おそらく3単位 下層は2条沈線による懸垂文構成で沈線間を縦位波状文が施され る。内外面撫で調整。下平に被熱痕跡を見る	後期前葉

## 249号土坑

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第60号 PL.43	1	縄文土器 深鉢	口縁部～体部 上半1/2	埋土上位	胎:石英・雲母/良好 /ぶい赤褐色	口:26.0。口縁部内溝し隆線による瘤状と菱形状の意匠文が配 される。4単位か。頸部隆線を設け体部は隆線による三角区画構 成か。区画内は斜位沈線を埋める。器面磨滅	中期中葉
第60号 PL.43	2	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土上位	胎:輝石/良好/ぶ い赤褐色	垂下する平行沈線による懸垂文構成か。斜位沈線も施される。地 文は縦位L R か。器壁剥落著しい	中期中葉

## 250号土坑

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第60号 PL.44	1	縄文土器 深鉢	底部1/3	埋土上位	胎:石英・輝石/良好 /ぶい赤褐色	底:(10.0)。体部下平は緩やかに開く。垂下隆線による懸垂文構 成下端。側線は平行沈線3条。内面撫で調整。少量の縦付有	中期中葉
第60号 PL.44	2	磨石	完形	北壁際埋土	粗粒輝石安山岩	長:12.5、幅:5.6、厚:5.3、重:585.7。棒状の内磨各面に弱い平 滑面を見る。右側面には最打による凹み有す	

## 252号土坑

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第60号 PL.45	1	縄文土器 深鉢	口縁部～体部 破片	埋土中位	胎:石英・輝石/良好 /ぶい赤褐色	幅狭の口縁部は外反し無文。口縁部下に横位隆線を設け、体部は 弧状隆線を配す。側線は無く。外面は横位・斜位撫で調整痕が顕 著。内面は横位撫で調整	後期前葉
第60号 PL.45	2	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土中位	胎:石英・輝石/良好 /ぶい黄褐色	体部上半。口縁下の横位隆線以下無文である。外面強い撫で、内 面横位撫で調整	後期前葉
第60号 PL.45	3	磨石	下半欠	埋土中位	粗粒輝石安山岩	長:7.6、幅:9.4、厚:4.6、重:381.9。表裏面に平滑面を持つ。 裏面は光沢を有す。表面には浅い般打痕による凹みを見る	

## 253号土坑

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第61号 PL.45	1	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土中位	胎:石英/良好/ぶ い赤褐色	無文。外面丁寧な撫で調整ながら凹凸を見る。内面強い撫で	中期中葉?
第61号 PL.45	2	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土上位	胎:石英・雲母/良好 /ぶい赤褐色	口唇部内外面肥厚。口縁部より斜位隆線が派生し、1本描き沈線 を撫撫。充填文とする。内面平滑面有す	中期中葉
第61号 PL.45	3	多孔石	一部欠損	埋土上位	粗粒輝石安山岩	長:22.6、幅:13.9、厚:13.1、重:4280.0。全面に断面円錐状孔が 設けられる。裏面はやや中小型で希薄	

遺物観察表

254号土坑

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第61回 PL.45	1	縄文土器 深鉢	底部破片	埋土上位	胎:石英・雲母/良好/ /にぶい赤褐色	緩やかに開く体部下平。無文で外面は平滑な態で調整を施す	中期中葉
第61回 PL.45	2	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土上位	胎:輝石/良好/にぶい 赤褐色	器系Lの縦位施文	中期中葉末
第61回 PL.45	3	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土上位	胎:輝石/良好/黒褐色	体部上平か。2条の横位沈線以下器系Lを縦位施文する	中期中葉末

255号土坑

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第62回 PL.46	1	縄文土器 深鉢	口縁部～体部 1/5	埋土中位～ 下位	胎:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	口:(21.0)。口縁部内傾。口縁部は横位隆線で画し、おそらく弧状隆線による区画文構成か。沈線による格鬥状枠を設け横位刺突文を施す。体部は弧状沈線文を配す。内外面研磨。外面に微量の腐が付着する	後期前葉
第62回 PL.46	2	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土中位	胎:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	低波状突起を設け中位は凹む。口縁部は凹形刺突文と横位沈線を施す。器部は無文	後期前葉
第62回 PL.46	3	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土中位	胎:石英・輝石/良好/ 黒褐色	低波状隆線。口縁部の縦位沈線2条が体部弧状突起に連続する。内面強い横溝により凹凸顕著	後期前葉

2・3号ピット

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第63回 PL.47	1	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:石英・雲母/良好/ にぶい赤褐色	コイル状小突起より隆線が分岐状に派生する。側縁は平行沈線。刺突文を充填する	中期中葉

37号ピット

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第63回 PL.47	1	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土中位	胎:石英・輝石/やや 軟明赤褐色	口縁部に斜位環状突起とコイル状突起を配し下部より2条隆線が生ずる。隆線による平渦巻状突起を配し、刺突文を充填する。側縁は施されず。縦位沈線を充填する。内外面器面磨滅	中期中葉末

56号ピット

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第63回 PL.47	1	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土中位	胎:石英/軟質/にぶい 褐色	外器面磨滅のため文様等判然としない	不明
第63回 PL.47	2	弥生土器?	体部破片	埋土中位	黄緑・石英少/良好/ 褐灰色	器形に歪み有り。斜位細線条線を施す	弥生前期?

59号ピット

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第63回 PL.47	1	縄文土器 深鉢	突起破片	埋土	胎:石英・雲母/良好/ にぶい褐色	双環状突起。両側面が環状で、隆線によるコイル状突起を配す。頂部に凹形貼付文	中期中葉末

遺構外出土遺物

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第64回 PL.48	1	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:石英/良好/にぶい 黄褐色	無文で内外面とも態で調整を施す。外器面に凹凸をみる	後期前葉
第64回 PL.48	2	縄文土器 深鉢	底部破片	埋土	胎:石英・雲母/良好/ にぶい褐色	内湾する体部下平。垂下隆線と沈線の下端を見る。内外面態で調整	中期中葉
第64回 PL.48	3	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:輝石/良好/にぶい 黄褐色	体部上平か。内器面割落する。外面は縦位Rしで覆う	中期中葉末?
第64回 PL.48	4	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:輝石/良好/黒褐色	横位平行沈線部。幅狭で内皮施文である。内面態で	中期中葉末?
第64回 PL.48	5	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:石英・雲母/良好/ 褐色	無文で内外面横位態で調整を施す。器面は磨滅する	中期中葉末?
第64回 PL.48	6	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土	胎:石英少/良好/にぶい 赤褐色	隆線によるS字状突起を配した双環状突起。口縁部区画内は横位沈線と交互刺突文を施す。内面研磨	中期後葉初
第64回 PL.48	7	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土	胎:輝石/良好/褐色	口縁部に横位隆線数条を設け、沈線を側縁とする。下位隆線には交互刺突文を加える	中期中葉末
第64回 PL.48	8	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:石英/良好/褐色	体部上平か。横位沈線3条を設ける。以下は無文か。外面丁寧な態で調整。内面は弱い	後期前葉
第64回 PL.48	9	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:輝石/良好/にぶい 赤褐色	垂下沈線で画された施文部と磨消部。懸垂文構成。施文部は無部Lを縦位に施す。磨消部及び内面は丁寧な研磨を施す	中期末葉
第64回 PL.48	10	縄文土器 深鉢	底部破片	埋土	胎:輝石/良好/褐色	内湾気味に開く体部下平。やや厚手で内外面とも態で調整	中期
第64回 PL.48	11	縄文土器 深鉢	口縁部破片	埋土	胎:石英/良好/にぶい 黄褐色	口縁部突起。隆線で縁辺を縁取り、上端部に凹形刺突文を配す。突起内に磨線として沈線が沿う。突起外面も凹形刺突文と沈線を施す。器面磨滅	後期前葉
第64回 PL.48	12	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:石英・雲母/良好/ 明赤褐色	内湾する体部上平か。横位隆線に弧状隆線が付す。側縁沈線を垂ねる	中期中葉
第64回 PL.48	13	縄文土器 深鉢	体部破片	埋土	胎:石英・雲母/良好/ 明赤褐色	体部下平。底部湾曲を内面に見る。無文で態で調整を施す	中期中葉?

種 類 PL No.	図 号	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/成成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第64図 PL-48	14	甕 甕	体部破片	埋土	胎:石英/良好/に ぶい褐色	薄手の器厚で強く内傾する。胴部か。外面に斜位ハケ目状の調整痕が残る。内面強い撫で調整	甕生前期?
第64図 PL-48	15	甕 甕	体部破片	埋土	胎:輝石/良好/褐色	内皮沈線を縦位に施す。地文は斜位 R L	中期中葉 未?
第64図 PL-48	16	甕 甕	体部破片	埋土	胎:石英・輝石/良好/ 褐色	体部下平か。斜位沈線下端を見る	中期中葉
第64図 PL-48	17	甕 甕	体部破片	埋土	胎:輝石/良好/にぶ い黄褐色	外反する体部中心。2条の縦沈線に画された施文部弧状意匠。L Rを充填する。器厚薄手	中期末葉
第64図 PL-48	18	甕 甕	体部破片	埋土	胎:石英/良好/暗褐 色	刻みを付す垂下隆線による懸垂文構成か。地文は照系 R の縦位施文	中期中葉末
第64図 PL-48	19	甕 甕	体部破片	埋土	胎:石英・雲母/良好/ 赤褐色	隆線を付し側縁沈線を重ねる。三叉文を空白部に充てる。施文は深い	中期中葉
第64図 PL-48	20	甕 甕	体部破片	埋土	胎:石英・雲母/良好/ 褐色	体部下平か。無文で外面研磨。内面撫で調整を施す。内面僅かに煤付着	中期中葉
第64図 PL-48	21	甕 甕	体部破片	埋土	胎:石英・輝石/良好/ 黒褐色	体部下平の横位隆線にコイル状突起を付す。弧状隆線が生ずる	中期中葉
第64図 PL-48	22	甕 甕	体部破片	埋土	胎:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	片環状突起とコイル状突起。横位隆線が生ずり、1本筋さ沈線を側縁とする	中期中葉
第64図 PL-48	23	甕 甕	体部破片	埋土	胎:輝石/やや軟/明 褐色	弧状隆線を配し、内皮沈線を側縁として重ねる	中期中葉
第64図 PL-48	24	甕 甕	体部破片	埋土	胎:石英・雲母/良好/ 赤褐色	体部下平か。太い横位隆線を配し、上位に斜位隆線を派生する。沈線を側縁とし横位沈線を重ねる	中期中葉
第64図 PL-48	25	甕 甕	体部破片	埋土	胎:石英・雲母/良好/ にぶい褐色	体部上平か。横位隆線以下弧状隆線が配す。平行沈線を側縁とする	中期中葉
第64図 PL-48	26	甕 甕	体部破片	埋土	胎:輝石/やや軟/明 褐色	縦位 R L を施す。器面磨滅	中期中葉
第64図 PL-48	27	甕 甕	体部破片	埋土	胎:石英/やや軟/褐色	弧状隆線を付し横位沈線を多段に配す。斜位条線を見るが判断としない。器面磨滅	前期後半か
第64図 PL-48	28	甕 甕	体部破片	埋土	胎:石英・片岩/良好/ にぶい褐色	横位沈線 2 条を配す。施文は深い。以下斜位条線が施される	前期後半か
第64図 PL-48	29	甕 甕	体部破片	埋土	胎:石英・多輝石/良 好/にぶい褐色	縦位 L R を施す。破片右端に斜位沈線の痕跡を見る。器面磨滅	中期中葉?
第64図 PL-48	30	甕 甕	体部破片	埋土	胎:輝石/良好/明赤 褐色	体部下平か。隆線による懸垂文下端を見るが不明瞭である。他は無文で撫で調整を施す	中期中葉
第64図 PL-48	31	甕 甕	口縁部破片	埋土	胎:石英/良好/にぶ い褐色	口唇部欠損。口縁部に横位隆線を設け、上位に刺突文を施す	中期中葉
第64図 PL-48	32	甕 甕	体部破片	埋土	胎:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	やや薄手の器厚を呈し、斜位 R L を施す	中期中葉
第64図 PL-48	33	甕 甕	口縁部突起	埋土	胎:石英・雲母/良好/ にぶい赤褐色	富士山形突起下端か。口唇部に深い刻み。口縁部は複列の結節沈線を側縁とし、横位成状文を配す。	中期中葉
第64図 PL-48	34	甕 甕	底部1/3	埋土	胎:石英・雲母/良好/ にぶい赤褐色	底(14.0)。大型の深鉢底部。体部下平は緩やかに開く。無文で内外面とも撫で調整を施す	中期中葉
第64図 PL-48	35	甕 甕	底部1/2	埋土	胎:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	底7.6。丸みを帯びた底部。体部下平は緩やかに開き、垂下沈線下端を見る。地文は照系 R 縦位施文	中期中葉
第64図 PL-48	36	甕 甕	体部破片	埋土	胎:石英/良好/褐色	横位コイル状突起より隆線が生ずる。側縁は沈線、円形刺突文を施した凹文を配す	中期中葉
第64図 PL-48	37	甕 甕	体部破片	埋土	胎:石英/良好/褐色	厚手の器厚。斜位 R L を施す	中期中葉
第64図 PL-48	38	甕 甕	体部破片	No 1	胎:石英・雲母/良好/ 暗褐色	弧状隆線を付し横位沈線で分割する。沈線には弧状短沈線が重なり交互三叉文の効果を見せる	中期中葉
第64図 PL-48	39	甕 甕	口縁部-体部 1/3	No 1	胎:輝石/良好/褐色	口(20.0)。平縁で楕円状突起を付す。おそらく4単位。口縁部は無文で頸部に2条の沈線を設ける。体部は2条沈線による渦巻状意匠を配す。体部下平にも縦線文を施すが判断としない。施文は比較的難。内面横位傾り調整痕残り、研磨を加える	後期前葉
第64図 PL-48	40	甕 甕	口縁部破片	埋土	胎:輝石/良好/にぶ い黄褐色	口唇部残存僅か。無文で内面研磨を施す	後期前葉?
第64図 PL-48	41	甕 甕	体部破片	埋土	胎:石英/良好/にぶ い褐色	無筋 L を縦位・斜位施文する	後期前葉?
第64図 PL-48	42	甕 甕	体部破片	111上	胎:石英少・纈糖/良 好/にぶい赤褐色	体部下平。尖底深鉢か。器厚厚手で横位・斜位 R L を施す	前期初頭
第64図 PL-48	43	甕 甕	体部破片	72IKY5	胎:石英・纈糖/良好/ 明赤褐色	体部下平か。斜位 R L を施す	前期初頭
第64図 PL-48	44	甕 甕	体部破片	72IKD3	胎:石英・纈糖/良好/ 褐色	体部下平か。斜位 R L を施す	前期初頭
第64図 PL-48	45	甕 甕	口縁部破片	62IKP23	胎:石英・輝石・纈糖/ 良好/褐色	口唇端部に刻みを施す。L R と R L の横位羽状縦文構成。結東部も施される	前期中葉
第64図 PL-48	46	甕 甕	体部破片	63IK44	胎:石英・纈糖/良好/ にぶい赤褐色	横位 R L を施す。外器面磨滅。内面丁寧に調整を施す	前期中葉
第64図 PL-48	47	甕 甕	体部破片	47住No 6	胎:石英・輝石・纈糖/ 良好/褐色	横位 L R と R L による羽状縦文構成。結東部も施文される	前期中葉?
第64図 PL-48	48	甕 甕	体部破片	62IKP23	胎:石英・纈糖/良好/ 暗赤褐色	横位 L R と R L の羽状縦文構成	前期中葉?

遺物観察表

種 別 PL.No.	No.	種 類	部 位 存 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
6659 PL.48	49	縄文土器 深鉢	体部破片	62区Q21	靑・石英・横縞/良好/褐色	体部下平か。斜位R Lを施す。器面磨滅	前期中葉?
6659 PL.48	50	縄文土器 深鉢	体部破片	62区R20	靑・石英・横縞/良好/褐色	底部直上。無文。内面撫で調整。少量の煤が付着する	前期中葉
6659 PL.48	51	縄文土器 深鉢	口縁部破片	62区Q21	靑・輝石/良好/にぶい褐色	口唇部に切み。口縁部は横位平行沈線と弧状意匠を配す。平行沈線にはC字状の刻みを加える	前期後葉
6659 PL.48	52	縄文土器 深鉢	体部破片	62区S19	靑・輝石/良好/にぶい褐色	口縁部内湾部か。横位浮線文を多段に設け、弧状浮線文を下位に配す。矢羽状切みを重なる。横位L Rを地文とする	前期後葉
6659 PL.48	53	縄文土器 深鉢	体部破片	62区U4	靑・石英・輝石/良好/にぶい褐色	厚手の器厚を呈す。横位浮線文を付し、矢羽状切みを加える。地文は横位R Lしか	前期後葉
6659 PL.48	54	縄文土器 深鉢	体部破片	62区P22	靑・石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	外反する体部下平か。横位平行沈線群に斜位刻みを加える。下平は横位R Lを施す	前期後葉
6659 PL.48	55	縄文土器 深鉢	体部破片	72区S4	靑・輝石/良好/褐色	横位隆線に刻みを付し、幅状の平行沈線を側線とする	前期後葉
6659 PL.48	56	縄文土器 深鉢	体部破片	63区D5	靑・石英・輝石/良好/明褐色	浅い条線が横位弧状に施される。やや砂質	前期後葉
6660 PL.49	57	縄文土器 深鉢	突起破片	72区1面	靑・石英・良好/明褐色	外縁を連続刻突文で縁取る双環状突起。中央で中内面から小孔を穿つ。下平に三文文。裏面に僅かに縄文を見る	前期中葉?
6660 PL.49	58	縄文土器 深鉢	体部破片	63区E6	靑・石英/良好/褐色	体部上平に横位沈線を設け、Y字状区画文が構築する。区画内は平行沈線による斜格字文を充填する。体部はL R結束1種の縦位施文。意匠的な間隔施文。内面丁寧な撫で調整	中期初頭
6660 PL.49	59	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区E2	靑・石英/片岩/良好/褐色	口唇部に面を持ち外側へ突出する。爪形連続刻突文と三角連続刻突文、三文文を施す。円形の凹みは未貫孔の補修孔か	中期中葉
6660 PL.49	60	縄文土器 深鉢	口縁部破片	62区Y6	靑・輝石/良好/明赤褐色	口縁部突起を付し頸部は横位隆線2条を配す。口縁部区画構成で幅状連続刻突文と三角連続刻突文を施す	中期中葉
6660 PL.49	61	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区C7	靑・石英・雲母/良好/褐色	口唇部に環状突起と切みを付す横位隆線2条を配す。口縁部区画内は沈線が沿い、交互刻突文も加わる	中期中葉
6660 PL.49	62	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区C3	靑・石英・輝石/良好/にぶい褐色	外面に突出する突起下に双環状突起を配すか。沈線を側線とする	中期中葉
6660 PL.49	63	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区H9	靑・石英・輝石/良好/にぶい褐色	口縁部は2条の横位隆線で囲まれ、渦巻状小突起を配した区画構成。区画内は深い縦位連続刻突文を施す。頸部は交互刻突文が配され、交互刻突文も加わる	中期中葉
6660 PL.49	64	縄文土器 深鉢	口縁部破片	32住埋土	靑・石英・輝石/やや軟/明褐色	柱状突起を付し、隆線による交互三角区画構成を呈す。突起には横位三角連続刻突文を乗せ、隆線側は幅状連続爪形文を施す。外反する頸部は無文。器面磨滅著しい	中期中葉
6660 PL.49	65	縄文土器 深鉢	底部1/2	32住埋土	靑・石英/良好/褐色	底3.6。体部下平は直立意味。無文で内外面とも撫で調整	中期中葉?
6660 PL.49	66	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区D7	靑・石英・雲母/良好/褐色	波状縦線部欠損。口唇部外面突出し横位L Rを施す。内面横位隆線を付し単列の角稜文を側線とする	前期中葉 異系統か
6660 PL.49	67	縄文土器 深鉢	体部破片	63区E5	靑・石英・雲母多/良好/褐色	内湾する体部下平か。2条の縦隆線による弧状突起と懸垂文。側線は角稜文と沈線を施す。地文は縦位・斜位L R	中期中葉 異系統か
6660 PL.49	68	縄文土器 深鉢	口縁部突起片	63区D9	靑・石英・雲母/良好/にぶい黄褐色	柱状突起と環状突起が連続した横平の形態。環状突起中央は大型の貫孔を設ける。柱状突起上端は鷹状の意匠か。以下交互短沈線を横位に施す。左側面は隆線による渦巻状意匠を配す。内外面とも平滑な撫で調整を施す	中期中葉
6660 PL.49	69	縄文土器 深鉢	突起破片	63区E8	靑・石英/やや軟/にぶい褐色	大型の鷹状突起か。縁下に連続爪形文を施す。器面磨滅	中期中葉
6660 PL.49	70	縄文土器 深鉢	体部破片	63区D7	靑・輝石/やや軟/明褐色	陥落するが弧状突起を中核にし、分岐隆線文を懸垂する。隆線には刻みを付す。側線は幅状連続爪形文と2条の沈線を施す	中期中葉
6660 PL.49	71	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区G8	靑・石英・雲母/良好/暗褐色	口唇部より内皮使用の横位平行沈線群を重ねる。縦位浮線文を施し、弧状意匠が派生する。内面丁寧な撫で調整	中期中葉
6660 PL.49	72	縄文土器 深鉢	口頂部破片	63区A3	靑・石英・輝石/やや軟/褐色	腹口縁か。頸部隆線で囲まれる。隆線による環状意匠や楕円状区画文が配られ、沈線による渦巻文や垂下沈線も加えられる	中期中葉
6660 PL.49	73	縄文土器 深鉢	体部破片	63区F9	靑・石英・輝石/良好/褐色	隆線による環状意匠。下平は横位隆線と接し突出する。意匠内は沈線による渦巻文、横位隆線下端は刻突文を施す。意匠文上端に隆線3条が派生する	中期中葉
6660 PL.49	74	縄文土器 深鉢	体部破片	63区B2	靑・石英・雲母/良好/にぶい赤褐色	平行沈線による小区画文か。中央に三文文を配す。内面弱い研磨	中期中葉
6660 PL.49	75	縄文土器 深鉢	体部破片	排上	靑・石英・雲母/良好/暗赤褐色	隆線による環状区画文か。区画内は平行沈線による渦巻文が配される。L Rを施す	中期中葉
6660 PL.49	76	縄文土器 深鉢	体部破片	63区C7	靑・輝石/良好/灰褐色	縦位沈線群による懸垂文構成。沈線間に刻突文を連ねる。弧状の小意匠も配す	中期中葉
6660 PL.49	77	縄文土器 深鉢	体部破片	63区C8	靑・石英・輝石/良好/明褐色	切みを付す弧状隆線下に沈線が重なる。以下沈線による弧状意匠を配す。側線は沈線	中期中葉
6660 PL.49	78	縄文土器 深鉢	体部破片	29住No97	靑・石英・雲母/良好/褐色	横位沈線で囲まれ、切みを付す隆線による渦巻状意匠を配す。沈線を側線とし、円形刻突文も加える	中期中葉
6660 PL.49	79	縄文土器 深鉢	体部破片	63区B1	靑・石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	体部下平か。横位隆線以下弧状隆線を配し、側線沈線を重ね、中央に三文文を刻む	中期中葉
6660 PL.49	80	縄文土器 深鉢	体部破片	西区	靑・輝石/良好/明赤褐色	内皮平行沈線による懸垂文構成。横位平行沈線による区画文を配す	中期中葉
6660 PL.49	81	縄文土器 深鉢	体部破片	63区D7	靑・石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	小突起を付し弧状隆線を配す。側線の平行沈線を重ねる。内面弱い研磨を施す	中期中葉
6660 PL.49	82	縄文土器 深鉢	体部破片	63区F2	靑・石英・雲母/良好/にぶい褐色	横位隆線以下、2条の沈線による弧状意匠を配す	中期中葉

採 掘 PL.No.	No.	種 類	部 位	出 上位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
6076R PL.49	83	縄文土器 深鉢	体部破片	63区G9	黒・輝石/良好/褐色	重下沈線2条及び縦位波状沈線による懸垂文構成か、波状意匠に連続した彫文が沿い、三角連続刺突文も施される	中期中葉
6076R PL.49	84	縄文土器 深鉢	体部破片	63区D7	黒・石英・雲母/良好/褐色	横位内皮平行沈線数条を備えた輪状の体部文様帯に縦位短沈線を充填する	中期中葉
6076R PL.49	85	縄文土器 深鉢	体部破片	63区D7	黒・石英/良好/にぶい赤褐色	刻みを付す横位隆線上位に2条の沈線による横位波状文を配し、隆線無縁の沈線に逆U字状意匠を接続する。地文は斜位R L	中期中葉
6076R PL.49	86	縄文土器 深鉢	体部破片	63区F8	黒・輝石/良好/褐色	隆線と無縁沈線によるU字状意匠か、無縁位内皮平行沈線。区画中は1R斜位施文	中期中葉
6076R PL.49	87	縄文土器 深鉢	体部破片	63区E6	黒・石英・輝石/良好/褐色	縦位内皮平行沈線による懸垂文構成。両側は縦長区画内に横位弧状沈線2条を配す。地文は縦位R L充填施文	中期中葉
6076R PL.49	88	縄文土器 深鉢	体部破片	63区表採	黒・石英/良好/にぶい褐色	平行沈線による環状意匠。地文は斜位L R	中期中葉
6076R PL.49	89	縄文土器 深鉢	体部破片	63区F7	黒・石英/良好/褐色	間隔施文状に縦位R Lを施す。内面丁寧な調整	中期中葉
6076R PL.49	90	縄文土器 浅鉢	口縁部破片	63区I10	黒・石英/良好/明赤褐色	波状線。内縁を持ち、波頂部に孔を配す。内外面丁寧な研磨を施す。赤彩釉は口縁部内面に残る	中期中葉
6076R PL.49	91	縄文土器 浅鉢	底部破片	63区C4	黒・石英・輝石/良好/黒褐色	底(C11.0)。強く叩くと体部下平。外面丁寧な研磨。内面は縦位の強い研磨を施す	中期中葉
6076R PL.49	92	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区D8	黒・石英・雲母/良好/にぶい褐色	波状線。横位隆線で両し、口唇部に刻み、口縁部には疎らな横位刻み目列を施す。内外面調整	中期中葉
6076R PL.49	93	縄文土器 深鉢	口縁部突起	63区F2	黒・輝石/良好/褐色	強い波状口縁波頂部。波頂部より隆線を垂下し両側面より孔を2か所貫孔する。内面にも凹孔を設けたり沈線・細沈線・三叉文を施す。口唇部、内面平滑な調整を施す	中期中葉
6076R PL.49	94	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区A2	黒・石英・輝石/良好/にぶい褐色	刻みを付す大型の双環状把手下端より弧状隆線が分岐懸垂する。口縁部は沈線による区画文構成か、分岐懸垂隆線間には弧状沈線2条を施す	中期中葉
6076R PL.49	95	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区E3	黒・石英・片岩/良好/褐色	口縁部は外傾し頸部屈曲する。頸部屈曲部に横位沈線を設け、以下隆線を貼付し、斜位沈線を施す	中期中葉
6076R PL.49	96	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区G9	黒・石英/良好/褐色	内湾する口縁部に縦位沈線を施し、沈線間に爪形連続刺突文や交互三叉文を埋める	中期中葉
6076R PL.49	97	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区A3-4	黒・石英・片岩/良好/にぶい赤褐色	内湾する筒状の器形か、太い沈線による縦位区画と渦巻文か、沈線間は刺し切り状に短沈線を埋める。交互刺突文も施す。内面調整	中期中葉末
6076R PL.49	98	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区E6	黒・輝石/良好/にぶい赤褐色	口縁部内湾し頸部で引込を有す。口唇部より太い隆線1条を垂下する。口縁部内面に縦位帯	中期中葉末
6076R PL.49	99	縄文土器 深鉢	口縁部破片	53区Y4	黒・輝石/良好/明赤褐色	口縁部に刺し切り状の刻みを施す垂下沈線と蛇行隆線による意匠文を配す。器面磨滅	中期中葉末
6076R PL.49	100	縄文土器 深鉢	口縁部破片	23住No98	黒・石英/やや軟明赤褐色	波状線か。口縁部内屈し太い横位沈線を設ける	中期中葉末
6076R PL.49	101	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区X5	黒・輝石/良好/褐色	無文の口縁部下端を横位沈線1条で覆す。以下斜位R Lを施す	中期中葉末
6076R PL.49	102	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区E2	黒・石英・雲母/良好/褐色	口縁部強く内湾する。頸部屈曲部に横位隆線を設け、口縁部は太い沈線による渦巻文や交互縦位沈線を施し、蛇行文を提出する	中期中葉末
6076R PL.49	103	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区F9	黒・石英・輝石/良好/明赤褐色	口縁部突起を付し2条隆線により弧状意匠を配す。弧状短沈線や三叉文を施す	中期中葉末
6076R PL.50	104	縄文土器 深鉢	口縁部破片	62区Y6	黒・輝石/良好/赤褐色	口唇部内面突出。幅広い無文口縁部を設け、頸部屈曲部に刻みを付す横位隆線を付す。無縁は沈線。器面磨滅	中期中葉末
6076R PL.50	105	縄文土器 深鉢	頸部破片	63区D9	黒・石英/良好/にぶい黄褐色	隆線は無文で強く外反する。体部上平に押圧を付す横位隆線を設け、下位に縦位沈線2条の上端を見る	中期中葉
6088R PL.50	106	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区E6	黒・輝石/良好/にぶい赤褐色	双波状突起頂部より刻みを施す垂下隆線2条を配す。無縁は沈線。口唇部は棒状付付文を施す	中期中葉末
6088R PL.50	107	縄文土器 深鉢	頸部～体部破片	63区D7	黒・石英・片岩/良好/にぶい赤褐色	頸部隆線及び口頸部区画隆線に刻みを付す。区画内は縦位沈線や沈線による方形状意匠を配す。体部外面には丁寧な研磨。内面は強い研磨を施す	中期中葉
6088R PL.50	108	縄文土器 深鉢	口頸部破片	63区H10	黒・石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	口縁部に押圧を加えた横位隆線を設け、内湾部に隆線が派生する渦巻状突起を配す。隆線には沈線と刺突文を重ねる。縦位沈線を充填するが上部に半円状刺突文を施す	中期中葉末
6088R PL.50	109	縄文土器 深鉢	頸部破片	63区A3	黒・石英・輝石/やや軟明褐色	腹口縁か。太い横位隆線に斜位短沈線を重ねる。隆線上下に孔を設けるが貫孔しておらず。器種などを改めて検討を要する	中期中葉?
6088R PL.50	110	縄文土器 深鉢	体部破片	63区I9	黒・石英・輝石/良好/明赤褐色	隆線による環状突起。中位が突出し、外縁に刺突文を施す	中期中葉
6088R PL.50	111	縄文土器 深鉢	体部破片	116上	黒・石英/良好/にぶい赤褐色	縦位平行沈線による縦位区画文か。区画内には横位沈線を充填する	中期中葉
6088R PL.50	112	縄文土器 深鉢	体部破片	72区E4	黒・石英・片岩/良好/褐色	頸部屈曲部に隆線による縦長帯区画2段を配す。区画内は沈線が重なり、区画境目は突出し刻みを施す。体部は縦位R L	中期中葉
6088R PL.50	113	縄文土器 深鉢	体部破片	63区D9	黒・石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	刻みを付す垂下隆線2条による懸垂文構成か。小渦巻状意匠も配される。縦位沈線も施れ、短沈線も付加される	中期中葉
6088R PL.50	114	縄文土器 深鉢	体部破片	63区F5	黒・石英・輝石/良好/にぶい褐色	隆線による環状意匠か、沈線を無縁とし短沈線3条を加える。区画内は斜位沈線を施す	中期中葉
6088R PL.50	115	縄文土器 深鉢	頸部～体部破片	63区F6	黒・輝石/良好/にぶい赤褐色	内湾する口頸部破片か、弧状隆線と垂下隆線が頸部隆線に接す。斜位短沈線や弧状短沈線を埋め、隆線には刻みを施す	中期中葉末
6088R PL.50	116	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区C5	黒・石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	口唇部欠損。口縁部器厚が不均質であるいは突起を付すか。体部は懸垂L縦位施文が覆う	中期中葉末



遺物観察表

挿片 PL.No.	No.	種 器 類 種	部 位 存 在	出土位置	胎土/焼成/色調 石・材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第689R PL.50	117	甕文土器 深鉢	口縁部破片	63R D9	胎:石英/良好/ぶ い黄色色	口唇部端部に面を持ち内面に突出する。口縁下に突起を付し、上 位に沈線を施す。甕文は斜位R L。口唇部及び内面に研磨	中期中葉末
第689R PL.50	118	甕文土器 深鉢	口縁部破片	63R F3	胎:石英・輝石/良好 /ぶい赤褐色	口唇部端部に面を持ち内面に突出する。以下斜位R Lを施す。口 唇部及び内面に研磨を加える	中期中葉末
第689R PL.50	119	甕文土器 深鉢	口縁部破片	63R G3	胎:石英/良好/褐色	口縁部内縁を付す。口縁部内湾し、縦位R Lを施す	中期中葉?
第689R PL.50	120	甕文土器 深鉢	体部破片	63R C8	胎:石英・雲母/良好 /褐色	体部上半か。幅広い連続形文を施す横位隆線を配し、頸部は無 文で外反する。体部は斜位R Lを施す	中期中葉
第689R PL.50	121	甕文土器 深鉢	体部破片	63R F3	胎:石英・輝石/良好 /ぶい赤褐色	体部上半の横位隆線に矢羽状刻みを加える。上位は縦位隆線を付 す。下位は懸糸R斜位施文が覆う	中期中葉
第689R PL.50	122	甕文土器 深鉢	体部破片	63R C4	胎:石英/良好/明赤 褐色	刻みを付す横位隆線以下縦位R Lを施す。内外器面とも剥落多い	中期中葉
第689R PL.50	123	甕文土器 深鉢	体部破片	63R D9	胎:石英・輝石/良好 /ぶい赤褐色	体部上半に刻みを付す横位隆線を設け、上位に縦位隆線が派 生する。下半は懸糸L縦位施文が覆う	中期中葉
第689R PL.50	124	甕文土器 深鉢	体部破片	挿し	胎:石英・輝石/良好 /褐色	体部上半か。押圧を加えた横位隆線上位は弧状沈線下端を見る。 下位はR L縦位施文が覆う	中期中葉末
第689R PL.50	125	甕文土器 深鉢	体部破片	63R D9	胎:石英・輝石/良好 /褐色	体部上半か。隆線による幅狭の横位区画内を縦位刻文が充填さ れる。体部は懸糸L縦位施文。マメ様の圧痕あり	中期中葉末
第689R PL.50	126	甕文土器 深鉢	体部破片	63R D4	胎:輝石/良好/暗褐 色	横位隆線による分帯。上位は隆線による楕円状区画か。縦位短沈 線を充てる。隆線上及び体部下半は懸糸Lを施す	中期中葉末 ~後葉初
第689R PL.50	127	甕文土器 深鉢	体部破片	63R F9	胎:石英・輝石/良好 /褐色	横位隆線より垂下隆線が派生する。縦位R Lが覆う	中期中葉末
第689R PL.50	128	甕文土器 深鉢	体部破片	63R G13	胎:石英/良好/ぶ い赤褐色	沈線を重ねる隆帯による渦巻文意匠。無線は沈線。縦位R Lを施 し、隆帯上にまで及ぶ。内面に埋付着	中期中葉末
第689R PL.50	129	甕文土器 深鉢	体部破片	63R C4	胎:輝石/良好/ぶ い赤褐色	縦位L Rを施す	中期中葉 未?
第689R PL.50	130	甕文土器 深鉢	体部破片	63R 25往	胎:輝石/良好/黄褐 色	横位低隆線以下斜位沈線が派生する。縦位L Rを施す	中期中葉 未?
第689R PL.50	131	甕文土器 深鉢	体部破片	63R A5	胎:輝石/良好/赤褐 色	内側平行沈線を横位に重ね、斜位沈線が派生する。地文は縦位R L	中期中葉
第699R PL.50	132	甕文土器 深鉢	体部破片	63R C5	胎:石英・輝石/良好 /ぶい赤褐色	横位L Rを施す	中期中葉?
第699R PL.50	133	甕文土器 深鉢	体部破片	63R F2	胎:石英・輝石/良好 /ぶい赤褐色	体部下半。緩やかな屈折を示し体部は外反する。懸糸L縦位施 文	中期中葉
第699R PL.50	134	甕文土器 深鉢	体部破片	63R D9	胎:石英・輝石/良好 /ぶい赤褐色	垂下隆線による懸文構成。縦位R Lを間隔施文する	中期中葉
第699R PL.50	135	甕文土器 深鉢	体部破片	63R E3	胎:石英・輝石/良好 /暗褐色	体部上半か。横位沈線3条で両され、頸部は無文。体部は縦位沈 線を密に施す	中期中葉末
第699R PL.50	136	甕文土器 深鉢	体部破片	63R G9	胎:石英・雲母/良好 /褐色	横位隆線を設け、下位に横位沈線4条を配す。内面丁寧な調整 調整	中期中葉末
第699R PL.50	137	甕文土器 深鉢	体部破片	63R E2	胎:石英・輝石/良好 /ぶい赤褐色	小径で筒形の器形か。弧状隆線を配し、沈線を側線とする。器面 剥落多い	中期中葉末
第699R PL.50	138	甕文土器 深鉢	口縁部破片	63R D9	胎:石英・輝石/良好 /赤褐色	口縁部は強く内湾し、緩やかな波状線を呈す。無文で内面は横位 隆線を加える	中期中葉
第699R PL.50	139	甕文土器 深鉢	口縁部破片	63R B5	胎:輝石/良好/ぶ い黄褐色	口縁部外傾し頸部で屈曲する。頸部に横位沈線を設ける。口縁部 は無文で調整は弱い。内面は横位削り調整が顕著	中期か
第699R PL.50	140	甕文土器 深鉢	口縁部破片	表探	胎:石英・雲母/良好 /黒色	内縁は鋭い。無文で外面は弱い強で、内面は丁寧な調整を施 す。補修孔を穿つ	中期中葉?
第699R PL.50	141	甕文土器 深鉢	体部破片	63R D6	胎:輝石/良好/ぶ い赤褐色	大型の深鉢体部下半か。外面縦位、内面横位撫で調整を施す。内 面埋付着	中期中葉?
第699R PL.50	142	甕文土器 深鉢	体部破片	63R F2	胎:石英/良好/褐色	体部下半。無文で縦位研磨を施す。内面撫で、煤が付着する	中期中葉
第699R PL.50	143	甕文土器 深鉢	体部1/2部 3/4	63R D7	胎:石英・輝石/良好 /ぶい赤褐色	底(7.2)。底部残存は不良。内湾気味に立ち上がる体部下半。懸 糸Lを縦位施文する。内面に埋付着	中期中葉
第699R PL.51	144	甕文土器 深鉢	体部1/2~底部	63R F6	胎:石英・輝石/良好 /ぶい赤褐色	底7.6。体部下半に横位沈線4条を設ける。また垂下沈線4条も 施される。地文は斜位R L。内面縦位研磨を施す	中期中葉
第699R PL.51	145	甕文土器 深鉢	底部破片	63R E5	胎:石英/良好/褐色	底(11.0)。直立気味に開く体部下半。無文。底面削代痕は判然 としない	中期中葉か
第699R PL.51	146	甕文土器 深鉢	底部1/2	63R H16	胎:石英/冷や軟/ ぶい褐色	底(8.4)。器面磨滅。強く開く体部下半。無文	中期中葉か
第699R PL.51	147	甕文土器 深鉢	底部破片	63R D7	胎:石英/良好/赤褐 色	強く開く。無文で外面は弱い研磨を施す。内面は撫で調整	中期
第699R PL.51	148	甕文土器 深鉢	底部破片	63R M10	胎:石英・雲母/良好 /暗褐色	大型深鉢。底面のみのみ残存。外底部器壁剥落著しい	中期中葉か
第699R PL.51	149	甕文土器 付足深鉢	脚部破片	63R F3	胎:石英/良好/明赤 褐色	底(14.0)。長身で外反気味に立ち上がるか。無文で孔は見られず、 内外面とも撫で調整を施す	中期
第699R PL.51	150	甕文土器 深鉢	口縁部破片	63R G3	胎:輝石/良好/ぶ い褐色	口縁部肥厚し体部上半は内湾する。外面及び内面口縁部研磨を施 し、赤彩を加える。体部は弧状意匠と縦位削りを見る	中期中葉 未?
第699R PL.51	151	甕文土器 深鉢	口縁部破片	63R D7	胎:石英片/岩/良好 /ぶい赤褐色	口縁部内湾。内外面とも平滑な撫で調整。赤彩痕を見る	中期中葉?
第699R PL.51	152	甕文土器 浅鉢	口縁部破片	63R B3	胎:輝石/良好/褐色	口縁部~体部内湾する。内外面とも研磨を施し、赤彩を加える。 外面に顕著	中期中葉

挿入 No.	No.	種別	部位	出上位	胎土/成成/色調 材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備考
第7009 PL-51	153	縄文土器 深鉢	口縁部・体部 L/4	63E/D7	胎:石英・片岩/良好 にぶい赤褐色	口:(44.4)。波状突起を付し、頸部で強く屈曲する。波頂下に隆線による環状・半湾状意匠を配す。単位は不明。隆線には沈線が重なる。内外面丁寧な研磨、赤彩を施す	中期中葉
第7009 PL-54	154	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63E/D8	胎:石英・白色/良好 にぶい褐色	双環状突起を斜位に設け、隆線が重なり帯状として沈線を施す。やや真直な感を受ける	中期中葉末
第7009 PL-51	159	縄文土器 深鉢	口縁部突起部	63E/B2	胎:石英・雲母/良好 にぶい赤褐色	波状口縁波頂部突起。内外面に環状意匠を配し、中位に孔を穿つ。外面突起下端はコイル状突起に	中期中葉末
第7009 PL-51	156	縄文土器 深鉢	口縁部突起部	63E/E12	胎:石英・輝石/良好 にぶい赤褐色	波頂部突起。隆線が弧状・懸垂する	中期中葉末
第7009 PL-51	157	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63E/B3	胎:石英・雲母/良好 黒褐色	内縁は強く突出。斜位双環状突起に端にコイル状突起を付す。弧状隆線が派生し、側縁の沈線や充文は1本描き沈線	中期中葉末
第7009 PL-51	158	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63E/E2	胎:石英・雲母/良好 黒褐色	内縁突出。口唇部の一部に刻み、欠損する突起より弧状隆線が派生し1本描き沈線が沿う。三叉文も施される	中期中葉末
第7009 PL-51	159	縄文土器 深鉢	口縁部破片	榎木	胎:石英・輝石/良好 にぶい赤褐色	環状突起と隆線による口縁部コイル状突起。弧状隆線が派生し、沈線が沿う。三叉文や内文も施される	中期中葉
第7009 PL-51	160	縄文土器 深鉢	体部破片	表探	胎:石英・雲母/良好 にぶい赤褐色	片環状突起を中核に横位隆線が幅状の文様帯を画す。突起下端より垂下隆線が派生する。1本描き沈線を側縁とし、三叉文を施す	中期中葉
第7009 PL-51	161	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63E/E3	胎:石英・雲母/良好 にぶい黄褐色	口唇部欠損。環状突起下にコイル状突起を接続する。縦位隆線が垂下する。1本描き沈線を側縁、充文とする	中期中葉
第7009 PL-51	162	縄文土器 深鉢	体部破片	63E/D8	胎:石英・輝石/良好 にぶい赤褐色	コイル状突起側面に環状突起を配す。下端より隆線による分枝懸垂文が派生する。側縁は1本描き沈線	中期中葉
第7009 PL-51	163	縄文土器 深鉢	体部破片	63E/D4	胎:石英・雲母/良好 にぶい赤褐色	双環状突起とコイル状突起を中核に弧状隆線が派生する。1本描き沈線を側縁とし、弧状隆線を充満する	中期中葉
第7009 PL-51	164	縄文土器 深鉢	体部破片	63E/D7	胎:石英・雲母/良好 にぶい赤褐色	片環状突起とコイル状突起より横位隆線2条が派生し、幅状の文様帯を画す。弧状隆線と垂下隆線も派生する。側縁は1本描きの沈線。内面平滑な隆で調整	中期中葉
第7009 PL-51	165	縄文土器 深鉢	体部破片	63E/C8	胎:石英・雲母/良好 赤褐色	横位隆線上位に隆線による弧状意匠を対に配す。三叉文や内面沈線を重ねる	中期中葉
第7009 PL-51	166	縄文土器 深鉢	体部破片	63E/D2	胎:石英・雲母/良好 褐色	中空状突起部から。横位隆線下位より斜位隆線が分枝する。側縁は平行沈線を重ねる	中期中葉
第7009 PL-51	167	縄文土器 深鉢	体部破片	63E/E6	胎:石英・雲母/良好 褐色	横位平行沈線部に刺突文を加える。以下コイル状突起より弧状隆線が派生する。側縁は平行沈線	中期中葉末
第7009 PL-51	168	縄文土器 深鉢	体部破片	63E/D9	胎:石英・雲母/良好 にぶい赤褐色	垂下隆線1条による懸垂文構成。側縁の内皮沈線を重ね、三叉文に刺突文を加える	中期中葉末
第7009 PL-51	169	縄文土器 深鉢	口頸部破片	63E/D4	胎:石英・雲母/良好 にぶい赤褐色	頸部隆線で画され、口縁部は弧状隆線による区画文構成か。縦位短沈線が充満する。沈線は内皮施文	中期中葉
第7009 PL-51	170	縄文土器 深鉢	体部破片	63E/D9	胎:石英・雲母/良好 灰褐色	外反する体部上半か。沈線施文で、三叉文を中位に配し、下端に刺突文を施す	中期中葉末
第7009 PL-51	171	縄文土器 深鉢	体部破片	63E/D4	胎:石英・輝石/良好 にぶい赤褐色	側縁の小さな突起を中核に弧状隆線が派生する。側縁は内皮平行沈線を重ねる。下位弧状意匠内には刺突文を充満する	中期中葉末
第7009 PL-51	172	縄文土器 深鉢	体部破片	63E/G8	胎:石英・雲母/良好 にぶい褐色	垂下隆線による懸垂文構成か。横位平行沈線や縦位平行沈線を施し、三叉文を埋める。施文に無で加える。内面研磨	中期中葉末
第7009 PL-51	173	縄文土器 深鉢	体部破片	63E/D10	胎:石英・雲母/良好 にぶい褐色	隆線による弧状意匠単位3条の隆線を付す。側縁は平行沈線と中位に内文も配す	中期中葉末
第7009 PL-51	174	縄文土器 深鉢	体部破片	63E/C4	胎:石英・雲母/良好 にぶい赤褐色	横位弧状隆線の側縁による内皮平行沈線を重複施文される。斜位沈線も加わる	中期中葉末
第7009 PL-51	175	縄文土器 深鉢	体部破片	63E/D3	胎:石英・雲母/良好 黒褐色	やや太い横位隆線を配す。平行沈線を側縁とし隆線上位は斜位に変化する	中期中葉末
第7009 PL-51	176	縄文土器 深鉢	体部破片	63E/G3	胎:石英・雲母/良好 にぶい褐色	体部下平か。垂下隆線と内皮平行沈線を縦位に重ねる懸垂文構成か	中期中葉
第7009 PL-51	177	縄文土器 深鉢	体部破片	63E/C8	胎:石英・雲母/良好 黒褐色	弧状隆線を配し、側縁に内皮平行沈線を重複施文する。器面減、内面弱い研磨を施す	中期中葉末
第7009 PL-51	178	縄文土器 深鉢	体部破片	63E/G2	胎:輝石/良好/にぶい 黄褐色	内面研磨。内皮平行沈線による弧状意匠。沈線には刺突文が重なる。三叉文も配される	中期中葉
第7009 PL-51	179	縄文土器 深鉢	体部破片	63E/B2	胎:石英・輝石/良好 にぶい赤褐色	垂下沈線2条による懸垂文構成か。斜位短沈線を対向位に施す	中期中葉末
第71期 PL-181	180	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63E/D1	胎:石英・輝石/良好 暗赤褐色	口唇部突起部。幅状の口縁部外縁に横位隆線が画される。中空状の橋状把手が付され、隆線による弧線文が配される。内縁の突起突出く、器厚厚手	中期中葉末
第71期 PL-181	181	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63E/C3	胎:石英・雲母/良好 褐色	断面状口縁、口唇部内面に面を持ち横位沈線帯を施す。同様外縁にも横位沈線帯が配される。沈線は内皮施文	中期後葉初
第71期 PL-182	182	縄文土器 深鉢	口縁部破片	62E/Q21	胎:石英・輝石/良好 にぶい赤褐色	口縁部内湾。口唇部に2条隆線と小突起を付す。口縁部は隆線による渦巻状意匠か。地文に懸糸Lを施す。内面強い研磨	中期後葉
第71期 PL-183	183	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63E/A3	胎:石英・輝石・片岩 /良好/褐色	口縁部に小突起突起を付し2条隆線を付す。地文は懸糸Lを配す。S字文か。頸部も2条隆線で画す。地文は懸糸L縦位施文。内面滑りで調整	中期後葉
第71期 PL-184	184	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63E/A3	胎:輝石/良好/にぶい 黄褐色	口縁部隆線以下2条隆線による弧状・渦巻状意匠を配す。地文は懸糸L。内面研磨	中期後葉
第71期 PL-185	185	縄文土器 深鉢	体部破片	63E/D9	胎:石英・雲母/良好 赤褐色	内湾する体部上半。2・3条の沈線による半渦巻状意匠やU字状意匠を配す。地文は懸糸R縦位施文。内面覆付着	中期後葉初
第71期 PL-186	186	縄文土器 深鉢	体部破片	63E/D9	胎:石英・雲母/良好 赤褐色	隆線端部に瘤状小突起を付した横位S字状意匠か。側縁は平行沈線。地文は縦位R Lを施す。内面研磨	中期中葉末 →後葉初
第71期 PL-187	187	縄文土器 深鉢	体部破片	63E/D7	胎:輝石/良好/赤褐色	縦位隆線に弧状隆線が接した区画文か。側縁は沈線。縄文はR Lで隆線に上施す	中期中葉末 →後葉初

遺物観察表

挿入 No.	No.	種 類	部 位	出上位置	胎土/成成/色調 /材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第71回 PL.52	188	縄文土器 深鉢	体部破片	32住	胎:石英/良好/にぶ い赤褐色	内皮平行沈線3条による体部クラク文構成。横位沈線も配される。地文は黒系R縦位施文	中期後葉初
第71回 PL.52	189	縄文土器 深鉢	体部破片	63区G9	胎:石英・輝石/良好/ 褐色	体部上半か。内皮施文の横位沈線群を配し、以下黒系L縦位施文が覆う	中期後葉初
第71回 PL.52	190	縄文土器 深鉢	体部破片	63区G9	胎:石英・輝石/良好/ 褐色	体部上半か。内皮施文の横位沈線群を配し、以下黒系L縦位施文が覆う	中期後葉初
第71回 PL.52	191	縄文土器 深鉢	体部破片	63区G9	胎:石英・輝石/良好/ 褐色	体部上半か。内皮施文の横位沈線群を配し、以下黒系L縦位施文が覆う	中期後葉初
第71回 PL.52	192	縄文土器 深鉢	体部破片	63区G9	胎:石英・輝石/良好/ 褐色	体部上半か。内皮施文による横位沈線群を配し、上下とも縦位施文Lを施す	中期後葉初
第71回 PL.52	193	縄文土器 深鉢	体部破片	63区D9	胎:石英・輝石/良好/ 明褐色	横位平行沈線3条による多段分割と縦位施文による区画文構成。地文は黒系L縦位施文	中期中葉末
第71回 PL.52	194	縄文土器 深鉢	体部破片	63区D7	胎:輝石/良好/にぶ い褐色	3条の弧状沈線を配す。地文は黒系L縦位施文。破片端部に沈線を見るが詳細不明	中期後葉初
第71回 PL.52	195	縄文土器 深鉢	体部破片	63区A6	胎:輝石/良好/明赤 褐色	隆線による弧状沈線を配す。側線は沈線。斜状意匠も見られる。地文は縦位L R	中期後葉初
第71回 PL.52	196	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区E2	胎:石英・片岩粒/良 好/褐色	口縁部内面強く突出。体部上半は内湾し2条隆線を斜位に配す。内外面丁寧な研磨。赤彩は僅かに外面に見る	中期中葉末
第71回 PL.52	197	縄文土器 深鉢	口頸部破片	63区D7	胎:石英・輝石/良 好/にぶい赤褐色	円孔を設け、周縁に浅い沈線を施す。外縁丁寧な研磨。内面は撫で調整を施す	中期後葉
第71回 PL.52	198	縄文土器 深鉢	口縁部把手破片	63区H10	胎:石英・輝石/良 好/黒褐色	波頂部に付せられた楕状把手か。頂部に隆線による渦巻状意匠を配し、垂下隆線が派生する	中期後葉 初 異系統か
第71回 PL.52	199	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区H12	胎:石英・雲母/良 好/にぶい赤褐色	口縁部内湾。内縁は突出する。内皮平行沈線を斜位に密接施文する	中期後葉 異系統か
第71回 PL.52	200	縄文土器 深鉢	体部破片	63区Y5	胎:輝石/良好/明 褐色	5・6条単位の縦位密接条線が覆う。器面磨滅	中期後葉?
第71回 PL.52	201	縄文土器 器台	底部破片	63区B9	胎:石英・雲母/良 好/褐色	底(16.0)。大型品。孔は見られない。外面縦位無で、内面横位撫で調整を施す	中期
第71回 PL.52	202	土偶?	胴部破片?	23住埋土	胎:石英・輝石・雲 母/良好/褐色	あるいは深鉢突起か。中央。弧状隆線を相向いかに配す。2単位。下端縁辺の一部に隆線の貼付痕を見る。撫で調整	中期か
第72回 PL.203	203	縄文土器 深鉢	口縁部～体部 破片	63区B4	胎:石英・輝石/良 好/褐色	内折する口縁部外面に双環状貼付文と円形貼付文を付す。内面は円形貼付文を付す。体部は沈線で画された区画意匠文を配す。区画内はL R充填施文。内面は強い横位研磨を施す	後期初頭
第72回 PL.52	204	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区B4	胎:輝石/良好/にぶ い黄褐色	口縁部に小孔を設けた小突起を付す。体部は沈線で画された区画意匠文を配しL Rを充填する。口縁部及び内面に研磨を施す	後期初頭
第72回 PL.52	205	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区B3	胎:輝石/良好/黒 褐色	無文口縁部下に太い横位沈線を施す。区画意匠か。無照Lを施す	後期初頭
第72回 PL.52	206	縄文土器 深鉢	口縁部破片	29住	胎:輝石/良好/黒 褐色	口頸部内折し無文。沈線で画された施文部弧状・環状意匠を配す。L Rを充填する	後期初頭
第72回 PL.52	207	縄文土器 深鉢	体部破片	63区C5	胎:輝石/良好/にぶ い褐色	2条の沈線で画された磨消部弧状施文。施文部横位はL R充填施文。薄手で磨消部及び内面に研磨を施す	後期初頭
第72回 PL.52	208	縄文土器 深鉢	体部破片	62区	胎:輝石/良好/橙 色	沈線で画された施文部と磨消部による渦巻文を配す。施文部横位はL R充填施文	後期初頭
第72回 PL.52	209	縄文土器 深鉢	体部破片	17住	胎:石英・輝石/良 好/褐色	沈線で画された施文部と磨消部による弧状意匠。施文部横位はL R充填施文	後期初頭
第72回 PL.52	210	縄文土器 深鉢	体部破片	63区B7	胎:石英/良好/灰 褐色	沈線で画された施文部意匠文。L Rを充填施文する。器面磨滅	後期初頭
第72回 PL.52	211	縄文土器 深鉢	体部破片	63区Y5	胎:輝石/良好/明 褐色	外反する体部上半。横位弧状隆線を配し、円形刺突文を重ねる。無照L縦位施文。器面磨滅	後期初頭
第72回 PL.52	212	縄文土器 深鉢	体部破片	63区A6	胎:輝石/良好/にぶ い赤褐色	体部中央の内湾部か。沈線で画された磨消部と施文部によるJ字状意匠か。施文部横位はL R充填施文	後期初頭
第72回 PL.52	213	縄文土器 深鉢	体部破片	63区C4	胎:輝石/良好/にぶ い赤褐色	沈線で画された施文部と磨消部による逆U字状意匠か。施文部横位は縦位L R充填施文	後期初頭
第72回 PL.52	214	縄文土器 深鉢	体部破片	63区A3	胎:石英・輝石/良 好/にぶい赤褐色	沈線で画された磨消部と施文部の交互構成。縦位区画状となり未端が半渦巻状となる。施文部横位はL R充填施文。内面保付着	後期初頭
第72回 PL.52	215	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区A3	胎:石英・輝石/良 好/褐色	口頸部内面突出。おそらく環状把手を付す。無文	後期初頭
第72回 PL.52	216	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区F2	胎:輝石/良好/暗 褐色	波状線。波頂部より隆線が垂下する。側線は浅い沈線であるいは分岐意匠が配されるか。内外面研磨	後期初頭
第72回 PL.52	217	縄文土器 深鉢	体部破片	63区B4	胎:輝石/良好/褐 褐色	垂下隆線1条による懸垂文構成。他は無文。内外面とも撫で調整	後期初頭
第72回 PL.52	218	縄文土器 深鉢	口縁部破片	表探	胎:輝石/良好/橙 色	無文の口縁部下に横位隆線1条を設ける。体部も無文か。内外面とも撫で調整	後期初頭
第72回 PL.52	219	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区B4	胎:石英・輝石/良 好/明褐色	口縁部は無文で横位隆線を設ける。体部も無文か	後期初頭
第72回 PL.52	220	縄文土器 深鉢	体部破片	63区C3	胎:石英少/良好/ 黒褐色	体部上半に押圧を加えた横位隆線を設ける。他は無文。内外面研磨。内面器壁剥落多い	後期初頭
第72回 PL.52	221	縄文土器 深鉢	体部破片	23住 No150	胎:輝石/良好/明 褐色	垂下隆線による懸垂文構成。側線は撫で。内面横位削り調整後削り撫で	後期初頭
第72回 PL.52	222	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区B4	胎:輝石/良好/にぶ い赤褐色	幅広の無文口縁部を設け、横位隆線を付す。内外面丁寧な研磨を施す	後期初頭
第72回 PL.52	223	縄文土器 深鉢	体部破片	63区B4	胎:輝石/良好/にぶ い赤褐色・黒褐色	体部上半は緩やかに外反し、下半は内湾する。内外面とも研磨を施す	後期初頭

種別 PL.No.	No.	種類	部位 残存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備考
第729 PL.52	224	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区A6	黒・輝石/良好/褐色	横位環状把手。内外面とも円文・沈線文を施す。口縁部下には横位沈線が沿う	後期前葉
第729 PL.52	225	縄文土器 深鉢	口縁部突起片	63区A4	黒・輝石/良好/にぶい黄褐色	中位に小孔を貫孔する環状突起。孔より発生する沈線が横位に配され、突起四隅に円形凹付文を付す	後期前葉
第729 PL.52	226	縄文土器 深鉢	口縁部突起片	63区B4	黒・輝石/少/良好/にぶい黄褐色	波状突起中位に隆線による楕円状凹付文を配す。中位は貫孔。突起頂部は刺突文を施す。薄手の作り	後期前葉
第729 PL.52	227	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区E4	黒・石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	横位環状の小突起を付す。側面は貫孔し下部は内外面に小孔を持つ。口縁部は横位沈線2条を施す。口唇部・内面研磨	後期前葉
第729 PL.52	228	縄文土器 深鉢	口縁部突起片	63区A5	黒・輝石/良好/にぶい黄褐色	波状の小突起。両側面及び内面に円孔を設ける。左側面に弧状凹付文を施すが意図的凹文とは見られない	後期前葉
第729 PL.52	229	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区B2	黒・石英/良好/灰黄褐色	波状突起中央に孔を穿つ。口縁部に沈線を施し、内外面とも丁寧な研磨を加える	後期前葉
第729 PL.52	230	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区B4	黒・石英/良好/にぶい黄褐色	口縁部に環状小突起を付し、横位沈線を設ける。以下沈線で画された磨消部渦巻状意匠が配される。施文部はLRを充填する。磨消部及び内面は研磨を加える	後期前葉
第729 PL.53	231	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区B2	黒・輝石/良好/灰黄褐色	口縁部内面に横位沈線。頸部屈曲部に8字状貼付文を付し、沈線による楕円状意匠を配す。内外面研磨。器厚極めて薄手	後期前葉
第729 PL.53	232	縄文土器 深鉢	口縁部破片 体部破片2点	63区A6	黒・輝石/やや軟/明黄褐色	3点からなる。口縁部と屈曲し横位沈線を上下に設け8字状貼付文を配す。体部は沈線による弧状・渦巻状意匠が、器面磨滅	後期前葉
第730 PL.53	233 ~ 235	縄文土器 深鉢	頸部破片	63区D2	黒・輝石/良好/黒褐色	頸部屈曲部に円形貼付文を縦位に連ねる。弧状沈線。縦位短沈線も施す。屈曲部下位は丁寧な研磨。内面は撫で調整	後期前葉
第730 PL.53	236	縄文土器 深鉢	口縁部破片	不明	黒・石英・輝石/良好/褐色	口縁部屈曲し無文。頸部に横位沈線2条を設ける。内外面器面磨滅	後期前葉
第730 PL.53	237	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区A5	黒・輝石/良好/黒褐色	口縁部に円形貼付文を付し隆線が弧状・横位に派生する。頸部に垂下隆線を配す	後期前葉
第730 PL.53	238	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区A4	黒・輝石/良好/明褐色	1本描きの沈線による丁字・鋸先状意匠の土描か。充填文は施さない。内面強い研磨	後期前葉
第730 PL.53	239	縄文土器 深鉢	口縁部破片	63区A5	黒・石英/やや軟/にぶい黄褐色	内腹する口縁部に円文と横位沈線を配す。以下斜位隆線が派生する。頸部は無文か。器厚薄手	後期前葉
第730 PL.53	240	縄文土器 深鉢	頸部破片	63区F9	黒・石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	頸部屈曲部に付せられた小型楕円状把手下端。内腹及び下端に円文を配し飾りめを付す隆線が垂下する。弧状沈線を施す	後期前葉
第730 PL.53	241	縄文土器 深鉢	頸部破片	115上	黒・輝石/良好/にぶい褐色	頸部屈曲部に8字状貼付文と横位隆線を配す。内外面丁寧な研磨を施す	後期前葉
第730 PL.53	242	縄文土器 深鉢	体部破片	63区H3	黒・輝石/良好/にぶい褐色	沈線による大柄な弧状意匠を配す。内外面とも弱い研磨	後期前葉
第730 PL.53	243	縄文土器 深鉢	体部破片	63区B7	黒・石英・輝石/やや軟/灰黄褐色	沈線で画された飾部弧状意匠。無飾しLRを充填施文する。器面磨滅	後期前葉
第730 PL.53	244	縄文土器 深鉢	体部破片	63区A3	黒・石英/良好/にぶい褐色	2条の平行沈線に画された横位環状文構成。沈線部を設ける。隣文は横位LR充填施文	後期前葉
第730 PL.53	245	縄文土器 深鉢	体部破片	29住No48	黒・輝石/良好/灰黄褐色	体部小窪か。浅い弧状沈線を施す	後期前葉
第730 PL.53	246	縄文土器 深鉢	体部破片	63区I19	黒・輝石/良好/にぶい黄褐色	斜位沈線1条と浅い沈線部による斜格子文か。器面磨滅	後期前葉
第730 PL.53	247	縄文土器 深鉢	体部破片	63区B4	黒・石英/良好/にぶい黄褐色	1条の浅い沈線を横位に配し、下端に強い刺突文を連続する	後期前葉
第730 PL.53	248	縄文土器 深鉢	体部破片	63区G9	黒・石英・雲母/少/良好/明赤褐色	体部上半。横位隆線に円形貼付文を加え、下端より垂下隆線が懸垂する。器面磨滅	後期前葉
第730 PL.53	249	縄文土器 注口土器	注口部破片	63区A5	黒・石英・輝石/やや軟/にぶい黄褐色	器面磨滅。注口部先端欠損する。基部より横位隆線が派生する。上位には弧状沈線を施す	後期前葉
第730 PL.53	250	縄文土器 深鉢	体部破片	63区A3	黒・石英/良好/にぶい黄褐色	屈曲部に横位沈線3条を設ける。内外面研磨を施す	後期中葉
第730 PL.53	251	縄文土器 深鉢	底部破片	63区A7	黒・石英/良好/明褐色	底:(5.6)。被熱痕跡を見る。外反気味に強く開く体部下平。器厚は薄手	後期?
第730 PL.53	252	縄文土器 深鉢	底部破片	63区C4	黒・輝石/良好/にぶい赤褐色	底:(9.0)。外反気味に開く体部下平。底面に刺状痕	後期か
第730 PL.53	253	縄文土器 深鉢	底部破片	63区H10	黒・輝石/良好/にぶい黄褐色	底:(10.0)。端部突出。外面、底面とも平滑な態で。内面煤付着	後期か
第730 PL.53	254	縄文土器 深鉢	底部破片	29住No99	黒・石英・輝石/良好/にぶい褐色	底:(7.0)。強く開く体部下平。内外面とも撫で調整。器厚薄手	後期か
第730 PL.53	255	赤生土器 浅鉢	口縁部~体部 下半1/4	63区A6-7	黒・石英/片岩/良好/暗褐色	口:(29.0)。口縁部沈線1条を設け以下横位沈線2条により多段に分りされ、横位波状文を配す。被熱により器面磨滅	赤生前期
第730 PL.53	256	赤生土器 浅鉢	口縁部破片	63区A3	黒・石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	横位沈線による変形工字文。交点は平肉彫状の抉りを加える。内面研磨。外面器面磨滅	赤生前期
第730 PL.53	257	赤生土器 浅鉢	口縁部破片	62区Y3	黒・石英/良好/にぶい赤褐色	横位沈線による変形工字文。薄手の器厚を呈し、内外面とも器面磨滅する	赤生前期?
第730 PL.53	258	赤生土器 浅鉢	口縁部破片	63区B2	黒・石英/やや軟/明黄褐色	口縁部は強く開く。口唇部に浅い沈線を設け以下横位LRを施す。内面研磨	赤生前期
第730 PL.53	259	赤生土器 浅鉢	口縁部破片	63区X5	黒・石英/やや軟/にぶい黄褐色	小窪で口頸部外反する。斜位沈線2条を配し横位沈線部を埋める	赤生前期~中期?
第730 PL.53	260	赤生土器 深鉢?	口縁部破片	63区B5	黒・石英/良好/褐色	口縁部は緩やかに外反しやや太く横位沈線を配す。内面は弱い研磨を加える	赤生前期

遺物観察表

種 別 PL.No.	No.	種 類	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等 (単位はcm, g)	備 考
第748 PL.53	261	弥生土器 深鉢	口縁部破片	32住№5	胎:石英・輝石/良好 にぶい黄褐色	口縁部に横位沈線2条を配し、以下沈線による弧線状意匠を配す。地文は細縄文LRを施す	弥生中期?
第748 PL.53	262	弥生土器 鉢	体部破片	29住№45	胎:輝石/良好/にぶい黄褐色	内湾する体部中央。横位沈線2条で施文部を画し、斜位沈線で磨治部区画文を配す。内外面研磨	弥生中期?
第748 PL.53	263	弥生土器 深鉢	体部破片	72IKD4	胎:石英・輝石/良好/灰褐色	体部上半か。横位沈線3条を設け、以下は無文	弥生前期?
第748 PL.53	264	弥生土器 甕?	体部破片	72IKR7	胎:輝石/良好/黒褐色	体部上半か。斜位・横位沈線を施す。地文は斜位細密条線か	弥生前期?
第748 PL.53	265	弥生土器 深鉢?	体部破片	72IKR7	胎:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	体部上半か。2条の横位沈線以下斜位沈線を施す	弥生前期?
第748 PL.53	266	弥生土器 鉢	体部破片	62IKP22	胎:石英/やや軟/明黄褐色	屈曲部上位を横位沈線で画し、沈線による変形I字文を配す。斜位密接条線も施される	弥生前期?
第748 PL.53	267	弥生土器 深鉢?	体部破片	29住№50	胎:石英/良好/明赤褐色	体部中央か。横位沈線群を配す。施文は深い	弥生中期?
第748 PL.53	268	弥生土器 深鉢?	体部破片	63IKA3	胎:石英/良好/褐色	横位平行沈線が覆う	弥生中期?
第748 PL.53	269	弥生土器 甕?	体部破片	72IK01	胎:石英・輝石/良好/褐色	斜位ハケ目が覆う。内面丁寧な撫で調整	弥生前期?
第748 PL.53	270	弥生土器 甕?	体部破片	63IKX-7	胎:石英/良好/にぶい黄褐色	内湾する肩部破片か。細密条線が斜位に施される	弥生中期?
第748 PL.53	271	弥生土器 深鉢?	体部破片	63IKA3	胎:石英/良好/黒褐色	肩部破片か。横位沈線以下6・7条単位のハケ目を縦位・斜位に施す。内面強い撫で調整	弥生中期?
第748 PL.53	272	弥生土器 深鉢	体部破片	63IKA3	胎:石英/良好/にぶい黄褐色・褐色	断面歪み有り。外面は縦位・斜位ハケ目、内面は撫で調整	弥生中期?
第748 PL.53	273	弥生土器 甕	体部破片	72IKN1	胎:輝石/やや軟/明黄褐色	横位沈線数条を配し、以下縦位条線を施す。器面磨減	弥生前期?
第748 PL.53	274	弥生土器 甕?	体部破片	62IKP22	胎:石英/良好/にぶい赤褐色	斜位細密条線を施す。内面丁寧な研磨	弥生中期?
第748 PL.53	275	弥生土器 甕?	体部破片	63IKR3	胎:輝石/良好/褐色	縄文条痕を施す?。LR斜位施文	弥生前期?
第748 PL.53	276	弥生土器 深鉢?	体部破片	63IKA3	胎:石英/良好/にぶい褐色	体部上位の屈曲部か。細縄文LRを施す。内面撫で調整	弥生中期?
第748 PL.53	277	弥生土器 深鉢?	体部破片	63IKY3	胎:石英/良好/にぶい黄褐色	体部下半か。縦位・斜位RLを施す。内面丁寧な撫で、煤が微量付着する	弥生中期?
第748 PL.53	278	弥生土器 深鉢	底部破片	62IKY3	胎:輝石/良好/黄灰色	強く開く。横位条線を施す	弥生前期?
第748 PL.53	279	弥生土器 深鉢	底部破片	63IKF5	胎:石英・輝石/良好/灰黄褐色	外反気味に開く。底部器厚が薄手で、外端面は無調整。外面は無文で縦位削り調整後施す。内面も撫で	弥生前期?
第748 PL.53	280	弥生土器 深鉢	底部破片	113上	胎:石英・褐色粒/良好/浅黄褐色	端部僅かに突出する。太い斜位条線を施す	弥生前期?
第748 PL.53	281	弥生土器 深鉢	底部	62IKX5	胎:石英・輝石/良好/褐色	底:9.8。大型の深鉢か。底面は無調整のため凹凸が顕著。内面は丁寧な撫で調整。内面見込み部に煤付着	弥生前期?
第750 PL.54	282	石鏡	右脚欠	25住	黒曜石	長:1.7, 幅:(1.2), 厚:0.5, 重:0.7。先端部も僅かに欠損。凹基無条線。完成状態。やや厚手だが丁寧な押圧剥離を施す	
第750 PL.54	283	石鏡	完形	63IKA4	黒曜石	長:1.7, 幅:1.2, 厚:0.4, 重:0.6。凹基無条線。完成状態。表面中央に僅かに剥離面を残す。周縁より丁寧な押圧剥離を施す	
第750 PL.54	284	石鏡	完形	63IKA5	黒曜石	長:1.6, 幅:(1.4), 厚:0.4, 重:0.7。左脚端部を僅かに欠損。凹基無条線。完成状態。丁寧な押圧剥離で覆われる	
第750 PL.54	285	石鏡	完形	63IKA5	黒曜石	長:1.3, 幅:1.0, 厚:0.3, 重:0.3。凹基無条線。完成状態。薄手の素材因縁より押圧剥離を施す。表面中央に剥離面を残す	
第750 PL.54	286	石鏡未製品	下端部欠	63IKF11	黒曜石	長:1.7, 幅:(1.6), 厚:0.4, 重:0.6。右脚部端部は表面からの加撃で欠損する。最終調整段階での欠損未製品と考えた	
第750 PL.54	287	石鏡	先端欠	63IKB14	珪質変質岩(流紋岩質凝灰岩)	長:(2.0), 幅:1.6, 厚:0.5, 重:1.1。凹基無条線。完成状態。丁寧な押圧剥離が覆う。先端部は左側縁からの加撃で欠損	
第750 PL.54	288	石鏡	完形	63IKH14	チャート	長:2.1, 幅:1.5, 厚:0.4, 重:0.9。やや長身の凹基無条線。完成状態。丁寧な押圧剥離が覆う	
第750 PL.54	289	石鏡	下半欠	63IKE9	黒曜石	長:(1.4), 幅:(0.9), 厚:0.2, 重:0.3。完成状態。丁寧な押圧剥離が覆う。下半の欠損は表面からの加撃によるもの	
第750 PL.54	290	石鏡	ほぼ完形	48住	黒色頁岩?	長:2.3, 幅:1.8, 厚:0.5, 重:1.5。やや長身の凹基無条線。完成状態。先端部と左脚端部を僅かに欠損する。押圧剥離が覆う	
第750 PL.54	291	石鏡	完形	63IKB2	黒色頁岩?	長:2.1, 幅:1.5, 厚:0.3, 重:1.1。凹基無条線。完成状態。裏面剥離面を広く残し、周縁に押圧剥離を施す	
第750 PL.54	292	石鏡	完形	63IKB3	黒曜石	長:4.0, 幅:3.0, 厚:2.3, 重:34.4。素材原石の1か所のみを剥離する例。浅い剥離である	
第750 PL.54	293	石鏡未製品	先端欠	63IKA3	チャート	長:(1.9), 幅:(2.0), 厚:0.6, 重:2.5。表面下半も欠損する。全体的に粗い剥離を施す	
第750 PL.54	294	加工痕ある剥片	完形	63IKB2	黒曜石	長:2.2, 幅:1.5, 厚:0.3, 重:0.8。薄手の素材を使用し内側縁より細かな調整剥離を施す。対部角度から縁とはしなかった	

採 掘 Pl. No.	No.	種 類 器 種	部 位 残 存	出土位置	胎土/焼成/色調 石材・素材等	計測値・文様の特徴等（単位はcm, g）	備 考
第758 Pl. 54	295	掻器	先端欠	17住	黒色頁岩	長:(3.3)、幅:2.4、厚:0.5、重:4.4。やや厚手の素材を使用し、四縁に丁寧な押圧割離を施す	
第758 Pl. 54	296	石鎌?	完形	63区表土	黒曜石	長:2.3、幅:1.4、厚:1.6、重:1.6。円基鎌と考えたが、刃部角が大きく掻器の可能性もある。押圧割離が浅う	
第758 Pl. 54	297	打製石斧	完形	63区A4	黒色頁岩	長:9.6、幅:6.7、厚:1.0、重:73.2。球形。横長剥片を素材とし、内側縁及び刃部に細かな調整割離を施す	
第758 Pl. 54	298	石匙	完形	63区A10	黒色安山岩	長:5.6、幅:2.8、厚:0.6、重:10.2。楕形石匙。木葉状で幅みは小型。表裏面とも素材面を残し四縁に丁寧な押圧割離を施す	
第758 Pl. 54	299	掻器	完形	216坑	黒色安山岩	長:6.0、幅:9.1、厚:2.1、重:111.9。横長剥片を素材とし、下端部に調整割離を表裏面より施し刃部を作出する	
第758 Pl. 54	300	掻器	完形	63区D9	黒色頁岩	長:3.7、幅:2.4、厚:1.0、重:7.8。横長剥片を素材とし、下端部は裏面からの細かい割離により刃部を作出する	
第768 Pl. 54	301	石核	完形	63区A4	黒曜石	長:4.3、幅:3.2、厚:1.6、重:19.5。裏面に広く節理面を残し、表面にも旧節理面を残す。下端に細かな割離を施す	
第768 Pl. 54	302	磨製石斧	完形	29住	緑色片岩	長:8.1、幅:3.4、厚:1.3、重:63.9。定向式。平滑薄手に仕上げ。使用痕は判然としないが、刃部に腐位擦痕が見られる	
第768 Pl. 54	303	多孔石	一部残存	63区A7	粗粒輝石安山岩	長:22.0、幅:12.3、厚:10.6、重:2350.0。円錐状の凹みが各面に集中して配される	
第768 Pl. 55	304	凹石	完形	17住	粗粒輝石安山岩	長:7.2、幅:6.1、厚:4.5、重:288.1。表裏面中央に最打痕の集中が見られる。舞縁・上下端部にも広がりを持つ	
第768 Pl. 55	305	敲石	下半欠	63区H9	粗粒輝石安山岩	長:14.0、幅:78.0、厚:6.1、重:939.8。左舞縁、上端部に最打痕が集中する。裏面には平滑面を持つ	
第778 Pl. 55	306	磨石	完形	63区C5	石英閃緑岩	長:20.8、幅:18.0、厚:14.5、重:7900.0。丸石状の磨石。表裏面に平滑面を持つ	
第778 Pl. 55	307	磨石	下半欠	23住	粗粒輝石安山岩	長:(11.4)、幅:6.1、厚:5.5、重:626.2。表裏面に平滑面を持つ。上端には微細な最打痕が集中する	
第778 Pl. 55	308	石皿	右側縁欠	23住	粗粒輝石安山岩	長:24.2、幅:21.0、厚:9.2、重:6000.0。平滑面が広がるため石皿とした。裏面・側面に浅い凹みが集中する	
第788 Pl. 55	309	多孔石	上半欠	63区F12	粗粒輝石安山岩	長:(38.4)、幅:22.8、厚:14.3、重:13900.0。表裏面に凹みが散漫に設けられ、左側面は平滑面を持つ	

## 平安時代

## 17号住居

採掘 PL.No.	No.	器種 器形	残存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第81図 PL.57	1	須恵器 環	底部1/3	覆土	底径(7.6) 高(1.7)	細砂粒を含む。灰白色。還元焼成。やや軟質。右回転軸成。底部回転系切り後無調整。
第81図 PL.57	2	須恵器 埴	口縁部-底部1/2	甕内	口径15.5 底径7.6 器高4.9	細砂粒を含む。灰白色。還元焼成。やや軟質。やや大振り。埴。体部は直線的に開く。体部輪軸目強い右回転軸成。底部回転系切り後、高台貼り付け。周縁無。
第81図 PL.57	3	土師器 甕	口縁部-肩部小片	甕左	口径(20)	細かい石英粒、砂粒を含む。褐色。酸化焼成。「コ」字状口縁。器壁薄い。口縁部外傾し口部直立する。肩部の張りはない。口縁部内外面横位で、体部上半外面横位へつり、内面横位へつり。
第81図 PL.57	4	土師器 甕	口縁部-肩部小片 胴部小片	覆土	—	細かい石英粒、砂粒を含む。にぶい黄褐色。酸化焼成。硬質。胴部に腹方方向の弱い白色吹きこぼれ。右回転軸成。器壁薄い。口縁部外反し、肩部屈曲やや弱い。体部は内湾する。口縁部内外面横位で。体部外面横位が平目。
第81図 PL.57	5	土師器 甕	胴下部1/4	甕内	底径(5)	細かい輝石、砂粒を含む。にぶい赤褐色。酸化焼成。内面底部近くに弱いヨゴシ。「コ」字状口縁。体部下半。底部の残存は僅か。外面横位へつり、内面横位・斜位へつり。器壁薄い。外面最上部に一部粘土付着。
第81図 PL.57	6	土師器 甕	口縁部1/5	覆土	口径(18.6)	細かい輝石、砂粒を含む。にぶい褐色。酸化焼成。口縁部外傾し口部外反気味に直立する。肩部は強。内外面とも口縁部-肩部横位で。肩部内面に細い縦位で加わる。
第81図 PL.58	7	須恵器 甕	肩部1/5	覆土	最大径(22.3)	やや粗い石英粒、砂粒を含む。表面暗灰色。胎土ににぶい赤褐色。還元焼成。硬質。粗作り右回転軸成。頸部直する。肩部-体部は内湾し細身の器が深。これをまいてちまり状の気泡が散在される。表脚部との接合部内面に粘土層がある。肩に平目付きの筋。
第81図 PL.58	8	須恵器 甕	口縁部-肩部1/3 胴部	覆土	口径(45)	やや粗い砂粒を含む。表面灰白色-暗灰色。還元焼成。やや軟質。大型の粗作り輪軸成。口縁部は直立し口部は強く外反する。肩部屈曲は強い。器作り輪軸成。体部外面は平目付き。内面は環状で目。
第81図 PL.58	9	鉄製品 釘	破片	不明	長(2.5) 巾0.7 厚0.5	小型の釘。胴部から胴上部にかけての破片。

## 23号住居

採掘 PL.No.	No.	器種 器形	残存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第86図 PL.63	1	須恵器 環	ほぼ完形	北部に破片点在	口径12.6 底径4.8 器高3.9	細砂粒をわずかに含む。灰白色。還元焼成。軟質。右回転軸成。口縁部緩やかに外反する。底部僅かに突出。内面丁寧な。底部回転系切り後外周やや広くへつり。体部外面に墨書山吹。
第86図 PL.63	2	須恵器 環	口縁部-底部2/3	甕右手	口径12.6 底径5.4 器高4.1	細砂粒を含む。灰白色。還元焼成。内面内形里周有り。やや軟質。右回転軸成。口縁部緩やかに外反する。内面無。底部回転系切り後外周へつり。器面やや増減する。
第86図 PL.63	3	須恵器 環	口縁部-底部1/2	北東部	口径13.0 底径5.4 器高4.1	細砂粒を含む。灰白色。還元焼成。底部近くに内外面に円形里周有り。やや軟質。右回転軸成。口縁部緩やかに外反する。内面無。底部回転系切り後外周へつり。
第86図 PL.63	4	須恵器 環	口縁部-底部2/5	甕右手	口径13.1 底径5.5 器高3.9	細砂粒を含む。還元焼成。灰白色。底部内外面円形里周有り。やや軟質。右回転軸成。口縁部は緩やかに外反する。内面無。底部回転系切り後外周へつり。
第86図 PL.63	5	須恵器 環	口縁部-底部1/3	甕右手	口径13.0 底径6.6 器高3.6	細砂粒を含む。酸化気味の焼成で黄褐色の地色だが、二次焼結により酸化し、全体的ににぶい褐色を呈する。右回転軸成。口縁部は緩やかに外反する。器厚やや薄。内面無。底部回転系切り後外周へつり。
第86図 PL.63	6	須恵器 環	口縁部-底部1/6	北東部	口径(13.6) 底径(7.0) 器高3.9	細砂粒を含む。内面は酸化して黄褐色を呈すが、内面はやや還元気味かつ吸炭。やや軟質。右回転軸成。口縁部外反する。口部横位で。内面無。底部回転系切り後無調整。
第86図 PL.63	7	須恵器 環	口縁部-底部1/4	甕左手東壁中央 近く	口径(12.2) 底径(5.0) 器高4.1	細砂粒を含む。灰白色。やや軟質。右回転軸成。口縁部は緩やかに外反する。内面無。底部回転系切り後外周へつり。器面やや増減。
第86図 PL.63	8	須恵器 環	口縁部1/8	中央西寄り	口径(13.7)	細砂粒を含む。還元焼成。灰白色。内外面とも吸炭して褐色を呈す部分あり。やや軟質。右回転軸成。やや小径。口内内面丁寧な。
第86図 PL.63	9	須恵器 環	口縁部-体部1/3	甕右手	口径(13.0)	細砂粒を含む。還元焼成。灰白色。やや軟質。右回転軸成。口縁部は僅かに外反する。内面無。体部内外面に墨書有り。と同等の字形だが平説できない。
第86図 PL.63	10	須恵器 環	口縁部1/8	中央西寄り	口径(14.6)	砂粒を含む。還元焼成。灰白色。やや軟質。右回転軸成。口縁部強く外反し、体部上半内湾を持つ。口内-内面丁寧な。
第86図 PL.63	11	須恵器 環	体部小片	—	—	細砂粒を含む。にぶい褐色。還元焼成。軟質。右回転軸成。内面体部に墨書あり。
第86図 PL.63	12	須恵器 環	口縁部-底部1/5	甕右手東側 近く	口径(15.1) 底径(7.0) 器高3.5	砂粒を多く含む粗い胎土。有機物片を含んだらしく小孔がある。酸化し、明黄褐色。軟質。右回転軸成。器厚薄で身深の器形。内面無。底部回転系切り後、内面体部-底部にかけてへつり状の痕跡。
第86図 PL.63	13	須恵器 埴	口縁部-底部2/3	北西部	口径15.2 底径8.0 器高5.3	砂粒を含む。灰白色。還元焼成。やや軟質。右回転軸成。やや大振り。安定感のある器形。内面丁寧な。底部回転系切り後高台貼り付け周縁無。
第86図 PL.63	14	須恵器 埴	口縁部-底部1/2	甕右手	口径14.5 底径5.3 器高5.8	細砂粒を含む。地色は灰白色だが内外面ともに吸炭。外面には広くスズ付着。やや軟質。右回転軸成。口縁部外反する。底部はやや小径。内面丁寧な。底部回転系切り後高台貼り付け周縁無。
第86図 PL.63	15	須恵器 埴	ほぼ完形	北壁中央-北 西隅	口径13.8 底径5.8 器高5.5	砂粒を含む。還元焼成。灰白色。右回転軸成。口縁部僅かに歪み。高台短くやや小径。内面丁寧な。底部回転系切り後高い高台貼り付け周縁無。

挿入 No.	No.	器種 器形	残存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成形の特徴等
第86図 PL-64	16	須恵器 埴	体部～底部 1/4	西壁中央北より	底径(7.1)	細砂粒を含む。灰白色。底部に凹形痕あり。やや軟質。右回転轆轤成形。高台は短く開き気味に付される。内面撫で。底部回転糸切り後高台貼付周縁撫で。体部内面に墨書あるが判読できない。
第86図 PL-64	17	須恵器 埴	底部	中央部	底径7.0	細砂粒を含む。地色は灰白色だが、二次焼熱によりにぶい黄褐色を示す部分が多い。やや軟質。右回転轆轤成形。底径やや広く、内面気味に開く。高台は短い。内面撫で。底部回転糸切り後高台貼付周縁・内面を撫で。
第86図 PL-64	18	須恵器 埴	底部 1/2	北東部	底径7.2	砂粒を含む。灰白色。焼成良好。右回転轆轤成形。底径やや広く、体部も強く開く。高台は短い。内面撫で。底部回転糸切り後高台貼付周縁撫で。
第87図 PL-64	19	須恵器 埴	底部 1/2	覆土	底径7.4	細砂粒を含む。外面は灰白色。内面は酸化してにぶい黄褐色を示す。やや軟質。右回転轆轤成形。内面丁寧な撫で。底部回転糸切り後高台貼付周縁強く撫で。
第87図 PL-64	20	須恵器 埴	底部	中央部	底径6.6	砂粒を含む。酸化炎焼成。にぶい黄褐色を示す。やや軟質。右回転轆轤成形。内面丁寧な撫で。底部回転糸切り後高台貼付周縁撫で。
第87図 PL-64	21	須恵器 埴	底部 2/3	覆土	底径6.5	細砂粒を含むのが緻密。還元焼成。外面は酸化して褐色。内面は灰白色の地色である。内外面ともに成されている。やや軟質。右回転轆轤成形。内面気味に開く体部下平。内面丁寧な撫で。底部回転糸切り後高台貼付周縁撫で。
第87図 PL-64	22	須恵器 埴	底部 1/2	覆土	底径8.8	砂粒をやや多く含む。還元焼成。灰色。硬質。右回転轆轤成形。底部器厚は薄手。底径は広く細身の高台が開く。体部内面撫で。底部回転糸切り後高台貼付周縁強く撫で。
第87図 PL-64	23	灰輪陶器 埴	口縁部破片	覆土	口径(16.5)	緻密な胎土。口縁部灰白色。体部灰黄色。器厚薄手で内面気味に開く。口内面は僅かに丸みを帯びる。回転轆轤成形。胎輪は漬け掛け。大原2号形式。
第87図 PL-64	24	灰輪陶器 埴	底部破片	覆土	底径(9.9)	緻密な胎土。口縁部灰白色。体部灰白色。三日月状の高台を貼付する。右回転轆轤成形。胎輪は漬け掛け。
第87図 PL-64	25	土師器 甕	口縁部～頸部1/4	電	口径(19.0)	細砂粒を含む。酸化焼成。明赤褐色。焼成良好。内面頸部に点状のコゲ、頸部に強い白色のコソレ。外面頸部に粘土層跡。「コ」字状口縁溝。口縁部外縁。口頸部は直立する。口縁横位で、外面頸部以下横方向へ平ら。内面横位へ撫で。
第87図 PL-64	26	土師器 甕	口縁部～頸部 破片	北西部	口径(20.6)	細砂粒を含む。酸化焼成。にぶい褐色。焼成良好。「コ」字状口縁溝。口縁部外縁。口頸部は直立する。口縁横位で、口頸部外面無調整部。体部外面横位・斜位へ平ら。内面は丁寧な撫で。
第87図 PL-64	27	土師器 甕	口縁部～胴上部 破片	覆土	口径(13.0)	器入物の少ない緻密な胎土。酸化焼成。浅黄褐色。やや軟質。口縁内面にコゲが粘るが口内には達しない。小型の轆轤。頸部曲内強い。器厚薄い。口縁横位で、胴部縦方向へ平ら。内面横位へ撫で。力まじ強い。
第87図 PL-64	28	土師器 甕	胴下部～底部 破片	北東部	底径(5.0)	細砂粒をやや多く含む。酸化焼成。褐色。やや軟質。器壁が薄く、「コ」字状口縁溝である。体部は強く開く。外面底部周辺を横方向へ平ら。後上位を縦方向へ平ら。内面へ撫で。工具当て目録。
第87図 PL-64	29	土師器 甕	胴部破片	覆土	—	細砂粒を含むが緻密な胎土。酸化焼成。灰黄褐色。焼成良好。轆轤成形破片。外面縦方向へ平ら。内面横位・斜位力まじ強い。
第87図 PL-64	30	土師器 甕	胴下部～底部 破片	北東隅部	底径(5.0)	やや粗い砂粒を多く含む。酸化焼成。灰白色。やや軟質。外面にスス付着。内面コゲなし。器壁が薄く、「コ」字状口縁溝である。外面底部周辺を横方向へ平ら。後上位を縦方向へ平ら。内面へ撫で。器が平らでするが内面有り。
第87図 PL-64	31	須恵器 甕	口縁部破片	北壁東部中央 東より	口径(38.4)	やや粗粒の砂粒を含む。灰色。還元焼成。硬質。轆轤成形。口頸部強く外反する。口内に2条の凹線。口縁部はやや直立気味。内外面横位で。
第87図 PL-64	32	須恵器 甕	頸部	西壁中央北より	体部との接合部径 (9.9)	やや粗粒の砂粒を含む。灰色。還元焼成。硬質。組作り。轆轤成形。頸部上半は外反り下半は直立する。組部が深し。内外面撫で。
第87図 PL-64	33	須恵器 甕	胴部破片	北西部	—	やや粗粒の砂粒を含む。灰色。還元焼成。硬質。歪みあり。外面平行叩き調整後横位で。内面横位・斜位へ撫で。
第87図 PL-64	34	須恵器 甕	胴部破片	覆土	—	やや粗粒の砂粒を含む。還元焼成。灰色。硬質。外面平行叩き調整後横位で。内面横位で。器当て目録。
第87図 PL-64	35	須恵器 甕	胴部破片	覆土	—	やや粗粒の砂粒を含む。石英粒含む。還元焼成。灰色。焼成良好。硬質。外面平行叩き調整後横位で。内面横位で。器当て目録。
第87図 PL-64	36	須恵器 甕	胴部破片	西部中央近く	—	やや粗い砂粒を含む。内外面灰白色。生地は明褐色。やや軟質。外面小さな斑状剥離多い。裏面やや大きな斑状剥離多い。緩やかな内湾を示す。体部上半か。外面平行な撫で。内面横位で。
第88図 PL-64	37	須恵器 羽釜	口縁部破片	北部	口径(18.0)	やや粗い砂粒を多く含む。石英粒含む。還元気味。にぶい黄褐色。やや軟質。口縁部内傾し、断面三角形状の溝を付す。口縁内外面横位で。外面器上縁は強く撫で。器以下は縦方向へ平ら。
第88図 PL-64	38	須恵器 甕	胴部破片	北東部	—	やや粗粒の砂粒を含む。石英粒やや多く含む。還元焼成。灰色。焼成良好。硬質。器壁は薄い。外面平行叩き調整後横位で。内面横位で目録。
第88図 PL-64	39	須恵器 羽釜	底部 1/3	電手前	底径(6.6)	やや粗い砂粒を多く含む。石英粒含む。還元気味。にぶい黄褐色。やや軟質。底部外縁を横位で。底面へ撫で。内面コゲなし。
第88図 PL-64	40	共生土器 甕か	底部 1/5	電右手	底径(6.0)	やや粗い砂粒を比較的多く含む。石英粒、輝石粒を含む。酸化焼成。にぶい褐色。外面黒沢。やや軟質。組作り。底部外面横位・横方向へ平ら。横方向の弧状沈線文。内面撫で。共生中層に見られる小型の甕形土器かと思われる。
第88図 PL-64	41	鉄製品 刀子か	破片	北東部	長(6.2) 幅(2.8) 厚(0.6)	刀子の茎と思われる。断面長方形。
第88図 PL-64	42	鉄製品 破片	破片	不明	長(5.0) 幅(2.5) 厚(0.3)	不明鉄片。
第88図 PL-64	43	鉄製品 鉄鏝か	破片	西隅	長(4.0) 幅 1.4 厚 0.5	鉄鏝先端部と思われる。両平刃造か。



遺物観察表

種 別 PL.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第88回 PL.65	44	鉄洋	破片	電手前	長7.4 幅6.4 厚2.6	破断面を持つ。割洋。重量142.8g。
第88回 PL.65	45	鉄製品 刀子か	破片	東南部塚外	長(4.0) 幅0.9 厚0.2	刀子の茎と思われる。断面方形。
第88回 PL.65	46	鉄製品 不明	ほぼ完形	北東部	長20.8 幅1.6 厚0.5 木部長9.3	工具かと思われるが判断しない。木製把手。
PL.65	47	鉄製品 不明	破片	東南部塚外	長(2.6) 幅(2.1) 厚0.4	板状の鉄片
PL.65	48	伊賀または 寄器	破片	南東隅	長(5.0) 幅(3.9) 厚2.5	発泡、溶解著しい。
PL.65	49	銅製品 銭貨	ほぼ完形	覆土上層	径(1.7) 厚0.1	白銅永寶。腐食激しく実測・採拓不能。

25号住居

種 別 PL.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第91回 PL.66	1	土師器 甕	口縁部～胴部1/5	電左手	口径(20.0)	細砂粒を含む。輝石を含む。酸化焙焼成。明赤褐色。やや軟質。「コ」字状口縁溝。口縁部外縁密く、口頸部直立する。体部上半に最大径を持つ。口縁内外面横位で、外面端部は強く曲がる。外面頂部指押え。胴部上位は横方向、胴部は縦方向へ傾り。内面胴部はへら撫で、外面胴部以下にスス付着。内面コゴ、ヨゴレなし。
第91回 PL.66	2	土師器 甕	口縁部～胴部1/5	覆土	口径(12.0)	細砂粒を含むが緻密な胎土である。酸化焙焼成。褐色。焼成良好。小型の轆轤製。器壁は薄い。口縁部外縁し頸部断面は強い。右回転轆轤成形。口縁横位で、外面体部上半は弱いカサ目、下半は縦位へ傾り。内面は横位撫で、二次的熱焼によるススが内外面に付着。
第91回 PL.66	3	土師器 甕	口縁部～胴上部 破片	覆土	口径(18.0)	細砂粒を含む。輝石を含む。酸化焙焼成。にぶい褐色。焼成良好。「コ」字状口縁溝。口縁部外縁し、口頸部直立する。口縁内外面横位で、外面端部と胴部上位は強く撫でる。胴部は横方向へ傾り。内面横方向へ撫で、外面は全体にスス付着。内面コゴなし。
第91回 PL.66	4	土師器 甕	胴下部破片	電	—	細砂粒を含む。石英を含む。酸化焙焼成。にぶい褐色。焼成良好。器壁が薄く、「コ」字状口縁溝であろう。器形に歪みあり。外面縦位へ傾り。内面縦位・斜位へ撫で、内面コゴ、ヨゴレなし。
第91回 PL.66	5	須恵器 埴	体部～底部 1/3	西壁中央	底径7.3	やや粗い砂粒を含む。石英粒を含む。草蓑状有機物を含んだらしく、線状の空隙がある。還元焙焼成。黒褐色。全体に焼定する。やや軟質。器壁は薄い。底径広く高台は短い。右回転轆轤成形。底部回転糸切り後高台部付周縁撫で。
第91回 PL.66	6	須恵器 坏	口縁部破片	覆土	口径(14.0)	砂粒を含む。還元焙焼成。黄灰色。焼成良好。口縁部僅かに肥厚し外縁する。内面に浅い内縁を持たせる。右回転轆轤成形。轆轤目強い。
第91回 PL.66	7	鉄洋	破片	覆土	長3.0 幅2.5 厚3.0	破断面あり。割洋。重量23.5g。

27号住居

種 別 PL.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第92回 PL.67	1	須恵器 埴	胴下部～底部 破片	南西部	底径(6.7)	細砂粒を含む。還元焙焼成。褐色。軟質。右回転轆轤成形。底部回転糸切り後高台部付周縁撫で。

29号住居

種 別 PL.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第95回 PL.69	1	土師器 異形土器	ほぼ完形	電袖	上端径29.8	砂粒を含む。籠草蓑状、粒状の有機物を含んだらしく、小孔がある。化焙焼成。地色はにぶい褐色だが、二次的を被熱によるスス付着や再酸化が破片ごとに見られる。轆轤成形。厚手で長胴形を呈す。上端近くは横方向、以下は縦方向に傾いへ傾り。内面は粗く手指で押さえている。袖、燃焼部で出土しているが、当初から電道具として作られたものか。
第95回 PL.69	2	土師器 異形土器	1/2	電袖	上端径(26.0)	砂粒を含む。草蓑状、粒状の有機物を含んだらしく、小孔がある。酸化焙焼成。地色はにぶい褐色だが、二次的を被熱により外面はほぼ全面にススが付着し、一部再酸化が見られる。内面を被熱により器面剥落。一部ススが付着する。轆轤成形。歪な器形を呈し器厚厚手。口縁部は内傾し体部上半で強く内湾する。内外面とも粗く手指で押さえており、特別の整形は見られない。袖、燃焼部で出土しているが、当初から電道具として作られたものか。
第95回 PL.69	3	須恵器 瓶か	胴部破片	電	—	砂粒を含む。石英を含む。還元焙焼成。浅黄褐色。軟質。内面器壁剥落。体部中位破片か。紐作り右回転轆轤成形。内面撫で。
第95回 PL.69	4	須恵器 埴	体部下部～底部 1/3	南西部	底径(6.4)	細砂を含むが緻密な胎土。還元焙焼成。灰黄色。やや軟質。右回転轆轤成形。口縁部欠損、高台剥落。内面撫で。底部回転糸切り後高台部付周縁撫で、轆轤目強い。
第95回 PL.69	5	須恵器 埴	底部 1/2	北壁西より	底径(7.2)	細砂を含むが緻密な胎土。還元焙焼成。灰白色。軟質。高台剥落。右回転轆轤成形。内面撫で。底部回転糸切り後高台部付周縁撫で。
第95回 PL.69	6	須恵器 羽釜	口縁部～頸破片	中央北より	口径(17.4)	砂粒を多く含む。還元焙焼成。黒褐色。焼成良好。器壁薄く、口縁部は内傾する。断面三角形の跡を付す。あるいは胎土が、内外面とも撫で、鈔削り付け。
第95回 PL.69	7	須恵器 甕	胴部破片	北西隅	—	砂粒を多く含む。還元焙焼成。黄灰色。硬質。外面平行目き目。内面環状当て目が残る。
第95回 PL.69	8	灰輪陶器 埴	底部破片	南西部	底径(7.2)	緻密な胎土。還元焙焼成。灰白色。焼成良好。高台は内湾気味に付す。右回転轆轤成形。高台部付。施地方法は不明。大塚2号窯式か。

種 図 PL.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第95図 PL.69	9	鉄製品 鏃	破片	北隣 電左手 前	長9.1 幅4.0 厚0.4	雁股の鏃。対部先端及び茎先端を欠く。片平刃造、轉状面。茎断面方形。
第95図 PL.69	10	鉄製品 鎌か	破片	北東部	長(5.0) 幅(3.1) 厚0.2	鎌削部片かと思われるが、対部不明。
PL.69	11	鉄滓	破片	北隣 電前	長(3.5) 幅(3.2) 厚(2.0)	錆着が著しく塊状を呈するが、新留めのある金具片のように見える。
PL.69	12	鉄滓	—	北隣 電前	長2.9 幅2.1 厚1.1	鍛冶滓 塊状滓が附着する。磁着部と非磁着部あり。
PL.69	13	鉄滓	ほぼ完形	電煙道部覆土	長(5.5) 幅(3.4) 厚(2.2)	碗状滓。重量44.3g。
PL.69	14	鉄滓	破片	北隣 電右手 前	—	鍛冶滓破片。含鉄し、錆化する。
PL.69	15	鉄滓	破片	中央部北東寄 り	—	鍛冶滓破片。発泡している。含鉄し、錆化する。
PL.69	16	鉄滓	破片	覆土	—	鍛冶滓破片。含鉄し、錆化する。

## 32号住居

種 図 PL.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第97図 PL.70	1	須恵器 甕	口縁部～胴上部 破片	北西部	—	砂粒を多く含む。灰色。硬質。口縁部直立し口頸部外反する。頸部屈曲強い。口唇部外面二条の凹線。胴部の張りはやや弱い。紐作り轆轤成形。口縁部外面横位撫で。胴部へら削り後撫で。内面環状当て目が見える。
第97図 PL.70	2	須恵器 甕	胴部破片	北西部	—	粗砂粒・石英粒を含む。還元焰焼成。灰色。硬質。器壁は薄い。紐作り。外面平行叩き調整後横位撫で。内面環状当て目が見える。
第97図 PL.70	3	須恵器 環	口縁部破片	北西部	口径(13.6)	粗砂粒を含む。還元焰焼成。灰色。硬質。口縁部器厚薄手で外反する。右回転轆轤成形。口唇部撫でて薄く仕上げられる。
第97図 PL.70	4	須恵器 環	底部破片	覆土	底径(6.0)	粗砂粒を含む。還元焰焼成。黄灰色。硬質。底部器壁は薄い。右回転轆轤成形。底部回転糸切り後無調整。
第97図 PL.70	5	須恵器 環	体部～底部破片	西壁中央	底径(5.6)	粗砂粒を含む。還元焰焼成。黄灰色。やや軟質。右回転轆轤成形。底部回転糸切り後無調整。
第97図 PL.70	6	須恵器 甕	口縁部破片	北西隅	口径(15.0)	砂粒を含む。還元焰焼成。黄灰色。やや軟質。口唇部尖る。口縁部内横し頸部外反する。右回転轆轤成形。内外面横位撫で。
第97図 PL.70	7	鉄製品 刀子か	破片	覆土	長(4.5) 幅(1.0) 厚0.5	刀子の茎から対部基部にかけての破片。轉部は小さな段を持つ。刃区は不明。茎断面台形。
PL.70	8	鉄滓	破片	覆土	長(1.9) 幅(1.6) 厚0.5	鍛冶滓と鍛造刮片が附着。
第97図 PL.70	9	鉄滓	完形	不明 南西部 か	長6.3 幅6.2 厚4.2	碗状滓。重さ182.3g。

## 38号住居

種 図 PL.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第99図 PL.72	1	土師器 甕形土器	上端～体部 下端破片	電槽	口径(25.0)	砂粒を含む粗い胎土。還元焰焼成。にぶい褐色。二次的な被熱によるスス付着が見られる。口縁部僅かに外傾し体部は直立気味。凹示した上縁は接地させたものらしく平坦。同一個体と思われる丸みを持った頸部破片もあり、歯端が開いた器形の器形である。紐作り成形。外面は縦方向に粗いへら削り。内面へら撫で。指頭痕が残る。袖として利用されているが、当初から電道具として作られたものか。

## 42号住居

種 図 PL.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第101図 PL.72	1	須恵器 環	口縁部～底部1/3	電想定部	口径14.0 底径7.0 器高3.6	緻密な胎土。還元焰焼成。にぶい黄褐色。やや軟質。口縁部外反。右回転轆轤成形。口唇部横位撫で。内面撫で。底部回転糸切り後無調整。
第101図 PL.72	2	須恵器 環	口縁部～底部 破片 底部 1/3	電想定部	口径(14.0) 底径6.4 器高6.1	砂粒を含む。還元焰焼成。灰色。やや硬質。体部器厚薄手で直線的に開く。底部やや小径。右回転轆轤成形。底部回転糸切り後高台階付縦線撫で。
第101図 PL.72	3	須恵器 環	体部下～底部 1/5	電想定部	底径(7.6)	やや粗い砂粒を多く含む。還元焰焼成。黄灰色。やや軟質。底部器厚薄手。右回転轆轤成形。底部回転糸切り後高台階付縦線撫で。
第101図 PL.72	4	土師器 甕	口縁部～胴部破 片	電想定部	口径(19.0)	砂粒を含むが緻密な胎土。還元焰焼成。褐色。焼成良好。胴部外面スス付着。内面弱いヨコ線。「コ」字状口縁。口縁部～頸部外反。胴部の張りは弱い。口縁部内外面横位撫で。胴部横方向へら削り。内面へら撫で。
第101図 PL.72	5	土師器 甕	口縁部～頸部破 片	電想定部	口径(19.0)	砂粒を含むが緻密な胎土。還元焰焼成。褐色。焼成良好。「コ」字状口縁。口縁部外傾。口頸部直立。胴部の張りは弱い。やや粗な作りで口唇部が波打ち。表面にも空凹が見られる。口縁部内外面横位撫で。頸部は比較的弱い横位撫で。胴部横方向へら削り。内面へら撫で。
第101図 PL.72	6	土師器 甕	口縁部～胴部破 片	電想定部	口径(20.2)	砂粒を含むが緻密な胎土。還元焰焼成。褐色。焼成良好。「コ」字状口縁。口唇部直立。口縁部外傾。口頸部直立。胴部の張りは強い。口縁部内外面横位撫で。口唇外面端部やや強く撫でる。胴部横方向へら削り。内面へら撫で。
第101図 PL.72	7	土師器 甕	胴部破片	電想定部	—	粗砂粒を含む。還元焰焼成。にぶい黄褐色。焼成良好。外面スス付着。内面コグナし。体部中位か。外面上位は縦方向、下位は縦方向へら削り。内面横方向へら撫で。

遺物観察表

45号住居

種 図 PL.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第103図 PL.73	1	灰軸陶器 甕	体部～底部	甕右手	底径6.0	緻密な胎土。還元焼成。灰白色。内湾気味に開く体部下平。高台は三日月状。右回転軸成。体部下平内湾へう割り。胎輪は滑り掛。内面見込み部に重ね焼きの痕跡。大原2号室。
第103図 PL.73	2	須恵器 甕	口縁部～底部1/2	甕前	口径13.9 底径(6.3)	砂粒を含む。還元焼成。黒褐色。外面直。内面直。内面直有り。やや軟質。整った器形。右回転軸成。口縁部横位。底部回転系切り後高台貼り付け周縁直。
第103図 PL.73	3	土師器 甕	口縁部～肩部1/5	甕	口径(20.8)	粗砂粒を含む。石英粒含む。酸化焼成。浅黄褐色。焼成良好。丁寧な作りの「コ」字状口縁。口縁内外面横位。口唇は丸く納る。内面肩部から肩部にかけても横位。胴部上位は横方向へう割り。内面も胴部まで横位。胴部直。

47号住居

種 図 PL.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第106図 PL.75	1	須恵器 羽釜	口縁部破片	甕	口径(23.6)	砂粒をやや多く含む。酸化気味の焼成。にぶい褐色。焼成良好。比較的粗雑な作り。口唇は波打つ。外面口縁から肩位上まで横位。肩以下は縦方向へう割り後横位。内面まで。押搾さえ有り。
第106図 PL.75	2	須恵器 羽釜	口縁部破片	甕	口径(21.4)	砂粒を多く含む。酸化気味の焼成。明黄褐色。焼成普通。外面口縁から肩位上まで横位。内面まで。押搾さえ有り。
第106図 PL.75	3	須恵器 羽釜か	口縁部破片	甕上	口径(13.7)	砂粒を多く含む。にぶい黄褐色。酸化気味の焼成で軟質。外面にスス付着。軟質粗雑で、跨はれられた須恵器。羽釜と見ると、土釜あるいは甕道具かもしれない。口縁内外面横位。内面も横位であるが平滑ではない。
第106図 PL.75	4	須恵器 杯	ほぼ完形	南西部	口径10.7 底径1.8 器高3.5	砂粒を多く含む。にぶい褐色。酸化気味の焼成でやや軟質。内外面直あり。口縁部に僅かな歪み。口縁部一体部一体化し整った器形を呈す。右回転軸成。底部回転系切り後無調整。
第106図 PL.75	5	須恵器 杯	ほぼ完形	南西部	口径11.0 底径4.7 器高3.6	砂粒を多く含む。にぶい褐色。より還元気味だがやや軟質。内外面直あり。内面底部にススだまり。口縁部不備かな歪みが見える整った器形。右回転軸成。底部回転系切り後無調整。
第106図 PL.75	6	須恵器 杯	口縁部～底部 破片	南西部	口径(10.6) 底径(6.0) 器高2.4	細砂を含むが緻密な胎土。褐色。酸化気味の焼成だが焼成良好。硬質。身浅の杯。器壁は薄い。右回転軸成。底部回転系切り後無調整。
第106図 PL.75	7	灰軸陶器 甕	底部破片	西壁中央北より	底径(6.0)	灰白色。還元焼成。底部内面に輪軸が溜まる。外面既剥離あり。体部は強く開き高台は短い。軸成。高台貼付。胎輪不明。内面に重ね焼き時の付着物。底部外面は器壁剥離。

48号住居

種 図 PL.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第110図 PL.80	1	須恵器 杯	口縁部一部欠損	東南部	口径13.0 底径6.0 器高4.0	細砂粒を含む。還元焼成。灰白色。底部内外面に直。口縁部外反し、やや強く開く体部。右回転軸成。底部回転系切り後へう割り。外面体部上半に二・状思。内外とも体部下平～口縁部の面直。
第110図 PL.80	2	須恵器 杯	1/2	東南部	口径12.9 底径6.0 器高3.9	細砂粒を含む。還元焼成。灰白色。口縁部僅かに外反。体部はやや強く開く。右回転軸成。底部回転系切り後無調整。軸成強い。
第110図 PL.80	3	須恵器 杯	1/2	東南部	口径13.0 底径6.0 器高3.7	細砂粒を含む。還元焼成。灰白色。口縁部外反。高台はやや身浅。底部器壁厚手。右回転軸成。底部回転系切り後無調整。
第110図 PL.80	4	須恵器 杯	体部～底部	中央部	底径5.8	粗砂粒・石英を含む。還元焼成。灰褐色。口縁部外反か。右回転軸成。器面直。内底部器壁剥離。
第110図 PL.80	5	須恵器 杯	1/3	東南部	口径(13.4) 底径(5.0) 器高4.3	細砂粒を含む。還元焼成。灰白色。口縁部緩やかに外反。右回転軸成。底部回転系切り後無調整。体部内外面に思。判断不明。
第110図 PL.80	6	須恵器 杯	底部	東南部	底径4.9	細砂粒を含む。還元焼成。灰白色。底部やや小径。右回転軸成。底部回転系切り後無調整。
第110図 PL.80	7	須恵器 甕	1/3	東南部	口径(14.0) 底径(7.0) 器高4.9	粗砂粒・石英を含む。還元焼成。黄褐色。器壁は薄い。口縁部～体部僅かに内湾気味に開く。高台は直立気味。右回転軸成。底部回転系切り後高台貼り付け周縁直。
第110図 PL.80	8	須恵器 甕	1/3	東南部	口径(14.5) 底径(7.2) 器高5.6	粗砂粒・石英を含む。還元焼成。灰白色。器壁は薄い。高台も開き整った器形を示す。右回転軸成。底部回転系切り後高台貼り付け周縁直。
第110図 PL.80	9	灰軸陶器 甕	口縁部と高台の一部を欠損	中央部 東南部	口径11.1 底径5.1 器高4.0	緻密な胎土。還元焼成。褐色。小振りで整った器形。高台は短く直立気味に付す。右回転軸成。体部下平は回転へう割り。高台貼付。胎輪は滑り掛。大原2号室。
第110図 PL.80	10	須恵器 甕?	底部 1/3	東南部	底径5.3	粗砂粒・褐色粒・石英を含む。酸化気味焼成。にぶい褐色。軸成。軟質な焼成。右回転軸成。底部回転系切り後無調整。
第110図 PL.80	11	土師器 甕	口縁部破片	東北部	口径(10.4)	粗砂粒・輝石を含む。酸化焼成。にぶい赤褐色。二次焼成によるスス付着。小型の「コ」字状口縁。口縁部外傾。口唇部直立する。肩部の張り強い。口縁部内外面横位。体部外面横位へう割り。内面は直。
第110図 PL.80	12	土師器 甕	口縁部破片	東南部	口径(21.0)	粗砂粒・輝石を含む。酸化焼成。褐色。「コ」字状口縁。口縁部外傾し肩部直。口縁部内外面横位。体部外面横位へう割り。内面は横位へう割り。
第111図 PL.80	13	土師器 甕	口縁部破片	東南部 甕前	口径(22.8)	粗砂粒・石英を含む。酸化焼成。褐色。「コ」字状口縁。口縁部外傾。口唇部直立する。肩部の張り強い。口縁部内外面横位。体部外面も横位。下半に縦位へう割りを加える。
第111図 PL.80	14	須恵器 甕	口縁部破片	甕前	口径(34.2)	粗砂粒・輝石を含む。還元焼成。灰褐色。大型の甕。口縁部直立し。口唇部は外反する。軸成。
第111図 PL.80	15	須恵器 甕	口縁部破片	南壁中部	口径(24.4)	粗砂粒を含む。還元焼成。黄褐色。大型の甕。口縁部は外反気味に直立。頸部は強く外反する。軸成。

挿 図 Pl.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第111図 Pl.80	16	須恵器 甕	体部破片	中央北より	—	粗砂粒・石英を含む。還元焼成。やや軟質な焼成。褐色。大型の甕。体部上半。硬質な焼成。頭部は屈曲する。紐作り。内外面とも横位撫で。外面細かな平行印を、内面環状当て目残る。
第111図 Pl.80	17	須恵器 甕	体部破片	東南部	—	粗砂粒・輝石を含む。還元焼成。黄灰色。硬質な焼成。大型の甕。体部中位。紐作り。内外面とも横位撫で。内面環状当て目残る。
第111図 Pl.80	18	須恵器 甕	体部破片	東南部	—	粗砂粒・石英を含む。還元焼成。褐色。硬質な焼成。大型の甕。体部中位。紐作り。内外面とも横位撫で。内面環状当て目残る。
第112図 Pl.81	19	須恵器 甕	体部破片	東南部	—	粗砂粒・石英を含む。還元焼成。浅黄褐色。硬質な焼成。大型の甕。体部中位。硬質な焼成。紐作り。内外面とも横位撫で。内面環状当て目残る。
第112図 Pl.81	20	須恵器 甕	体部破片	電前 東南部 南壁中央	—	粗砂粒・石英を含む。酸化焙火味の焼成。浅黄褐色。軟質な焼成。大型の甕。体部中位。器壁は薄い。紐作り。内外面とも横位撫で。外面平行印を、内面に残る。
第112図 Pl.81	21	須恵器 甕	体部破片	電前	—	粗砂粒・石英を含む。還元焼成。灰白色。やや軟質な焼成。大型の甕。体部下半か。紐作り。外面縦位撫で。内面撫で。内面器壁剥落。
第112図 Pl.81	22	須恵器 甕	底部 1/4	電左 東南部	底径(21.4)	粗砂粒・石英を含む。還元焼成。黄灰色。硬質な焼成。大型の甕。底面欠損。紐作り懸輪成形。内外面横位撫で。底面削り調整。
第112図 Pl.81	23	鉄製品 刀子か	ほぼ完形	中央部北西寄り	長11.3 幅1.1 厚0.3	刃部先端をわずかに欠く。稜区は不明瞭。刃区はやや段を持つ。茎断面は長方形。

## 50号住居

挿 図 Pl.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第114図 Pl.82	1	須恵器 環/埴	口縁部 1/4	電前	口径(18.6)	粗砂粒・輝石を含む。還元焼成。灰白色。やや軟質。内外面黒斑。大振り。口縁部は緩やかに外反する。右回転懸輪成形。
第114図 Pl.82	2	土師器 甕	胴部破片	電	—	粗砂粒・輝石を含む。酸化焙火焼成。赤褐色。体部下半。器壁薄く、「コ」字状口縁部と思われる。外面縦位・斜位ヘラ削り。内面斜位ヘラ撫で。
第114図 Pl.82	3	鉄製品 紡車	完形	北壁際やや東寄り	紡輪長 25.6 紡 輪太 0.5 紡輪径 6.4 紡輪厚 0.3	紡輪軸上端を捉えて鈎を形成する。紡輪先端は摩耗していない。紡輪上面には不定方向に線状の跡跡がある。重量49.8g。

## 13号焼土

挿 図 Pl.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第117図 Pl.84	1	須恵器 羽釜	体部破片	覆土	—	粗砂粒・石英を含む。酸化焙火焼成。にぶい黄褐色。
第117図 Pl.84	2	須恵器 甕	口頸部破片	覆土	—	粗砂粒・石英を含む。還元焼成。灰色。硬質。
第117図 Pl.84	3	須恵器 甕	口縁部小破片	覆土	—	細砂粒を含む。還元焼成。黄灰色。やや軟質。
第117図 Pl.84	4	須恵器 甕	体部破片	覆土	—	粗砂粒を含む。還元焼成。灰色。硬質。

## 16号焼土

挿 図 Pl.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第117図 Pl.84	1	土師器 甕	口縁部～体部1/4	覆土	口径(14.7)	粗砂粒・輝石を含む。酸化焙火焼成。褐色。上釜か。口縁部は短く外傾し、体部上半は僅かに内湾する。外面口縁部横位撫で。体部は横位ヘラ削り。内面口縁部横位ヘラ削り。体部は横位ヘラ撫で。

## 257号土坑

挿 図 Pl.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第126図 Pl.91	1	灰輪陶器 皿	1/4	覆土	口径(12.2) 底径7.4器高2.0	緻密。還元焼成。灰白色。体部は短く強く開く。高台も短い。右回転懸輪成形。高台唇付。胎土は淡げ掛。大塚2号式。
第126図 Pl.91	2	須恵器 羽釜	底部破片	覆土	底径6.0	粗砂粒・輝石を含む。酸化焙火焼成。にぶい黄褐色。内面焼況。外面底部から胴下部に一部スス付着。器厚やや厚手。体部は強く開く。外面横位・斜位ヘラ削り。

## 遺構外出土遺物

挿 図 Pl.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第127図 Pl.92	1	須恵器 環	ほぼ完形	63区F-6・7	口径14.8 底径6.7 器高4.5	粗砂粒を含む。酸化焙火焼成。明赤褐色。軟質。器壁厚く、体部は開き気味。右回転懸輪成形。底部回転糸切り後無調整。体部にやや歪みを見る。
第127図 Pl.92	2	須恵器 環	口縁部一部欠損	63区B-4	口径14.0 底径6.0 器高3.9	粗砂粒を含む。還元焼成。灰黄色。軟質。やや器壁は薄い。体部は身狭で口縁部は緩やかに外反する。右回転懸輪成形。底部回転糸切り後無調整。内外面に黒斑。体部外面に墨書あり。
第127図 Pl.92	3	須恵器 埴	口縁部破片	63区A-3	口径13.0	細砂粒を含む。還元焼成。灰色。やや軟質。右回転懸輪成形。
第127図 Pl.92	4	須恵器 環/埴	口縁部破片	62区Y-3	口径13.6	粗砂粒・輝石を含む。還元焼成。灰白色。やや軟質。右回転懸輪成形。
第127図 Pl.92	5	須恵器 環/埴	口縁部破片	63区A-4	口径12.8	粗砂粒・石英を含む。還元焼成。黄灰色。やや軟質。右回転懸輪成形。輪縁目強い。

遺物観察表

挿入 No.	器種 No.	器種 形状	現存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成形の特徴等
第1279 PL.92	6	須恵器 環/埴	口縁部小破片	53IC-20	口径(12.0)	細砂粒を含む。酸化塩気味焼成。にぶい褐色。器壁は薄い。回転轆轤成形。外面は横位へら削り後横位研磨。内面は斜位研磨後口唇部位研磨。内面黒色処理。
第1279 PL.92	7	須恵器 環/埴	口縁部小破片	63IC-B-5	—	細砂粒を含む。還元焼成。灰白色。口縁部緩やかに外反する。体部外面に墨書。判読不能。轆轤成形。
第1279 PL.92	8	須恵器 環	底部 1/3	63IC-B-14	底径5.0	粗砂粒・輝石を含む。還元焼成。灰褐色。外面黒黒。内面吸戻。やや小振り。底部器厚やや厚手。右回転轆轤成形後底部回転系切り後調整。
第1279 PL.92	9	須恵器 環	底部 1/4	63IC-A-4	底径(7.0)	粗砂粒・輝石を含む。酸化塩気味焼成。にぶい褐色。内底面吸戻して黒色。軟質。体部器厚は薄手で、強く開く。右回転轆轤成形。底部回転系切り後無調整。内面黒色処理。縦位研磨を施す。
第1279 PL.92	10	須恵器 環	底部破片	63IC-B-5	—	細砂粒を含む。還元焼成。浅黄色。やや軟質。右回転轆轤成形。底部回転系切り後無調整。内底面に墨書。判読不能。
第1279 PL.92	11	須恵器 環	底部小破片	63IC-G-11	底径(5.0)	細砂粒を含む。還元焼成。浅黄色。やや軟質。右回転轆轤成形。底部回転系切り後無調整。内底面に墨書。判読不能。
第1279 PL.92	12	須恵器 環	底部 1/4	62IC-Y-25	底径7.8	細砂粒を含む。還元焼成。灰色。やや硬質。器壁は薄い。右回転轆轤成形。底部回転へら削り。
第1279 PL.92	13	須恵器 打明皿	4/5	表様	口径7.8 底径4.8 器高2.4	粗砂粒・輝石を含む。酸化塩気味焼成。明赤褐色。口唇部内面の割落著しい。右回転轆轤成形。底部回転系切り後無調整。口唇部内外面付周縁部で。体部器厚減する。
第1279 PL.92	14	須恵器 埴	1/3	63IC-B-5	口径16.4 底径7.0 器高5.8	粗砂粒を含む。還元焼成。灰色。やや硬質。大振りの埴。直線の間に開く。右回転轆轤成形。底部回転系切り後高台貼付周縁部で。
第1279 PL.92	15	須恵器 埴	1/5	63IC-B-4	口径(14.6) 底径 (6.8) 器高(5.4)	粗砂粒を含む。還元焼成。灰色。やや軟質。口唇部に歪み。あるいは片口の使用もある。右回転轆轤成形。底部回転系切り後高台貼付周縁部で。
第1279 PL.92	16	須恵器 埴	口縁部破片	63IC-C-6	口径(13.8)	細砂粒を含む。還元焼成。黄灰色。硬質。口縁部緩やかに外反する。右回転轆轤成形。
第1279 PL.92	17	須恵器 埴	体部-底部 1/4	63IC-A-4	底径(7.0)	細砂粒を含む。還元焼成。灰黄色。やや軟質。底部やや厚手の器厚。右回転轆轤成形。底部回転系切り後高台貼付周縁部で。体部器厚減する。
第1279 PL.92	18	須恵器 埴	底部破片	63IC-C-7	底径(8.2)	粗砂粒・石英を含む。還元焼成。灰色。硬質。底部器壁は薄い。体部は強く開く。右回転轆轤成形。底部回転系切り後高台貼付周縁部で。全体に端正な造り。
第1279 PL.92	19	須恵器 埴	底部 1/4	覆土	底径(8.0)	粗砂粒を含む。還元焼成。灰白色。やや硬質。右回転轆轤成形。体部はやや強く開き。高台は短い。底部回転系切り後高台貼付周縁部で。
第1279 PL.92	20	須恵器 埴	底部破片	63IC-X-6	底径(7.2)	粗砂粒・石英を含む。還元焼成。黄灰色。硬質。底部器厚やや厚手。右回転轆轤成形。底部回転系切り後高台貼付周縁部で。端正な造り。
第1280 PL.92	21	須恵器 埴	底部のみ	63IC-A-6	底径7.4	粗砂粒・片岩を含む。還元焼成。にぶい黄褐色。内外面黒黒。器壁は薄い。高台は短く、体部の内湾やや強い。右回転轆轤成形後底部回転系切り後高台貼付周縁部で。
第1280 PL.92	22	須恵器 埴	体部下部-底部 1/5	63IC-I-10	底径7.0	細砂粒を含む。還元焼成。灰白色。やや軟質。やや厚手の器厚。内底面に重むき織の痕跡。右回転轆轤成形。底部回転系切り後高台貼付周縁部で。
第1280 PL.92	23	須恵器 埴	底部破片	63IC-E-10	底径6.9	粗砂粒を含む。還元焼成。灰白色。やや軟質。底部器厚やや厚手。右回転轆轤成形。底部回転系切り後高台貼付周縁部で。
第1280 PL.92	24	須恵器 埴	底部破片・体部 破片	63IC-A-4	底径(6.0)	細砂粒を含む。還元焼成。灰褐色。やや軟質。右回転轆轤成形。轆轤目やや強い。高台貼付周縁部で。体部外面に墨書。
第1280 PL.92	25	須恵器 埴	口縁部小破片	63IC-A-4	—	細砂粒を含む。還元焼成。灰白色。内外面黒黒。軟質。外反する口縁部。轆轤成形。外面体部上位に墨書。
第1280 PL.92	26	須恵器 埴	口縁部小破片	63IC-A-4	—	細砂粒を含む。酸化塩気味焼成。灰褐色。内面吸戻して黒色。やや軟質。内面黒色処理。轆轤成形。体部下平か。外面に墨書。判読不能。
第1280 PL.92	27	須恵器 埴	体部小破片	63IC-C-4	—	細砂粒を含む。還元焼成。にぶい黄褐色。体部中位か。轆轤成形。外面に墨書。
第1280 PL.92	28	須恵器 埴	体部小破片	63IC-A-4	—	細砂粒を含む。還元焼成。灰白色。やや軟質。体部下平か。轆轤成形。外面に墨書。
第1280 PL.92	29	須恵器 埴	体部小破片	63IC-A-4	—	細砂粒を含む。還元焼成。灰白色。やや軟質。体部中位か。轆轤成形。外面に墨書。
第1280 PL.92	30	須恵器 埴	体部小破片	63IC-A-4	—	細砂粒を含む。還元焼成。灰白色。やや軟質。体部中位か。轆轤成形。外面に墨書。
第1280 PL.92	31	須恵器 長頸壺	口縁部破片	63IC-A-4	口径(17.7)	粗砂粒・石英を含む。還元焼成。黄灰色。硬質。口縁部端部鋭い。薄手の器厚で、端正な造り。右回転轆轤成形。
第1280 PL.92	32	須恵器 長頸壺	口縁部小破片	63IC-F-3	口径(20.6)	粗砂粒を含む。酸化塩気味焼成。にぶい黄褐色。口径20mm前後か。轆轤成形。口縁部端部の割落著しい。
第1280 PL.92	33	須恵器 壺	口縁部破片	63IC-E-7	—	細砂粒を含む。還元焼成。灰黄色。やや硬質。大型壺か。轆轤成形。器厚やや厚手。
第1280 PL.92	34	須恵器 壺	胴部破片	埋地東	—	粗砂粒・石英を含む。還元焼成。灰色。硬質。厚手の器厚。体部下平か。外面横位で。内面環状当て目残る。
第1280 PL.92	35	須恵器 壺	体部破片	63IC-G-11	—	粗砂粒・石英を含む。還元焼成。灰色。外面には自然輪かか。大型の壺の体部下平。底部近くか。器厚厚手。紐作り。内外面横位・斜位で。内底面指押さえ痕有り。
第1280 PL.92	36	須恵器 壺	胴部破片	63IC-B-14	—	粗砂粒を含む。還元焼成。暗灰色。硬質。器壁はやや薄い。外面平行叩き調整。内面環状当て目残る。
第1280 PL.92	37	須恵器 壺	口縁部破片	63IC-B-10	—	粗砂粒・石英を含む。還元焼成。灰色。大型の壺。口縁部やや内傾し、口頸部は外反する。轆轤成形。
第1280 PL.92	38	須恵器 羽釜	口縁部破片	63IC-G-4	口径(17.0)	粗砂粒・石英を含む。還元焼成。灰白色。外面黒黒有り。口縁部内傾。断面三角形の跨を付す。口縁部内外面横位で。体部外面は横位へら削り。
第1280 PL.92	39	須恵器 羽釜	口縁部破片	20住覆土	口径(16.8)	粗砂粒を含む。酸化塩気味焼成。にぶい黄褐色。内外面黒黒有り。口縁部僅かに内傾。断面三角形の跨を付す。口縁部内外面横位で。体部外面横位へら削り。

挿 頭 PL.No.	No.	器種 器形	現 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第12896 PL.93	40	須恵器 羽釜	口縁部破片	窪地南表採	口径24.0	粗砂粒・小礫・輝石を含む。酸化焙焼成。褐色。スス面あり。これに対応して内面薄肉加工。口縁部内傾。鈎はやや縦身で断面三角形。回転軸成り後閉付。ゴリ型か。
第12900 PL.93	41	灰輪陶器 皿	口縁部 1/3欠損	63IXNo612	口径13.4 底径5.5 器高2.7	緻密な胎土。還元焙焼成。灰白色。口縁部歪み。右回転軸成り。体部回転へら削り調整。高台貼付周縁部で、胎軸は漬け掛け。光が丘1号窯式。
第12900 PL.93	42	灰輪陶器 碗	口縁部～底部破片	63IXE-6	口径(13.0) 底径(7.0) 器高3.4	緻密な胎土。還元焙焼成。褐色。口料部は僅かに外反し。体部は僅かに内湾する。軸成り後高台貼付。胎軸は漬け掛け。大原2号窯式。
第12900 PL.93	43	灰輪陶器 碗	口縁部破片	62IXE-6	口径(15.6)	緻密な胎土。還元焙焼成。褐色。口料部強く外反し。体部内湾する。右回転軸成り。体部下は回転へら削り調整。胎軸は漬け掛け。大原2号窯式。
第12900 PL.93	44	灰輪陶器 皿	体部下部～底部	63IXE-10	底径8.6	緻密な胎土。還元焙焼成。灰白色。やや大振りの碗。右回転軸成り。体部回転へら削り調整。高台貼付周縁部で。胎軸は漬け掛け。内底面に重ねたぎの別個体高台が残存。大原2号窯式。
第12900 PL.93	45	土師器 費	口縁部小破片	63IXC-11	口径(19.0)	細砂粒・輝石を含む。酸化焙焼成。にぶい褐色。「コ」字状口縁。口縁部外傾し、口頸部はやや内傾気味に直立する。口縁部内外面とも横位で。
第12900 PL.93	46	土師器 費	口縁部一部1/5	63IXA-4	口径(18.0)	細砂粒・輝石を含む。酸化焙焼成。にぶい赤褐色。外面頸部ススなし。胴部薄イス。口縁内外面一部スス。胴部コゴレ。「コ」字状口縁。口縁部外反気味に開く。下位は短く直立。口縁部内外面横位で。体部外面は胴部横位へら削り、中位は縦位へら削り。体部内面は横位へら削り。
第12900 PL.93	47	土師器 費	口縁部破片	63IXE-4	口径(18.0)	細砂粒・輝石を含む。酸化焙焼成。褐色。外面薄イス。内面コゴなし。「コ」字状口縁。口縁部外傾。下位は短く直立する。口縁部内外面横位で。胴部外面横位へら削り。内面は横位へら削り。
第12900 PL.93	48	土師器 費	口縁部破片	63IXE-4	口径(18.5)	細砂粒・輝石を含む。酸化焙焼成。褐色。外面頸部に薄イス。内面頸部以下薄いゴレ。「コ」字状口縁。口縁部外傾。下位は直立する。口縁部内外面横位で。胴部横位へら削り。内面は横位へら削り。
第12900 PL.93	49	土師器 費	口縁部破片	63IXE-12	口径(10.8)	粗砂粒・輝石を含む。酸化焙焼成。にぶい褐色。外面全体に薄イス。内面胴部以下、口縁部に薄いコゴ付着。小型で器壁の厚い「コ」字状口縁。口縁部は外反気味に直立する。器厚はやや厚手。口縁部内外面横位で。胴部外面横位へら削り。内面横位へら削り。
第12900 PL.93	50	土師器 費	底部破片	63IXE-9	底径(3.0)	粗砂粒・褐色粒・輝石を含む。酸化焙焼成。にぶい赤褐色。底部外面は縦位へら削り後横位へら削り。内面は縦位へら削り。外底面も底部へら削り調整。
第12900 PL.93	51	土師器 費	底部破片	63IXE-12	底径(3.6)	粗砂粒・石英少を含む。酸化焙焼成。にぶい褐色。外面は縦位・斜位へら削り。内面は斜位へら削り。外底面はへら削りにより凹凸。
第12900 PL.93	52	土師器 費	底部破片	63IXE-10	底径(5.0)	粗砂粒を含む。酸化焙焼成。にぶい褐色。やや厚手の器壁を呈す。外面は縦位・斜位へら削り。内面は横位・斜位へら削り。外底面もへら削りを施す。
第12900 PL.93	53	土師器 台付費	脚部 1/3	63IXE-G-5	底径(9.0)	粗砂粒を含む。酸化焙焼成。にぶい赤褐色。外面縦熱成なし。内底部コゴ・ゴリなし。台部は短く外反気味に開く。接合部～胴部横位で。体部内面斜位で。台部内面は横位で。
第12900 PL.93	54	土師器 台付費	台部 1/4	63IXD-10	底径(10.4)	粗砂粒・輝石を含む。酸化焙焼成。にぶい褐色。短脚の台部で強く開く。内外面・接合部とも横位で。
第12900 PL.93	55	土師器 台付費	底部破片	63IXE-3	—	粗砂粒・輝石を含む。酸化焙焼成。赤褐色。裾欠損。体部外面は縦位へら削り後接合部横位で。内面は縦位・横位で。
第12900 PL.93	56	鉄滓	破片	63IXA-4	長 7.7 厚 3.3 幅 5.5	円形滓の四分割品か。破断面あり。重量170.1g。
第12900 PL.93	57	鉄滓	半割片	63IXA-3	長 7.8 厚 3.6 幅 5.2	円形碗状滓の半割品。底面は砂粒が付着し、容器の形状をとどめる。破断面あり。重量192.6g。
第12900 PL.93	58	鉄滓	半割片	62IXE-6	長 5.8 厚 2.3 幅 3.6	円形碗状滓の半割品。破断面あり。袋が埋着する。重量93.6g。
第12900 PL.93	59	鉄滓	破片	63IXA-4	長 7.4 厚 2.7 幅 6.8	容器ない、形が一部付着。重量141.4g。
第12900 PL.93	60	鉄製品	破片	63IXA-4	長 4.8 厚 0.5 幅 4.6	板状素材の破片か。強く埋着する。重量22.5g。

## 中世以後

## 野口茂四郎氏居宅跡

挿 頭 PL.No.	No.	器種 器形	現 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第13690 PL.100	1	染付 碗	口縁部～高台部 70%	野口氏居宅跡	口径(11.4) 底径4.5 器高5.7	硬質。胎土灰白色。型紙摺。見込みに松竹梅。瀬戸美濃系。近代。
第13690 PL.100	2	染付 碗	口縁部～高台部 50%	野口氏居宅跡 西小屋周辺	口径(11.0) 底径(4.0) 器高4.9	硬質。胎土灰白色。型紙摺。瀬戸美濃系。近代。
第13690 PL.100	3	染付 碗	口縁部～高台部 60%	野口氏居宅跡	口径(11.0) 底径(4.0) 器高5.2	硬質。胎土灰白色。型紙摺。見込みに松竹梅。瀬戸美濃系。近代。
第13690 PL.100	4	染付 碗	口縁部～胴部 40%	野口氏居宅跡	口径(10.4) 器高(4.4)	硬質。胎土灰白色。瀬戸美濃系か。近代以降。
第13690 PL.100	5	染付 碗	口縁部～胴部 30%	野口氏居宅跡	口径(9.2) 器高(1.2)	硬質。胎土灰白色。端反碗。口紅。瀬戸美濃系。近代。
第13690 PL.100	6	染付 器	胴を欠く 20%	野口氏居宅跡	口径(11.0) 器高(4.1)	硬質。胎土灰白色。蓋付碗の蓋か。瀬戸美濃系。近代以降。
第13690 PL.100	7	染付 小杯	口縁部～胴部 40%	野口氏居宅跡	口径(8.4) 器高(4.0)	硬質。胎土灰白色。端反小碗。口紅。瀬戸美濃系。近代。

遺物観察表

挿 頭 PL.No.	No.	器種 器形	現 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第13698 PL.100	8	染付 碗	口縁部～高台部 70%	野口氏居宅跡	口径(11.4) 底径4.7 器高5.8	硬質。胎土灰白色。一部、銅版転写。外面に3か所「福」、松竹梅文。瀬戸美濃系。近代以降。
第13698 PL.100	9	染付 蓋付鉢?	胴部片	野口氏居宅跡	器高4.5	硬質。胎土灰白色。段重。蓋付鉢の身か。口縁端部輪割ぎ。肥前系。19世紀。
第13698 PL.100	10	染付 碗	口縁部～高台部 70%	野口氏居宅跡	口径(7.9) 底径(3.3) 器高5.0	硬質。胎土灰白色。外面に矢羽文。見込みに路あり。漆黒。肥前系。18世紀後～19世紀前。
第13698 PL.100	11	染付 碗	口縁部～高台部 50%	野口氏居宅跡	口径(10.8) 底径4.0 器高5.5	硬質。胎土灰白色。端反碗。瀬戸美濃系か。19世紀。
第13698 PL.100	12	染付 碗	口縁部～胴部 50%	野口氏居宅跡	口径(7.8) 器高(4.3)	硬質。胎土灰白色。小丸碗。肥前系。18世紀後～19世紀前。
第13698 PL.100	13	染付 碗	口縁部～胴部片	野口氏居宅跡	口径(7.9) 器高(3.8)	硬質。胎土灰白色。小丸碗。虫亀文。肥前系。18世紀後～19世紀前。
第13698 PL.100	14	染付 小皿	完形	野口氏居宅跡	口径6.6 底径2.8 器高4.4	硬質。胎土灰白色。端反碗。銅版転写。外面に「雪月花」。生産地不詳。近代以降。
第13698 PL.100	15	染付 小皿	口縁部～高台部 70%	野口氏居宅跡	口径6.6 底径2.8 器高4.6	硬質。胎土灰白色。蕎麦猪口。または南天と蕨の図。「萩」。49と同形。生産地不詳。近代以降。
第13698 PL.100	16	染付 碗	口縁部～高台部 70%	野口氏居宅跡	口径6.8 底径2.6 器高4.1	硬質。胎土灰白色。端反碗。瀬戸美濃系。近代以降。
第13698 PL.100	17	染付 碗	口縁部～高台部 50%	野口氏居宅跡	口径5.4 底径3.5 器高5.9	硬質。胎土灰白色。筒形湯呑。高台内路あり。瀬戸美濃系。近代以降。
第13698 PL.100	18	染付 碗	胴部～高台部 40%	野口氏居宅跡	底径(3.6) 器高(4.5)	硬質。胎土灰白色。筒形湯呑。外面に竜鱗輪。高台内路あり。瀬戸美濃系。近代以降。
第13698 PL.100	19	染付 皿	胴部～底部 40%	野口氏居宅跡	底径(2.8) 器高(2.5)	硬質。胎土灰白色。瀬戸美濃系か。近代以降。
第13698 PL.100	20	染付 皿	胴部～高台部片	野口氏居宅跡	底径(4.7) 器高(3.0)	硬質。胎土灰白色。肥前系。18世紀後～19世紀中。
第13698 PL.100	21	染付 猪口	胴部～高台部片	野口氏居宅跡	底径(5.0) 器高(3.2)	硬質。胎土灰白色。肥前系。18世紀。
第13698 PL.100	22	染付 小杯	口縁部欠損	野口氏居宅跡	口径7.3 底径3.3 器高2.6	硬質。胎土灰白色。瀬戸美濃系。近世以降。
第13698 PL.100	23	染付 蓋	蓋～口縁部 40%	野口氏居宅跡	口径(9.6) 底径 (4.0) 器高(3.0)	硬質。胎土灰白色。蓋の蓋。外面に「福寺」。瀬戸美濃系。19世紀前～中。
第13698 PL.100	24	染付 小皿	完形	野口氏居宅跡	口径8.6 底径2.9 器高2.8	硬質。胎土灰白色。型紙摺。生産地不詳。近代。
第13698 PL.100	25	染付 小杯	口縁部欠損	野口氏居宅跡	口径6.2 底径2.2 器高2.3	硬質。胎土灰白色。外面に「林」の文字3か所。生産地不詳。近代以降。
第13698 PL.100	26	染付 小杯	完形	野口氏居宅跡	口径4.2 底径1.6 器高1.8	硬質。胎土灰白色。紅猪口。花蝶・「寒製村」短冊。生産地不詳。近代以降。
第13698 PL.100	27	染付 盃	完形	野口氏居宅跡	口径5.2 底径1.8 器高2.7	硬質。胎土灰白色。端反の盃。竜鱗輪。白抜きで「門」「風」「漢」。生産地不詳。近代以降。
第13698 PL.100	28	染付 小杯	口縁部～体部 20%	野口氏居宅跡	口径(6.5)	硬質。胎土灰白色。端反の小杯。外面に桜花。生産地不詳。近代以降。
第13698 PL.100	29	染付 皿	口縁部～高台部 40%	野口氏居宅跡	口径(10.6) 底径(5.8) 器高2.3	硬質。胎土灰白色。内面に松、波。屋形輪。生産地不詳。近代以降。
第13698 PL.100	30	染付 皿	口縁部～高台部	野口氏居宅跡	口径(10.6) 底径(5.8) 器高2.3	硬質。胎土灰白色。内面に松。生産地不詳。近代以降。
第13698 PL.100	31	染付 鉢	口縁部～高台部 80%	野口氏居宅跡 西小皿	口径16.4 底径8.4 器高8.1	硬質。胎土灰白色。型打成形による八角形の端反鉢。漆黒。肥前系。18世紀～19世紀前。
第13698 PL.100	32	染付 鉢	口縁部～高台部 40%	野口氏居宅跡	口径(14.8) 底径(9.0) 器高4.2	硬質。胎土灰白色。輪花皿。蛇ノ目四角高台。型紙摺。見込みに松竹梅。瀬戸美濃系か。近代。
第13698 PL.100	33	染付 皿	胴部～高台部 40%	野口氏居宅跡 石垣下	底径7.2 器高(1.6)	硬質。胎土灰白色。蛇ノ目四角高台。型紙摺。見込みに松竹梅。瀬戸美濃系。近代。
第13798 PL.101	34	染付 鉢	口縁部～高台部 40%	野口氏居宅跡	口径(7.4) 底径(4.2)	硬質。胎土灰白色。型打成形。口縁部注口口に波状を呈す。方形状の胎付2か所か。肥前系。近世以降。
第13798 PL.101	35	染付 段重	口縁部～高台部 30%	野口氏居宅跡	器高5.3	硬質。胎土灰白色。段重の身。生産地不詳。近代以降。
第13798 PL.101	36	染付 蓋付鉢	蓋を欠く30%	野口氏居宅跡	最大径(10.0) 器高(2.4)	硬質。胎土灰白色。蓋付鉢の蓋。外面に草花文。肥前系。19世紀か。
第13798 PL.101	37	染付 蓋	蓋～口縁部 40%	野口氏居宅跡	口径(6.2) 器高1.9	硬質。胎土灰白色。宝珠形輪。上面に草花か。近代以降。
第13798 PL.101	38	染付 火鉢	口縁部片	野口氏居宅跡 西小皿	器高<11.4>	硬質。胎土灰白色。銅版転写か。生産地不詳。近代以降。
第13798 PL.101	39	染付 皿	底部～高台部 20%	野口氏居宅跡	底径(5.4) 器高(0.7)	硬質。胎土灰白色。内面に松・「野」。生産地不詳。近代以降。
第13798 PL.101	40	染付 皿	口縁部 30%	野口氏居宅跡	口径(10.8) 器高(2.0)	硬質。胎土灰白色。内面に松・「野」。生産地不詳。近代以降。
第13798 PL.101	41	染付 碗	口縁部～体部 20%	野口氏居宅跡	口径(6.4) 器高(3.5)	硬質。胎土灰白色。端反碗。外面に松・船?・波・「野口」。生産地不詳。近代以降。
第13798 PL.101	42	色絵 碗	口縁部一部欠損	野口氏居宅跡 西小皿	口径7.8 底径3.2 器高4.9	硬質。胎土灰白色。口紅。高台内「九谷」の路あり。生産地不詳。近代以降。
第13798 PL.101	43	染付 皿 または鉢	底部～高台部破片	野口氏居宅跡	器高(0.8)	硬質。胎土灰白色。内面に「寿」、外面に「野口」。生産地不詳。

挿 図 PL.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第13790 PL.101	44	青磁 小碗	口縁部欠損	野口氏住宅跡 西小屋	口径8.0 底径3.2 器高4.2	硬質。胎土灰白色。外面に彫刻による文様。近世。
第13790 PL.101	45	染付 皿か	底部破片	野口氏住宅跡	底径(4.8)	硬質。胎土灰白色。内面に「口」。生産地不詳。近代以後。
第13790 PL.101	46	色絵 碗	口縁部～高台部 40%	野口氏住宅跡	口径(12.0) 底径4.0 器高4.8	硬質。胎土灰白色。色絵印刷。緑色・紺で葉二種。生産地不詳。近代以後。
第13790 PL.101	47	染付 皿か	底部破片	野口氏住宅跡	器高(0.7)	硬質。胎土灰白色。内面に「口」。生産地不詳。近代以後。
第13790 PL.101	48	色絵 小碗	口縁部～高台部 70%	野口氏住宅跡	口径6.4 底径3.0 器高4.4	硬質。胎土灰白色。端反碗。瀬戸美濃系か。近代以降。
第13790 PL.101	49	染付 碗	口縁部～高台部 70%	野口氏住宅跡	口径6.3 底径2.8 器高4.7	硬質。胎土灰白色。外面に「萩原太」。生産地不詳。15と同形。近代以降。
第13790 PL.101	50	磁器 碗	胴部～高台部 50%	野口氏住宅跡	底径(3.0) 器高(3.2)	硬質。胎土灰白色。生産地不詳。近代以降。
第13790 PL.101	51	色絵 皿	口縁部片	野口氏住宅跡	—	硬質。胎土灰白色。輪花皿。口紅。生産地不詳。近世以降。
第13790 PL.101	52	磁器 碗	口縁部～高台部 50%	野口氏住宅跡	口径6.7 底径4.4 器高3.2	硬質。胎土灰白色。端反碗。刷毛転写。生産地不詳。近代以降。
第13790 PL.101	53	色絵 小碗	口縁部片	野口氏住宅跡	口径(6.6) 器高(2.4)	硬質。胎土灰白色。端反碗。瀬戸美濃系か。近代以降。
第13790 PL.101	54	色絵 地利	底部破片	野口氏住宅跡	底径(6.0) 器高(2.9)	硬質。胎土灰白色。外面底部赤絵やや幅広の横線と縦斜線。幅広横線1条、 縦横線4条。底部外面黒書。生産地不詳。近代以降。
第13790 PL.101	55	陶器 香炉	完形	野口氏住宅跡 西小屋	口径7.9 底径5.6 器高4.3	やや硬質。胎土灰白色。口縁部外面は書文の印刷。3か所彫が付く。口縁 端部欠損。灰落として使用か。底部外面黒書。瀬戸美濃系か。近世以降。
第13790 PL.101	56	陶器 碗	胴部～高台部 50%	野口氏住宅跡 西小屋	底径(4.3) 器高(4.4)	やや硬質。胎土灰白色。磨漆茶碗。瀬戸美濃系。19世紀前～中。
第13790 PL.101	57	陶器 碗	胴部～高台部 50%	野口氏住宅跡 石垣下	底径(4.6) 器高(5.0)	やや硬質。胎土灰白色。尾呂茶碗か丸碗。瀬戸美濃系。近世。
第13790 PL.101	58	陶器 碗	胴部～高台部片	野口氏住宅跡	底径(4.0) 器高(3.6)	やや硬質。胎土灰白色。鉄絵。生産地不詳。近代以降。
第13790 PL.101	59	陶器 碗	高台部	野口氏住宅跡	底径5.0 器高(2.3)	やや硬質。胎土灰白色。呉器手輪高台部周辺を打ち欠き、円盤状に形成。 肥前系。17世紀半～18世紀。
第13790 PL.101	60	陶器 灯火受皿	口縁部一部欠損	野口氏住宅跡	口径6.7 底径3.4 器高1.5	やや硬質。胎土黄灰色。外面に重ね焼き時の痕跡を残す。瀬戸美濃系。
第13790 PL.101	61	陶器 灯火受皿	口縁部～底部 40%	野口氏住宅跡 1号石垣	口径(10.8) 底径 (5.0) 器高(1.9)	やや硬質。胎土黄灰色。外面に重ね焼き時の痕跡を残す。瀬戸美濃系。近世。
第13790 PL.101	62	陶器 灯火皿	完形	野口氏住宅跡 西小屋	口径7.2 底径3.8 器高1.8	やや硬質。胎土灰白色。口縁部に油煙を残す。見込みに重ね焼き時の痕跡 あり。瀬戸美濃系。
第13790 PL.101	63	陶器 灯火皿	口縁部～底部 40%	野口氏住宅跡 西小屋	口径(10.2) 底径(3.6) 器高2.2	やや硬質。胎土灰白色。口縁部に油煙を残す。見込みに目尻1か所。京・ 信楽系。近世以降。
第13800 PL.101	64	陶器 土壺	胴部～底部 60%	野口氏住宅跡	底径(4.1) 器高(2.8)	やや硬質。胎土灰白色。瀬戸美濃系。連房8・9か。
第13800 PL.101	65	陶器 すり鉢	胴部～底部	野口氏住宅跡	底径(14.8) 器高(5.6)	やや硬質。胎土灰白色。内面及び底部外面に使用痕跡顯著。瀬戸。近世。
第13800 PL.101	66	陶器 すり鉢	胴部～底部片	野口氏住宅跡	底径(10.9) 器高(4.0)	やや硬質。胎土浅黄褐色。内面及び底部外面に使用痕跡。瀬戸。近世。
第13800 PL.101	67	陶器 片口	口縁部～体部 注口部破片	野口氏住宅跡 石垣下	器高(5.8)	やや硬質。胎土にぶい黄褐色。灰色釉。生産地不詳。近代以後。
第13800 PL.101	68	陶器 土壺	胴部～高台部片	野口氏住宅跡 西小屋	底径(14.0) 器高(5.5)	硬質。胎土灰白色。瀬戸美濃系。近世以降。
第13800 PL.101	69	陶器 地利	胴部～底部 60%	野口氏住宅跡	底径7.8 器高(11.3)	硬質。胎土黄褐色。瀬戸美濃系。近世以降。
第13800 PL.101	70	在地上器 蓋	口縁部～底部 60%	野口氏住宅跡 西小屋	口径9.4 底径4.6 器高2.0	やや軟質。胎土浅灰色在地上器 輪縁成形。落し込み型の蓋。近世以後。
第13800 PL.101	71	在地上器 内耳瓶	口縁部破片	野口氏住宅跡	器高(4.4)	やや軟質。胎土細砂粒を含む。黒褐色。在地上器。中世。
第13800 PL.102	72	ガラス器 目薬瓶	体部 上部欠損	野口氏住宅跡 西小屋	底径2.2 器高(3.6)	紺色丸瓶。側面に縦書き「邑田 資生堂 目薬 一方水」。近代以後。
第13800 PL.102	73	ガラス器 瓶	完形	野口氏住宅跡 西小屋	口径2.1 底径3.2 器高4.9	コバルトブルー。丸瓶。近代以後。
第13800 PL.102	74	ガラス器 薬瓶	完形	野口氏住宅跡	口径1.6 底径2.4× 2.4 器高5.9	ブルー。角瓶。側面に目盛り付き。近代以後。
第13800 PL.102	75	ガラス器 薬瓶	完形	野口氏住宅跡 西小屋	口径1.5 底径2.2× 1.5 器高6.3	紺色。平角瓶。側面に縦書き「精神薬」。近代以後。
第13800 PL.102	76	ガラス器 瓶	完形	野口氏住宅跡	口径1.4 底径2.8× 1.8 器高6.6	紺色。平角瓶。近代以後。
第13800 PL.102	77	ガラス器 瓶	完形	野口氏住宅跡 西小屋	口径2.2 底径3.6 器高4.7	薄い緑。丸瓶。インク瓶か。近代以後。
第13800 PL.102	78	ガラス器 薬瓶	完形	野口氏住宅跡	口径1.4 底径2.6× 1.5 器高6.7	透明。平角瓶。2箇面に縦書き「一生堂」精神薬。近代以後。
第13800 PL.102	79	ガラス器 瓶	完形	野口氏住宅跡 西小屋	口径1.6 底径2.0 器高5.4	透明。丸瓶。底面に「A」。近代以後。



遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第1389号 PL-102	80	ガラス器 瓶	完形	野口氏居宅跡 西小屋	口径2.5 底径7.8× 4.0 器高18.0	薄い青。平角瓶。近代以後。
第1389号 PL-102	81	ガラス器 瓶	口径部欠 体部ほぼ完形	野口氏居宅跡 西小屋	底径5.6×2.7 器高 (12.9)	透明。平角瓶。近代以後。
第1389号 PL-102	82	ガラス器 瓶	口径部～胴部破 片	野口氏居宅跡 西小屋	口径2.6 胴径6.6 器高(4.4)	薄い緑。丸瓶。近代以後。
第1389号 PL-102	83	ガラス器 瓶	体部 上部欠損	野口氏居宅跡 西小屋	底径5.0 器高(14.6)	透明。丸瓶。胴部に横書き「チュウサイダ」。底部に横書き「山梨清涼飲料株式会社謹製」。近代以後。
第1389号 PL-102	84	ガラス器 瓶	口径部～胴部1/4	野口氏居宅跡 西小屋	口径2.2 器高(21.4)	薄い青。丸瓶。近代以後。
第1390号 PL-102	85	鉄製品 鋸	完形	野口氏居宅跡	全長57.0 刃渡37.0	首長6.0、込み長14.0。刃先幅5.0、刃元幅6.3、刃部厚0.1-0.2、首厚0.4、込み厚0.2mm。片刃。美目。近代以後。
第1390号 PL-102	86	鉄製品 鎌か	完形	野口氏居宅跡	長(26.0) 刃渡16.8 幅4.3 背厚0.2 茎厚0.4-.025	錆びのため刃部が確認できないが、着柄角が鈍角であるため鋸鎌状の形態が想定される。近代以後。
第1390号 PL-102	87	鉄製品 鉄錘	耳部、底部破片	野口氏居宅跡	耳基部幅9.0 耳高さ3.9 底部高さ(3.7)	鋳鉄製。耳は平円を重ねた山形に作り、3孔を穿つ。口縁は外側に小さな跨状に肥厚する。体部は底部から50°ほどの角度で立ち上がる。近世以後。
第1390号 PL-102	88	金属製品 不明	完形	野口氏居宅跡	厚さ1mmほどの金属板を丸めた筒状品。同厚の銅板による小さな跨が付く。底部は銅板をかぶせ合せて蓋とするが、中央には径2mmの円孔が開く。仏器の一部かと思われるが、用途不明。近代以後。	
第1390号 PL-102	89	金属製品 蓋	ほぼ完形	野口氏居宅跡	径(10.8) 横部上 までの高さ(2.75)	鉄地銅刷り。劣化が著しい。銅部表面は緑青に覆われる。打ち出して蓋状に成型し、宝珠縁輪まみをつける。灯籠などの蓋にあたるかと思われるが、用途不明。近代以後。
第1390号 PL-102	90	金属製品 つまみ	完形	野口氏居宅跡	径1.5 球部高さ1.3 脚部高さ0.3	銀または銅か。菊花状の装飾を施した中空の半球状品を上下から合わせて球形とする。仏器等の一部かと思われるが、用途不明。近代以後。
第1390号 PL-102	91	金属製品 不明装飾 具	破片	野口氏居宅跡	長(1.0) 幅(0.85) 厚(0.5)	薄い金属板で小球を作っている。何らかの装飾に用いられたかと思われるが、用途不明。近代以後。
第1390号 PL-103	92	鉄製品 銭貨	完形	野口氏居宅跡	径2.42 厚0.1 重 2.3 孔0.75×0.7	北条銭。聖徳元寶(1101年)。
第1390号 PL-103	93	鉄製品 銭貨	完形	野口氏居宅跡	径2.30 厚0.09 重 2.8 孔0.62×0.58	寛永通寶
第1390号 PL-103	94	鉄製品 銭貨	完形	野口氏居宅跡	径2.34 厚0.11 重 2.8 孔0.60×0.60	寛永通寶
第1390号 PL-103	95	鉄製品 銭貨	完形	野口氏居宅跡	径2.4 厚0.11 重 2.9 孔0.60×0.60	寛永通寶
第1390号 PL-103	96	鉄製品 銭貨	完形	野口氏居宅跡	径1.58 厚0.13 重0.7	一銭
第1400号 PL-103	97	木製品 漆検査	ほぼ完形	野口氏居宅跡	径13.0 高台径6.0 器高2.2	黒漆塗り機の蓋。文様なし。近代以後。
第1400号 PL-103	98	木製品 漆検査	1/2	野口氏居宅跡	径(10) 高台径(5) 器高2.7	黒漆塗り機の蓋。高台内および外面三方に朱漆で浪酒紋。近代以後。
PL-103	99	木製品 下駄	台部ほぼ完形	野口氏居宅跡 西小屋	長21.2 幅7.2	踵厚4.2、中厚0.85、爪先2.0、鼻緒穴径0.8cm。榎製の「のめり」下駄。右足、鼻緒なし。近代以後。
PL-103	100	木製品 スコップ	台部、刃部	野口氏居宅跡	全長52.2 柄長 (22.0) 柄幅3.3 台部幅11.4	木台に鉄製刃部をかぶせる。刃部幅13.3、刃部長6.8、刃部厚1.8cm。近代以後。
PL-103	101	木製品 曲物	底部欠	野口氏居宅跡	高5.1 径(11.0)	曲げ物の舞板。縦方向に2条に横皮で締める。内面に横皮を伸ばした輪を縦じつける。
PL-103	102	木製品 曲物	完形	野口氏居宅跡	径10.8 厚1.5	底板。黒色塗彩。近代以後。
PL-103	103	木製品 曲物	完形	野口氏居宅跡	径10.7-11.3 厚1.3	底板。近代以後。
第1400号 PL-103	104	木製品 桶	完形	野口氏居宅跡 西小屋	口径87.1 底径7.7 器高82.6 厚2.8	外側幅11、内側幅10.2、長さ82mmほどの杉板12枚を上中下三か所の竹釘で留め、竹の楯で締める。楯は取り上げ時に失われている。側板には補修痕があり、理め木の後部状の樹脂を塗っている。底板がない状態で設置されていたが、内面には底板の痕跡がある。近代以後。
第1400号 PL-103	105	木製品 板	ほぼ完形	野口氏居宅跡 西小屋	長112.0 上端幅5.1 上端厚2.7 下端幅 3.8 下端厚2.3	角材。近代以後。
第1400号 PL-103	106	木製品 丸棒	ほぼ完形	野口氏居宅跡 西小屋	長122.5 上端径4.3 下端径3.5	芯持ちの丸棒。上部に丸釘跡あり。近代以後。
第1410号 PL-104	107	石製品 礎	基部破片	野口氏居宅跡 西小屋	長(4.5) 幅5.9 厚(0.9)	海面上部の破片で底部を欠く。灰白色。波止部横方向に強い磨痕。近代以後。
第1410号 PL-104	108	石製品 礎	基部破片	野口氏居宅跡 南石垣盛り上	長(7.6) 幅6.2 厚(2.2)	海面上部の破片で基部底部を欠く。灰白色。波止部縦方向の磨痕。底面に「吉田」刻字。近代以後。
第1410号 PL-104	109	石製品 礎石	半折片	野口氏居宅跡 西小屋	長(6.6) 幅3.5 厚1.4	淡灰黄色。中砥～仕上げ砥。近代以後。
第1410号 PL-104	110	石製品 礎石	半折片	野口氏居宅跡 抜け穴24	長(7.3) 幅3.4～ 3.1 厚1.5～2.1	灰白色。中砥。斜め方向に磨痕目立つ。近代以後。
第1410号 PL-104	111	石製品	完形	野口氏居宅跡	径4.3 厚1.5	軽石製の円盤。用途不明。近代以後。

種 別 PL.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第1418回 PL.104	112	石製品 石臼	1/2	野口氏居宅跡 1号石垣	径(27.0) 厚12.4	安山岩。上臼。軸受穴は1辺3.5cmの隅丸方形状。側面に幅4.0cm、高さ3cmの方形引手穴。溝は6分画で周縁を持たずに外縁に達する。物配り溝端部あり。近代以後。
第1418回 PL.104	113	石製品 石臼	完形	野口氏居宅跡	径49.6 厚11.5	水車用石臼の上臼。上部に18×18.3cmの方形の突出部を設け、動力部と連結したものである。上面に幅広く擦痕が廻る。物入穴径5.3cm。側面に把手溝2か所と引手穴。断面は中央が緩やかに窪み、内面中央に方形の座を持った軸受穴が設けられる。溝は6分画で周縁を持たずに端部に達する。一部目立て直しの間に分画線をずらしている。周縁を持たずに端部に達する。物配り溝が長く伸びる。近代以後。

## 礎石建物

種 別 PL.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第1438回 PL.107	1	鉄製品 鎌	ほぼ完形	礎石建物 覆土	長16.4 最大幅3.5 背厚0.4	身幅の広い鎌。茎端に凹孔あり。近代以後。

## 171号土坑

種 別 PL.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第1458回 PL.109	1	鉄製品 鉋具	2/3	覆土	長さ2.4 幅(3.2) 太0.5	丸棒で心葉形の枠を作り、ほぼ同じ大きさの針を付す。近代以後。

## 遺構外出土遺物

種 別 PL.No.	No.	器種 器形	残 存	出土位置	法量(cm)	胎土、焼成、色調、成・整形の特徴等
第148回 PL.104	1	青磁 碗	口縁部片	63区F-2	口径(6.9)	胎土は緻密で微量の白色粒を含む。オリープ灰色。外面に編連弁文。胎軸は内外面に及ぶ。器面に貫入を見る。龍泉窯か。13世紀か。
第148回 PL.104	2	青磁 碗	口縁部片	63区C-4	—	胎土は緻密で微量の白色粒を含む。オリープ灰色。外面に編連弁文。胎軸は内外面に及ぶ。龍泉窯か。13世紀か。
第148回 PL.104	3	鉄製品 釘	頭部破片	63区B-7	長(3.0) 頭部1.3× 1.0 端部太(0.3)	平頭の角釘。近世か。
第148回 PL.104	4	鉄製品 火打金	ほぼ完形	63区C-3	幅6.0 長2.1 端部 厚0.4 重9.7	三角形。近世か。
第148回 PL.104	5	鉄製品 鉄片	端部破片	63区F-12	長(4.2) 幅3.5 厚 0.9	隅丸長方形。用途不明。
第148回 PL.104	6	鉄製品 皿	1/3	63区Y-14	径(10.6) 高台径 4.8 高1.5	仏器か。



# 写真図版



縄文・弥生時代の遺構と遺物  
 竪穴建物



1. 19号住居全景(南東から)



2. 19号住居土層断面A-A' (南東から)



3. 19号住居土層断面B-B' (南西から)



4. 19号住居遺物出土状況(南東から)



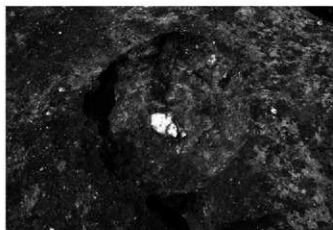
5. 19号住居遺物出土状況(南西から)



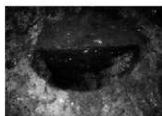
1. 炉土層断面(南東から)



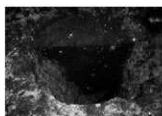
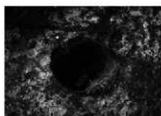
2. 炉全景(東から)



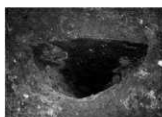
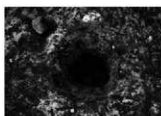
3. 炉掘方全景(東から)



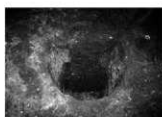
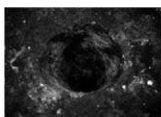
4. ビット1土層断面(南から)



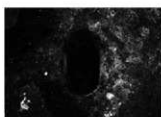
6. ビット2土層断面(北東から)



8. ビット3土層断面(南から)



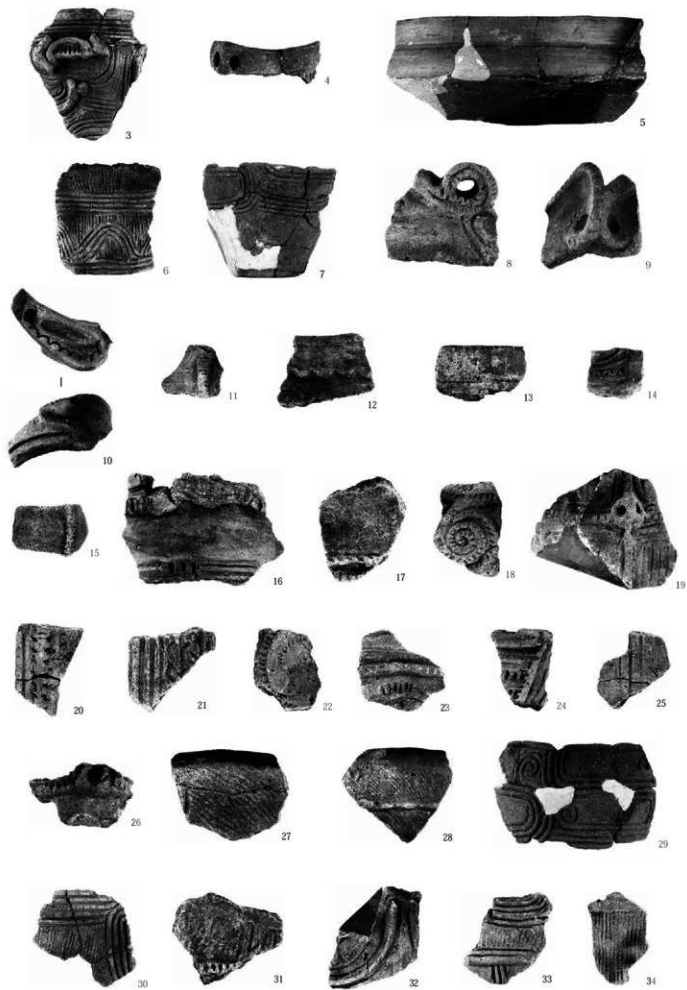
10. ビット4土層断面(西から)



2 a

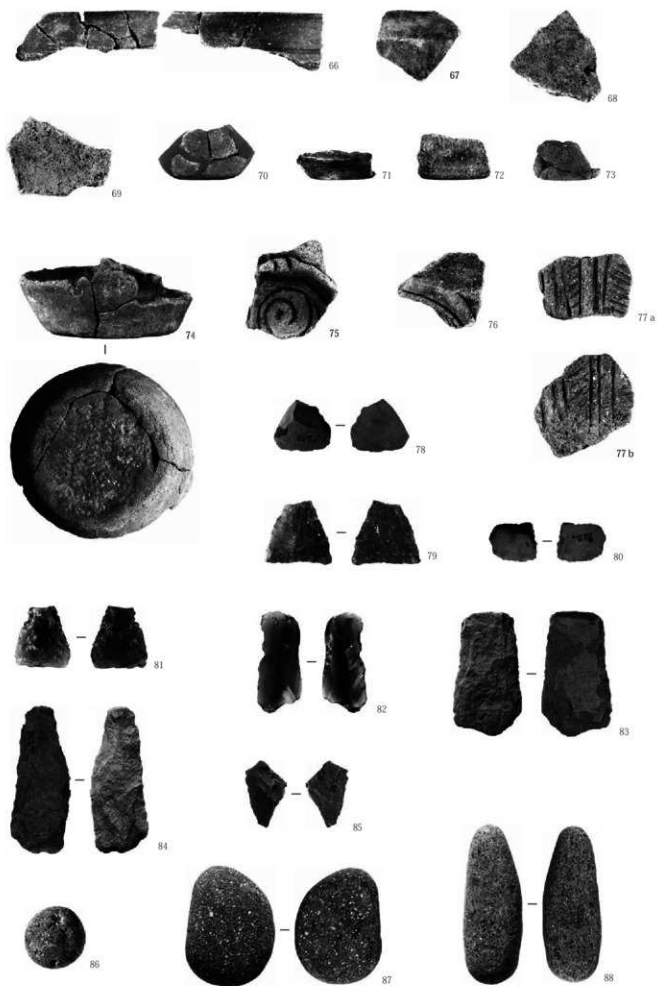


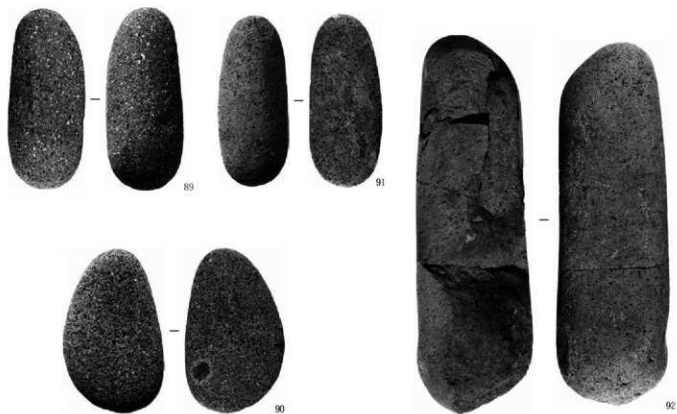
2 b











1. 19号住居出土遺物(5)



2. 20号住居全景(南東から)



1. 20号住居土層断面A-A' (南東から)



2. 20号住居土層断面B-B' (南西から)



3. 20号住居遺物出土状況(南東から)



4. 20号住居土層断面(南東から)



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14

5. 20号住居出土遺物(1)





1. 21号住居全景(南から)



2. 21号住居土層断面A-A' (北西から)



3. 21号住居土層断面B-B' (南西から)



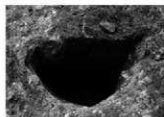
4. 21号住居遺物出土状況(南から)



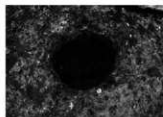
5. 21号住居炉土層確認状況(東から)



1. 炉全景(南から)



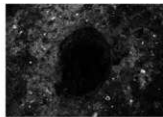
6. ビット3土層断面(北東から)



7. ビット3全景(南東から)



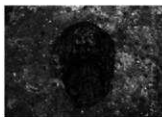
10. ビット5土層断面(北から)



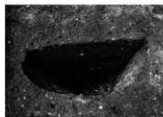
11. ビット5全景(南から)



2. ビット1土層断面(東から)



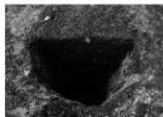
3. ビット1全景(南から)



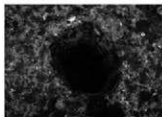
4. ビット2土層断面(南東から)



5. ビット2全景(南から)



8. ビット4土層断面(東から)



9. ビット4全景(南東から)



1



2



3



4



5



6



7



8



1. 33・35号住居掘方全景(西から)



2. 33号住居土層断面A-A' (北東から)



3. 33・35号住居土層断面B-B' 1(北西から)



4. 33・35号住居土層断面B-B' 2(北西から)

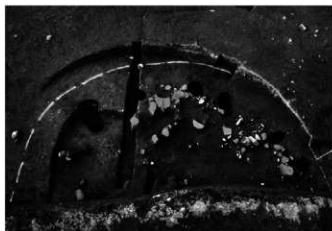


5. 33・35号住居土層断面B-B' 3(北西から)





1. 33号住居遺物出土状況(北西から)



2. 33号住居遺物出土状況(南東から)



3. 33号住居遺物出土状況(北西から)



4. 33号住居跡(西から)



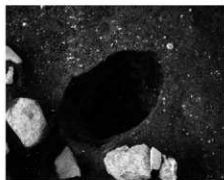
5. ビット1土層断面(東から)



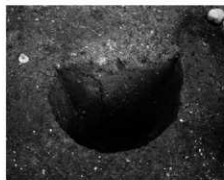
6. ビット1全景(南東から)



7. ビット2土層断面(西から)



8. ビット2全景(南東から)



9. ビット3土層断面(西から)



10. ビット3全景(南東から)



1. ビット4土層断面(南西から)



2. ビット4全景(南東から)



3. ビット5土層断面(南東から)



4. ビット5・7全景(東から)



5. ビット6土層断面(南西から)



6. ビット6全景(南東から)



2



3



1



5



4



6



5



7



8



9



10



11



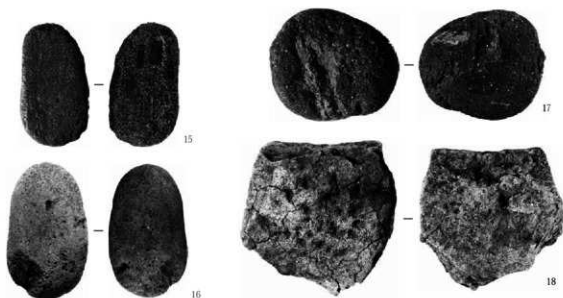
12



13



14



1. 33号住居出土遺物(2)



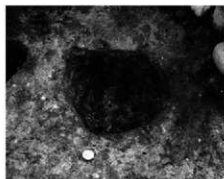
2. 35号住居遺物出土状況(西から)



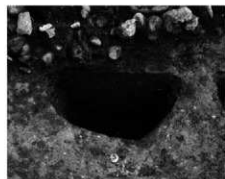
3. 35号住居全景(西から)



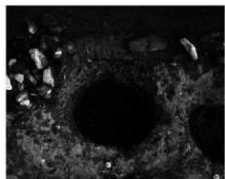
4. 35号住居ビット掘削後全景(南東から)



1. ビット1 全景(北西から)



2. ビット2 土層断面(北西から)



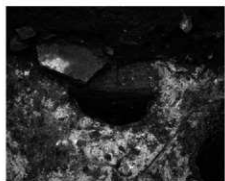
3. ビット2 全景(北西から)



4. ビット3 土層断面(北西から)



5. ビット3 全景(北西から)



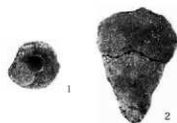
6. ビット4 土層断面(北西から)



8. 35号住居石棒片出土状況(西から)

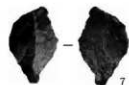


7. ビット4 全景(北西から)

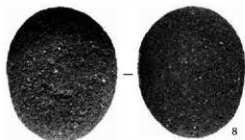


1

2



7



8



3



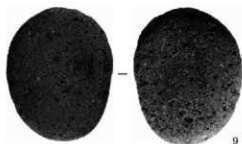
4



5



6



9



10

9. 35号住居出土遺物



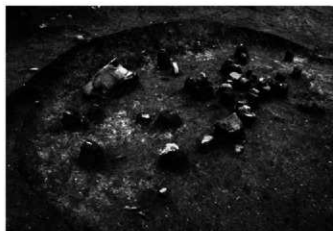
1. 37号住居遺物出土状況(南東から)



2. 37号住居土層断面(南東から)



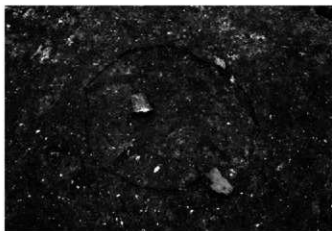
3. 37号住居土層断面(南西から)



4. 37号住居遺物出土状況(南から)



5. 37号住居遺物出土状況(南西から)



1. 竪確認状況(南東から)



2. 竪土層断面確認状況(南から)



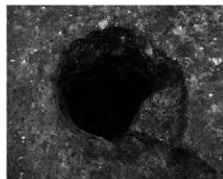
3. 掘方土層断面確認状況(南東から)



4. 掘方全景(南東から)



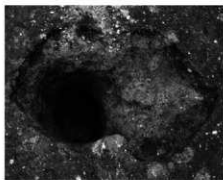
5. ビット1土層断面(南から)



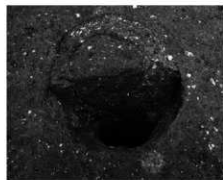
6. ビット1全景(南東から)



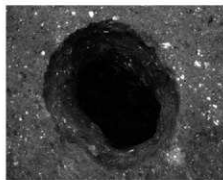
7. ビット2土層断面(南東から)



8. ビット2全景(南東から)



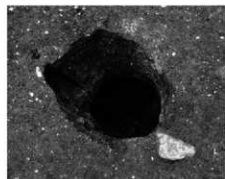
9. ビット3土層断面(東から)



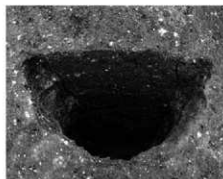
10. ビット3全景(南東から)



1. ビット4土層断面(東から)



2. ビット4全景(南東から)



3. ビット5土層断面(東から)



1



2



3



4



5



6



7



8



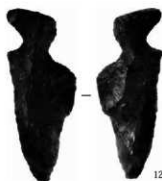
9



10



11



12



13



1. 39号住居遺構確認状況(南東から)



2. 炉確認状況(南東から)



3. 炉土層断面(南から)



4. 炉土層断面(南から)



5. 炉全景(南から)





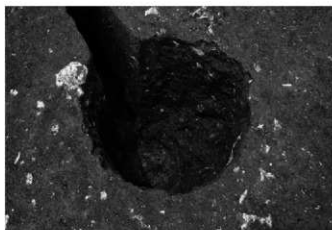
1. 炉痕方(南から)



2. ビット1全景(南東から)



3. ビット2土層断面(南東から)



4. ビット2全景(南東から)



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



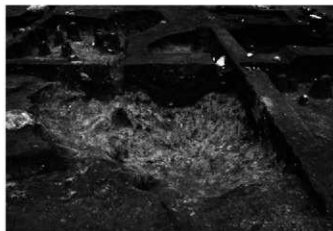
12



13



1. 40・41・43号住居全景(南から)



2. 40号住居土層確認状況(南東から)



3. 40号住居遺物出土状況(南から)



4. 40号住居遺物出土状況(南東から)



5. 40号住居遺物出土状況(南東から)



1. 40号住居全景(南東から)



2. 40号住居が土層確認状況(南東から)



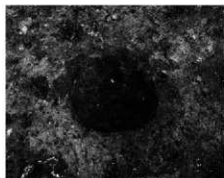
3. 40号住居が全景(南東から)



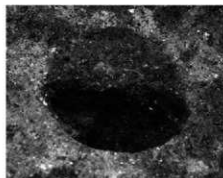
4. 40号住居が掘方全景(南東から)



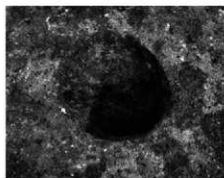
5. ビット1土層断面(南東から)



6. ビット1全景(南西から)



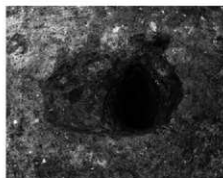
7. ビット2土層断面(南東から)



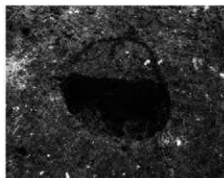
8. ビット2全景(南東から)



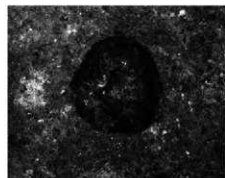
9. ビット3土層断面(南東から)



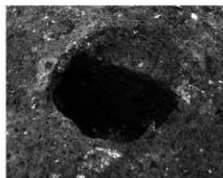
10. ビット3全景(南東から)



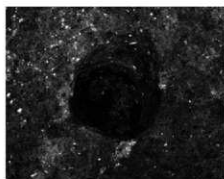
1. ビット4土層断面(南東から)



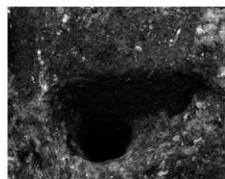
2. ビット4全景(南東から)



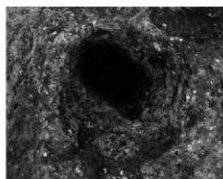
3. ビット5土層断面(南東から)



4. ビット5全景(南東から)



5. ビット6土層断面(南東から)



6. ビット6全景(南東から)



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



17



15



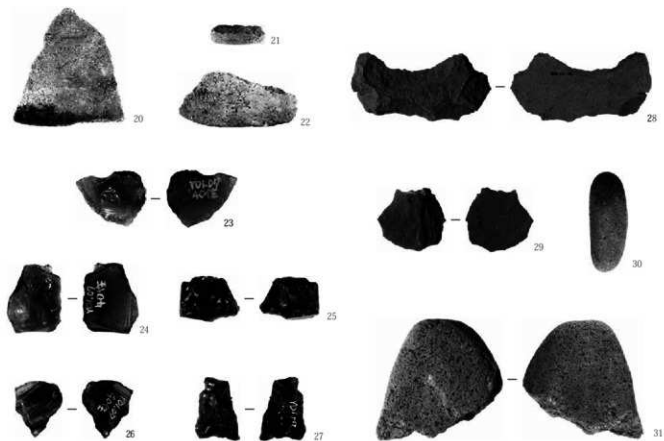
16



18



19



1. 40号住居出土遺物(2)



2. 41号住居全景(南から)



1. 41号住居土層確認状況(東から)



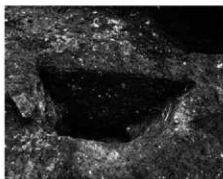
2. 41号住居遺物出土状況(南から)



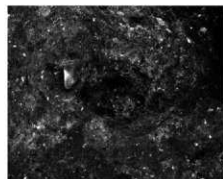
3. 41号住居竈(南から)



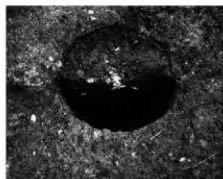
4. 41号住居竈掘方(南から)



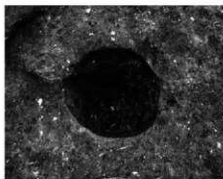
5. ビット1土層断面(南から)



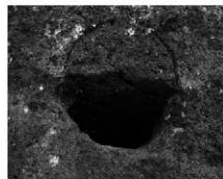
6. ビット1全景(南から)



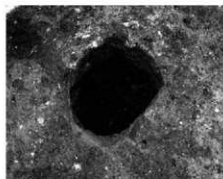
7. ビット2土層断面(南から)



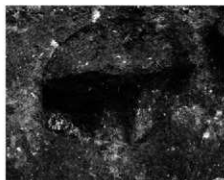
8. ビット2全景(南から)



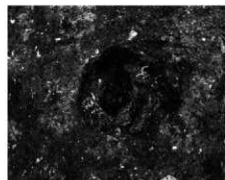
9. ビット3土層断面(南から)



10. ビット3全景(南から)



1. ビット4土層断面(南から)



2. ビット4全景(南から)



1



2



3



4



5



6



7



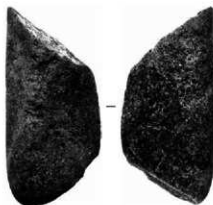
8



9



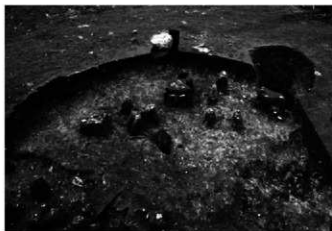
10



11



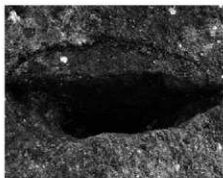
1. 43号住居全景(南から)



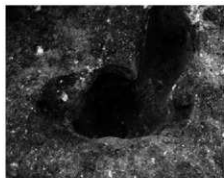
2. 43号住居遺物出土状況(南から)



3. 43号住居炉(南から)



4. ビット1土層断面(南から)

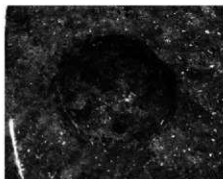


5. ビット1全景(南から)

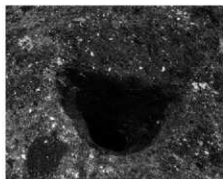


6. ビット2土層断面(南から)

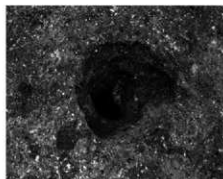




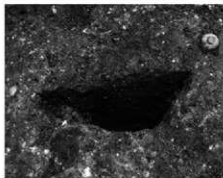
1. ビット2全景(南から)



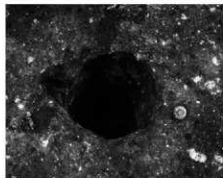
2. ビット3土層断面(南から)



3. ビット3全景(南から)



4. ビット4土層断面(南から)



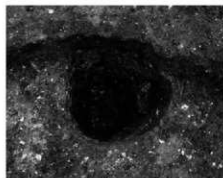
5. ビット4全景(南から)



6. ビット5土層断面(南から)



8. 43号住居№1 土器出土状況(南から)



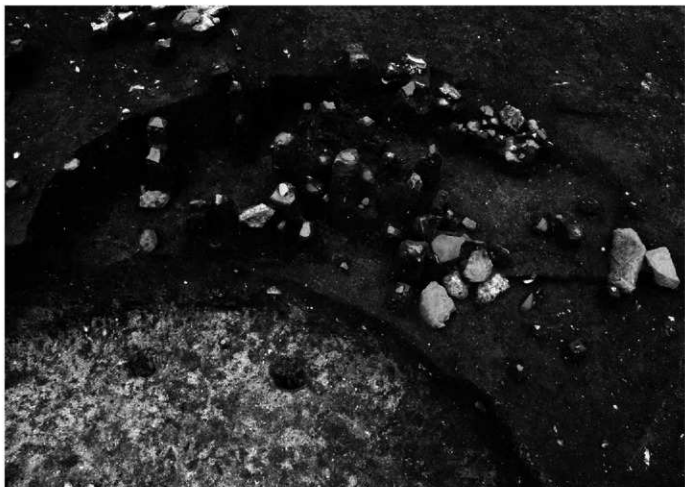
7. ビット5全景(南から)



9. 43号住居№1 土器出土状況(南東から)



10. 43号住居出土遺物



1. 44号住居遺物出土状況(南から)



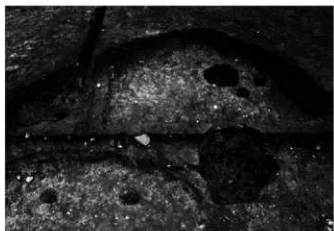
2. 44号住居土層断面(南西から)



3. 44号住居土層断面(西から)



4. 44号住居全景(南から)



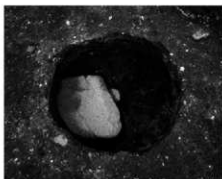
5. 44号住居掘方全景(南から)



1. 遺物出土状況(北から)



2. ビット1土層断面(南東から)



3. ビット1全景(南東から)



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17

4. 44号住居出土遺物(1)



1. 44号住居出土遺物(2)



2. 46号住居遺構確認状況(南東から)



3. 46号住居調査状況(南東から)



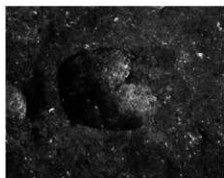
1. 46号住居土層確認状況(南東から)



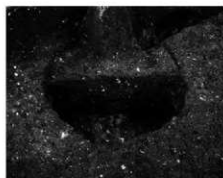
2. 46号住居土層散石部(北東から)



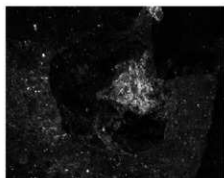
3. ビット1土層断面(南東から)



4. ビット1全景(南東から)



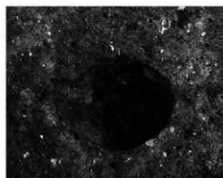
5. ビット2土層断面(南から)



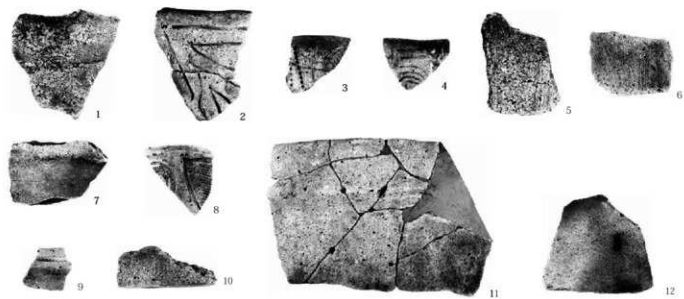
6. ビット2全景(南東から)



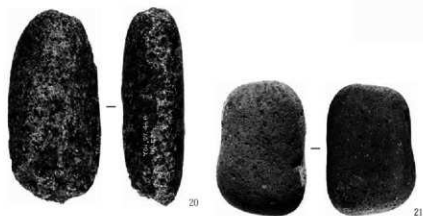
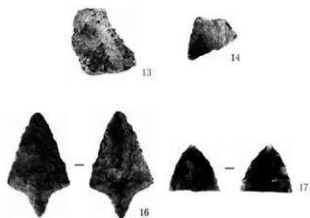
7. ビット3土層断面(南東から)



8. ビット3全景(南東から)



9. 46号住居出土遺物(1)





1. 49号住居遺物出土状況(南から)



2. 49号住居土層確認状況(南から)



3. 49号住居掘方全景(東から)



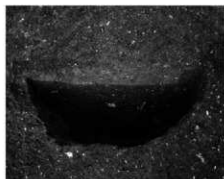
4. ビット1土層断面(南西から)



5. ビット2土層断面(南から)



6. ビット2全景(南から)



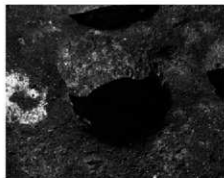
1. ビット3土層断面(南西から)



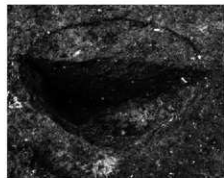
2. ビット3全景(南から)



3. ビット4土層断面(南から)



4. ビット4全景(南東から)



5. ビット5土層断面(南から)



6. ビット5全景(南東から)



7. ビット6土層断面(南から)



8. ビット6全景(南東から)



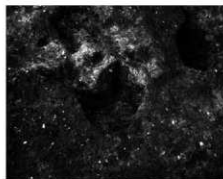
9. ビット7土層断面(東から)



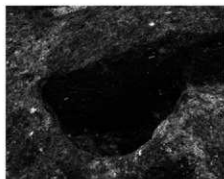
10. ビット7全景(南東から)



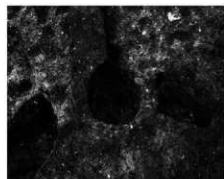
11. ビット8土層断面(南から)



12. ビット8全景(南東から)

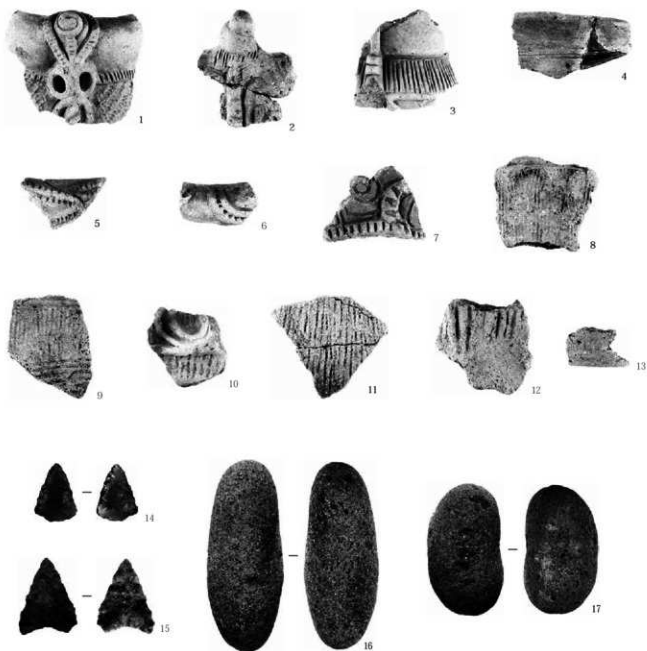


13. ビット9土層断面(南から)



14. ビット9全景(南東から)





1. 49号住居出土遺物

土坑



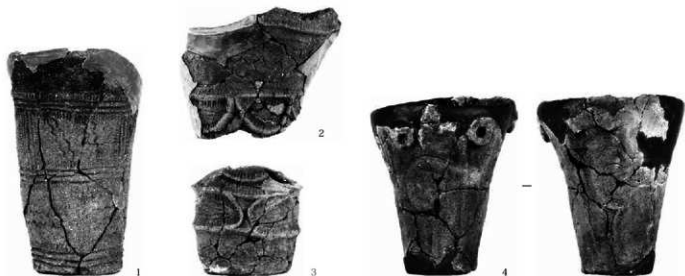
2. 195号土坑土層断面(南西から)



1. 195号土坑遺物出土状況(北西から)



2. 195号土坑掘方(南西から)



3. 195号土坑出土遺物



4. 214号土坑土層断面(南西から)



5. 214号土坑遺物出土状況(南から)



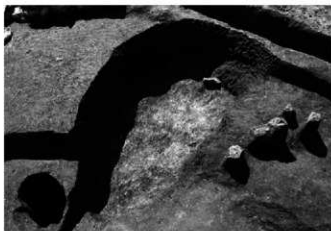
1. 214号土坑遺物出土状況(南から)



2. 214号土坑出土遺物



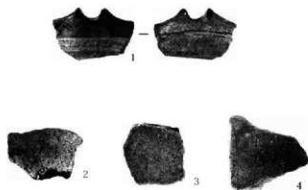
3. 219号土坑土層断面(北から)



4. 219号土坑全景(南東から)



5. 219号土坑北壁(南から)



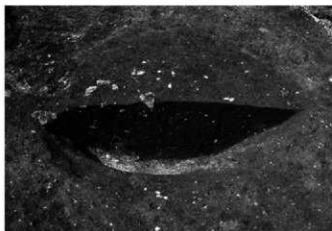
6. 219号土坑出土遺物



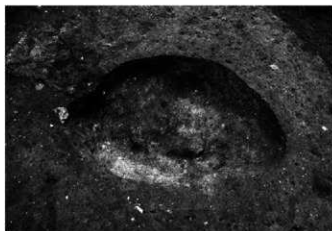
7. 220号土坑全景(西から)



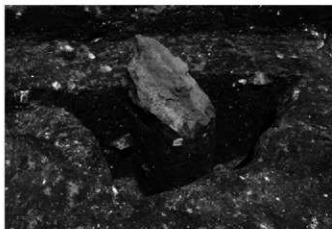
8. 220号土坑出土遺物



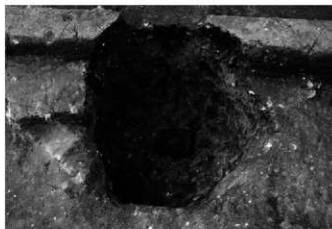
1. 222号土坑土層断面(南から)



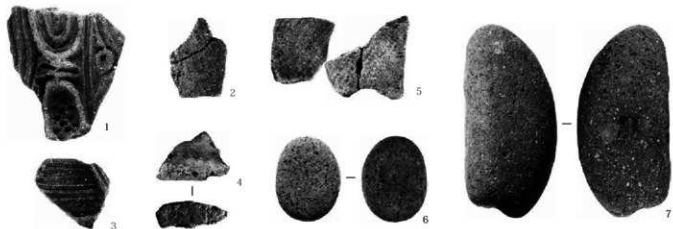
2. 222号土坑全景(南から)



3. 225号土坑土層断面(南東から)



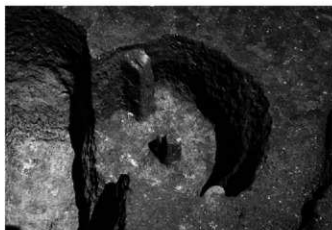
4. 225号土坑全景(南東から)



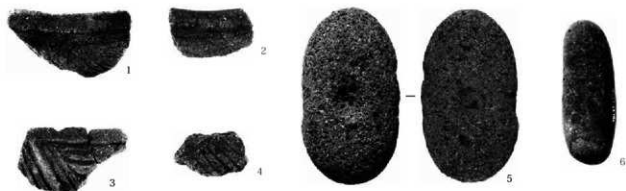
5. 225号土坑出土遺物



6. 230号土坑土層断面(東から)



7. 230号土坑全景(南から)



1. 230号土坑出土遺物



2. 244号土坑遺物出土状況(北西から)



3. 244号土坑土層断面(北西から)



4. 244号土坑全景(北西から)



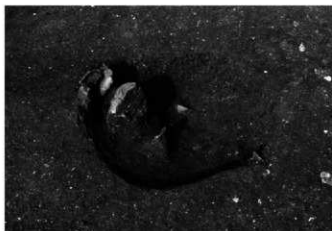
5. 244号土坑出土遺物



6. 245号土坑土層断面(南東から)



7. 245号土坑全景(南東から)



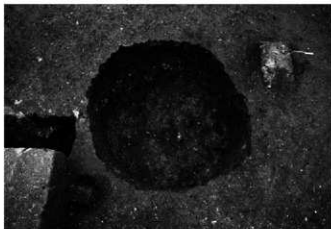
1. 245号土坑遺物出土状況(南東から)



2. 245号土坑出土遺物



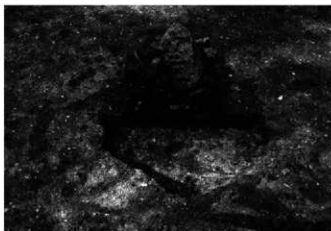
3. 246号土坑土層断面(南東から)



4. 246号土坑全景(南東から)



5. 246号土坑出土遺物



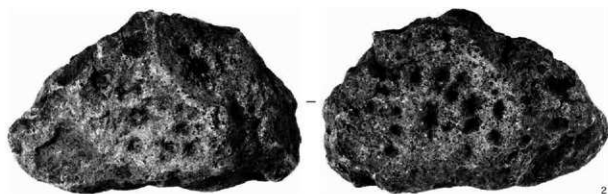
6. 247号土坑土層断面(南東から)



7. 247号土坑遺物出土状況(南東から)



8. 247号土坑全景(南東から)



1. 247号土坑出土遺物



2. 248号土坑確認状況(南東から)



3. 248号土坑遺物出土状況(西から)



4. 248号土坑土層断面(東から)



5. 248号土坑全景(東から)



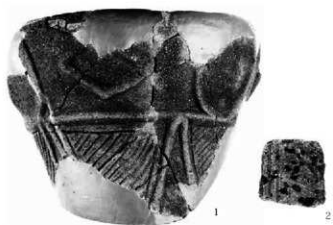
1. 248号土坑出土遺物



2. 249号土坑土層断面(南東から)

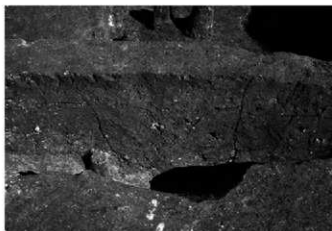


3. 249号土坑全景(南東から)



4. 249号土坑出土遺物





1. 250号土坑上部土層断面(南西から)



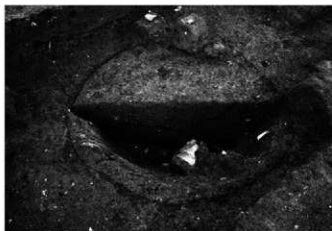
2. 250号土坑下部土層断面(南西から)



3. 250号土坑全景(南西から)



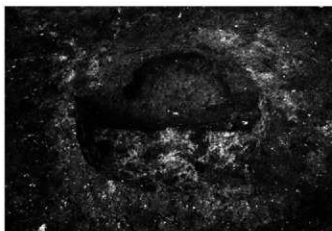
4. 250号土坑出土遺物



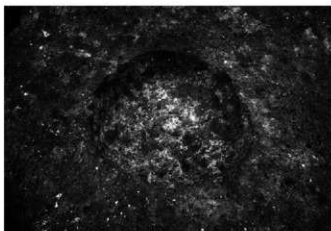
5. 252号土坑上部土層断面(南から)



6. 252号土坑遺物出土状況(南から)



7. 252号土坑下部土層断面(南から)



8. 252号土坑全景(南から)



1

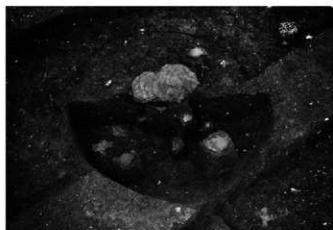


2



3

1. 252号土坑出土遺物



2. 253号土坑土層断面(南から)



3. 253号土坑遺物出土状況(南東から)



4. 253号土坑全景(南から)



6. 254号土坑遺物出土状況(南から)



5. 253号土坑出土遺物



1

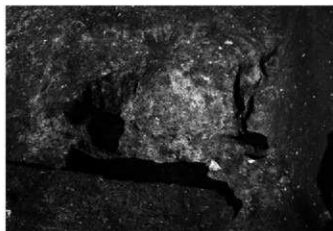


2



3

7. 254号土坑出土遺物



1. 254号土坑全景(南東から)



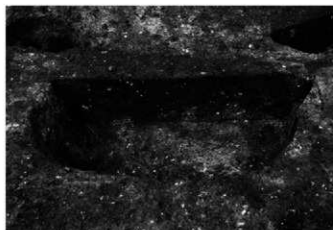
2. 255号土坑遺物出土状況(南東から)



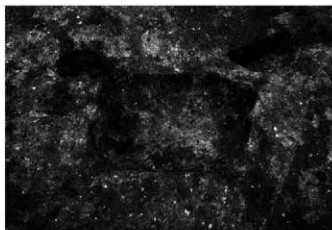
3. 255号土坑全景(南東から)



4. 255号土坑出土遺物

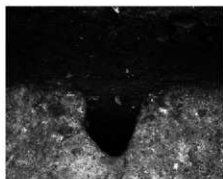


5. 258号土坑土層断面(南から)

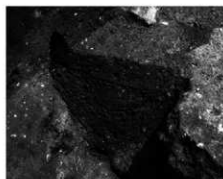


6. 258号土坑全景(南から)

ピット



7. 2号ピット土層断面(東から)



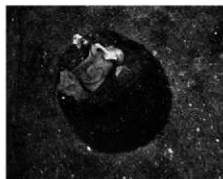
8. 3号ピット土層断面(南から)



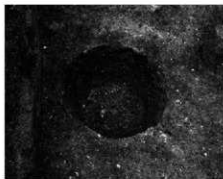
1. 2・3号ピット出土遺物



2. 37号ピット土層断面(南東から)



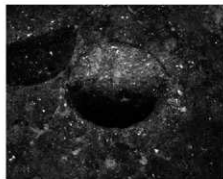
3. 37号ピット遺物出土状況(南東から)



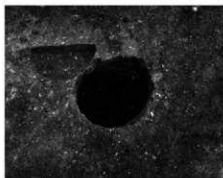
4. 37号ピット全景(南東から)



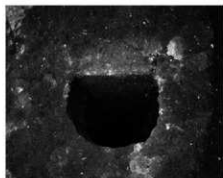
5. 37号ピット出土遺物



6. 38号ピット土層断面(南東から)



7. 38号ピット全景(南東から)



8. 39号ピット土層断面(南東から)



9. 39号ピット全景(南東から)



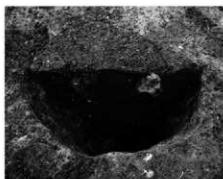
10. 56号ピット土層断面(北東から)



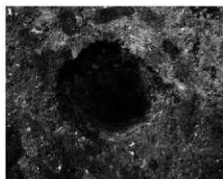
11. 56号ピット全景(南から)



12. 56号ピット出土遺物



13. 59号ピット土層断面(南から)

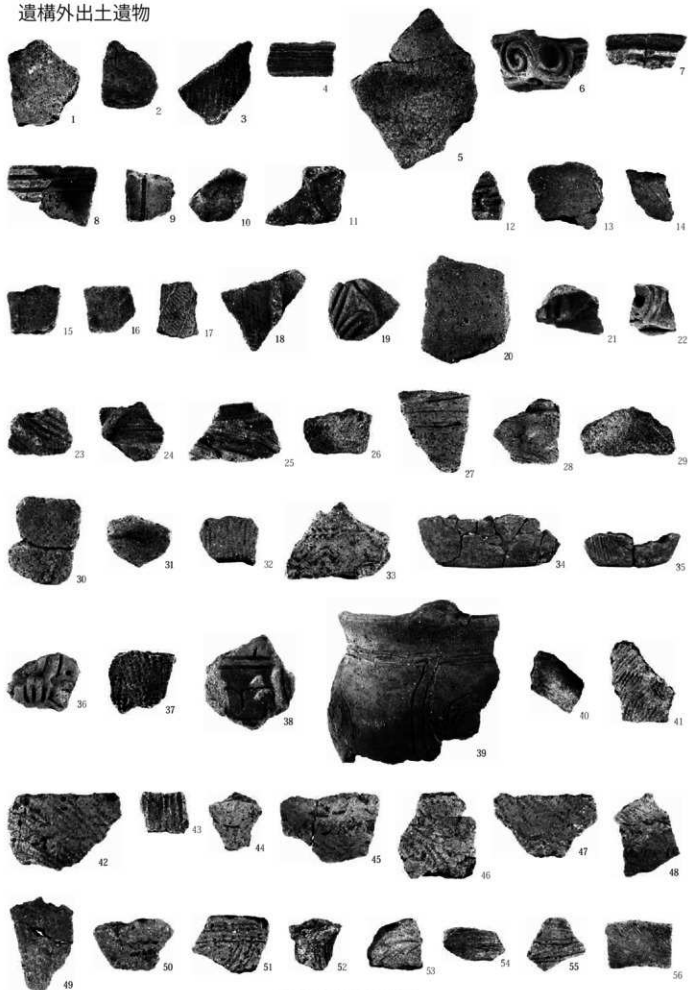


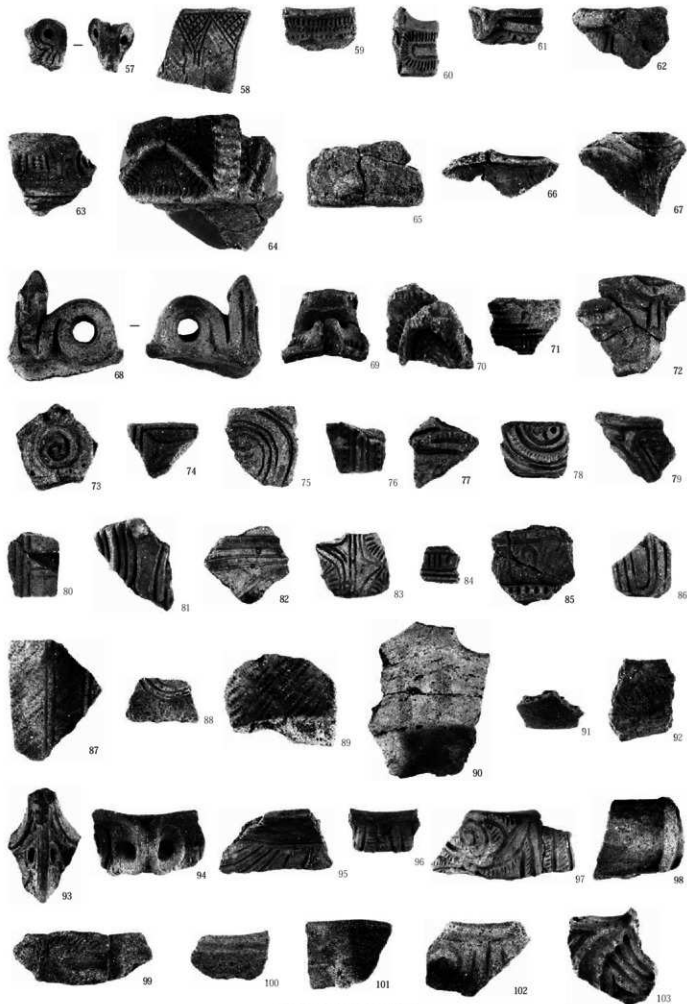
14. 59号ピット全景(南から)



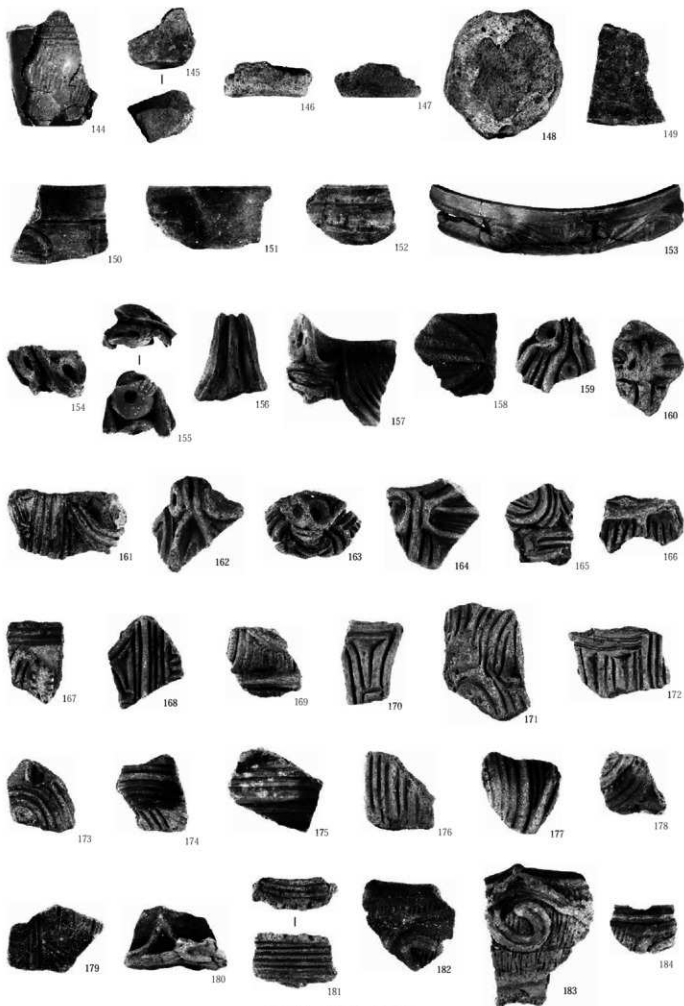
15. 59号ピット出土遺物

遺構外出土遺物



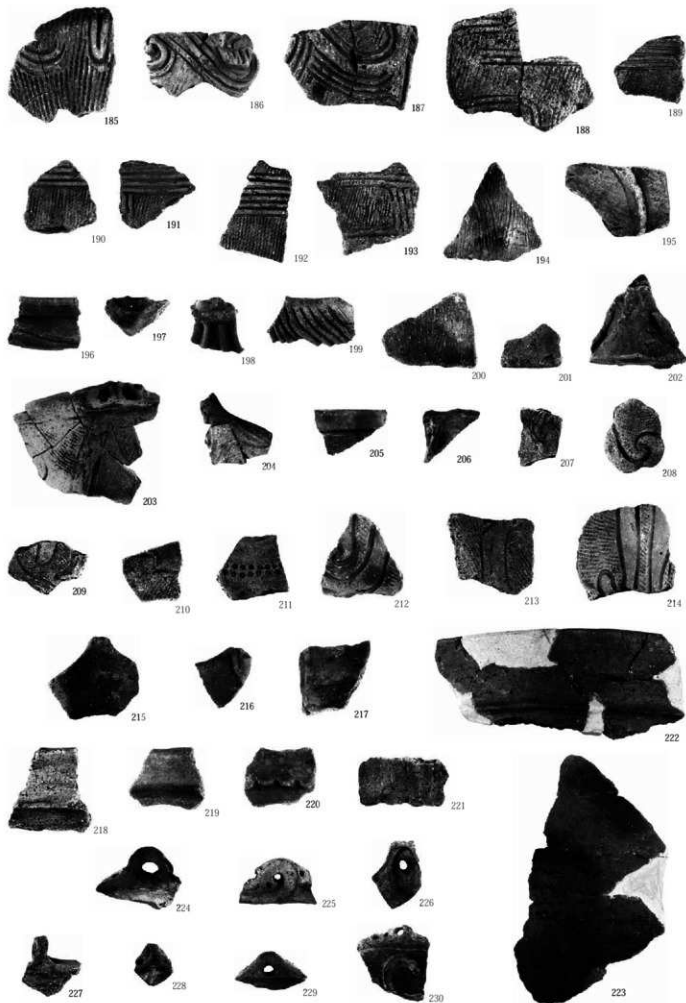




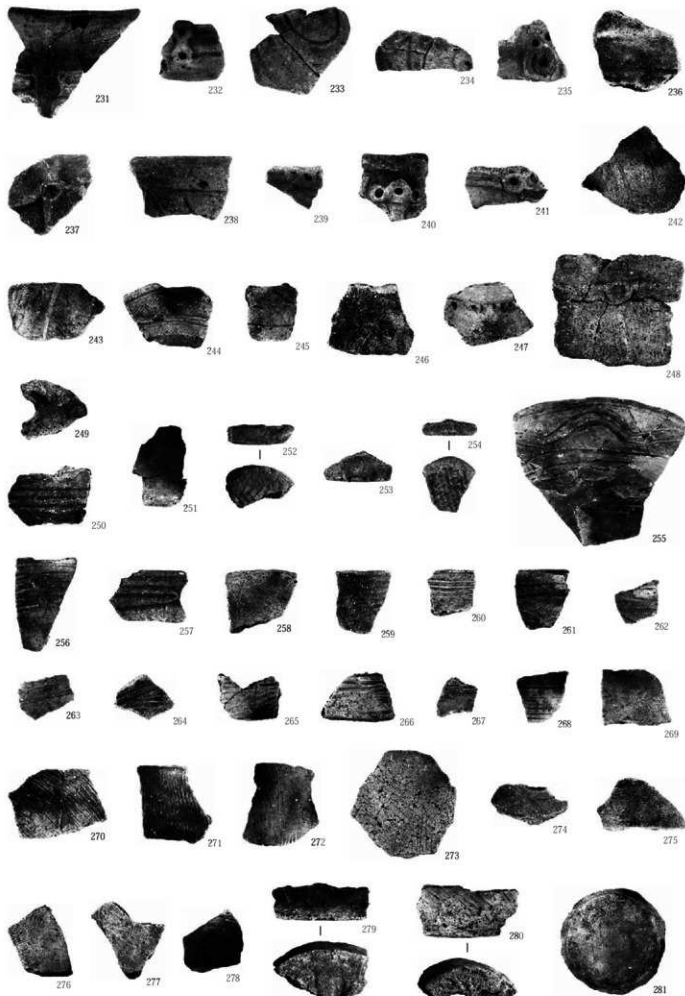


縄文時代遺構外出土遺物(4)

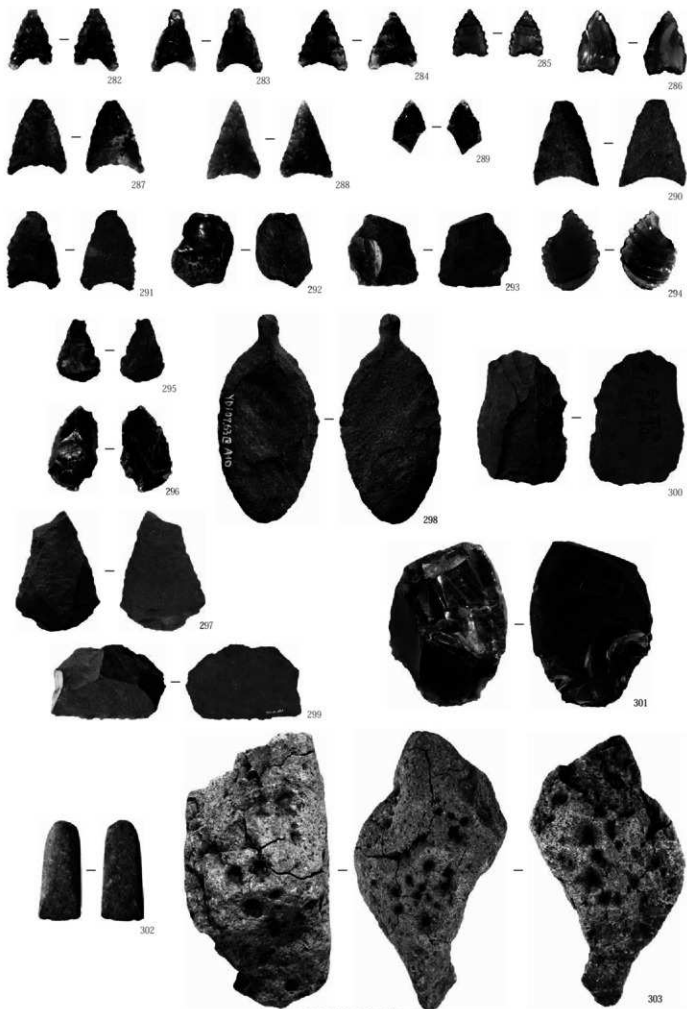


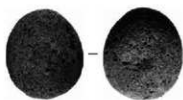


縄文時代遺構外出土遺物(5)

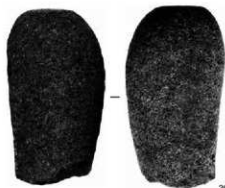


繩文時代遺構外出土遺物(6)





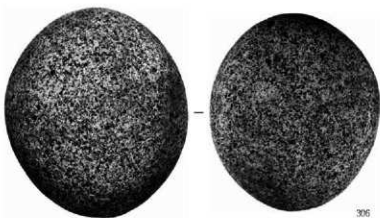
304



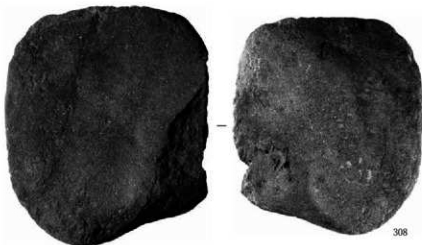
305



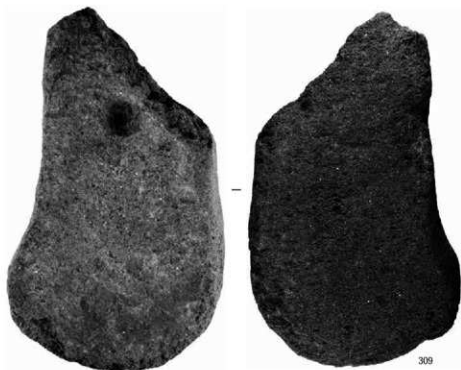
307



306



308



309

平安時代の遺構と遺物  
竪穴建物



1. 17号住居全景(西から)



2. 17号住居土層断面A-A' (南から)



3. 17号住居土層断面B-B' (西から)



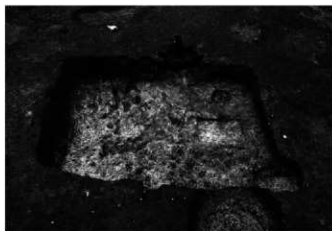
4. 17号住居礎出土状況(西から)



5. 17号住居礎出土状況(南から)



1. 17号住居全景(西から)



2. 17号住居掘方全景(西から)



3. 17号住居竈全景(西から)



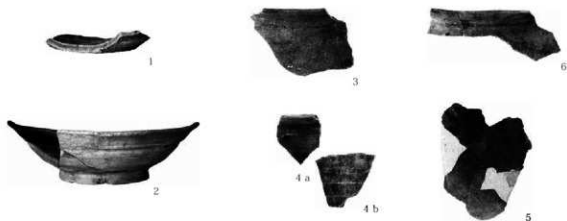
4. 17号住居竈土層断面A-A'(南から)



5. 17号住居竈土層断面B-B'(西から)



6. 17号住居床面礫土層断面(西から)



7. 17号住居出土遺物(1)



1. 17号住居出土遺物(2)



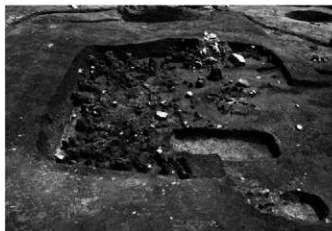
2. 23号住居土層断面A-A' (西から)



3. 23号住居土層断面B-B' (南から)



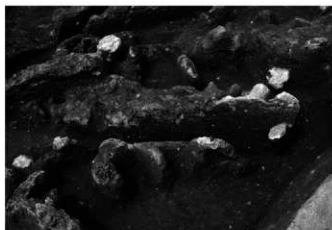
4. 23号住居炭化材出土状況(西から)



5. 23号住居炭化材出土状況(西から)



6. 23号住居竈周辺炭化材出土状況(北から)



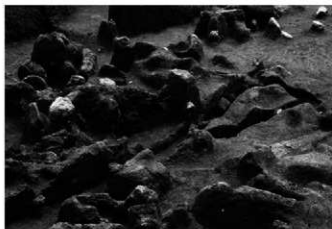
7. 23号住居炭化材出土状況(南から)



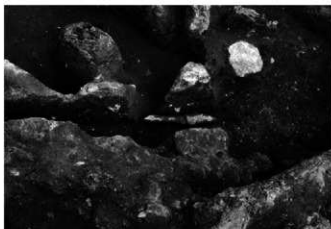
1. 23号住居炭化材出土状況(南から)



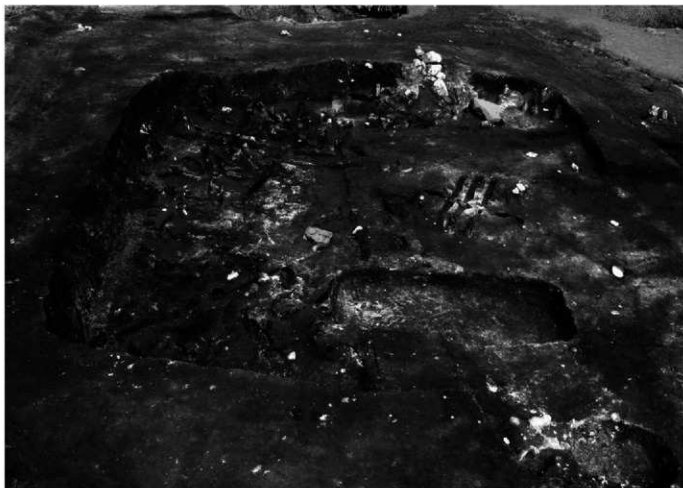
2. 23号住居炭化材出土状況(東から)



3. 23号住居炭化材出土状況(西から)



4. 23号住居鉄器No.46出土状況(西から)



5. 23号住居全景(西から)





1. 23号住居竈確認状況(南から)



2. 23号住居竈土層確認状況(西から)



3. 23号住居竈全景(西から)



4. 23号住居竈全景(東から)



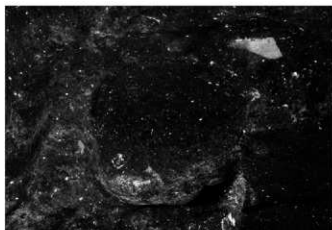
5. 23号住居竈全景(西から)



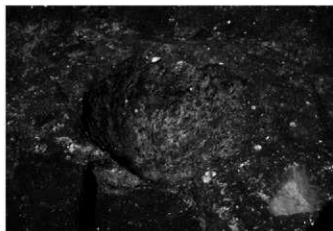
6. 23号住居竈全景(西から)



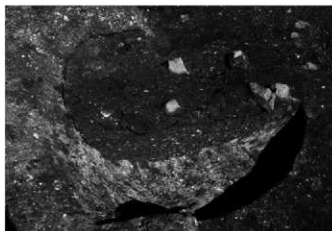
7. 23号住居竈掘方確認状況(西から)



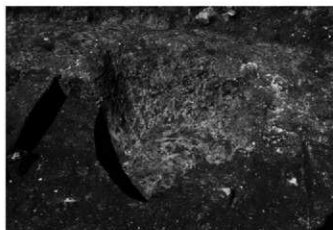
8. 23号住居ビット1土層断面(西から)



1. 23号住居ビット1 全景(南東から)



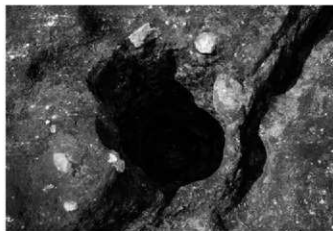
2. 23号住居ビット2 土層断面(南西から)



3. 23号住居ビット2 全景(南東から)



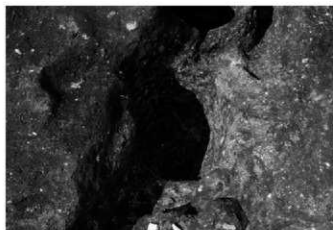
4. 23号住居ビット3 土層断面(南西から)



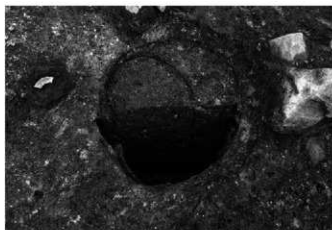
5. 23号住居ビット3 全景(南東から)



6. 23号住居ビット4 土層断面(南東から)



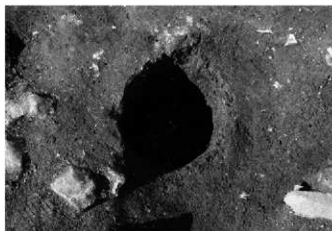
7. 23号住居ビット4 全景(南東から)



8. 23号住居ビット5 土層断面(東から)



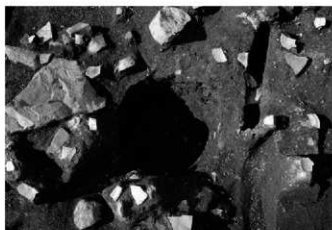
1. 23号住居ベット5全景(南東から)



2. 23号住居ベット6全景(南東から)



3. 23号住居ベット7土層断面(西から)



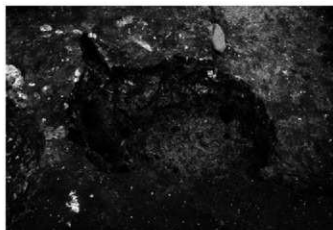
4. 23号住居ベット7全景(南東から)



5. 23号住居ベット9全景(南東から)



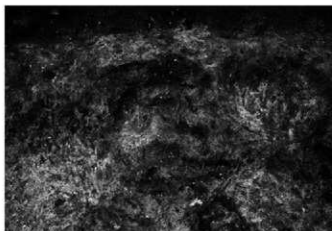
6. 23号住居ベット10土層断面(南西から)



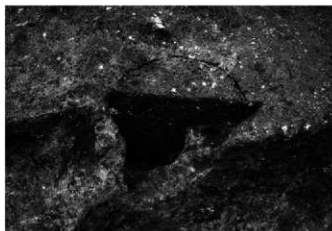
7. 23号住居ベット10全景(南東から)



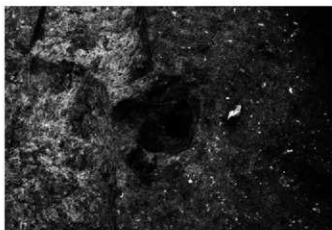
8. 23号住居ベット11土層断面(南西から)



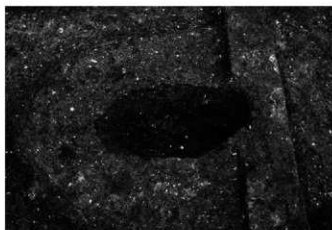
1. 23号住居ビット11全景(南東から)



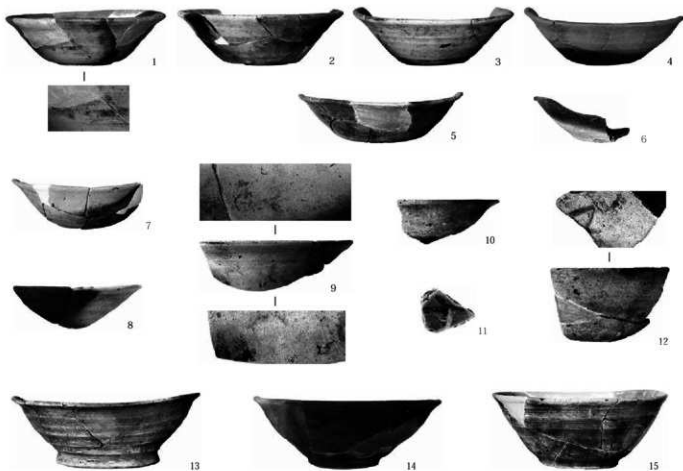
2. 23号住居ビット12土層断面(南西から)



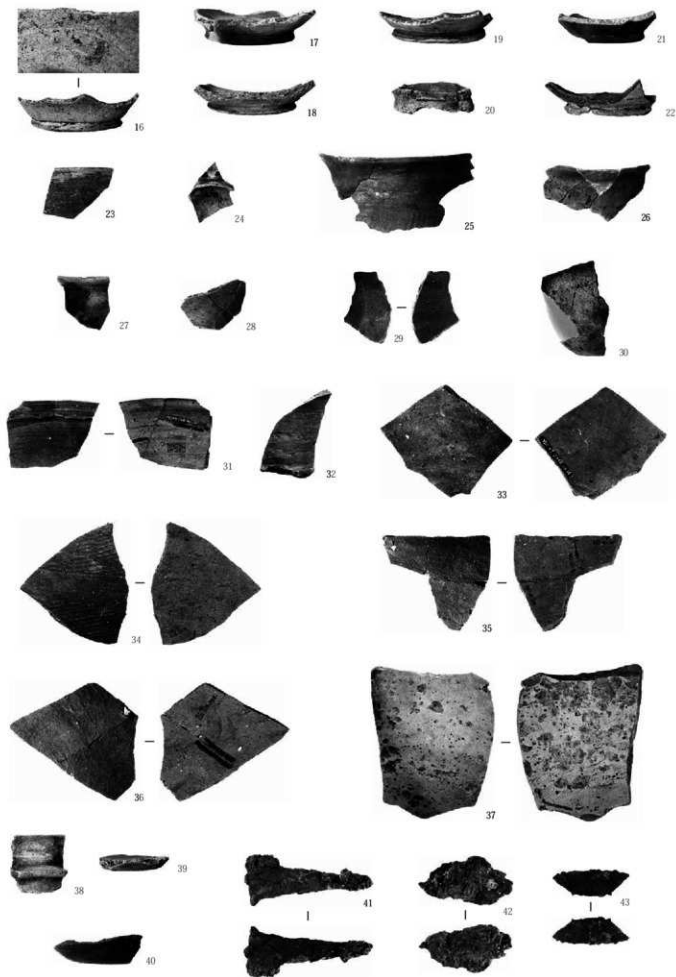
3. 23号住居ビット12全景(南東から)

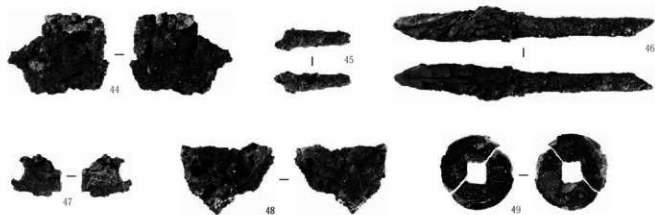


4. 23号住居ビット13全景(南東から)



5. 23号住居出土遺物(1)

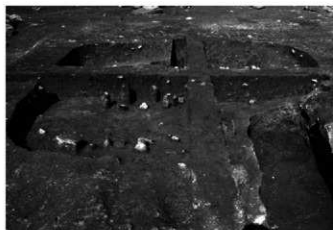




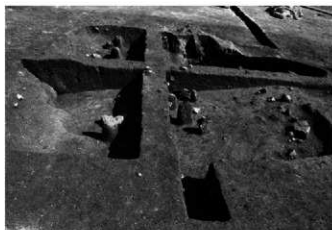
1. 23号住居出土遺物(3)



2. 25号住居遺物出土状況(南西から)



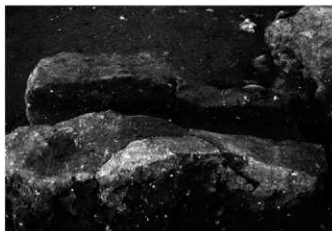
3. 25号住居土層断面A-A' (南東から)



4. 25号住居土層断面B-B' (南西から)



1. 25号住居全景(南西から)



2. 25号住居境土土層断面(南西から)



3. 25号住居電全景(南西から)



4. 25号住居電土層断面A-A'(南東から)



5. 25号住居電土層断面B-B'(南西から)



6. 25号住居電掘方調査状況(南西から)



1



2



3



4



6



5



7

7. 25号住居出土遺物



1. 27号住居全景(東から)



2. 27号住居土層断面(北東から)



3. 27号住居焼土断面(南西から)・同出土遺物



4. 27号住居掘方全景(東から)



5. 29号住居全景(南東から)





1. 29号住居電礎確認状況(南から)



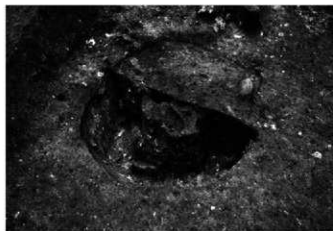
2. 29号住居電礎調査状況(南東から)



3. 29号住居電礎調査状況(南から)



4. 29号住居電掘方調査状況(南から)



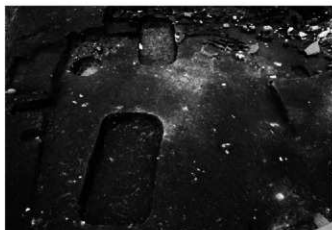
5. 29号住居貯蔵穴内の炭化物・焼土(南から)



6. 29号住居貯蔵穴土層断面(南から)



7. 29号住居貯蔵穴全景(南から)



8. 29号住居掘方全景(南から)



1



a



a b



b



b a

1 外面の被熱状況



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



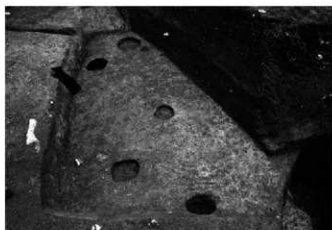
1. 32号住居遺物出土状況(東から)



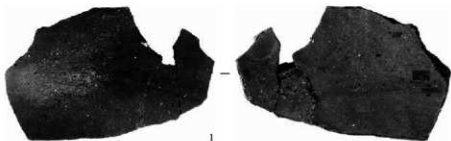
2. 32号住居土層断面A-A' (南から)



3. 32号住居土層断面B-B' (西から)



4. 32号住居全景(東から)



5. 32号住居出土遺物



1. 38号住居全景(南から)



2. 38号住居土層断面A-A'(南から)



3. 38号住居確認状況(南から)



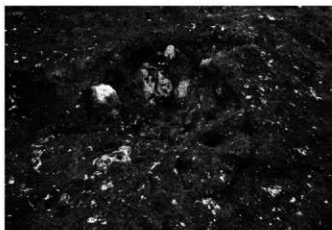
4. 38号住居土層断面B-B'(東から)



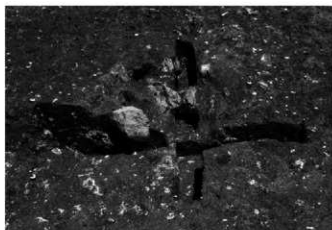
5. 38号住居土層断面C-C' 上部(南から)



6. 38号住居全景(南から)



7. 38号住居掘方全景(南から)



8. 38号住居土層断面下部確認状況(南から)



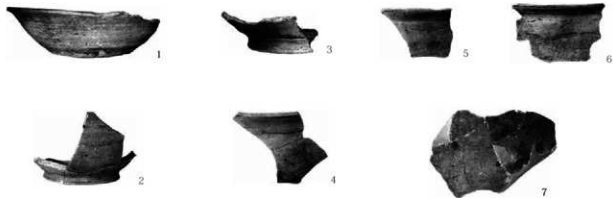
1. 38号住居出土遺物



2. 42号住居確認状況(東から)



3. 42号住居遺物出土状況(東から)



4. 42号住居出土遺物



5. 45号住居全景(北から)



6. 45号住居遺物出土状況(北から)



1. 45号住居確認状況(北から)



2. 45号住居遺物出土状況(北東から)



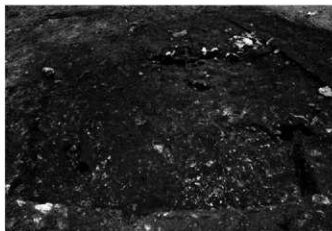
3. 45号住居土層確認状況(北から)



4. 45号住居全景(北から)



5. 45号住居竪方確認状況(北から)



6. 45号住居竪方全景(北から)



1

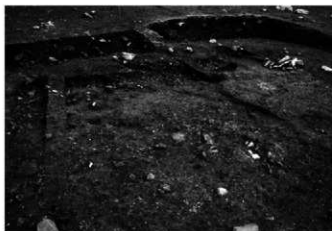


2



3

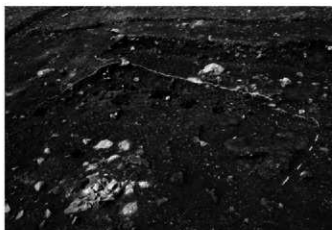
7. 45号住居出土遺物



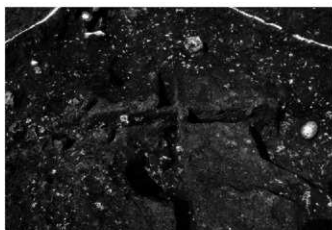
1. 47号住居確認状況(南から)



2. 47号住居土層断面A-A' (南西から)



3. 47号住居焼土検出状況(南東から)



4. 47号住居焼土土層断面B・C (南から)



5. 47号住居焼土土層断面D-D' (南から)



6. 47号住居焼土土層断面E-E' (南から)



7. 47号住居焼土土層断面F-F' (南から)



8. 47号住居電確認状況(南から)



1. 47号住居竈確認状況(南西から)



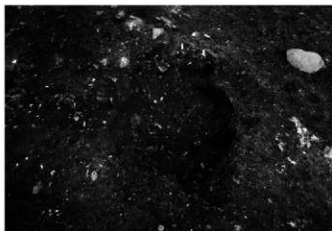
2. 47号住居竈土層確認状況(南西から)



3. 47号住居竈全景(南西から)



4. 47号住居竈掘方土層確認状況(南西から)



5. 47号住居竈掘方(南西から)



6. 47号住居掘方全景(南東から)



1



4



5



2



3



6



7

7. 47号住居出土遺物





1. 48号住居遺物出土状況(西から)



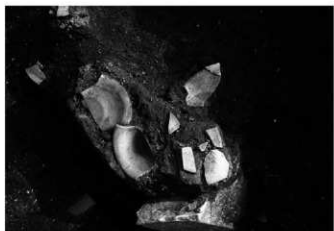
2. 48号住居土層断面A-A' (西から)



3. 48号住居土層断面B-B' (南から)



4. 48号住居北西部灰・焼土(東から)



5. 48号住居遺物出土状況(南西から)



1. 48号住居竈・1～3号焼土及び周辺遺物出土状況(南西から)



2. 48号住居竈土層断面(南西から)



3. 48号住居竈(南西から)



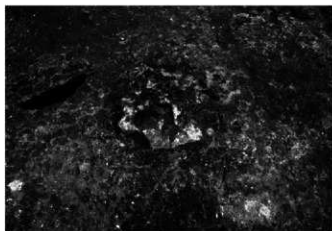
4. 48号住居1号焼土(南東から)



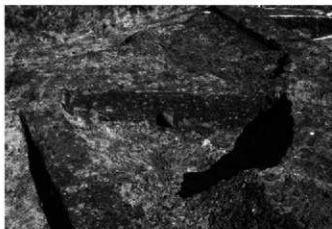
5. 48号住居2号焼土(南西から)



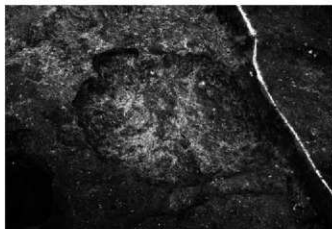
1. 48号住居3号焼土(南西から)



2. 48号住居中央部の灰層・焼土(南東から)



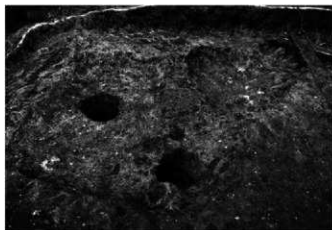
3. 48号住居1号土坑土層断面(西から)



4. 48号住居1号土坑全景(南から)



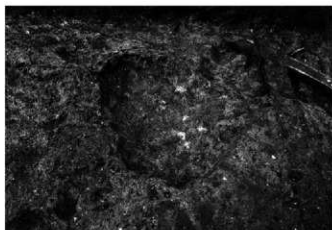
5. 48号住居2号土坑・ピット1土層断面(北東から)



6. 48号住居2・3号土坑・ピット1全景(北東から)



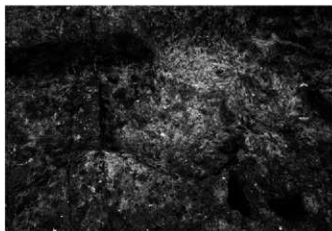
7. 48号住居3号土坑土層断面(南西から)



8. 48号住居3号土坑全景(南西から)



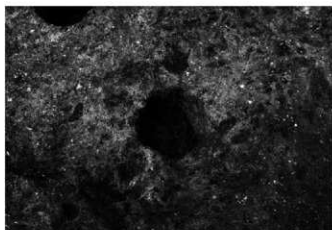
1. 48号住居4号土坑土層断面(南西から)



2. 48号住居4号土坑全景(南西から)



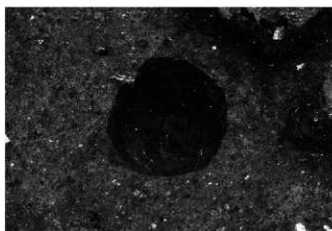
3. 48号住居ビット1土層断面(南西から)



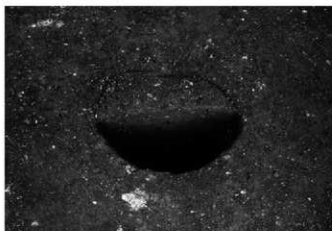
4. 48号住居2号土坑・ビット1全景(北東から)



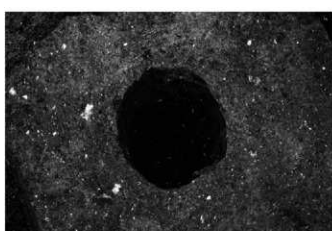
5. 48号住居ビット2土層断面(南西から)



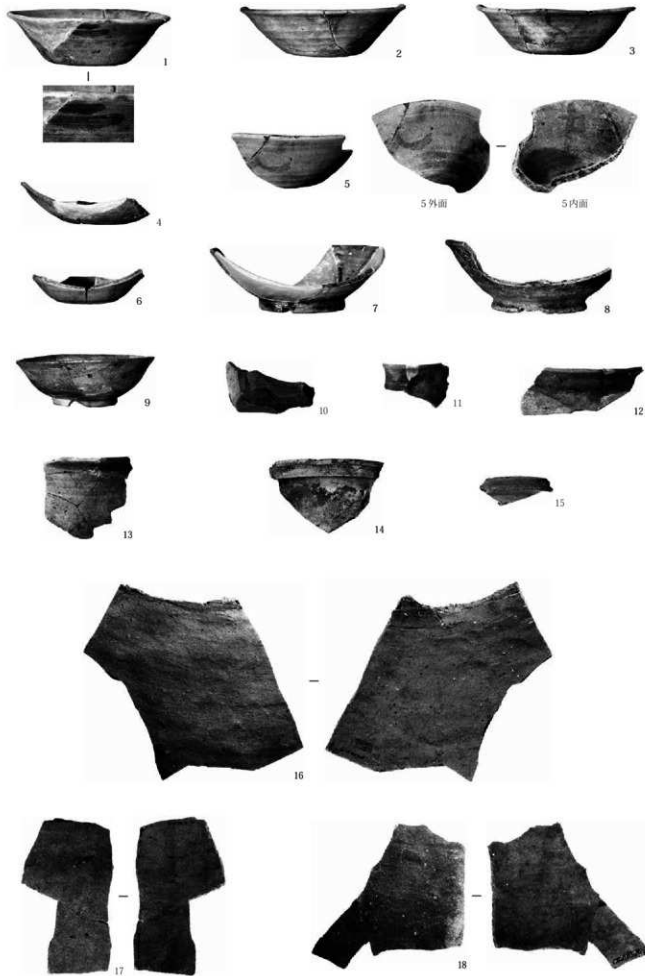
6. 48号住居ビット2全景(南東から)

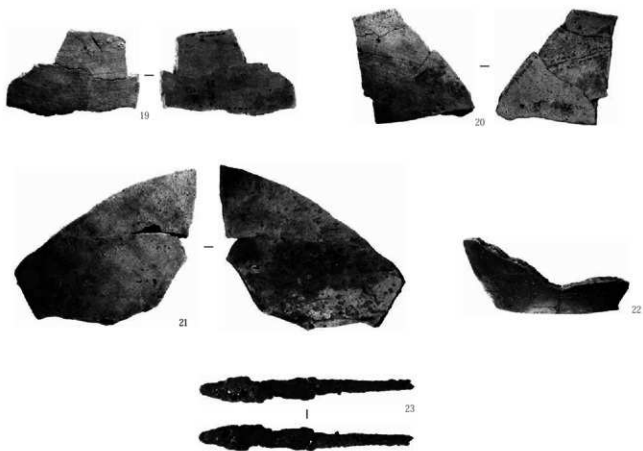


7. 48号住居ビット3土層断面(南西から)

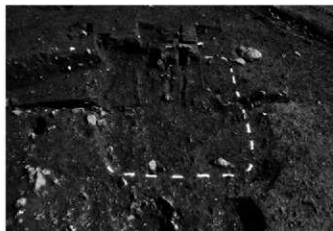


8. 48号住居ビット3 全景(南東から)





1. 48号住居出土遺物(2)



2. 50号住居全景(南西から)



3. 50号住居竈(南西から)



4. 50号住居竈土層断面A-A' (南から)



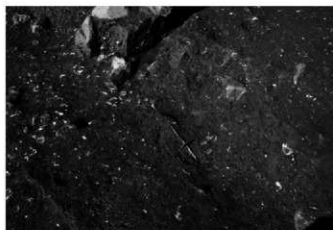
5. 50号住居竈土層断面B-B' (西から)



1. 50号住居竈(南西から)



2. 50号住居竈掘方土層断面(西から)



3. 50号住居紡錘車出土状況(北から)



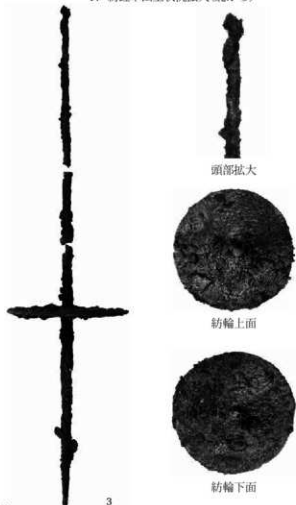
4. 紡錘車出土状況拡大(北から)



5. 50号住居掘方全景(南西から)



6. 50号住居出土遺物



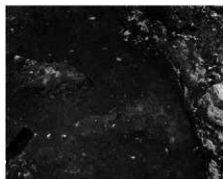
頭部拡大

紡輪上面

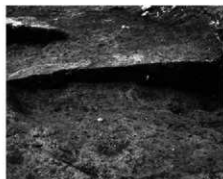
紡輪下面

3

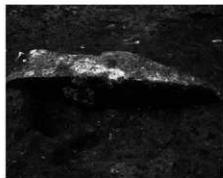
## 焼土遺構



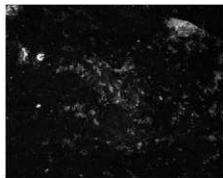
1. 1号焼土(南から)



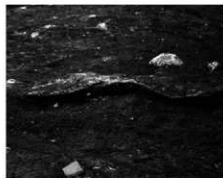
2. 1号焼土土層断面(南から)



3. 2号焼土土層断面(南から)



4. 3号焼土(南から)



5. 3号焼土土層断面(南から)



6. 4号焼土(南から)



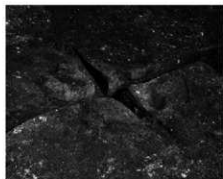
7. 5号焼土(南から)



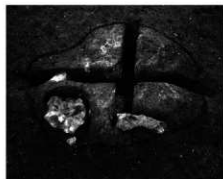
8. 6号焼土(西から)



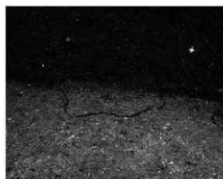
9. 6号焼土土層断面B-B' (南から)



10. 7号焼土(東から)



11. 8号焼土(南東から)



12. 9号焼土(西から)



13. 9号焼土土層断面(北西から)

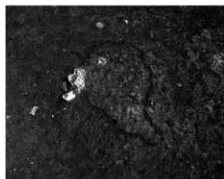


14. 10号焼土(南東から)

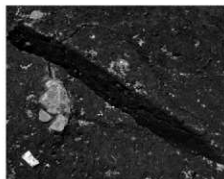




1. 10号焼土土層断面(南東から)



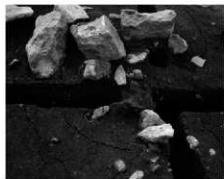
2. 11号焼土(南から)



3. 11号焼土土層断面(南西から)



4. 13号焼土(南から)



5. 13号焼土土層断面A-A'(南から)



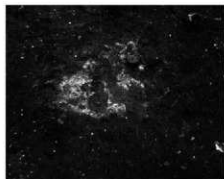
6. 13号焼土土層断面B-B'(東から)



7. 13号焼土下部調査状況(南から)



8. 13号焼土出土遺物



9. 14号焼土(南から)



10. 14号焼土土層断面(南から)



11. 16号焼土(北東から)



12. 16号焼土土層断面(東から)



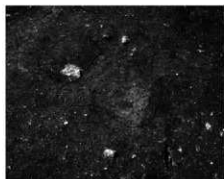
13. 16号焼土土層断面中央部(東から)



14. 16号焼土出土遺物



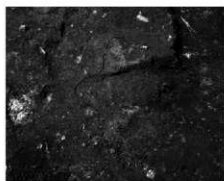
1. 17・18号焼土(南から)



2. 17号焼土(南から)



3. 17号焼土土層断面(南から)



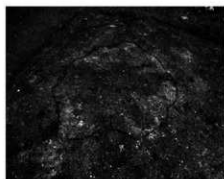
4. 18号焼土(南から)



5. 18号焼土土層断面(南西から)



6. 20号焼土周辺(南東から)



7. 20号焼土(南東から)



8. 20号焼土土層断面(東から)

## 土坑



9. 63号土坑土層断面(南から)



10. 63号土坑全景(南から)



11. 72号土坑土層断面(南東から)



12. 72号土坑全景(南東から)



13. 115号土坑土層断面(南西から)



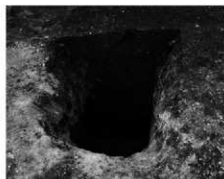
14. 115号土坑全景(北東から)



1. 135号土坑土層断面(南から)



2. 135号土坑全景(南から)



3. 137号土坑土層断面(東から)



4. 137号土坑全景(東から)



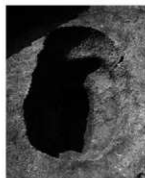
5. 147号土坑土層断面(南から)



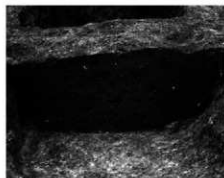
6. 147号土坑全景(南から)



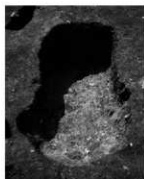
7. 196号土坑土層断面(南東から)



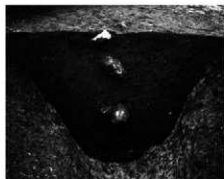
8. 196号土坑全景(南東から)



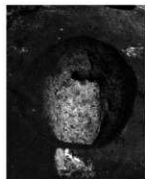
9. 197号土坑土層断面(南東から)



10. 197号土坑全景(南東から)



11. 198号土坑土層断面(南から)



12. 198号土坑全景(東から)



13. 199号土坑全景(西から)



14. 200号土坑土層断面(南西から)



15. 200号土坑全景(南東から)



1. 201号土坑土層断面(東から)



2. 201号土坑全景(東から)



3. 202号土坑土層断面(南から)



4. 202号土坑全景(南東から)



5. 203号土坑土層断面(南から)



6. 204号土坑全景(東から)



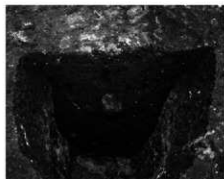
7. 205号土坑土層断面(東から)



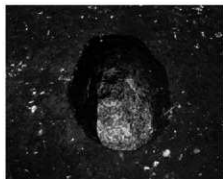
8. 207号土坑土層断面(東から)



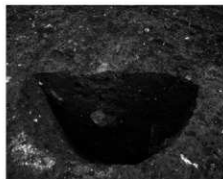
9. 205(右)・207号土坑全景(南東から)



10. 208号土坑土層断面(東から)



11. 208号土坑全景(東から)



12. 209号土坑土層断面(南東から)



13. 209号土坑全景(北東から)



14. 211号土坑土層断面(東から)



15. 211号土坑全景(東から)



1. 212号土坑土層断面(北西から)



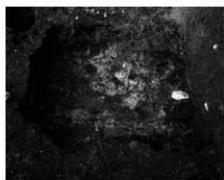
2. 212号土坑全景(西から)



3. 213号土坑土層断面(南西から)



4. 215号土坑土層断面(東から)



5. 215号土坑全景(南西から)



6. 216号土坑土層断面(北西から)



7. 216号土坑全景(北西から)



8. 217号土坑土層断面(北西から)



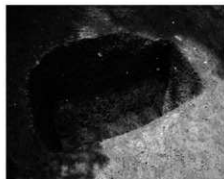
9. 217号土坑全景(南から)



10. 218号土坑全景(南東から)



11. 221号土坑土層断面(南西から)



12. 221号土坑全景(南東から)



13. 223号土坑全景(南から)



14. 223号土坑全景(南から)



15. 224号土坑全景(南から)



1. 224号土坑全景(東から)



2. 226号土坑土層断面(西から)



3. 226号土坑全景(南から)



4. 228号土坑土層断面(北西から)



5. 228号土坑全景(北西から)



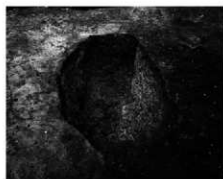
6. 229号土坑土層断面(南から)



7. 229号土坑全景(南から)



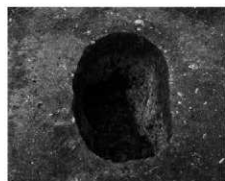
8. 231号土坑土層断面(西から)



9. 231号土坑全景(東から)



10. 232号土坑土層断面(東から)



11. 232号土坑全景(東から)



12. 233号土坑土層断面(南から)



13. 233号土坑全景(南から)



14. 234号土坑土層断面(北から)



15. 234号土坑全景(南から)



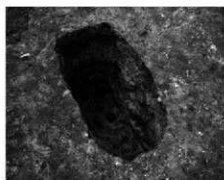
1. 235号土坑土層断面(東から)



2. 235号土坑全景(東から)



3. 236号土坑土層断面(東から)



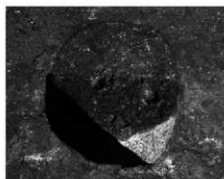
4. 236号土坑全景(東から)



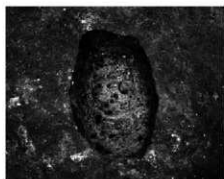
5. 237号土坑土層断面(東から)



6. 237号土坑全景(東から)



7. 238号土坑土層断面(南から)



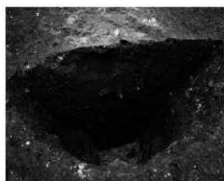
8. 238号土坑全景(南から)



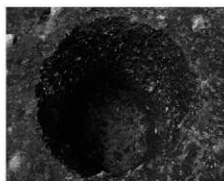
9. 239号土坑土層断面(北から)



10. 239号土坑全景(南から)



11. 240号土坑土層断面(南東から)



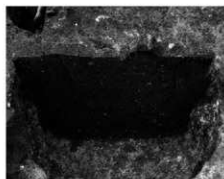
12. 240号土坑全景(南東から)



13. 241号土坑土層断面(東から)



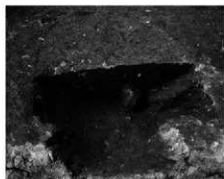
14. 241号土坑全景(東から)



15. 242号土坑土層断面(東から)



1. 242号土坑全景(南東から)



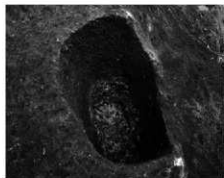
2. 243号土坑土層断面(南東から)



3. 243号土坑全景(南東から)



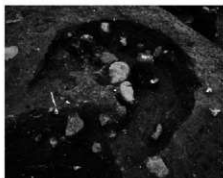
4. 256号土坑土層断面(東から)



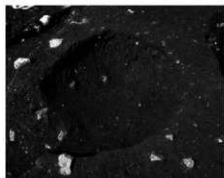
5. 256号土坑全景(南西から)



6. 257号土坑土層断面(南から)



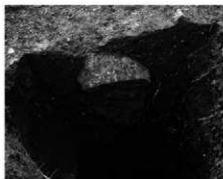
7. 257号土坑遺物出土状況(南東から)



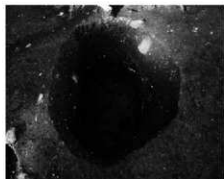
8. 257号土坑全景(東から)



9. 257号土坑出土遺物



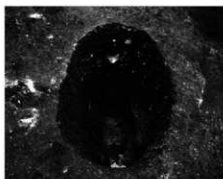
10. 259号土坑土層断面(北から)



11. 259号土坑全景(南から)



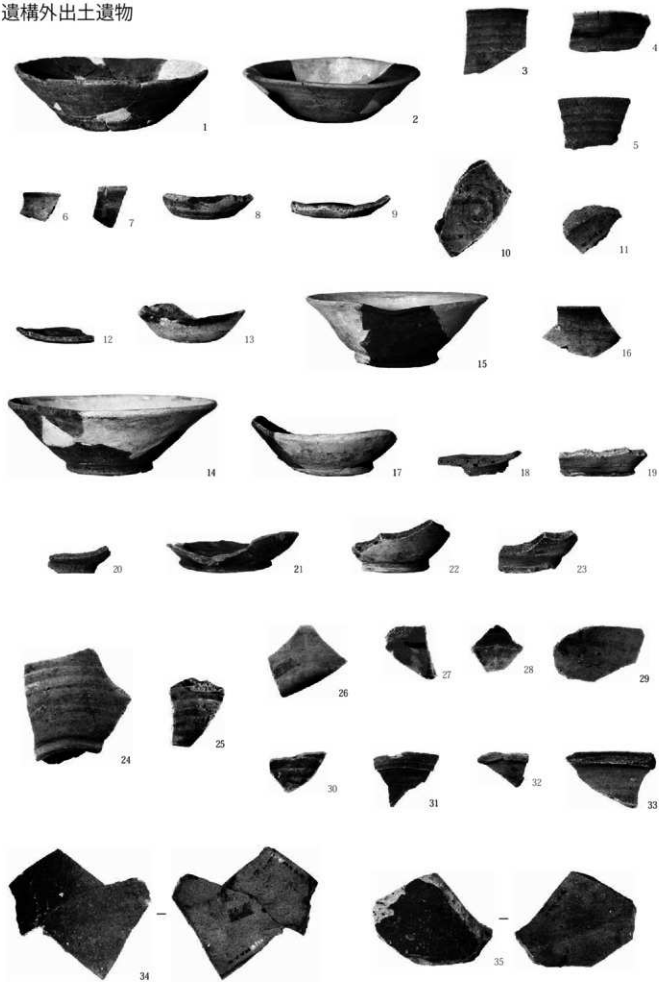
12. 260号土坑土層断面(北から)

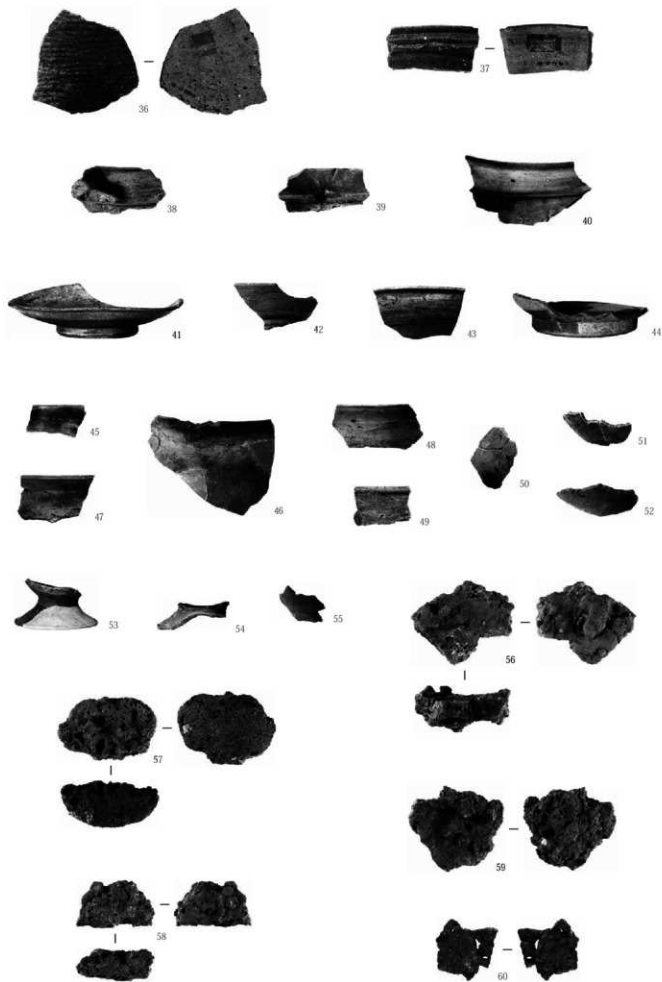


13. 260号土坑全景(南から)



遺構外出土遺物





中世以後の遺構と遺物  
野口茂四郎氏居宅跡



1. 調査前の野口茂四郎氏居宅跡(南東から)



2. 北石垣西側確認状況(南東から)



3. 北石垣東側確認状況(南東から)



4. 北石垣西部(南東から)



5. 北石垣中央部(南東から)



1. 北石垣東部(南東から)



2. 北石垣全景(南西から)



3. 北石垣西部から中央部(南西から)



4. 北石垣東端部(南東から)



5. 北石垣中央の張り出し部(南東から)



6. 北石垣張り出し部西部の鉄板(南東から)



7. 北石垣中央の張り出し部東部(南東から)



8. 西石垣(北東から)



1. 南石垣東部と東石垣(東から)



2. 南石垣西部・中央部(東から)



3. 南石垣西部(東から)



4. 南石垣西部(北東から)



5. 南石垣中央部(東から)



6. 南石垣中央部(南から)



7. 1号井戸・2号井戸と北石垣(南東から)



8. 1号井戸全景(南東から)



1. 1号井戸内の板状品出土状況(北西から)



2. 2号井戸全景(西から)



3. 2号井戸井筒の石組み(西から)



4. 3号井戸確認状況(南東から)



5. 3号井戸全景(南東から)



6. コンクリート敷設部全景(南から)



7. コンクリート敷設部上面コンクリート除去状況(北から)



8. コンクリート敷設部木部除去及び下部断ち割り状況(南から)



1. 西小屋全景(南東から)



2. 西小屋全景(南東から)



3. 西小屋全景(北東から)



4. 西小屋上面確認状況(南から)



5. 西小屋上面遺物出土状況(北西から)



1. 西小屋下面桶確認状況(西から)



2. 西小屋下面全景(北西から)



3. 西小屋下面木組み(南西から)



4. 西小屋下面木組み(南西から)



5. 西小屋下面桶(南から)



6. 西小屋下面桶(西から)

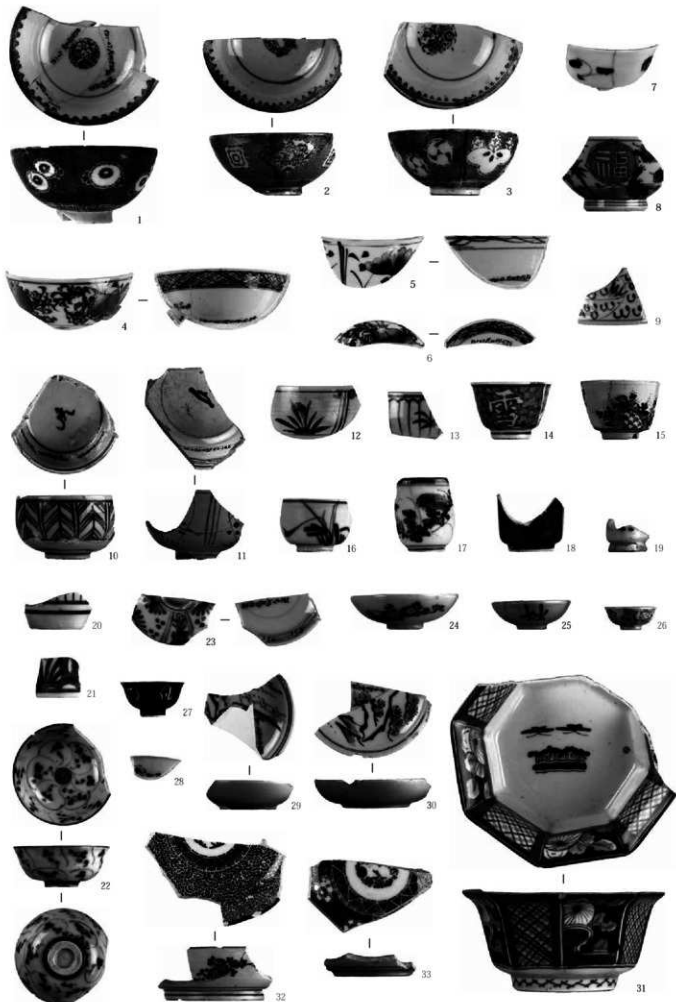


7. 西小屋下面桶埋設状況(南から)



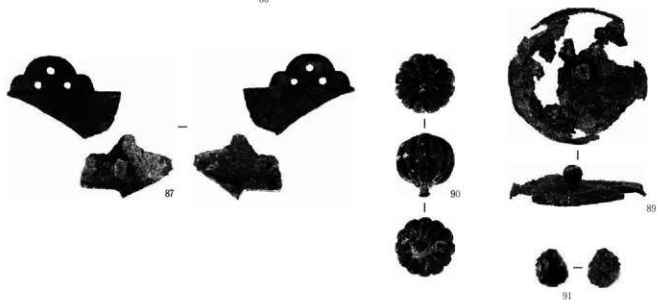
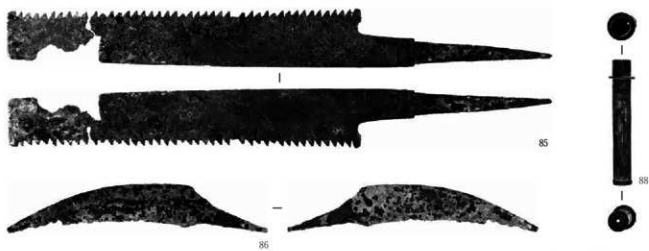
8. 西小屋下面溝(南から)

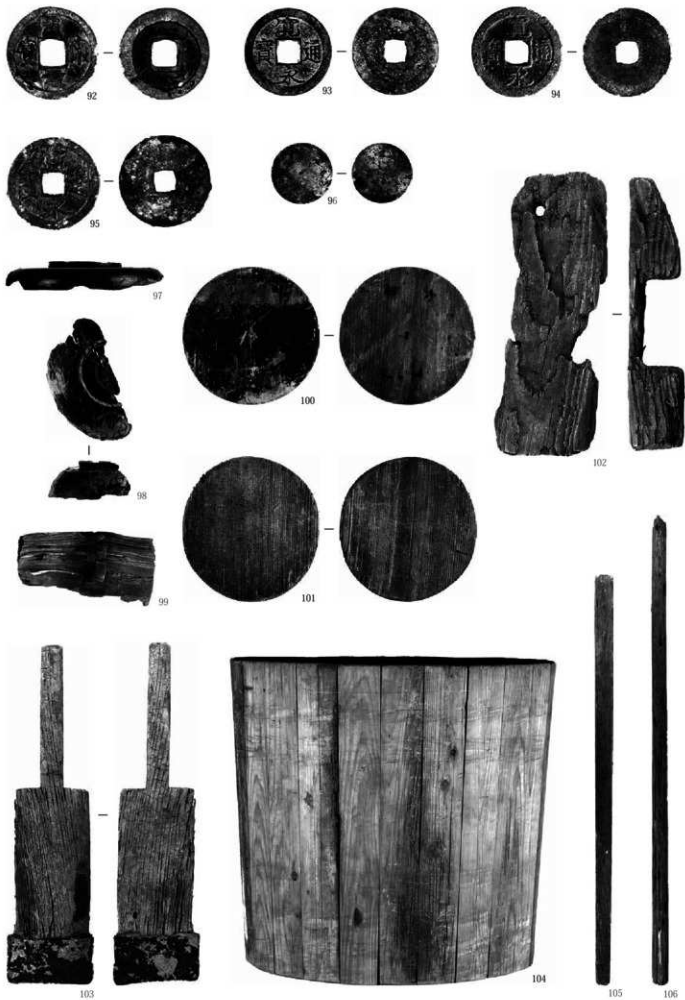




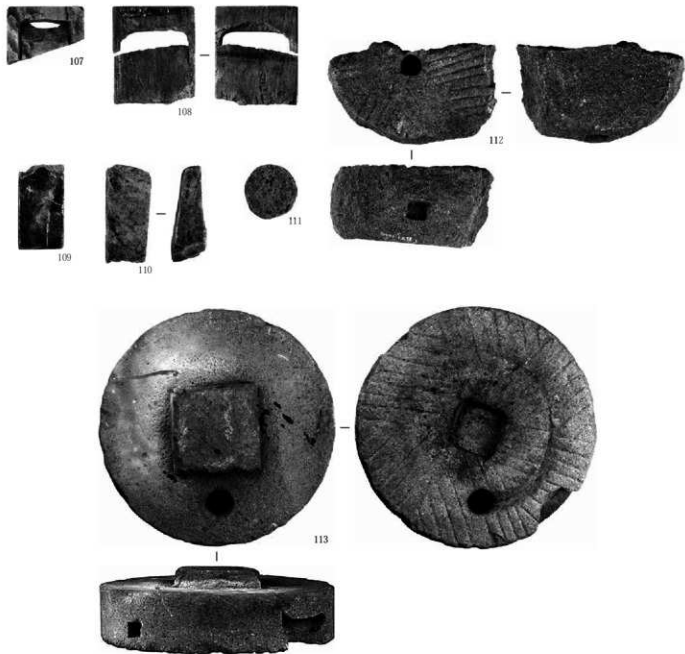
野口茂四郎氏居宅跡出土遺物(1)



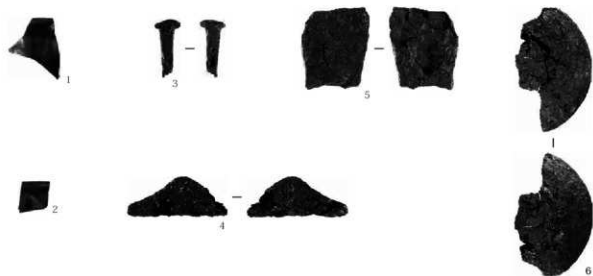




野口茂四郎氏居宅跡出土遺物(4)



野口茂四郎氏居宅跡出土遺物(5)



中世以後遺構外出土遺物

## 礎石建物



1. 礎石建物調査前の石垣と井戸(南から)



2. 礎石建物調査前の石垣(南東から)



3. 礎石建物全景(南西から)



4. 礎石建物井戸全景(南東から)



5. 礎石建物土層断面(南から)



6. 礎石建物土層断面・材出土状況(南から)



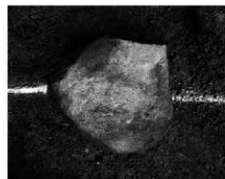
7. 礎石建物材出土状況(南東から)



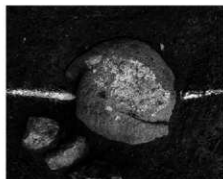
8. 礎石建物礎石・8号ピット(南東から)



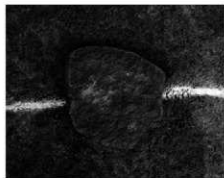
1. 礎石建物礎石1 (南から)



2. 礎石建物礎石2 (南から)



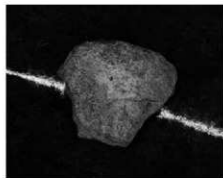
3. 礎石建物礎石3 (南から)



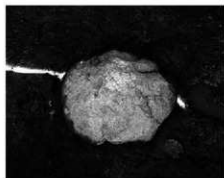
4. 礎石建物礎石4 (南から)



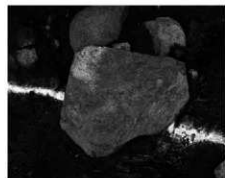
5. 礎石建物礎石5 (南から)



6. 礎石建物礎石6 (南から)



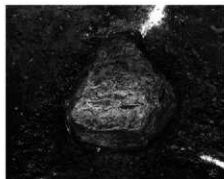
7. 礎石建物礎石7 (南から)



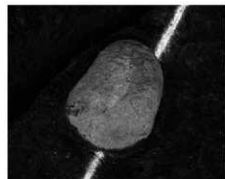
8. 礎石建物礎石8 (南から)



9. 礎石建物礎石9 (南から)



10. 礎石建物礎石10 (南から)



11. 礎石建物礎石11 (南から)



12. 礎石建物A-A' (南東から)



13. 礎石建物C-C' (北東から)



14. 礎石建物礎石1据え方(南から)



15. 礎石建物礎石10据え方(北西から)



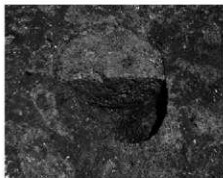
1. 礎石建物礎石11据え方(北東から)



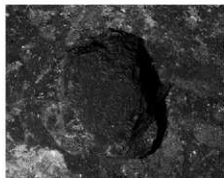
2. 8号ビット木部/土層断面(南東から)



3. 8号ビット全景(南東から)



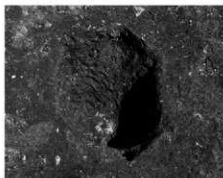
4. 9号ビット土層断面(南から)



5. 9号ビット全景(南から)



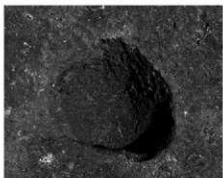
6. 10号ビット土層断面(南から)



7. 10号ビット全景(南から)



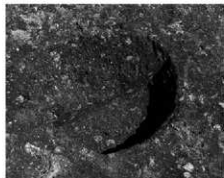
8. 11号ビット土層断面(南から)



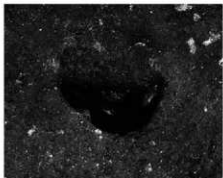
9. 11号ビット全景(南から)



10. 12号ビット土層断面(南から)



11. 12号ビット全景(南から)



12. 13号ビット土層断面(南から)



13. 14号ビット土層断面(南から)



14. 14号ビット全景(南から)



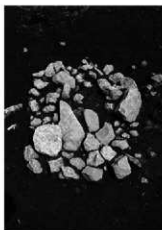
15. 礎石建物出土遺物



土坑



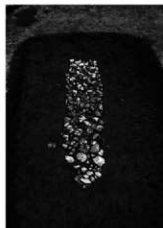
1. 103号土坑土層断面(南東から)



4. 110号土坑上面礫(南東から)



5. 111号土坑上面礫(南東から)



2. 103号土坑上面礫(南西から)



3. 103号土坑全景(南東から)



6. 112号土坑土層断面(南東から)



8. 114号土坑上面礫(南東から)



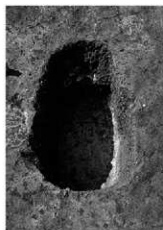
9. 116号土坑土層断面(南東から)



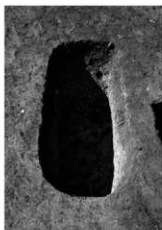
11. 117号土坑土層断面(南東から)



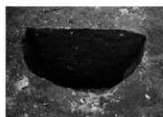
7. 112号土坑全景(南から)



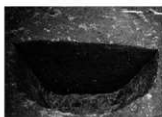
10. 116号土坑全景(南東から)



12. 117号土坑全景(南東から)



13. 118号土坑土層断面(南東から)



14. 119号土坑土層断面(南東から)



15. 118 (右)・119 (左)号土坑全景(南から)



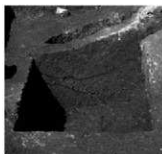
1. 120号土坑土層断面(南東から)



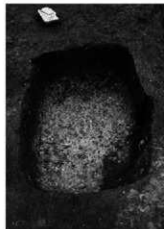
3. 121号土坑土層断面(南東から)



5. 171号土坑全景(南から)



6. 171号土坑土層断面A'(南東から)



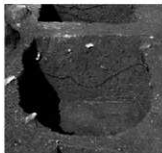
2. 120号土坑全景(南から)



4. 121号土坑全景(南から)



8. 171号土坑出土遺物



7. 171号土坑土層断面B'(南東から)



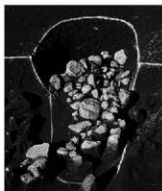
9. 177号土坑土層断面(北西から)



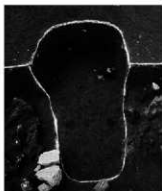
11. 178号土坑土層断面(南東から)



10. 177号土坑全景(西から)



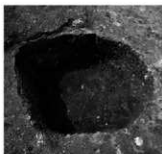
12. 178号土坑出土石段(南東から)



13. 178号土坑全景(南東から)

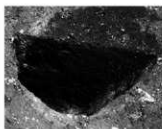


14. 227号土坑土層断面(北東から)

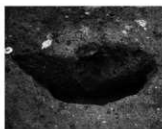


15. 227号土坑全景(南から)

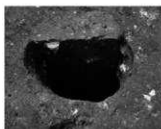
ピット



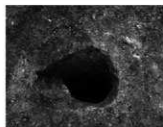
2. 4号ピット土層断面(南から)



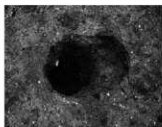
4. 5号ピット土層断面(南東から)



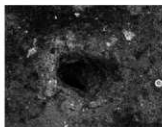
6. 6号ピット土層断面(南東から)



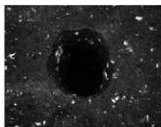
1. 1号ピット土層断面(南東から)



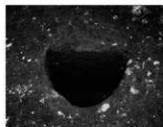
3. 4号ピット全景(南から)



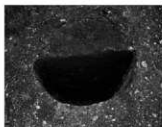
5. 5号ピット全景(南東から)



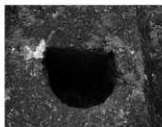
7. 6号ピット全景(南東から)



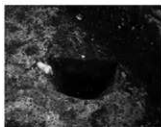
8. 7号ピット土層断面(南東から)



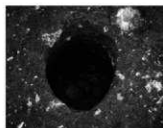
10. 15号ピット土層断面(南東から)



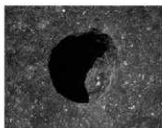
12. 16号ピット土層断面(南東から)



14. 27号ピット土層断面(西から)



9. 7号ピット全景(南東から)



11. 15号ピット全景(南東から)



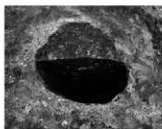
13. 16号ピット全景(南東から)



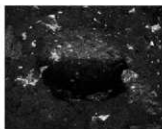
15. 27号ピット全景(南東から)



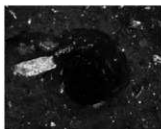
16. 28号ピット土層断面(南から)



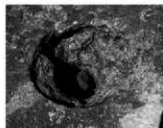
18. 29号ピット土層断面(南東から)



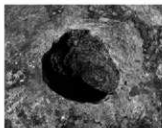
20. 35号ピット土層断面(南東から)



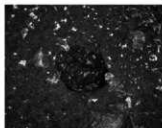
22. 36号ピット全景(南東から)



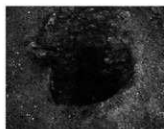
17. 28号ピット全景(南東から)



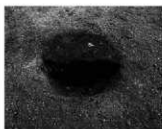
19. 29号ピット全景(南東から)



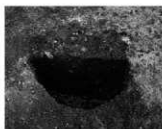
21. 35号ピット全景(南東から)



1. 44号ビット土層断面(南東から)



3. 45号ビット土層断面(南東から)



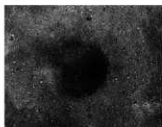
5. 46号ビット土層断面(南東から)



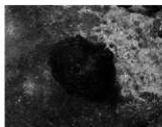
7. 47号ビット土層断面(南東から)



2. 44号ビット全景(南東から)



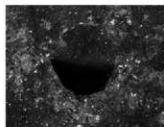
4. 45号ビット全景(南東から)



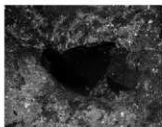
6. 46号ビット全景(南東から)



8. 47号ビット全景(南東から)



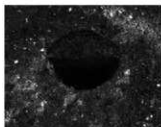
9. 51号ビット土層断面(南から)



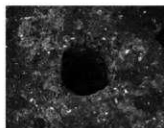
11. 52号ビット土層断面(東から)



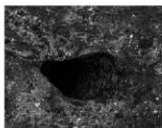
13. 53号ビット土層断面(南東から)



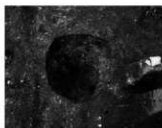
15. 57号ビット土層断面(南東から)



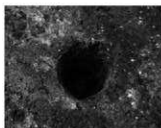
10. 51号ビット全景(南東から)



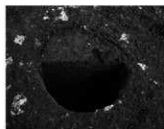
12. 52号ビット全景(東から)



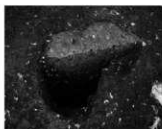
14. 53号ビット全景(南東から)



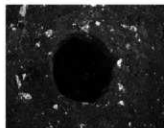
16. 57号ビット全景(南東から)



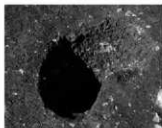
17. 60号ビット土層断面(南東から)



19. 61号ビット土層断面(南東から)



18. 60号ビット全景(南東から)



20. 61号ビット全景(南東から)



## 報告書抄録

書名ふりがな	うえのたいらいちいせきかっこに
書名	上ノ平1遺跡(2)
副書名	ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	49
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	623
編著者名	洞口正史 中沢悟 小野和之 山口逸弘 篠原正洋
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	2017.3.31
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	うえのたいらいちいせき
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑
市町村コード	10424
遺跡番号	0005
北韓(日本測地系)	373302
東経(日本測地系)	1394211
北韓(世界測地系)	377313
東経(世界測地系)	1394159
調査期間	20070601-20071031
調査面積	5088
調査原因	ハッ場ダム建設工事
種別	集落
主な時代	縄文/平安/現代
遺跡概要	集落-縄文-住居13+土器+石器-土坑19-ピット7/集落-平安-住居11+土器+鉄器-焼土遺構17-土坑50/その他-現代-礎石建物1-井戸3-コンクリート敷設部1-池1+陶器+磁器+金属器+木製品-土坑15-ピット23
特記事項	縄文時代中期中葉から後期にかけての小規模集落。平安時代9世紀から10世紀の小規模集落と陥し穴、焼失建物から炭化モモ核、穀物、現代の宅地。
要約	吾妻川左岸最上位段丘上の南向き傾斜地に立地する。縄文時代の竪穴建物、土坑、平安時代の竪穴建物、焼土遺構、土坑、明治期の地域開発に貢献した野口氏の居宅跡を調査。2008年刊行報告書の続編。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第623集

上ノ平1遺跡(2)

ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第49集

---

平成29(2017)年3月3日 印刷

平成29(2017)年3月10日 発行

編集・発行/公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8535 群馬県渋川市北碓町下箱田1784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷/株式会社聞文社印刷所

---